

ブランド推進
地産地消促進
集落営農・法人化推進

活力ある阿波市農業振興ガイドブック



阿波市農業振興計画重点プロジェクト推進会議
阿波市農業再生協議会



目 次

1. 阿波ベジ主要品目栽培マニュアル	1
1) レタス	1
2) ミニトマト	3
3) トマト (促成・半促成)	5
4) ジャがいも	9
5) なす (トンネル・露地)	10
6) なす (促成)	11
7) キャベツ	13
8) キャベツ (加工・業務用)	14
9) ブロッコリー	15
10) ほうれんそう	17
11) たまねぎ	18
12) にんじん	19
13) さやえんどう (秋まき)	20
14) さやえんどう (夏まき)	21
15) だいこん (青果用)	22
16) ねぎ	23
17) 細ねぎ (雨よけ、ハウス栽培)	24
18) アスパラガス (ハウス・露地)	25
19) いちご (促成)	29
20) ぶどう (種なし巨峰・ピオーネ)	33
21) ぶどう (デラウェア)	35
2. 安全・安心な農産物の生産	37
1) 生産体制と出荷体制	37
2) 有機農業について	37
3. 土づくり	38
1) 太陽熱消毒	38
2) 土壌還元消毒	38
3) 土壌中で堆肥化を進める	38
4. 農薬の上手な使い方	39
1) 農薬の溶かし方	39
2) 展着剤の使い方	40
3) 農薬散布するときの注意点と対策	40
5. 営農類型ごとの農業経営の指標	41
1) 本市における主要な効率的かつ安定的な農業経営の指標	41
2) 本市における主要な新規就農者等の農業経営の指標	45
6. 病虫害防除基準	47
1) レタス[玉レタス]	47
2) ミニトマト	48
3) トマト	50
4) ジャがいも	53
5) なす	55
6) キャベツ	58
7) ブロッコリー	60
8) ほうれんそう	61
9) たまねぎ	62
10) にんじん	63
11) さやえんどう	64
12) だいこん	65
13) ねぎ	66

14) アスパラガス	68
15) いちご	69
16) ぶどう	71
7. 殺菌剤・殺虫剤の作用	73
8. 阿波市内の主要な青果物の現状 (JA系統分)	76
1) 阿波市内主要青果物販売実績 (JA系統分)	76
2) 阿波市内における生産量が県下の青果物 (平成25年JA系統分販売実績)	77
3) 市町村別青果物販売実績 (平成25年JA系統分)	77-1
4) 阿波市産野菜・果物の旬カレンダー (平成25年JA系統分月別出荷量)	77-2
9. 地産地消と6次産業化	78
1) 地産地消とは	78
2) 6次産業化とは	78
3) JAの産直市	78
4) 地産地消や6次産業化に係る市単独事業	79
5) 加工品ガイド	79
6) 吉野川中流域の「行事食」	83
10. 集落営農・農業経営の法人化	84
1) 集落営農とは?	84
2) なぜ今、集落営農なのか!	84
3) 集落営農組織化のポイント	84
4) 集落営農の設立手順	84
5) 農業経営の法人化の意義と利点	85
6) 会社法人と農事組合法人の比較	86
7) 農業法人と農業生産法人	87
8) 農業法人を設立するためには	87
9) 農業生産法人の要件	88
10) 農業法人化のQ&A (会社法人全般)	89
11) 集落営農・法人化に係る市単独事業	89
11. 農作業事故防止に取り組みましょう!	90
1) 農道等を通行するときの注意点	90
2) 農業機械等の操作に関する注意点	90
3) 農作業中の注意点	90
12. 台風の接近に伴う農作物等の管理対策	91
1) 水稻	91
2) 野菜	91
3) 果樹	91
4) 花き	91
5) 畜産	91
13. 徳島県作物別農業経営指標	92
14. 新たな農業施策	93
1) 人・農地プラン	93
2) 農地中間管理機構	93
15. 阿波市の水田農業をめぐる状況	94
16. 野菜出荷規格表	98
17. 農業関係機関所在地等一覧表	103
18. 農薬希釈早見表	104



レタス

【阿波ベジ総選挙 野菜部門 第1位】※1



主要作業	作業の内容等				
作型と品 種	作 型	は 種 期	定 植 期	収 穫 期	品 種
	秋どり	8/中～8/下	9/上～9/中	10/中～11/上	マイヤー、サウザー
	年内どりマルチ	8/下～9/上	9/中～10/上	11/中～12/中	ラプトル、早生サリナス、スターレイ
	冬どり(トンネル12/上～)	9/中～11/中	10/中～12/上	12/下～3/下	アスレー、レイヤード、シスコF、フルバック
	春どり(トンネル)	12/上～1/中	1/下～2/下	4/上～下	レタス1号、シスコ、早生サリナス
	春どりマルチ	2/上～中	3/上～下	5/上～下	サウザー、マイヤー
土地の選 定	土壌は中性で肥沃な土壌、または砂壤土。 pH6.5～7 がよく、酸性の強い土壌では生育が劣るので必ず矯正する。				
育 苗	■種子の準備 コート種子を 10 a 当たり 7,000 粒～8,000 粒程度準備する。 ■セルトレイ 200 穴のセルトレイを使用する。冬穫り作型では 128 穴のセルトレイで育苗するのが望ましい。10 a 当たりのセルトレイ必要枚数は 128 穴では 55 枚、200 穴では 35～40 枚になる。 ■培土 ピートモス、バーミキュライトを主体とした与作N150 などを用いる。 ■播種準備 セルトレイに培土を均一に充填し、播種前に培土が均一に湿る程度に灌水する。播種穴を鎮圧機（板）を用いて均一に開ける。穴の深さは 3 mm 程度とする。				

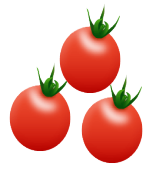
育 苗	■育苗管理 セルトレイのセルの穴が常に空気に触れるように金網や水稻育苗箱などの上に置き地面から離す。 灌水は天候にあわせて 1 日数回行い、徒長防止のため、主に午前中に行い、夕方には培土表面が乾く状態になるようにする。 葉色が薄くなってきたら播種後 15 日目頃から液肥を使用する。 温度管理は育苗前期は 15～21℃の適温管理になるようにする。定植の 5～7 日前には外気温に近づけ馴化を行う。
定 植	■台風対策 苗床に寒冷紗をトンネル型に被覆固定する。
定 植	■定植準備 基肥は定植 10 日前までに全層施用する。 畦立ては適切な土壌水分時に実施し、高畦とする。 苦土石灰を施し酸性を矯正する。 地温の調整、土壌水分の保持、雑草の発生防止のため、秋穫り栽培ではシルバーマルチや白黒ダブルマルチ、その他の栽培では黒マルチを用いる。
定 植	■栽植密度 180 × 30 ～ 35 cm × 4 条 約 6,400～7,400 株 厳寒期穫りのトンネル栽培では 3 条植を行う。 180 × 27 cm × 3 条 約 6,200 株
定 植	■定植 定植は、本葉 3～4 枚の若苗を定植する。 定植後のスムーズな活着を進めるため、灌水チューブ等で灌水を行う。

※1 阿波ベジ総選挙とは、市民グループ「阿波ベジ☆プロジェクト」が、阿波市産の野菜や果物の魅力を知り、愛着を持ってもらうために実施した人気投票です。

施肥量	施 肥	施肥成分量(kg/10a)		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
	秋どり・年内どり	13～18	11～14	12～16
	冬どり	26	22	24
	春どり	15	13	14
<p>堆肥 2,000～3,000 kgを全面施用し、耕起後畦の全層に基肥を施す。 春穫りは、前作がある場合は、20～30%減肥する。</p>				

管 理	<p>■圃場準備 大雨・台風対策 心土破碎などによって、排水性を高める。 畦立て、マルチ前、圃場周囲に明きょ排水を整備しておく。 台風時には、防風ネットや不織布等をべた掛けする。</p> <p>■除草 定植前後に除草剤を散布する。</p> <p>■灌水 定植時の適度な土壌水分確保は欠かせないが、外葉形成期から結球中期までの乾燥は品質・収量に影響を及ぼすため、乾燥が続いた時は、畦間灌水を行う。</p>
------------	--

管 理	<p>■トンネル管理 被覆栽培では、寒害防止と結球促進のため12月上旬（平均気温10℃）を目安にトンネルを被覆する。トンネル内の温度管理は、日中は25℃以上にならないように管理し、レタスの生育適温15～20℃に保つ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">生育状況</th> <th style="text-align: center;">温度のめやす</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">被覆直後</td> <td style="text-align: center;">18～20℃</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">外葉生育期</td> <td style="text-align: center;">20～25℃</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">結球開始期</td> <td style="text-align: center;">20℃</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">結球期</td> <td style="text-align: center;">20℃</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">収穫直前</td> <td style="text-align: center;">20℃</td> </tr> </tbody> </table> <p>■トンネル内の2重被覆 厳寒期（1月中旬～3月上旬）には、球の肥大を良くするため、こぶし大からソフトボール大に結球したころから、トンネル内に不織布をべた掛けする。 厳寒期の2重被覆は、球のボリュームアップに効果はあるが、長期間被覆すると葉色が薄くなるので注意する。 被覆することにより湿度が高くなるので、過湿に注意する。</p>	生育状況	温度のめやす	被覆直後	18～20℃	外葉生育期	20～25℃	結球開始期	20℃	結球期	20℃	収穫直前	20℃
生育状況	温度のめやす												
被覆直後	18～20℃												
外葉生育期	20～25℃												
結球開始期	20℃												
結球期	20℃												
収穫直前	20℃												
収 穫	<p>8分結球すれば外葉を2～3枚つけて収穫する。</p> <p style="text-align: center;">収量目標 2,500 kg～3,000 kg</p>												



ミニトマト

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第2位]

主要作業	作業の内容等				
作型と 品 種	作 型	は種期	定植期	収穫期	品 種
	促 成	8/上~9/上	9/上~10/中	11~6	ココ、サンチェリーエキストラ、 千果99、TY千恵、ラブリー藍
	半促成	1/上~2/中	3/上~4/中	5~10	
	雨よけ	3/中	5/上	7~11	
<p>【品種の特徴】</p> <p>(ココ) 生育が旺盛で、果実は20~25gで赤色を呈する。 萎凋病、タバコモザイクウイルス Tm-2a 型の複合型耐病性である。</p> <p>(サンチェリーエキストラ) 草勢旺盛で果実は13~14g、果色は濃紅色 タバコモザイクウイルス Tm-2a 型、萎凋病の複合型耐病性である。</p> <p>(千果99) 千果より花数がやや少なく、M・Lの出荷比率が高い品種。 黄化葉巻耐病性TY-2、葉かび病、斑点病の複合型耐病性である。</p> <p>(TY千恵) 千果をベースとした黄化葉巻耐病性TY-2を持つ品種。</p> <p>(ラブリー藍) 異常茎が出にくく栽培しやすい品種。果重は15~20gで果色は濃紅色。 萎凋病、タバコモザイクウイルス Tm-2a 型、葉かび病の複合型耐病性である。</p>					

育 苗	<p>■床土の準備 促成栽培に準ずる。</p> <p>■播種 育苗培養土を育苗箱に詰め、10a 当たり 10 箱に、30~40ml 条まきする。 夏期は発芽までに床面に新聞紙をかけ乾燥を防ぐ。発芽までは床温 20~30℃に管理し、発芽後は日中 28℃以下、夜間は最低気温 15℃、地温 18~20℃に管理。肥料は液肥を施す。</p> <p>■移植・苗床管理 本葉 1~1.5 枚で 12 cm 鉢に移植する。葉が混み合うようになれば鉢間隔を広げる。移植後活着までは床温 20℃以上、気温 28~30℃。活着後は日中 28℃を越えないよう換気、床温 18℃、夜間の気温 14℃程度に保つ。肥料は、液肥を生育に合わせて灌水をかねて与える。 灌水はやや多めとし、のびのびした苗に育てる。</p>								
定 植	<p>■定植準備 圃場は深耕し、有機物などは早めに施用し全層に混入しておく。5 日前には基肥を施用し耕うん、畦立て、マルチを行う。</p> <p>■栽植密度</p> <table border="0"> <tr> <td>畦幅 1.5m</td> <td>株間 45 cm</td> <td>1 条植え</td> <td>1,480 本/10a</td> </tr> <tr> <td>畦幅 2.3m</td> <td>株間 45~50 cm</td> <td>2 条植え</td> <td>1,900~1,700 本/10a</td> </tr> </table> <p>※1 本仕立て、2 本仕立ての場合ではこの半数とする。</p> <p>■植付 6~8 葉期のやや若苗を定植する。やや浅植えとし、鉢の周囲に土が密着するように軽く灌水する。</p>	畦幅 1.5m	株間 45 cm	1 条植え	1,480 本/10a	畦幅 2.3m	株間 45~50 cm	2 条植え	1,900~1,700 本/10a
畦幅 1.5m	株間 45 cm	1 条植え	1,480 本/10a						
畦幅 2.3m	株間 45~50 cm	2 条植え	1,900~1,700 本/10a						
管 理	<p>■温度管理 ミニトマトの生育適温は大型トマトよりやや高く、日中の温度は 25~30℃、夜温 10~12℃を目標とする。追肥や灌水をしたときは夜温を 13~15℃に保ち、地温の低下を防ぎ肥効を促進する。</p> <p>■灌水 灌水は定植後、茎葉がしおれなければできるだけ控え、根群の発達を促進する。第3花房開花期から徐々に灌水を増やし（少量多回数灌水）、pF2.0 を中心に上限を 2.3 程度に管理する。</p>								

管 理

■追肥

第3花房開花期頃から始める。施肥量は12～2月の低温期はOKF-1などの速効性の液肥を、その他の時期はNK808などを1月に2～3回、10a当たり成分量で窒素1～2kgを標準として与える。

■整技法

主枝1本直立または斜め誘引整技で行う。

■摘芽・摘心・摘葉

わき芽は早めに除く。摘心は収穫予定花房の上2葉を残して早めにする。摘葉は第2花房の収穫が始まった頃から第1花房以下を取り除き、通風、透光を図る。さらに茎葉が重なっている部分は採光性が良くなるように適度に摘葉や剪葉を行う。

■ホルモン処理

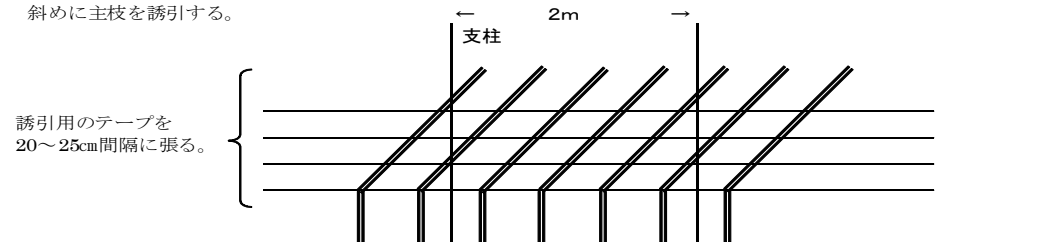
使用基準を遵守して使用する。

■マルハナバチの利用

トマトに準ずる。

■斜め誘引略図

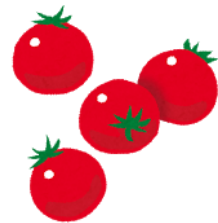
第3花房の上から隣の株の位置へ30～40度の勾配で斜めに主枝を誘引する。



■6～9月の高温対策

高温による着果不良、樹勢低下を防止するため、遮光等による高温対策を行う。

- ・遮光資材の利用：遮光率50%程度の遮光ネットで被覆し、日射量を抑制する。
- ・換気の徹底：換気部分を従来の側面のみから屋根部分にも広げ（肩換気）るとともに、循環扇（10a当たり5～12台）の利用により高温空気の滞留を防止する。
- ・細霧冷房：細かい霧を発生させて、気化冷却により温度を下げる。



管 理

■裂果の原因と対策

1. 急激な土壌水分の変化

夏秋栽培などで、乾燥状態の後、降雨などで浸水し、土壌水分が多くなった時に発生する。

排水に注意するとともに、極度に乾燥させないよう少量・多回数の灌水につとめる。マルチ・敷わらなどの効果が高い。

2. 低温

11月下旬～12月上旬頃から発生が多くなる。低温になると果実の表皮が硬くなるとともにハウス内の湿度が高くなり、果実の表面に露滴が着くようになる。この水分が果実に吸収され、内部からの圧力で裂果するようになる。13℃以下にならないよう内部被覆を行うとともに暖房も早めに行い、ハウス内の湿度を低下させる。マルチ効果も高い。

施肥量

※雨よけ

施 肥	施肥成分量 (kg/10a)			備 考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
基 肥	12	20	10	堆肥は、3,000kg以上。 切わらの場合は、1,500～2,000kgに石灰窒素40kgを施し、早めに耕うんする。 苦土石灰160kg
追 肥	14	6	8	
合 計	26	20	24	

※促成、半促成

施 肥	施肥成分量 (kg/10a)			備 考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
基 肥	27	19	19	堆肥は、3,000kg以上。 切わらの場合は、1,500～2,000kgに石灰窒素40kgを施し、早めに耕うんする。 苦土石灰160kg
追 肥	7	3	4	
合 計	34	22	23	

注) 施肥設計に当たっては、土壌の優れた物理性を長期間維持できるように有機物を活用する。栽培期間を通し、肥切れのないように追肥を行う。

収穫

果実は、完熟したのものから順に収穫し、未熟果は収穫しないようにする。収穫・調整時にヘタを落とさないよう注意する。

収量目標	促成	10,000kg
	半促成・雨よけ	5,000kg



トマト (促成・半促成)

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第5位]

主要作業	作業の内容等				
	作型	は種期	定植期	収穫期	品種
作型と 品種	促成	8月中旬～9月上旬	9月下旬～11月上旬	11月下旬～4月下旬	桃太郎 桃太郎アーク (TYLCV抵抗性) ごほうび 麗容
	半促成	11月上旬～11月中旬	1月中旬～1月下旬	4月～6月	
	ハウス後作 無加温ハウス トンネル二重被覆	1月上旬～1月下旬	3月中旬～3月下旬 (70～75日苗)	5月中旬～8月	麗容 麗夏
	<p>「桃太郎J」の特性</p> <p>低温・少日照下の栽培でも果実肥大がすぐれ、チャック果の発生が少ない。果色は美しい桃色。着色は均一で色むらが少ない。熟期は中早生で、「ハウス桃太郎」より着色が4～5日遅い。草勢は中強、節間長は中程度。葉は小葉で採光性にすぐれる冬型草姿。低温期には「ハウス桃太郎」より草勢管理が容易。根腐れ萎凋病(J₃)、半身萎凋病、萎凋病レース1、ネマトーダ、タバコモザイクウイルス Tm-2a 型、斑点病に複合耐病性品種である。</p> <p>「桃太郎アーク」の特性</p> <p>黄化葉巻耐病性大玉品種。TYLCV イスラエル株(激症型)に安定した耐病性を示す。</p> <p>吸肥力はおとなしい。果実肥大にすぐれ過繁茂になりにくい。熟期は早生である。</p>				

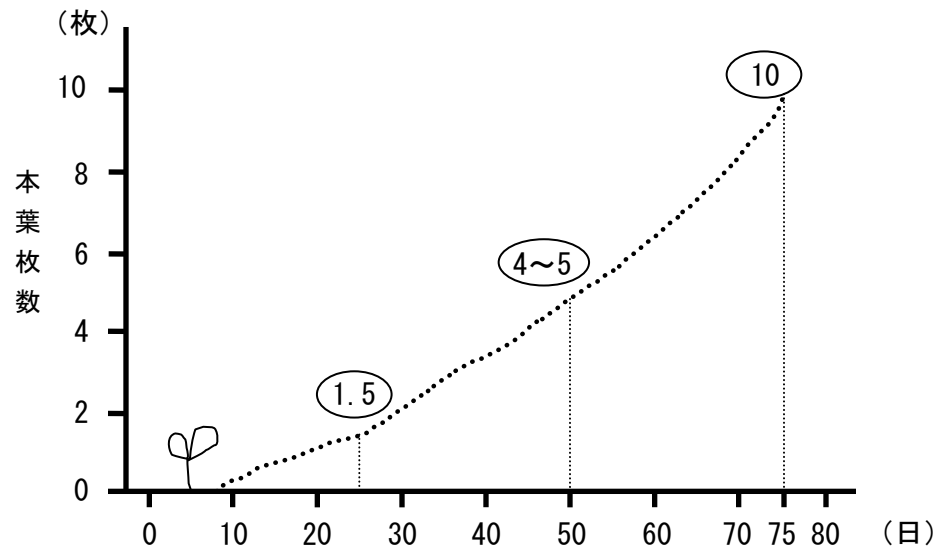
作型と 品種	<p>「ごほうび」の特性</p> <p>ハウス栽培向きの極早生完熟品質で「ハウス桃太郎」より果実はやや大玉。草勢はやや強いがやや尻腐れ果の傾向があり、春夏作には向かない。半身萎凋病、萎凋病、根ぐされ萎凋病(J₃)、葉かび病、斑点病、ネマトーダ、タバコモザイクウイルス Tm-2a 型の複合型耐病性品種である。</p> <p>「麗容」の特性</p> <p>果実は豊円腰高で果色、色まわりにすぐれ、硬玉で日もち性が極良。チャック果、窓あき果、空洞果、すじ腐れ果の発生が少なく、花落ちが小さく上物率が高い。草勢は中程度、早生で栽培の後半までスタミナがある。萎凋病(F:R-1,2)、半身萎凋病、葉かび病、斑点病、ネマトーダ、タバコモザイクウイルス Tm-2a 型の複合型耐病性品種である。</p> <p>「麗夏」の特性</p> <p>草勢やや強く、栽培後半までスタミナがある。チャック果、窓あき果、空洞果、すじ腐れ果の発生が少ない。果実は硬く肉質よく、日持ち性に優れる。また、裂果の発生が少ない。</p>
	育苗 <p>■床土の準備</p> <p>通気性、保水力に優れ、養分が持続して供給できる床土を目標に水田土3：有機質7の割合に堆積し、2～3回の切りかえしを行って仕上げる。もしくは、市販の育苗用培養土を用いる。土壌消毒、施肥量はきゅうりに準じる。</p> <p>■播種期</p> <p>促成栽培では、8月10日以降、9月上旬までがよく、極端な早まきは低段花房の花芽の充実が悪い。無加温ハウスでは、最低地温12℃を確保できる時期を定植期とし、これより計算して70～75日前を播種期とする。</p> <p>■播種</p> <p>10a 当たり 6 m²の播種床に70～80mlをまく。床土6cm。種子は一晩浸漬したものを6cm間隔に条まき(種子間隔2cm)。トロ箱を利用するときは、10a 当たり 25 箱に条まき(1箱当たり150本程度)。発芽までは床温20～30℃に密閉、夏季は床面に新聞紙をかけ乾燥を防ぐ。発芽後は日中28℃以下、夜間は最低気温15℃、地温18℃～20℃に管理。密生部は早めに間引く。</p>

育 苗

■移植

本葉 1~1.5 枚で、12 cmのポリポット (4 号) に移植する。葉がこみ合うようになれば鉢間隔を広げるか 15 cm鉢に移植。移植後活着までは床温 20℃以上、気温 28~30℃に調節し、活着後は日中 28℃を越えないよう換気して床温 18℃、夜温の気温 14℃程度に保つ。努めて日にあてるようにし、苗の充実を図る。

半促成栽培における育苗管理温度と移植時期

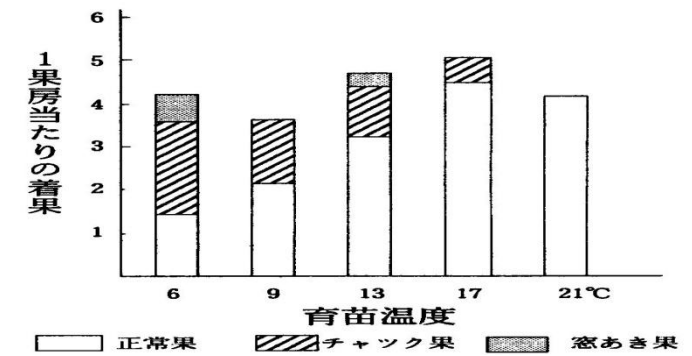


作 業	は 種	移 植 (12cm鉢)	鉢 広 げ	定 植
水 分	← 適温 → ← やや乾き気味 → ← 極端にしおらせない →			
温度 (°C)	昼	← (28) → ← 25~26 →		
	夜	← (20~22) → ← 12~15 → ← 10~12 → ← 8~10 →		

育 苗

異常果 (窓あき果・チャック果) の原因と対策

- ・低温
- ・床土の窒素、リン酸、カリ過多
- ・12 cmポリポット(4号) 1鉢当たり、窒素・リン酸、カリ各 200 mg が適量
- ・灌水の過多



育苗温度と第1段果房の異常果数

■苗床管理

灌水は1回の量を少なく回数を多くするが、はじめはやや量を多めにしておびのびした苗を育てる。本葉 4~5 枚頃からは晴天の日中に若干萎凋する程度 (約 pF2.5) を目安に灌水する。灌水量は、その日のうちに消費される程度とし、夜まで持ち込まないようにする。

生長点部分の展開葉が淡黄色になり巻き込んだり、翌朝、葉の先端に水滴がつくようでは灌水が多すぎる。

ウイルス病を防除するために、ハウス開口部には、0.4 mm目以下の防虫ネットを展張し、苗床にはトンネル被覆し、アブラムシ類、コナジラミ類の侵入防止に努める。また、薬剤による防除も実施する。播種時期の早いものは、特に注意が必要。また、病株はできるだけ早く取り除く。

定 植

■定植準備

ハウスは早くから準備し、定植 15 日前にはビニール被覆を完了する。また、基肥は早めに施し、定植 1 週間前に畦立、灌水、マルチ、トンネルをかけ地温を上げる。畦幅 180~200 cm、株間 40~45 cmの 2 条とする。畦高は 20 cm以上の高畦が望ましい。圃場の土壌水分管理はビニール被覆頃から開始し、定植時の多湿は避ける。

定 植

■植付

1段花房の第1花の開花始めが目安。若苗過ぎると過繁茂になりやすい。浅植とし、鉢の周辺に土が密着するように軽く灌水する。

■接ぎ木栽培

土壌病害虫対策として有効であるが、台木と穂木の TMV 抵抗性因子に注意する。

ウイルス抵抗性因子 Tm-2^a 型の品種は次の台木が利用できる。

項目 品種名	特 性	接ぎ木 までの 生育の 早さ	穂木と 比較し たは種 目	茎の 太さ	B	K	N	V	F1	F2	F3	J3	TMV (Tm-2a)
ブロック	草勢やや強く、栽培後期までスタミナがある				○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
影武者	特にハウス桃太郎の促成、半促成に最適	早	同時～3日早	太	○	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎
ベスパ	オールシーズン栽培可				◎	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎
プロテクト3	栽培容易				○	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ボランチ					◎	△	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎
Bバリア	吸肥安定し、抑制・夏秋栽培に最適				◎	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎
グリーンガード	栽培初期はおとなしく、中盤以降はスタミナがつく				◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※B=青枯病、K=褐色根腐病、N=ネコブセンチュウ、V=半身萎凋病
F1=萎凋病レース 1、F2=萎凋病レース 2、F3=萎凋病レース 3
J3=根腐萎凋病、TMV=タバコモザイクウイルス

定 植

■トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策

トマト黄化葉巻病はタバココナジラミにより媒介され、「マイルド系」と「イスラエル系」の2種類の系統が確認されている。「症状は、新葉が葉の緑から黄化しながら葉巻症状となり、病状が進行すると株全体が萎縮し、発病後は開花しても果実が結実しない。」

(タバココナジラミの耕種的防除法)

- ・タバココナジラミが購入苗に付着して侵入することが考えられるので、十分注意する。
- ・ビニールハウスの開口部に 0.4 mm 目の防虫ネットを張り、施設内への侵入を防止するとともに、黄色粘着トラップを活用し早期発見に努める。なお 0.4 mm 目の防虫ネットを張ると通風が悪くなり施設内の気温が高くなるので循環扇の設置が必要となる。
- ・農薬を使用する際は最新の農薬登録情報を確認のうえ適正防除を実施する。

(耐病性品種の導入)

- ・トマト黄化葉巻病対策として“桃太郎アーク”等の耐病性品種の導入が一部では行われているが、耐病性品種もウイルスを保毒するため、罹病性品種への伝染源とならないようにタバココナジラミの防除は実施する。

管 理

■温度管理

日中の温度は 25～26℃、夜間の最低気温は 8℃を確保する。また日照量によって夜温を変えた方がよく、日中の天気が悪く、光合成の少ない日の夜は低めに管理する。ただし、高段花房が花芽分化中は極端な低温は避ける。

■灌水

4 段花房の開花期を目安にその前後で灌水量を変える。前半はやや少なめで、pF2.5 を中心に 2.0～2.7 で管理する。早朝、葉先に水滴がつくようでは多すぎる。後半は徐々に灌水量を増やし、pF2.0 を中心に上限を 2.3 程度に管理する。生長点が縮んだり、黄色くなるのは水の吸い過ぎが原因となっていることが多いので注意する。

■摘芽・摘心・摘葉

腋芽は早めに除去し、摘心は収穫予定花房の上 2 葉を残して早めに行う。第 2 果房の収穫が始まった頃から、第 1 果房以下を摘葉して通風、通光をはかる。

※目標とする草型：6～8段穫りの栽培型では3段花房開花時に草型が決まる。この時、葉と葉が交錯しないで、下葉まで光線がはいり、葉身が長く、葉肉が厚くて、ロール葉（反転葉）の少ない草型に作る。

■ホルモン処理

使用基準を守って使用する。濃度は、低温期には濃くし、気温上昇にともなう薄くする。

高濃度、高温度の処理は空洞果、先尖果の発生原因となるので、十分換気し、15℃前後の状態で行う。

■セイヨウオオマルハナバチの利用

10アール当たり1箱（1コロニー）を、高温期をさげ、10月～5月に導入する。1箱の利用期間は40～50日である。ハチの活動適温は17℃～28℃、30℃以上や5℃以下では活動や生存が問題となる。花粉の発芽温度から最低12～13℃、最高28～30℃で管理する。

※マルハナバチ逃亡防止対策

セイヨウオオマルハナバチについては、国内の生態系への影響が懸念されるため逃亡防止措置としてネット展張や使用済み巣箱の適正な処理を行う。

■摘果

着果後に玉の大きさを揃え、不良果を摘果する。1花房当たり4果を目安とする。

■追肥

第2～3花房の着果時期から始める。1回の施肥量の限界は窒素成分で10a当たり2kg程度とし、なるべく硝酸態窒素を用い20日毎ぐらいに施す。

管 理

施肥量

施 肥	施肥成分量(kg/10a)			備 考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
基 肥	15	20	13	堆肥は3,000kg以上 切りわらの場合は、1,500～2,000kgに石灰窒素を施し、早めに耕耘する。 土壌酸度を検定し、苦土石灰で中和する。
追 肥	25	—	25	
合 計	40	20	38	

収 穫

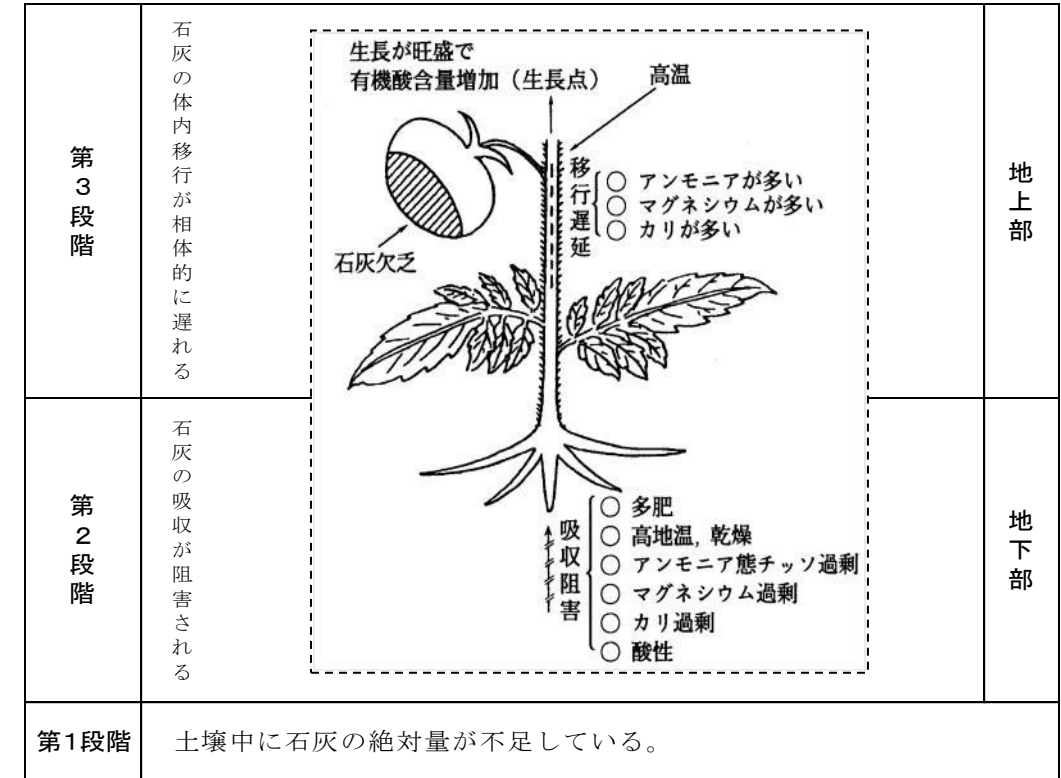
収量目標
 促成、半促成 12,000～15,000 kg
 ハウス無加温 10,000 kg

参 考

トマトの生理障害の誘発要因および発生作型

障害	誘発要因	発生作型				
		促成	半促成	露地早熟	高冷地栽培	ハウス抑制
乱形果	十分な栄養吸収と低温	○	○			
空洞果	種子がないこと、つぼみのホルモン剤処理、栄養生長過多	○	○			○
すじ腐れ果	弱光条件で、急激なアンモニア態窒素過剰(褐変型)、カリ欠乏(白変型)	○	○			○
尻腐れ果	多肥、高温、乾燥、石灰欠乏			○	○	○
とんがり果	低温、低日照、栄養吸収阻害	○	○			
裂果	強光、高温による表皮の硬化と水分変動			○	○	
日焼け果	強力な日射、カリ欠乏			○	○	
異常茎	栄養のアンバランス(石灰欠乏、カリ、窒素過剰)後の異常生長			○	○	
ガス障害	窒素多用と土壌pH変動、土壌微生物の不均衡	○	○			

トマトの尻腐れ果誘発要因の段階的作用





じゃがいも



学校給食利用 4 大品目

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第6位]


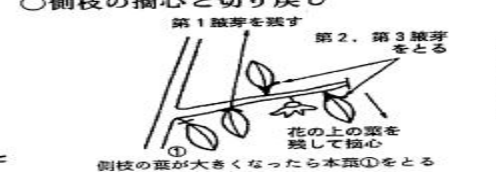
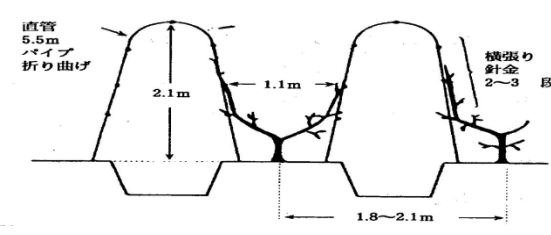

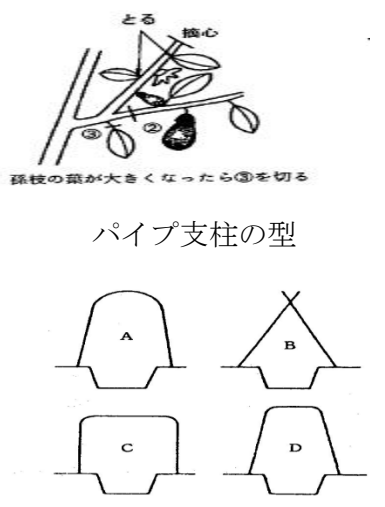
主要作業	作業の内容等															
作型と品 種	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作 型</th> <th>催 芽 期</th> <th>植 付 期</th> <th>収 穫 期</th> <th>品 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>露地・春作</td> <td>—</td> <td>2/上・中</td> <td>6/上・中</td> <td>メイクイン、男爵、キタアカリ、ワセシロ（加工用）</td> </tr> <tr> <td>露地・秋作</td> <td>8/下~9/上・中</td> <td>9/上・中</td> <td>12</td> <td>デジマ、ニシュタカ</td> </tr> </tbody> </table>	作 型	催 芽 期	植 付 期	収 穫 期	品 種	露地・春作	—	2/上・中	6/上・中	メイクイン、男爵、キタアカリ、ワセシロ（加工用）	露地・秋作	8/下~9/上・中	9/上・中	12	デジマ、ニシュタカ
	作 型	催 芽 期	植 付 期	収 穫 期	品 種											
露地・春作	—	2/上・中	6/上・中	メイクイン、男爵、キタアカリ、ワセシロ（加工用）												
露地・秋作	8/下~9/上・中	9/上・中	12	デジマ、ニシュタカ												
	<p>(メイクイン) 熟期は中生。いもの形は長紡錘形で、目は浅く、肉色は淡黄色。やや粘質で煮くずれしにくく、食味はよい。いもの着生は多いが小さいものになりやすい。また、二次生長により形がくずれやすい。疫病にやや弱い。</p> <p>(男爵・キタアカリ) 早生種でいもの肥大が早く、形は丸形で目は深い。食味は良い、疫病にやや弱い栽培は容易である。春作早掘りに適し、休眠期間が長いので秋作には適さない。</p> <p>(デジマ・ニシュタカ) 晩生でいものは大きく扁球で目は浅い。肉色は白黄色～淡黄色で食味は良い。二期作向けで多収である。</p>															
土地の選 定	連作を避け、排水性のよい砂壤土か壤土を選ぶ。土壌への適応性は広い。															
本舗の準 備	植え付け1ヶ月前に堆肥2tと苦土石灰を全面施用し、十分耕うんする。最適pHは5.0~6.5。pHが高いとそうか病発生を増やす原因となるため、注意する。															
種いもの準 備	無病の健全な種いもを使用し、1芽以上をつけて1個あたり30~40g位に切断する。 10a当たりの種いも量 150~200kg ・切断は頂芽を中心に縦切りとし、頂芽に近い優勢な芽を利用する。 ・切断後は断面を直接日光にさらさないようにして切り口を乾燥させ、カサの形成を促す。 ・秋作の高温期の植え付けでは植え付け2日前に切断し、日陰の涼しい所で乾燥させる。															

栽 培 密 度	1条植え 畦幅60~80cm、株間25~30cm 2条植え 畦幅140cm、株間23cm																													
植 付	10cmの深さに植溝を作り、種いもの切り口を下に植え、5~8cmを覆土する。肥料はその横に施し、軽く土をかける。秋作では平均温度が25℃前後になった頃に植え付ける。 植付時期の目安：平坦部9月10日~15日 山間部9月1日~5日 ・冷涼な気候を好み、生育適温は10~23℃。 ・春作において、浴光催芽する場合は植付け20~30日前に行う。ビニールハウスや室内の乾燥したところに種いもをうすく並べ、日光に当て4~5mmの硬い丈夫な黒紫色の芽を育てる。大量に処理する場合は、通気性が良く光が入るコンテナに種いもを厚さ15cm以下に入れ、しばしば種いもの位置を入れかえて光がむらなくあたるようにする。この時の温度は日中15~20℃、夜間5℃以上が必要である。 ・マルチ栽培では、若干深めに植え付け、芽が地上に出てきたらマルチを破る。マルチ栽培により収穫時期が一週間ほど早まる。 ・秋作で高温時の植付けは朝夕の涼しい時に行う。																													
管 理	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> <th>堆肥</th> <th>石灰</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>2,000</td> <td>100~150</td> </tr> <tr> <td>追 肥</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>2,000</td> <td>100~150</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 生育期間が短いので、追肥は遅れないように2回位に分施する。</p>	施 肥	施肥成分量(kg/10a)			備考		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	石灰	基 肥	12	12	10	2,000	100~150	追 肥	4	—	3	—	—	合 計	16	12	13	2,000	100~150
施 肥	施肥成分量(kg/10a)			備考																										
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	石灰																									
基 肥	12	12	10	2,000	100~150																									
追 肥	4	—	3	—	—																									
合 計	16	12	13	2,000	100~150																									
芽かぎ	萌芽後草丈が10cmまでに芽かぎし、芽を1~3本にする。一般に茎数が少ないといも数が少なく大いものになり、多いといも数が増え小いものとなる。																													
中耕・土寄せ	追肥の施用時に中耕を行い、土寄せをする。培土の深さ10~15cm ・雑草抑制を目的に中耕を行う。 ・時期が遅れると根や茎葉を痛めてしまうので、草丈5~10cmの頃に行う。																													
収 穫	晴天の続く土壌が乾燥している時に収穫する。掘り取り後、半日くらい風乾してから暗所で貯蔵する。 収量目標 1,500~2,000kg ・緑化や腐敗を防ぐため暗くて冷暗な所で貯蔵する。																													

なす (トンネル・露地)

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第9位]

主要作業	作業の内容等								
作型と品種	作型	定植期	収穫期	品種					
	トンネル	4/上	5/中～11	千両二号					
露地	4/下～5/中	6/上～11	千両二号 築陽						
＜台木の特性と主要病害抵抗性＞									
台木	青枯病					半枯病	半身萎凋病	草勢	特性
	I	II	III	IV	V				
アカナス	○	○	×	×	×	○	×	中	栽培しやすく品質も良い
カレヘン	○	○	△	△	○	○	△～○	やや弱	低温伸長性がやや劣るので、地温の確保に注意する。若干定植本数を多くする。
トルバム	○	○	○	△	○	○	△～○	強	発芽や初期生育がおそい。耐暑性や耐湿性が強い。アカナスより根群が多く吸肥力が強い。苦土欠乏症がやすい。
トレロ	○	○	○	△	○	○	△～○	強	発芽や初期生育がおそい。耐暑性や耐湿性が強い。アカナスより根群が多く吸肥力が強い。苦土欠乏症がやすい。
トナムシ	○	○	○	△	○	○	△～○	強	接ぎ木までの生育はやや遅い。初期生育はトルバムに比べややおとなしい。耐暑性、耐干性に優れる。アカナスより根群が多く、吸肥力強い。苦土欠乏症がやすい。
台太郎	○	○	○	△～○	○	○		中	発芽や初期生育早く接ぎ木が容易、青枯病に強い。低温性はアカナスより劣るので無理な早植えを避ける。
注 ○・・・抵抗性、△・・・かなり抵抗性、×・・・抵抗性なし									
土地の選定	連作を避けて排水、保水力のある耕土の深い壤土および砂壤土を選定する。								
定植	<p>■準備 基肥は、定植の2週間前に施用し、深く耕うんしておく。畦の高さは40cmを目標とし、かまぼこ型の高畦とする。安定した灌水や施肥管理を行うため、灌水チューブを設置する。</p> <p>■栽植密度 畦幅 200～220 cm 株間 80 cm 10 a 約 600 本 4 本仕立て</p> <p>■定植 最低気温 12℃を確保できる時期の天気の良い、風のない日を選び、1番花開花前の苗（本葉9～10枚）を定植する。根鉢を崩さないようにポットから抜き取り、接ぎ木部が土中に埋もれないように浅植えとし、仮支柱を立てる。</p>								

管理	<p>※定植後、活着するまでは株元へ手灌水を行う。</p> <p>○4本仕立てにおける主枝の配置法</p>  <p>○側枝の摘心と切り戻し</p>  <p>支柱の型及びV字型仕立て</p> 	<p>ナスの花型</p>  <p>パイプ支柱の型</p> 																					
施肥量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥</th> <th colspan="3">施肥成分量 (kg/10a)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>30</td> <td>50</td> <td>20</td> <td rowspan="3">基肥は、定植2週間前に施用する。施肥量は台木によって加減する。追肥は1回当たり窒素成分量で、液肥は0.7～1kg、振り肥は3kg程度施用する。</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>30</td> <td>10</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		施肥	施肥成分量 (kg/10a)			備考	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基肥	30	50	20	基肥は、定植2週間前に施用する。施肥量は台木によって加減する。追肥は1回当たり窒素成分量で、液肥は0.7～1kg、振り肥は3kg程度施用する。	追肥	30	10	30	合計	60	60	50
施肥	施肥成分量 (kg/10a)			備考																			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																				
基肥	30	50	20	基肥は、定植2週間前に施用する。施肥量は台木によって加減する。追肥は1回当たり窒素成分量で、液肥は0.7～1kg、振り肥は3kg程度施用する。																			
追肥	30	10	30																				
合計	60	60	50																				
管理	<p>■トンネル管理及び除去 トンネル栽培では、活着後徐々に換気を行い、30℃以上にならないよう注意する。5月上旬、外気にならしながらトンネルを除去する。</p> <p>■ホルモン処理 使用基準を遵守して使用する。</p> <p>■整枝・誘引 第1番花を中心に発生する強い枝4本を伸ばし、予備枝以下のわき芽は早めに除去する。</p> <p>■排水と乾燥防止 梅雨時期には排水に注意し、7～8月の高温期には灌水を行って、適正な土壌水分の保持に努める。</p>																						
収穫	<p>1番果の収穫時期は、樹勢の強弱によって決める。 収量目標 15,000 kg</p>																						

なす (促成)

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第9位]

主要作業	作業の内容等			
作型と品種	作型	定植期	収穫期	品種
	促成	8/下~9/下	10/上~6	千両 両馬
圃場の準備・土づくり	<p>(千両) 品質良好、生育旺盛で多収品種。</p> <p>(両馬) 品質で千両にやや劣るが、極早生で初期多収の品種。また、小葉・短節間で草丈が低い。</p> <p>病害虫防除のため、栽培終了後直ちにハウスを密閉して蒸し込み処理を行い、その後太陽熱消毒または土壤還元消毒を行う。地力の維持増進を図るため定植の1ヶ月前までに良質堆肥を3~4t施す。苦土石灰等を施用し、pHを6.0~6.5に調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス蒸し込み処理 栽培終了後に株元から切り、1週間程度ハウスを密閉して高温状態を保つ。 ・土壤消毒 			
	<p>■太陽熱による土壤消毒の例</p>			

圃場の準備・土づくり	<p>■土壤還元消毒の例</p> <p>※2~3日晴天の続く日に開始すること。</p>																			
育苗	<p>購入苗は若苗の場合が多く、そのまま定植すると草ぼけしやすい。しかし、そのまま定植期までおくと根が老化するので12~15cmのポットに移植する。肥料不足とならないよう苗の状況を観察し、葉面散布剤で追肥を行う。定植10日ほど前から灌水量を減らし、硬化処理を行い、苗の充実を図る。</p>																			
定植	<p>■定植準備</p> <p>定植前に薬剤処理を行う。基肥は2週間前に全層に施用して深く耕し、肥料を下層まで均等に混ぜておく。畦の高さは40cmを目標とし、かまぼこ型の高畦とする。マルチは過繁茂を避けるために、地温が下がってから行う。</p> <p>■栽植密度</p> <p>畦幅1.8~2m 株間45~50cm 10aあたり1,000~1,200本植 3本仕立て</p> <p>■定植</p> <p>根鉢が形成され、第1花が開花直前になった苗を定植する。根鉢を崩さないようにポットから抜き取り、接木部が土中に埋もれないように浅植えとする。定植後、苗が倒れないよう仮支柱を立てる。</p>																			
施肥量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>30</td> <td>—</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> <td>30</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>追肥は通常、収穫開始1ヶ月後から開始し、樹勢を見ながら少量多回数を基本とする。窒素成分量で、液肥は0.7~1kg、振り肥は3kg以内が基準。</p>	施肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基肥	30	30	20	追肥	30	—	30	合計	60	30	50
施肥	施肥成分量(kg/10a)																			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																	
基肥	30	30	20																	
追肥	30	—	30																	
合計	60	30	50																	

管 理

■温度

定植後しばらくは昼夜とも開放する。また、11月上旬までは低温管理で徒長を防ぐとともに根の発達を促す。生長点が低温によってアントシアンが現れる頃から加温を始め、下図の「越冬長期栽培なすの温度管理例」に準じた温度管理をする。最低夜温 10℃以上になるように加温する。

< 越冬長期栽培なすの温度管理例 >

屋温	弱光期(12~2月)				強光期(3~4月)			
	午前	午後			午前	午後		
昼温	30℃	28℃			30~28℃	25℃		
夜温	日没~21時~24時~日の出		早朝		日没~21時~24時~日の出		早朝	
	13℃	12℃	11℃	13℃	14℃	13℃	12℃	14℃
備考	弱光期の高夜温は草勢を弱めるが、草勢が強すぎる場合は1~2℃高くして草勢を調整する。				同化物質が多くなるほど前夜半の温度を高くして、転流促進を図る。この時期は外気温も高くなるので燃料の消費量はそう多くならない。			

■灌水

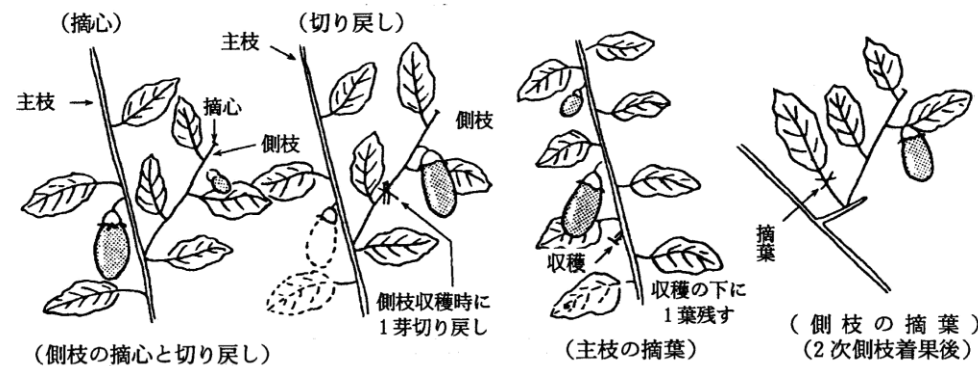
定植後から活着までは株元へ灌水を行い、活着後は灌水を控えて根を深く張らせる。適度の成りぐせがついたら灌水量を増やす。冬期の灌水は1回の量を少なくして、晴天の日の午前中に行う。

■整枝

主枝は、第1花を中心に発生する強い枝を残す。角度は45度ぐらいとし、勢いの強い場合は広くする。弱い場合は狭くする。

■側枝の管理

1果穫りの1芽切り戻しを基本とする。着果を認めたら果実の上1葉を残して摘心し、主枝に近い腋芽を1つ残し、それ以外の芽はかき取る。



■摘葉

冬期は黄化葉を中心に軽い摘葉にとどめるが、主枝の摘葉は収穫果の下に1葉残して行うのが目安。側枝の摘葉・切り戻しは図のとおりである。

■ホルモン処理

使用基準を遵守して使用する。ホルモン処理の場合は花卉が遅くまで残り、灰色かび病の発生源となるので、開花4~5日後に丁寧に除去する。

■訪花昆虫の利用

マルハナバチは2月中旬頃、ミツバチは3月中旬以降に導入する。ハチ導入前には病害虫の発生密度の低下を図り、ハチ導入後は影響の少ない農薬を使用する。

※マルハナバチ逸脱対策

セイヨウオオマルハナバチについては、逸脱防止措置としてのネット被覆及び使用済み巣箱の適正な処理を行う。

■病害虫防除

- ・すすかび病の予防

栽培終了後、ハウスの蒸し込み処理や太陽熱土壌消毒により病原菌を死滅させる。予防散布や適正な管理を行い、樹勢を維持する。多湿条件を避けるため換気を十分行う。前夜半と早朝の設定温度を上げ、夜間の湿度低下を図る。

- ・ミナミキイロアザミウマの防除

多発生すると被害が大きいので、各種防除を組み合わせ、発生初期から徹底防除に努める。(持ち込まない、増やさない、飛び出させない)

管 理

収穫

1番果の収穫時期は、樹勢の強弱によって決める。12月からは若採りにより、草勢の維持を図る。

収量目標 15,000 kg

キャベツ

学校給食利用 4 大品目

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第 10 位]

主要作業	作業の内容等					
作型と品 種	作 型	は 種 期	定 植 期	収 穫 期	品 種	
	夏まき	年内どり	7/上~8/上	8/上~9/上	10/中~12/下	秋徳、YR湖月、若峠、彩風
		冬どり	8/上~下	9/上~10/上	12/中~3	緑春、綾音、T-512
			8/上~中	9/上~10/上	11/下~3/中	松波、豊光、YR湖月
	秋まき春どり	9/25~10/5	11/上~12/上	4~5/中	味春、春ひかり7号、秋蒔中早生2号	
	秋まき初夏どり	10/中~下	11/下~12/中	5/中~6/中	石交秋蒔中早生、おきな	
10/下~11/下		12/下~2/中	4/下~6/上	YR春空、YR天空		
グリーンボール	7/中~下	8/上~8/中	10/上~11/中	C・M、アーリーボール		
	2/中~下	4/上~中	5/中~6/中	C・M、アーリーボール (温床又は冷床育苗を行う)		
■秋まき	<p>抽だいとちやぼ玉が問題となる。ある程度の大きさの苗が低温に合うと花芽ができ、そして葉数が不足すると抽だいまたはちやぼ玉になる。 低温感受性は品種により異なるので、品種の選択と、播種適期に注意する。</p>					
■春まき	<p>結球期が梅雨から高温乾燥期にまたがるので耐暑、耐湿性の品種を選ぶことが大切。</p>					
■グリーンボール	<p>低温感受性が敏感。</p>					
土地の選 定	<p>排水良好な肥沃でしかも保水力の良い土地。 湿害対策湿害……排水に注意、高畦にする。 排水の悪い土地は高畦にする</p>					
育 苗	<p>■育苗の準備（セル成型苗）</p> <ol style="list-style-type: none"> 128 穴または 200 穴を使用する。育苗トレイは直接地面に置かない。 育苗用培土は専用培土を用いる。培土はトレイの穴に均一に充填する。 播種は 1 穴に 1 粒ずつ播種し（播種機利用）うすく覆土する。 播種後は乾燥させないよう充分灌水し、カンレイシャ等で被覆する。 播種後 15 日前後から液肥等で追肥を行う。 					

育 苗	<p>■管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 発芽まではカンレイシャ等で被覆する。乾燥に注意し灌水をする。 発芽後は被覆を取り光にあて、徒長させないようにする。苗が大きくなると乾燥しやすいので灌水をするが、夜温の高いときは夕方の灌水は控えめにする。 育苗後半は灌水をやや控え、充実した苗にする。 台風時はカンレイシャ等でトンネル型に覆い保護する。 																																								
定 植	<p>■定植準備</p> <p>基肥を施し、深く耕うんする。 pH6.5~7 を目標に、苦土石灰等を施用し、酸度を矯正する。pH5.5 以下は著しく収量を減じる。水田後作は稲わら腐熟のため、石灰窒素 40~60 kg 施用する。</p> <p>■栽植密度</p> <p>夏まき：135 cm×33 cm×2 条(4,500 株) 秋まき、春まき：120 cm×30 cm×2 条千鳥植え(5,500 株) グリーンボール：120 cm×30 cm×2 条千鳥植え(5,500 株)</p> <p>■定植</p> <p>定植適期を守る。本葉 4~5 枚が適当 セル成型苗は苗の引き抜きが可能となった時定植する。 あまり深植にしない。定植後チューブ灌水する。 大苗でおそ植よりも若植がよい。特に晩出し型は限界からおくれると不結球又は抽台する。</p>																																								
管 理	夏まき	秋まき、春まき																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>追 肥</td> <td>18</td> <td>—</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>34</td> <td>16</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	施 肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基 肥	16	16	16	追 肥	18	—	18	合 計	34	16	34	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>追 肥</td> <td>14</td> <td>—</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>24</td> <td>10</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		施 肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基 肥	10	10	10	追 肥	14	—	10	合 計	24	10	20
施 肥	施肥成分量(kg/10a)																																								
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																																						
基 肥	16	16	16																																						
追 肥	18	—	18																																						
合 計	34	16	34																																						
施 肥	施肥成分量(kg/10a)																																								
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																																						
基 肥	10	10	10																																						
追 肥	14	—	10																																						
合 計	24	10	20																																						
	<p>堆肥 2,000 kg、苦土石灰 100~150 kg、基肥は全層に施用する。</p> <p>夏まき：追肥は 3 回に分施し、止肥は結球開始の頃とする。 秋まき：2 月上旬から肥料切れをしないよう追肥を行い順調に育てる。 春まき：基肥を重点に、追肥も早めに施し、窒素過多をさける。</p> <p>活着後（定植 10~14 日後）中耕し、尿素 40kg を株もとに施用する。 冬季結球時の乾燥は灌水の効果大きい。 追肥は、結球し始める頃までに施用する。</p>																																								
収 穫	収量目標	5,000kg																																							
	グリーンボール	1 球 800~1,000g で収穫																																							



キャベツ (加工・業務用)

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第10位]

主要作業	作業の内容等				
作型と 品種	作型	は種期	定植期	収穫期	品種
	年内どり	7/中~7/末	8/中~8/下	11/中~11/下	おきな
		7/下~7/末	8/下	12/中~12/下	YR湖月
		7/下~8/上	8/下~9/上	11/下~1/上	YR輝吉
	1~4月どり	7/下~8/上	8/下~9/下	12/下~4/上	夢ごろも
		8/上~8/中	9/上~9/中	2/上~2/下	夢舞台
6月どり	1/中	3/上	6/中	天空	
	作型に合った品種を使用する。				
土地の 選定	排水良好な肥沃でしかも保水力の良い土地。 湿害対策・・・排水に注意。高畦にする。(排水の悪い土地は高畦にする)				
育 苗	■育苗の準備 (セル成型苗) ② 128穴または200穴を使用する、育苗トレイは直接地面に置かない。 ② 育苗用培土は専用培土を用いる。培土はトレイの穴に均一に充填する。 ③ 播種は1穴に1粒ずつ播種し(播種機利用)うすく覆土する。 ④ 播種後は乾燥させないように、充分灌水し、カンレイシャ等で被覆する。 ⑤ 播種後15日前後から液肥等で追肥を行う。				
	■管理 ① 発芽まではカンレイシャ等で被覆する。乾燥に注意し灌水をする。 ② 発芽後は被覆を取り光にあて、徒長させないようにする。苗が大きくなると乾燥しやすいので灌水をするが、夜温の高いときは夕方の灌水は控えめにする。 ③ 育苗後半は灌水をやや控え、充実した苗にする。 ④ 台風時はカンレイシャ等でトンネル型に覆い保護する。				
定 植	■定植準備 基肥を施し、深く耕うんする。 pH6.5~7を目標に、苦土石灰等を施用し、酸度を矯正する。 pH5.5以下は著しく収量を減じる。 水田後作は稲わら腐熟のため、石灰窒素40~60kg施用する。 南北畦を基本とする。(東西畦は冬期栽培での生育の差がやすい)				

定 植	■栽植密度 夏まき・秋まき：130cm×37~40cm×2条(3,800~4,100株)																					
	■定植 定植適期を守る。本葉4~5枚が適当 セル成型苗は苗の引き抜きが可能となった時定植する。 あまり深植にしない。定植後チューブ灌水する。 大苗でおそ植よりも若植がよい。 特に晩出し型は限界からおけると不結球又は抽台する。																					
施肥量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>15</td> <td>22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>追 肥</td> <td>19</td> <td>—</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>34</td> <td>22</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>			施 肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基 肥	15	22	10	追 肥	19	—	19	合 計	34	22	29
	施 肥	施肥成分量(kg/10a)																				
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O																		
	基 肥	15	22	10																		
	追 肥	19	—	19																		
合 計	34	22	29																			
堆肥2,000kg、苦土石灰100~150kg、基肥は全層に施用する。 追肥は3回に分施し、止肥は結球開始の頃とする。 追肥は結球し始める頃までに施用する。																						
■灌水 冬期乾燥時の灌水は、収量が増加する効果が大きく、石灰欠乏症の予防にもなる。																						
管 理																						
収 穫	収量目標 8,000kg 出荷形態は、大型鉄コンテナ、通いコンテナ、段ボール等がある。 規格は一般的に青果より簡素であるが、契約相手先により異なる。 一斉収穫することで省力化になる。																					

ブロッコリー

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第15位]

主要作業	作業の内容等					
作型と品種 生育適温は18～20℃。25℃以上になると花蕾の発育は停止し、病害にも侵されやすくなる。 5℃以下では生育がすすまない。花芽分化は次表のように低温によるが、品種によって低温感応が異なり、早生種は小苗でもかなりの高温で感応する。 ブロッコリーの花芽分化の条件と収穫までの日数（夏まき）	品種	は種期	定植期	収穫期		
	ピクセル 幸よし ゆとり おはよう	7/下～8/中	8/下～9/上	10～12		
	しき緑96号 改良緑炎 ハートランド エンデバー みよ緑3号 メガドーム	8/中～9/中	9/中～10/中	1～3		
	グランドーム 晩緑99W	8/下～9/中	9/下～10/中	4～5		
	グリーンパラソル(トンネル) ピクセル(トンネル)	9/中～10/上	10/中～11/上			
	ピクセル グリーンパラソル おはよう	1/上～2/上	2/上～3/上			
	1/中～2/中	2/下～3/中				
土地の選定	排水、保水性のよい土地を選ぶ。壤土または砂壤土。					
育苗	■育苗の準備（セル成型苗） <ul style="list-style-type: none"> 育苗用トレイは128穴または200穴(移植機利用の場合は機械に適合したトレイ)を使用する。 育苗用培土は専用培土を用い、トレイの穴に均一に充填する。 1穴に1粒ずつ播種し、セル間の仕切りが見える程度に薄く覆土する。 					

育苗	<ul style="list-style-type: none"> 播種後は乾燥させないように、充分灌水し、積み重ねたりコモで被覆し倉庫等に置くが、光にあてるのが遅れると徒長するので、1割程度発芽したら育苗場所に移す。 灌水は1～3回/日とし、朝重点で行い夕方には乾燥気味になるよう管理する。 播種後10日前後から液肥等で追肥を行う。 病害虫は早期に防除する。 ■管理 <ul style="list-style-type: none"> 育苗トレイは地面に直接置かず、コンテナや板等で地面から浮かす。地面に直接置くと病害が発生したり、トレイから外に根が出ることがある。 発芽まではカンレイシャ等で被覆をし、発芽後は被覆を取り、光にあて徒長させないようにする。 灌水は朝たっぷりやる。日中以降は徒長防止のため、できるだけ避ける。苗が大きくなると乾燥しやすいので灌水を多めにするが、夜温の高いときは夕方の灌水は控えめにする。また、育苗後半は灌水をやや控え充実した苗にする。 台風時はカンレイシャ等でトンネル型に覆い保護する。通過後は速やかに除去し排水を行う。 育苗中大切なことは立枯病対策であり、本病は高温時、雨にたたかれた場合に発病が多い。通気性のよい苗床でカンレイシャ、ヨシズ等で雨除けを行い、適時薬剤を散布する。
定植	■定植準備 <p>堆肥、石灰、ようりんは早目に施し耕うんする。 生わらをすき込む場合は、定植2週間前までとし、石灰窒素を10a当たり40～60kg施用してわらの腐熟を早める。 基肥は10日以上前に施用し、耕うん、畦立をする。水田では排水対策を十分に行い、できるだけ高畦栽培にする。</p> ■栽植密度 <p>130～135cm×28～31cm×2条 10a当たり4,500～5,200株</p> ■定植 <p>セル成型苗は苗の引き抜きが可能となった時(3～4枚)に定植する。培土が少ないので定植後の乾燥に注意する。</p>

施肥量	施肥成分量(kg/10a)			
	施 肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
	基 肥	19	12	17
	追 肥	16	—	16
	合 計	35	12	33
<p>年内穫りは、初期生育を順調にするため、中期以降の肥効はゆっくり効かせる。 冬穫りは基肥主力で初期生育を促し、年内に充実した株をつくる。 春穫りは活着を順調にする。</p>				
管 理	<p>■中耕・追肥 中耕、除草、灌水を適時行う。 追肥は生育に応じて2～4回に分施し、発蕾初期を止肥とする。追肥の後には土寄せを行い倒伏を防止する。 年内穫り・春穫りの場合では窒素過多にならないように追肥量を加減する。</p> <p>■台風対策 あらかじめ株元に土寄せを行い、溝切り等の排水対策を行う。 圃場が冠水や浸水した場合は速やかに排水を行う。また、追肥、土寄せ、液肥の葉面散布等により生育の回復に努めるとともに、病害虫の発生を防止するため、折損した茎葉の除去と薬剤散布を行う。</p> <p>■防寒対策 発蕾後、低温が予想される場合は、防寒対策として不織布等のべたがけ資材を被覆する。</p>			
収 穫	収量目標 1,200 kg			
備 考	<p>■根こぶ病防除のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸冠水しやすい圃場を避け、高畦栽培等排水をよくする栽培を心がける。 ・アルカリ資材の投入により、土壌pHを高め、発病を抑制する。 ・病原菌は土中で長期間生存するので、徹底して残渣処分を行う。 ・発生圃場で使用した農機具や長靴に付着した土壌は洗い落とし、他の圃場に持ち込まない。 ・前年、根こぶ病が発生した圃場は、薬剤により防除しておく。 			

備 考	■葉数の確保と良品生産		
	葉数をできるだけ多くした後に花芽分化させることが、良品生産のため必要であり、定植後、植傷みなく初期生育を順調に行わせ、最後まで肥料切れしないよう追肥を施すことが大切である。		
	■異常花蕾の発生要因と対策		
	種 類	主な発生要因	対 策
	ポトニング (早期出蕾)	葉数が十分確保されないうちに低温感応したもの。低温下の早期定植。老化苗の定植、過湿、過乾燥、品種選定の誤り。	育苗温度最低10℃以上。露地の早植え限界は平均外気温10℃以上でそれ以下はトンネル。基肥主体、早い追肥で早期に十分株を作る。
	リーフィー (さし葉)	花芽分化期の低温不足や分化後花蕾肥大期の高温。窒素過多。強い栄養生長。	品種に合った適期は種。花蕾肥大期の肥効抑制。過度の高温をさける。
ヒュージー (毛羽立ち)	花蕾形成の後期に高温にあい、ごく小さな包葉が花蕾の表面にでる。	品種とは種期に注意する。窒素過多にしない。	
ブラインド	低温感応の不足で花芽が十分分化できず花蕾が発育しない。	作型に合った品種選定、春どりの種期に注意する。	
キャッツアイ	小花蕾の中心部の発育が遅れ、猫の目に見える症状。花芽形成時の高温や花蕾肥大期の高温、多雨、小日照で発生が多くなる。	花蕾肥大期の肥効抑制。過繁茂にしない。	

ほうれんそう

[阿波ペジ総選挙 野菜部門 第14位]

主要作業	作業の内容等		
作型と 品 種	は 種 期	収 穫 期	代 表 品 種
	8/下~9/上	9/下~10/中	ヴィジョン、クローネ、ハンター、パスワード7、ミラージュ
	9/上~10/上	10/中~11/下	ヴィジョン、サンフレッシュ、クローネ、ハンター、プライド、新鮮緑7
	10/上~12/上	11/下~3/下	株張クローネ、サムライ、スパイダー、ペルセウス、新鮮緑7、タキシード7、クロノス、パワーアップ7
	12/中~3/中	3/下~4/下	ヴィジョン、スーパーアリーナ7、パスワード7、クローネ
	4~5 (雨よけ)	5~6	プラトン、ミラージュ
	べと病R1~R7抵抗性、耐病性品種を利用する。		
土地の 選 定	保水性が良く、排水性の良い土地を選ぶ。		
播 種	<p>■播種準備</p> <p>畑は堆肥・石灰・ようりん等を全面に施し、深耕碎土する。 基肥は全層に施し、畦を整地する。 土壌酸度はpH6.5の微酸性がもっとも生育が良い。 生わらを施したときには、播種2週間前までに石灰窒素(粒状)を10a当たり40~60kg散布し、わらの腐熟を早める。 高畦(20~25cm)とし、必ず排水溝を整備する。</p> <p>■播種</p> <p>10a当たり播種量2~2.50、3~4袋/3万粒袋 畦幅140~150cmに4~5条播きとし、播種機で均一に薄く播く。 4月~5月の播種は、より薄播きとする。 高温期の播種は浸種する。但し、発芽促進処理をしてある品種は浸種しない。 種の大きさや播種期によりロール・ベルトのサイズを調整する。(1穴に2~3粒が標準)</p>		

施肥量	施肥成分量(kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	13	13	13
追 肥	10	—	7
合 計	23	13	20
	<p>堆肥1,000kg以上を全面に散布し、荒起しを行う。 基肥は5~7日前までとし、全層に施用する。 追肥は3回に分施し、最後の追肥は収穫7~10日前に施用する。 (第1回:本葉2~3枚、第2回:本葉4~5枚、第3回:葉がこみ合うまで)</p>		
管 理	<p>■除草剤</p> <p>播種直後、除草剤を土壌表面散布する。 砂地、乾燥地は薬害を起こしやすいので注意する。</p> <p>■灌水・排水</p> <p>乾燥時には午前中に畦間に灌水を行う。 台風や降雨時はできるだけ早く排水し軽く中耕後葉面散布剤を散布する。 生育不良、乾燥、湿害及びべと病が発生したとき、収穫前などに液肥の葉面散布の効果が大きい。4~5日毎に2~3回散布する。</p> <p>■厳寒時の生育促進</p> <p>生育の促進と品質の向上をはかるため、有孔フィルム、不織布などをトンネル被覆する。 草丈が20cm前後に生育したものにポリまたはビニールをトンネル被覆して生育を促進させる。期間は1週間まで。 本葉3~4枚のものにタフベル等を収穫期まで被覆する。生育に応じて十分換気し株の充実を図る。</p>		
	<p>堆肥の施用、緑肥作物のすき込み等による土づくりを行う。 排水対策(高畦、心土破砕、排水溝の整備等)を行う。 中耕、葉面散布剤の施用 簡単なトンネル被覆 ウイルス病対策(アブラムシ類防除の徹底、発病株の除去等)</p> <p>圃場の排水を良くし、過剰灌水をさける。</p>		
収 穫	<p>草丈23~28cmのL階級を標準とし、規格の範囲内で収穫する。 収量目標 2,000kg</p>		



たまねぎ



学校給食利用 4 大品目

[阿波ペン総選挙 野菜部門 第 16 位]

主要作業	作業の内容等				
作型と品 種	作 型	は 種 期	定 植 期	収 穫 期	品 種
	早 生	9/中	11/上	4/下	七宝早生7号
	中 生	9/中	11/中	5/下	ターザン
	晩 生	9/下	11/下	6/上	もみじ3号
土地の選 定	砂土から粘質土壌まで適応するが、早出しには適湿の砂質土が適し、粘質土壌にしまりのよい貯蔵性の高い球が生産される。 pHは6.5前後が適する。				
育 苗	<p>■苗床の準備</p> <p>10a 当たり 40～50 m²。早くから完熟堆肥、石灰等を施用し、準備する。 1 m²当たり 苦土石灰 120 g、化成肥料 100 g。畦幅 120 cm に畦立てし、床面をていねいにならす。</p> <p>よい苗を作ることが大切で、苗床は日当たりがよく、排水・保水性の良い肥沃なところを選ぶ。</p> <p>■播種</p> <p>播種量 10a 当たり 5.5 dℓ</p> <p>均一に播種し、覆土は完熟堆肥と土を半々に混合したものをフルイを通し 4～5 mm の厚さに覆土する。その後、細めのじょうろで灌水し、表面をわらで覆う。</p> <p>砕土不良や水分不足で発芽が不良になるので、土壌水分に注意する。</p> <p>■発芽後の管理</p> <p>播種後 7～8 日位で発芽するので、敷わらを夕方取り除き、灌水して根をおちつかせる。</p> <p>根の見える場所は土肥寄せや土入れをする。</p> <p>本葉 2 枚頃、密生部は間引きを行う。</p> <p>やせた苗床は液肥 300～400 倍を、灌水をかねて追肥する。</p> <p>乾燥すると生育が劣るので乾燥に注意し、時々灌水する。</p> <p>雨水で土が流され根が露出すると、堆肥を等量に混ぜた土を土入れする。</p>				
	定 植	<p>■定植準備</p> <p>早めに 10a 当たり 堆肥 2,000 kg 及び石灰 100～150 kg を施し、深耕砕土する。</p> <p>基肥は定植 1 週間前に全層に施用し整地する。</p>			

定 植	<p>酸性に弱いので pH6.5 前後に矯正する。</p> <p>たまねぎの根は広く深く伸びるので、深耕と砕土を十分行う。</p> <p>根群を十分発達させ、生育や球の肥大をはかるには堆肥等有機物の施用効果が高い。</p> <p>■栽植密度</p> <p>4 条植：畦幅 135～140 cm 株間 10～12 cm 24,000～30,000 本</p> <p>■定植時期</p> <p>早生＝11 月上旬 中生＝11 月中旬 晩生＝11 月中下旬</p> <p>■植付け</p> <p>苗は根を切らないように掘り取り、乾燥しないようにする。</p> <p>植付けは、根が露出しないよう 2～3 cm の深さに植付け十分灌水する。</p> <p>大苗は抽だい率が高く、苗が小さすぎると寒害を受け易く収量もあがらない。</p> <p>適苗は根元の太さ 6 mm 程度、草丈 25 cm 内外、100 本重は早生種で 700～800g、晩生種では 500～600g。</p>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>追 肥</td> <td>14</td> <td>—</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>24</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>窒素は春先の肥効が高いので追肥は 2～3 月を重点に施用し、りん酸は 1～2 月までの吸収量が球の肥大に影響するので、基肥と年内の追肥重点に施用する。</p> <p>窒素の止肥時期は早生で 3 月上旬、中・晩生で 3 月中旬までに終える。</p>			施 肥	施肥成分量 (kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基 肥	10	22	10	追 肥	14	—	14	合 計	24	22
施 肥	施肥成分量 (kg/10a)																				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																		
基 肥	10	22	10																		
追 肥	14	—	14																		
合 計	24	22	24																		
管 理	<p>土壌が乾燥すると生育が低下し、葉の枯れ込みを生じることがあるので、土壌水分に注意し、灌水する。</p> <p>球が地表に出ると品質が低下し貯蔵性も劣るので、3 月頃土寄せする。</p> <p>灌水は作型によって異なり、早穫りは定植後の灌水に留意して活着を早め初期生育の発育を促す。普通栽培は気温が上がって地上部の生育が旺盛になる頃から水不足にならないようにする。貯蔵用は肥大中期からひかえめの灌水で玉じまりを良くする。</p>																				
収 穫	<p>圃場全体の 80% 位倒伏した頃、晴天をみはからって収穫する。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>収量目標</td> <td>早穫り</td> <td>4,000 kg</td> </tr> <tr> <td></td> <td>普通</td> <td>7,000 kg</td> </tr> <tr> <td></td> <td>貯 蔵</td> <td>6,000 kg</td> </tr> </tbody> </table>			収量目標	早穫り	4,000 kg		普通	7,000 kg		貯 蔵	6,000 kg									
収量目標	早穫り	4,000 kg																			
	普通	7,000 kg																			
	貯 蔵	6,000 kg																			



学校給食利用 4 大品目

[阿波ベジ総選挙 野菜部門 第20位]

主要作業	作業の内容等																		
作型と品 種	作 型	は 種 期	収 穫 期	品 種															
	トンネル	10/下~12/中	3/下~5	彩誉、愛紅 FSC-015 美輝、向陽2号															
	播種期 3月穫り 10月下旬~11月初旬、 4月穫り 11月上旬~12月初旬 5月穫り 11月下旬~12月中旬																		
土地の選 定	比較的土壌を選ばず、極端な砂土、粘質地を除けば水田地帯でも可能であるが、最もよい条件は排水良好で、耕土の深い肥沃な砂壤土。にんじんは土の湿りぐあいと通気性のよしあしが、色づき・根形に影響する。特に生育初期の乾燥は生育の遅れ、品質の低下と裂根の原因となる。																		
播 種	■播種準備 前作が終わり次第速やかに完熟堆肥を投入する。緑肥については、7~8月頃（草丈 2m 程度）にすき込んでおく。基肥は、播種 10 日前までに全面に施してできるだけ多く耕し（3 ~6 回）、高畦とする。水田跡の稲わらは、播種 30 日前までに石灰窒素 40 kg を全面に施用し深耕する。乾いた圃場は、耕起前に全面灌水し水分を確保する。																		
	■播種量 コート種子 大型トンネル：10a 当たり 30,000~40,000 粒 （1穴1粒） ミニハウス：10a 当たり 40,000~60,000 粒 ■栽植密度 大型トンネル 畦幅 310 cm 10 条 株間 7~9 cm ミニパイプハウス 畦幅 400 cm 15~18 条 株間 7~9 cm 注) 早穫りは粗に、遅穫りは密にする。土壌水分が少なく乾燥気味の時は鎮圧を強くする。																		
施肥量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施 肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 肥</td> <td>18</td> <td>22~28</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>18</td> <td>22~28</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>				施 肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基 肥	18	22~28	22	合 計	18	22~28	22
	施 肥	施肥成分量(kg/10a)																	
N		P ₂ O ₅	K ₂ O																
基 肥	18	22~28	22																
合 計	18	22~28	22																
	苦土石灰 100 kg（10a 当たり）を施し、堆肥は完熟堆肥を施用する。なお、石灰窒素、鶏糞を使用する場合は、播種 1 カ月以上前までに施し、よく土になじませておく。播種直前の施用は、発芽障害をおこす。																		

管 理	【換気モデル】														
	10月			11月			12月	1月	2月		3月		4月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	換気量(トンネル表面積に対する換気孔面積率) 大 型 ト ン ネ ル：1間隔（60cm）に8cmの穴1個で0.28%、10cmの穴1個で0.43%、12cmの穴1個で0.63% ミニパイプハウス：1間隔（100cm）に8cmの穴1個で0.10%、10cmの穴1個で0.15%、12cmの穴1個で0.23%														
	早まき栽培での穴換気で1月中旬までに換気始める場合は、ごく少ない換気量（トンネル 10m に直径 8 cm の穴では 8 個以内、直径 12 cm の穴では 5 個）とする。適期換気は菌核病等の発病を抑えるので換気が遅れないように注意する。														
	生育初期に乾燥すると生育が悪く、裂根の原因になるので晴天日に灌水する（土寄せ期まで）。														
灌 水	【洋にんじんの裂根対策】 裂根の原因は、乾燥が続いたのち、急に多量の水分を吸収したときとか、肥料切れのあと急に多量の窒素が吸収された時、また収穫が遅れて過熟になった時などに起こる。特にトンネル被覆期間中の土壌水分管理の不適正が一大原因である。過乾、多湿にならないようにすると共に多肥をさげ、有機質肥料などの緩効性肥料を使用する。														
		収 穫 M、L 級を中心に適期収穫する。 収量目標 4,000~5,000 kg													



さやえんどう (秋まき)

主要作業	作業の内容等			
作型と 品 種	作 型	は 種 期	収 穫 期	品 種
	露 地	10/下~11/上	4/中~5/上	ニムラ平成1号
	<p>(ニムラ平成1号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤花2号より草勢強くさらに収量性が高い。 ・低節位から着莢し、莢は初期から上物率が高く、長期間なり続ける。分枝はほとんど見られず、主茎中心のため、密植で多収となる。 ・莢幅 1.8 cm、長さ 8 cmが収穫適期である。莢揃いが良く、曲がりのない莢で甘みがある。 			
土地の 選 定	<p>排水良好な砂壤土。冬に風の少ないところ。 水田では4年、畑では5年以上栽培を行っていない土地。 酸性に弱いので注意する。</p>			
播 種	<p>■播種準備 実えんどうと同様、土壌酸度矯正。 ・早まきすると寒害を受けやすくなるので、適期に播種する。 ・欠株補植用は、ポリ鉢などに早めにまいておき、移植する。</p> <p>■栽植密度及び種子量 畦幅 130~140 cm 株間 30 cm 1条まき 1穴2粒 (種子量 2¹/₂kg/10a) 株間 15 cm 1条まき 1穴1粒 (種子量 2¹/₂kg/10a)</p>			

施 肥	施肥成分量(kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	3	10	8
追 肥	7	—	7
合 計	10	10	15

施肥量

- ・堆肥 1,000 kg、苦土石灰 120~160 kg施用。
- ・追肥は3回に分施。2月末に花が咲き始めてから行う。
- ・樹勢低下時には尿素（水 10¹/₂に 20g）、又は葉面散布剤を 2~3 回散布すると草勢維持の効果がある。

管 理

厳寒期前に株元にササを立てるなどして防寒に努める。
根は湿害に弱いので排水をよくする。
株元への土寄せは茎腐れを助長することがあるので、乾いた土を軽く土寄せする。

収 穫

目標収量 800 kg



さやえんどう (夏まき)

主要作業	作業の内容等			
作型と品種	作型	は種期	収穫期	品種
	露地	8月20日頃	10/上~12/下	ニムラ平成1号
	ハウス	9月10日頃	10月~4月	美笹
土地の選定	排水のよい土壌で、台風時に浸冠水のない圃場。 水田では4年、畑では5年以上栽培を行っていない土地。			
播種	<p>■播種準備 実えんどうと同様、土壌酸度矯正を行う。</p> <p>■播種期 露地の播種は8月20日頃からとなり、高温時の播種になるので、マルチ、切りわら等により地温を下げ、適温(18~20℃)にして発芽促進に努める。</p> <p>■栽植密度及び種子量 畦幅130~140cm、株間10cm、1条まき、1穴2粒 種子量は10a当たり3㍓ 播種後3cm程度の覆土をする。播種後の畦間灌水はしない。</p>			
施肥量	<p>さやえんどう(秋まき)に準じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追肥は1回の施用量をN成分で3kg/10aまでとし、収穫初期から生育に応じて適宜施用する。 美笹は吸肥性が強いので、基肥を過剰施用しない。 			
露地栽培の管理	<p>■仮支柱 草丈15~20cm時に30~50cm前後の小枝のある笹竹で両側から株をはさむように立てる。(頂芽のわきから巻ひげがでる頃)</p> <p>■本支柱 草丈30~40cm前後に仮支柱いっぱい伸びた頃、本支柱を立ててネットを張る。</p> <p>■排水 根は湿害に弱いので特に注意する。</p>			

ハウス栽培の管理	<p>■誘引 小さい時から積極的に行い、つるが土につかないようにする。つるは支柱から離れると、もとに戻らないので早めに誘引を行う。</p> <p>■整枝 1回目を9月下~10月上旬に行う。 2回目以降は、下節位、上節位の側枝を早めに全部除去する。 ビニール被覆後、節間が伸び始めたら早めに第1回のつる下げを行う。</p> <p>■灌水 開花期以降は特に乾燥に弱いので灌水に注意する。低温時の灌水は午前中に行う。 敷わらを畦間に敷き、土壌の乾湿差を少なくすると共に根を保護する。乾燥がひどくなると根傷みを起こす。 ・台風対策：防風ネットを張る(支柱パイプ)。台風後は排水を速やかに行う。 ・つる下げにあたっての注意： やや若いさやも収穫しておく。灌水をやめて水を切る。つるを持ち、斜め下に引っ張る(極端なつる下げはしない)。つる下げ後、追肥と灌水を行う。</p> <p>■ビニール等の被覆 ハウスビニールの被覆時期は11月上旬頃。被覆直後は軟弱徒長になりやすいので換気は十分に行う。</p> <p>■温度管理 昼間は20℃以下、夜間は5℃以上とする。生育適温は10~20℃である。</p>
	<p>収穫</p> <p>収量目標 800kg(露地)~2,000kg(ハウス)</p>



だいこん（青果用）

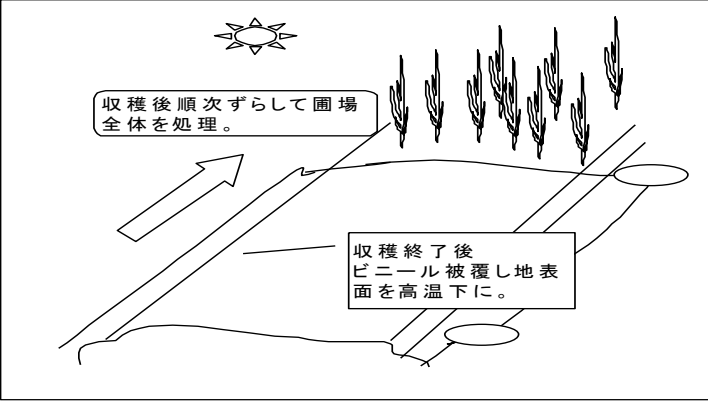
主要作業	作業の内容等						
作型と 品種	作型	は種期	収穫期	品種			
	秋冬どり	9月10日～9月20日	11月中旬～12月中旬	福誉、T-449			
		9月20日～9月30日	12月～1月	徳島7号、冬だより			
		10月1日～10月10日	1月～2月上旬	冬だより、冬美人			
		10月10日～10月20日	2月	冬美人、T-424、青さかり			
マルチ冬どり	10月5日～10月20日	2月下旬～3月	初誉、春美人				
	<ul style="list-style-type: none"> ・播種期を計画的に組み合わせ、出荷期間を延長する。 ・品種によっては、ス入りになりやすいので、以下の点に注意する。 <ol style="list-style-type: none"> ①M・Lを中心に適期収穫を厳守する。 ②乾燥しすぎないように土壤水分を適湿に保つ。 ③肥料の施用過多、遅効きを避ける。 ④ス入りの出にくい品種よりも栽植本数を多くし、後半の急速な肥大を抑制する。 						
土地の 選定	<p>土質は膨軟度層の深い沖積砂壤土が適する。最適 pH は、6.5 前後である。完熟堆肥を 10 a 当たり 1000 kg 程度施用する。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">サメハダの予防</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">塩類濃度障害 亀裂・表皮黒変</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">ホウ素欠乏 表皮コルク化</td> </tr> </table>				サメハダの予防	塩類濃度障害 亀裂・表皮黒変	ホウ素欠乏 表皮コルク化
サメハダの予防	塩類濃度障害 亀裂・表皮黒変	ホウ素欠乏 表皮コルク化					

播種	<p>■準備 基肥施用後耕うん、整地する。播種は多すぎないこと。シーダーテープの利用も便利。</p> <p>■播種量 点ば 一条播 0.6～0.8 畝^{10a} 一穴 2～3 粒まき。 二条播 0.8～1.2 畝^{10a}</p> <p>覆土は、1～1.5 cm 行う。 一条まきは生育の揃いが良く、特に生育不良畑では品質がよくなる。</p> <p>■栽植密度 一条播き 畦幅 65 cm 株間 16～20 cm 二条播き 畦幅 100 cm 株間 20～25 cm</p>																						
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4～5回に分施</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>19</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>基肥がまき溝にかたよると岐根の原因となる。 追肥は生育に応じて 3～4 回に分施する。 遅れると根の肥大に効果は少ない。 砂地畑地帯の場合は B（ホウ素）、Mn（マンガン）などの微量元素を施用する。</p>	施肥	施肥成分量(kg/10a)			備考	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基肥	9	9	9		追肥	15	15	10	4～5回に分施	合計	24	24	19
施肥	施肥成分量(kg/10a)			備考																			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																				
基肥	9	9	9																				
追肥	15	15	10	4～5回に分施																			
合計	24	24	19																				
管理	間引きは、本葉 6～7 枚時に、ていねいに行う。間引きを十分するほど品質・収量ともよくなる。間引きは時期を逸しないよう早目に行う。生育不良株、病害虫におかされているもの、葉色の濃いものを除く。																						
収穫	収量目標 7,000 kg																						



ねぎ

主要作業	作業の内容等																
作型と品種	■直播 <table border="1"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>は種期</th> <th>収穫期</th> <th>品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>春まき</td> <td>3/中～5/下</td> <td>6～10</td> <td>小春</td> </tr> <tr> <td>夏まき</td> <td>6/上～7/中</td> <td>10～12</td> <td>渭東10号</td> </tr> <tr> <td>秋まき</td> <td>9/上～10/中</td> <td>12～5</td> <td>TN111</td> </tr> </tbody> </table>	作型	は種期	収穫期	品種	春まき	3/中～5/下	6～10	小春	夏まき	6/上～7/中	10～12	渭東10号	秋まき	9/上～10/中	12～5	TN111
	作型	は種期	収穫期	品種													
春まき	3/中～5/下	6～10	小春														
夏まき	6/上～7/中	10～12	渭東10号														
秋まき	9/上～10/中	12～5	TN111														
	■移植栽培 <table border="1"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>は種期</th> <th>定植期</th> <th>収穫期</th> <th>品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秋まき</td> <td>9/上～10/中</td> <td>11/上～2/下</td> <td>1/中～5</td> <td>TN111</td> </tr> </tbody> </table>	作型	は種期	定植期	収穫期	品種	秋まき	9/上～10/中	11/上～2/下	1/中～5	TN111						
作型	は種期	定植期	収穫期	品種													
秋まき	9/上～10/中	11/上～2/下	1/中～5	TN111													
土地の選定	排水、保水性のよい肥沃な砂壤土。																
直播	■播種準備 完熟堆肥、石灰を播種1か月前に施用耕うんする。土壤消毒を実施する。15日前に基肥を施用し、2～3回耕うんし、平床または畦立てをする。																
	■播種 むらなくうすめに条播する。 播種後カンレイシャ、またはもみがらくん炭等を被覆し十分灌水する。10a当たり播種量2～30、発芽率に応じ、播種量を加減する。 収穫調整労力に応じ、播種面積を決める。 発芽適温は20℃前後で冬期はビニールトンネルで保温する。																
	■栽植密度 畦幅 150～180 cm 条間 15 cm 5条植																
移植栽培	■育苗床 播種半月前に10a当たり苦土石灰100kg、完熟堆肥1.5～2t、化成肥料を施し土とよく混和する。床幅1.5mの畦を作る。 本ぼ10a当り種床面積40㎡。播種量2～30。																
	■セルトレイ 本ぼ10a当り播種量10□をセルトレイ(200穴)約120枚にむらなく散ばする。セルトレイ3mmの厚さに覆土する。																

移植栽培	■管理 灌水に注意する。害虫に注意する。																			
	■準備 完熟堆肥、石灰を定植1か月前に施用耕うんする。土壤消毒を実施する。15日前に基肥に施用し、2～3回耕うんし、平床または畦立てをする。																			
	■栽植密度 畦幅 1.8m 株間 15 cm 5条植																			
	■定植 草丈10～15cm位の大きさに定植する。1か所10～16本植付け、十分灌水する。																			
施肥量	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30</td> <td>15</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>堆肥は1.5t～2tを早めに施す。基肥は全層に施す。追肥は3～4回に分ける。</p>	施肥	施肥成分量(kg/10a)			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	基肥	15	15	15	追肥	15	—	20	合計	30	15	35
施肥	施肥成分量(kg/10a)																			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O																	
基肥	15	15	15																	
追肥	15	—	20																	
合計	30	15	35																	
管理	乾燥すると生育が悪いので灌水に注意する。																			
収穫	収量目標 2,500～3,000 kg (春まきの夏穫りは 1,500 kg)																			
備考	■難防除害虫(ネギハモグリバエ)の耕種的防除「簡易太陽熱土壌高温処理法」  <p>温の高い6～8月に収穫終了畦をビニール被覆し地表面付近を2時間以上48℃以上の高温下におく。その後、順次、収穫終了畦に被覆をずらし、圃場全体を処理する。 ネギハモグリバエ蛹は、2時間高温下で経過するとほとんど死滅し次作の被害が軽減できる。</p>																			



細ねぎ (雨よけ、ハウス栽培)


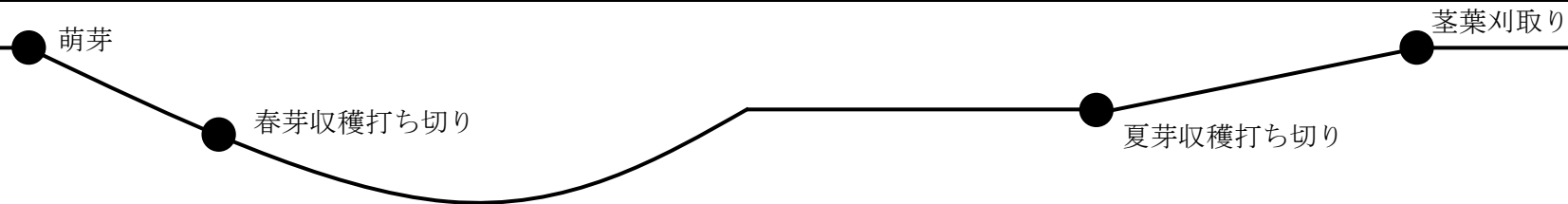
主要作業	作業の内容等			
作型と品 種	作 型	植 付 期	収 穫 期	品 種
	夏 ど り	3/上～6/中	6/上～9/下	TN23、NSS15号、 ストレート、 夏ねぎ1号、2号
	秋 ど り	7/中～8/中	9/中～11/下	
	冬 ど り	9/上～10/上	11/中～3/下	NSS10号、 TN111、 大黒宝
	春 ど り	11/上～2/中	3/上～5/下	
<p>収穫調整の労力に合わせて播種期をずらしてまく。(2～3a/人) 年間2～3作程度。有機質肥料を多用し、地力の向上をはかると共に深耕し、土づくりを行う。</p>				
土地の選 定	肥沃な排水性の良い砂壤土			
播 種	<p>■播種準備 完熟堆肥、石灰を播種1か月前に施用耕うんする。 15日前に基肥を施用し、2～3回耕うんし、平床または畦立てをする。 十分に灌水し土壌水分を保持する。</p> <p>■播種 むらなくうすめに条播する。 播種後カンレイシャ、またはもみがらくん炭等を被覆し十分灌水する。 10a当たり播種量40発芽率に応じ、播種量を加減する。 収穫調整労力に応じ、播種面積を決める。 1回面積 200～250㎡、10～15日毎 発芽適温は20℃前後で、夏期高温の場合は敷わらやもみがら等で地温を低下させる。</p> <p>■栽植密度 畦幅 180cm 条間 10～15cm 10～16条</p>			

施肥量	施 肥	施肥成分量(kg/10a)		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
	基 肥	20	15	25
	追 肥	5	—	5
	合 計	25	15	30
<p>肥料は有機質肥料を主体とし塩類濃度が高くなるよう注意する。 栽培期間が短いので基肥主体とし、追肥は主として冬春穫りに使用する。 連作を続ける場合、土壌分析を行い、その結果から施肥量を決める。</p>				
管 理	<p>■カンレイシャ除去 発芽始めの頃、カンレイシャを除去する。 夏期 7～10日 冬期 12～15日</p> <p>■間引き 草丈6～7cmの頃 1～1.5cmに間引く。</p> <p>■灌水 生育初期は毎日または2～3日毎に行い、生育が進むにつれ灌水間隔を長くする。 収穫10日前頃からは打切る。 草丈10～20cmまで十分灌水し、すなおに伸ばす。その後は灌水量を減らし草丈25～30cm以降はさらに灌水量を少なくしながら仕上げていく。しおれるようであれば葉水をやる程度とし、しめ作りする。急激に水を切った場合、葉先枯れをおこすことがある。草丈30cm以降から、雨水を入れないよう注意する。 水分過多は、葉色が淡く、葉がやわらかく品質が低下する。 ベッドの周囲は乾燥しやすく、発芽や生育が遅れる場合があるので灌水に注意し生育を揃える。</p>			
	収 穫	<p>収量目標 4,000～5,000kg (2～3作) [夏場：1,000kg(1作)、冬場：2,000kg (1作)]</p>		

アスパラガス (ハウス・露地)

【1年目】

○ ハウス ● 露地 ○ 播種 ⊙ 定植 △ 追肥 ↑ 立茎 □ 収穫

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培歴	ハウス		○	⊙			△						
	露地			●	⊙		△						
生育ステージ		<p style="text-align: center;">← 立茎・株養成期 (3月～10月) 黄変期 (10月～11月) 休眠期 (11月～12月) →</p> 											
	地下部の養分変化												
月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

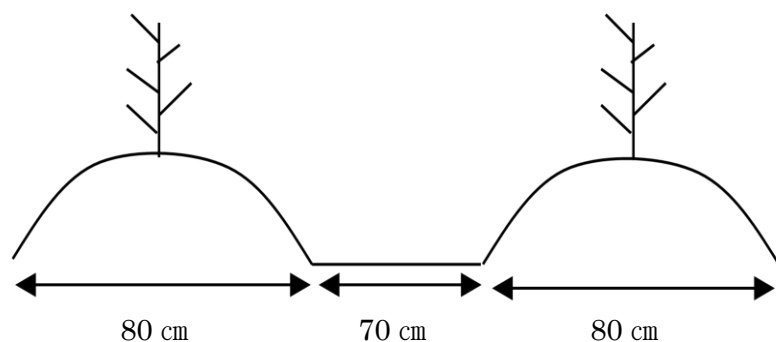
品種	ウェルカム (サカタ 早生品種)	
本圃準備	深耕	深耕・心土粉碎により作土層の改良をはかる。
	定植準備	完熟堆肥、もみがら及び苦土石灰は1ヶ月前までに施用する。1週間前までに畦立て(畦幅150~180cm)、定植数日前にたっぷり灌水。灌水チューブは1畦1本、中央に配置する。
土づくり資材	地力の維持増進をはかるため、完熟堆肥及び土壌改良剤を施す。堆肥10t、もみがら10m ³ 、石灰質資材を投入し、深さ40cm耕うんする。定植前に有機化成を施用する。	
育苗	種子は1週間前から水につけておく。10~15cmの容器に鹿沼土細粒を敷き、ばらまきに播種する。9cmポットに用土を敷き、移植する。基肥7化 ² -化成。	

施肥例	1年目 (kg/10a)											
	肥料名	総量	基肥	追肥					冬肥	成分量		
				6月	7月	8月	9月	10月		11月	窒素N	リン酸 P ₂ O ₅
苦土石灰	250	150	30						70			
有機化成 (8-10-5)	220	120	20	20	20	20	20	20		17.6	22	11
液肥トミブラック (10-4-6)	50		10	10	10	10	10	10		5	2	3
合計										22.6	24	14

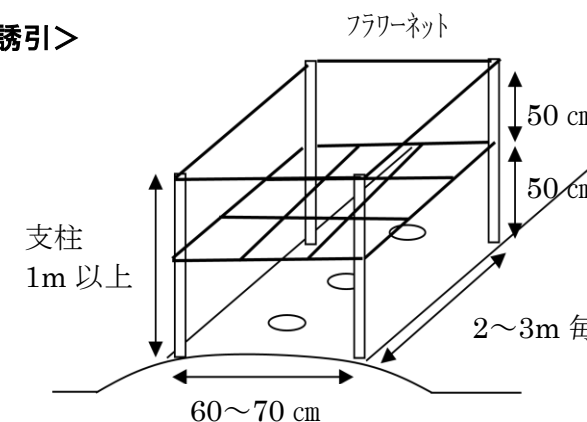
本圃の管理	定植	立茎 3~5本になったら、晴天日に 2~3cm の深さで植える。 定植後は株元手灌水とするとともに、昼夜とも低めの湿度管理をおこなう。
	追肥・灌水	定植 1年目の追肥は様子を見ながらおこない、冬期の葉茎刈取り後に畦間へ堆肥 2t ともみがら 3 m ³ を施用する。 春期の萌芽前 (2月) に畦間堆肥を中耕寄せ上げし、畦間いっばいに灌水を施す。 立茎後は石灰質資材を散布し、茎を硬化させて病害抵抗性強化、品質向上につなげる。 灌水は、生育初期は株元に近い部分に少量多回数おこない、株の年生が進むにつれ多量少回数おこなう。
	温湿度管理	温度は、低温に比べ高温のほうが茎葉の生育は旺盛になるが、28℃を超えるころから頭部が早く開き品質が劣る。 夜間は 6℃以上で凍害を防ぐ。湿度は、低めに調整する。(乾燥に強く、湿害に弱い作物である。)
	立茎	120~130cm で摘心し、上部 15 節を残して下葉をかぐ。
	刈取り	冬期に葉茎を刈り取った後、株をバーナーで焼き、殺菌する。

土 壌 条 件			
土質	埴壤~砂壤土		
有効土質	50cm 以上深いほど良い		
pH	6.5~7.5		
腐植	5%以上		
酸素要求量	大きい		
pF	1.8~2.0		
温 度 条 件			
区分	低温限界	適温	高温限界
発芽	5℃	25~30℃	
生育	5℃	25~30℃	40℃

<栽植密度>







<支柱誘引>



アスパラガス (ハウス・露地)

【2年目以降】

○ ハウス ● 露地 ○ 播種 ⊙ 定植 △ 追肥 ↑ 立茎 □ 収穫

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培歴 (ハウス)	2年目		□ △ ↑				□ △	△	△	△	△		
	3年目以降		□	△ ↑ □			□ △	△	△	△	△		
栽培歴 (露地)	2年目			□ △ ↑			□ △	△	△	△	△		
	3年目以降			□ △ ↑	□ △ ↑		□ △	△	△	△	△		
生育ステージ		休眠期		春芽収穫期		立茎・移行期		夏芽収穫期		株養成期		黄変期	休眠期
生育ステージ													
地下部の養分変化				● 萌芽	● 春芽収穫打ち切り					● 夏芽収穫打ち切り	● 茎葉刈取り		
病害虫の発生時期				アブラムシ		アザミウマ類		ハスモンヨトウ・オオタバコガ					
病害虫の発生時期				茎枯病				茎枯病					
病害虫の発生時期				斑点病				斑点病					
月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

施肥例	2年目 (kg/10a) 生産量 kg/10a の場合											
	肥料名	総量	基肥	追肥					冬肥	成分量		
				6月	7月	8月	9月	10月		窒素N	リン酸 P ₂ O ₅	カリ K ₂ O
苦土石灰	140	70							70			
有機化成 (8-10-5)	220	20	40	40	40	40	20	20	17.6	22	11	
液肥トミブラク (10-4-6)	50		10	10	10	10	10		5	2	3	
合計									22.6	24	14	

本圃の管理	定植	立茎 3~5 本になったら、晴天日に深植えする。 定植後は株元手灌水をするとともに、昼夜とも低めの湿度管理をおこなう。
	追肥・灌水	2年目以降の追肥は生産量 100kg につき肥料 N1.6kg/10a を施肥する。液肥は薄めで頻回に施用する。 立茎後は石灰質資材を散布し、茎を硬化させて病害抵抗性強化、品質向上につなげる。 冬期の葉茎刈取り後に畦間へ堆肥 3t ともみがら 3 m ³ を施用する。 春期の萌芽前 (2月) に畦間堆肥を中耕寄せ上げし、畦間いっぱい灌水を施す。 灌水は、生育初期は株元に近い部分に少量多回数おこない、株の年生が進むにつれ多量少回数おこなう。
	温湿度管理	温度は、低温に比べ高温のほうが茎葉の生育は旺盛になるが、28℃を超えるころから頭部が早く開き品質が劣る。 夜間は 6℃以上で凍害を防ぐ。 湿度は、低めに調整する。(乾燥に強く、湿害に弱い作物である。)
	立茎	成茎は、日数をかけて穂先のしまった歪みのない素性の良いものを外へ外へ選んでいく。 株と株の区別がつく時は、株あたり 3~5 本、間隔を置いて選ぶ。 株の区別がつかない時は、8~12 本/m ² で間隔をおいて選ぶ。 120~130cm で摘心し、上部 15 節を残して下葉をかぐ。
	刈取り	冬期に葉茎を刈り取った後、株をバーナーで焼き、殺菌する。



いちご (促成)

[阿波ベジ総選挙 果物部門 第1位]



主要作業	作業の内容等									
	作型	親株付	トンネル G A 処理	ランナー 鉢受け	花芽 分化 促進	定植期	ビニール 被覆 マルチ	収穫期	品 種	
促成	普通 ポット	10/中	3/上	5/下	8/中	9/15	10/20	12/中	さちのか	
		11/中	4/上	6/中		9/25	11/5	5/下		
超促成	夜冷 株冷 山上げ	10/中	3/上	5/中	8/10	9/1	10/10	11/中	さちのか	
		11/中	4/上	6/上	9/10	9/10	10/25	5/下		

作型と 品 種	栽培上の注意点
	<ol style="list-style-type: none"> 親株は無病の専用親株を用い、植付けは11月または3月に行う。 炭そ病の蔓延を防止するため無病の株による雨よけ育苗を行う。 健全苗を育成し、作型に合わせた花芽分化処理を確実に行う。 炭そ病、うどんこ病、ハダニ等は、早期より定期的に防除する。 堆肥、稲わらの投入と太陽熱処理により地力向上と病害防除に努める。 活着・発根促進のため適期定植に努め、適切な灌水管理を行う。 適正な温度、湿度、灌水管理により高品質果実生産に努める。 適切なえき芽整理を行うとともに、草勢に見合った摘果を徹底する。 草勢維持には、電照と温度管理が重要である。 適期収穫と予冷库の活用で、鮮度保持に努める。

親株養成	親株の定植
	<ul style="list-style-type: none"> 1a 当たり苦土石灰 10kg、堆肥 200kg およびCDU化成等の緩効性肥料 10kg を施用する。 萎黄病発生の恐れのある圃場は土壌消毒を行う。
	親株定植準備
	<ul style="list-style-type: none"> 本圃 10a 当たりに必要な親株数は 400 株。黒マルチをして定植する。 1 株から約 20 本採苗する。(例 畦幅 180cm 株間 50cm)
	親株床の土壌消毒
	<p>10月に所定量の薬剤を土壌混和し、ビニールで被覆する。</p> <p>親株定植3週間前にビニールを除去し2回ほど耕うんして十分にガスを抜き、肥料等を施用して親株を定植する。</p>

親株養成

温度が低い(10℃以下)と効果が劣り薬害の恐れもあるので、秋期に処理をする。
 土壌水分によりガス化するので処理時は適正な水分を保つこと。
 親株定植前にだいこん、小松菜等の種子で発芽テストをしてから定植することが望ましい。

■親株の管理

- ランナー発生前に親株床全面に有孔シルバーマルチをする。
- 花蕾、下葉は早めに取り除く。
- 親株やランナーの充実を図るために液肥(500倍)を行う。
- 乾燥に注意し、灌水する。
- 炭そ病の予防を行う。
- 1番苗の活着後、うどんこ病対策のため親株の葉を整理する。

■鉢土準備

定植には、10a 当たり 7,000~8,000 株の苗を準備する。鉢には排水性を重視した培養土を用いる。またポット内の土壌水分を確保しておく。

■ポット受け

- 5月下旬~6月中旬
- 生育旺盛な1番苗は、マルチに穴をあけ畦に根付かせ、鉢受けは2~3番苗を利用する。
- 最終鉢受けした苗が活着後、親株からランナーを切り離す。
- ポットは育苗シートに上げる。寒冷紗を使用し萎凋を防ぐ。

■挿し芽育苗(鉢上げ)

- 挿し芽用の子苗の大きさは、本葉1.5~3枚程度のものを用いる。
- 親株から採苗した子苗は、しおれないようにいったん水に浸ける。
- 採苗後すぐに挿し芽をできない場合は、冷蔵庫で一時保管する。
- 挿し芽後10~14日間は50%の遮光資材を雨よけビニールの上に被覆する。
- 挿し芽後~活着までの頭上散水は、1回当たり3分、1日に8~10回行う。



育苗管理

■水差し育苗

- ・親株として使用する場合は、定植株でビニール被覆後に発生するランナーを用いる。秋から冬に発生する正常な果形で健全な株から選ぶ。
- ・ランナーは子苗（本葉2～3枚程度）の発根準備をしているものを利用する。
- ・束ねたランナー基部をカッターで切断する。切り口が空洞になっているものは切り直す。
- ・ランナーの束を、水の入ったカップに挿す。
- ・ポットは十分に湿らせておく。
- ・子苗は、ランナーピンでしっかり押さえる。太いランナーは浮き上がるので注意する。
- ・カップの水の減りが止まるまで、毎日新しい水を補給する。
- ・根がポットの底部まで達し根量が確保できれば、ランナーを切り離す。



■炭そ病の生態

生育適温 28～30℃ 最低7℃ 最高35℃

伝染 潜在感染株と罹病残さを含む土壌が第一次伝染源となる。
潜在感染株は托葉や冠部の一部に保菌して越冬する。
高温、多湿条件で病斑上に多量の分生子を形成し、雨水によって飛散して二次伝染する。

■炭そ病防除のポイント

- 育苗床に炭そ病を持ち込まない。
- ・前年に炭そ病が発病した株を親株としない。
 - ・親株からの予防を行う。
 - ・炭そ病菌が潜む株を見つける。
 - ・土からの侵入を防ぐ（高設式育苗、土耕でのマルチ）。

育苗管理

育苗床で炭そ病を発病させない、広げさせない。

- ・過度な施肥を行わない、過密にしない。
- ・雨よけ施設を使用する。
- ・予防的な薬剤散布を行う。
- ・灌水量、方法に注意する。
- ・株冷、夜冷、山上げ処理を行う前に炭そ病の調査を行う（過密状態・多湿で蔓延）
- ・コンテナ詰め時の摘葉は絶対に行わない。

※無病親株の確保＋雨よけ＋底面・株元灌水＋適切な薬剤防除

■追肥、株の充実

- ・置肥または液肥で施用する。置肥は鉢土に差し込むようにする。肥効は約30～45日程度。肥効期間は肥料の種類および灌水方法によって異なるので注意する。液肥の場合は5～7日おきに株当たり50～100ml施用する。
- ・最終追肥は、普通ポットは8月10日までに終わらせる。株冷・夜冷の窒素の追肥は、入庫予定の15～20日前までに終わらせる。
- ・窒素以外は欠乏しないように随時施用。
- ・摘葉は、8月中旬までとし古葉・病葉を除く。本葉4枚程度にする。

■花芽分化促進準備

- ・葉色に応じ窒素のない液肥を散布する。（1～3回）
- ・適正な水管理で過湿、過乾にしない。
- ・葉柄中硝酸態窒素濃度を100～150ppm程度に下げしておく。

■花芽分化促進

処理前に炭そ病、うどんこ病等の病虫害防除を行う。炭そ病対策のために入庫直前の摘葉は絶対にしない。

<株冷処理（暗黒低温処理）>

- ・本葉4～5枚にする。クラウンの直径は1cm程度。
- ・冷蔵庫 温度12→17℃（入庫2～3日間は12℃、その後17℃に設定する）湿度80～95%
- ・個人の場合、朝1回空気の入れ換えを行う。
- ・入庫前に灌水が多いと根腐れして活着不良となり、乾燥して葉が萎れると分化がばらつくので注意する。
- ・花芽分化を安定させるため、入庫後10日目と出庫5日前頃に苗を冷蔵庫から出して、昼間軒下の日陰に置いて苗の消耗を回避する。（陽光処理）

育苗管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入庫日は8月28日前後で、入庫期間15日程度（9月15日前後出庫分） <p><夜冷処理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本葉3枚に下葉を除去し夜冷処理を行う。 ・ 夜冷温度 12℃～14℃ ・ 夜冷時刻 16～8時 ・ 搬出時刻 8～16時 ・ 処理期間 20日間 ・ 過湿、過乾に注意する。
-------------	--

定植準備	<p>■太陽熱消毒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堆肥3tまたは稲わら2t、石灰窒素100kgを施用し、太陽熱消毒を行う。また除塩のための湛水処理を行う。 ・ 稲わら、青刈作物、堆肥等は早めにすき込み、地力増強を図る。 <p>■肥料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥</th> <th colspan="3">施肥成分量(kg/10a)</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> <th>堆肥</th> <th>苦土石灰</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>3,000</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>34</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>3,000</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基肥は、定植7～10日前に施用し耕うんする。 ・ 畦を作り古ビニールを張り、雨天対策とする。 ・ 土壌診断を行い、施用量を調整する。基肥のN成分は18kg以内とし、追肥により調整する。 ・ 初期追肥は、活着後とマルチ前に必要に応じて施す。 ・ その後の追肥は、頂果が肥大し、白熟しかける前頃から液肥などを草勢に応じ施用する。 ・ 1回の施肥量はN成分で10a当たり1kgまでとする。 	施肥	施肥成分量(kg/10a)			備考		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	苦土石灰	基肥	17	16	10	3,000	100	追肥	17	6	15	—	—	合計	34	22	25	3,000	100
	施肥		施肥成分量(kg/10a)			備考																								
N		P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	苦土石灰																									
基肥	17	16	10	3,000	100																									
追肥	17	6	15	—	—																									
合計	34	22	25	3,000	100																									

定植	<p>■花芽確認</p> <p>花芽分化を必ず確認後定植する。</p> <p>■植付および栽植密度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畦幅120cm 株間23～25cm 10a 7,200～6,600株 斜めの浅植。
-----------	---

定植	<ul style="list-style-type: none"> ・ 揃った健苗を選び、異状株・病株は捨てる。 ・ 株冷苗は萎れ防止と活着促進のため遮光して定植する。 ・ 花房の出る方向を揃え、根は深く、株元は浅く、心葉に土をかけないようにする。また、根を乾かさないように注意する。 ・ 植付から2週間は手掛けによる少量多回灌水とし、葉上より散水を行うことにより、活着・新根発生を促す。
-----------	---

管理	<p>■マルチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マルチは10月中旬、古葉除去後風のない日を選んで行うが、ビニール被覆後に行うのもよい。灌水チューブはマルチ前に設置しておく。 ・ 花梗は折れやすいので注意。10～15日間は畦肩部まで上げておく。 <p>■ハウス被覆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハウスのビニール被覆は腋花房分化を確認し、分化後～開始はじめの頃（10月25日～11月5日）に行う。 ・ 被覆後7～10日間はサイドや谷を夜でも開けておく。 ・ 二重被覆はハウス内最低温度が6℃以下になる頃に行う。暖房機も早めに準備しておく。 <p>■温度管理</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>～出蕾期</td> <td>昼温</td> <td>25～28℃</td> <td>夜温</td> <td>10～12℃</td> </tr> <tr> <td>～開花期</td> <td>〃</td> <td>25℃</td> <td>〃</td> <td>9～10℃</td> </tr> <tr> <td>～1番果房肥大</td> <td>〃</td> <td>23～25℃</td> <td>〃</td> <td>7～8℃</td> </tr> <tr> <td>1番果成熟期～</td> <td>〃</td> <td>20～23℃</td> <td>〃</td> <td>5～6℃</td> </tr> </table> <p>■摘果、摘芽整理、摘葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1果房は草勢に応じて10果以下にする。第2果房以降は枝花摘果をする。 ・ 頂果房両側に腋芽を2芽残し、それ以外の腋芽は早めに除去する。 ・ 古葉は取り除く。（地面に付着し、黄化したものなど） <p>■電照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電照開始時期は、気候、株の状態によって前後するが、11月10日～20日頃となる。 ・ 間欠型で10～15分（草勢によって調節する。弱い時は長くする）。 ・ 深夜料金を利用する場合は、23時から2～5時間電照を行う。 <p>■灌水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気のよい日の午前中に行う。 ・ 果実の肥大期以降は、特に灌水に注意し、乾燥させないように努める。 	～出蕾期	昼温	25～28℃	夜温	10～12℃	～開花期	〃	25℃	〃	9～10℃	～1番果房肥大	〃	23～25℃	〃	7～8℃	1番果成熟期～	〃	20～23℃	〃	5～6℃
	～出蕾期	昼温	25～28℃	夜温	10～12℃																
～開花期	〃	25℃	〃	9～10℃																	
～1番果房肥大	〃	23～25℃	〃	7～8℃																	
1番果成熟期～	〃	20～23℃	〃	5～6℃																	

管理	■病虫害防除 炭そ病、うどんこ病、ハダニ、アブラムシを防除する。 ・うどんこ病：活着後よりビニール被覆前までに徹底防除に努める。 ・ハダニ：マルチ後の乾燥に注意する。 ・スリップス：ハウス周辺の除草を徹底し、ハウスのサイドを防虫ネットで被覆して侵入を防ぐ。
収穫	収量目標 4,000～5,000 kg

いちごに潜む炭そ病の簡単な調査法

いちごの炭そ病は、葉や葉柄の病斑、株の萎凋（いちょう）・枯死が見られなくても、病原菌が潜んでいる場合があります。

病気の出ている親株や苗を使っているのに、曇雨天が続くと突然、炭そ病が発生する場合がありますが、このような炭そ病菌が潜んでいる親株や苗が発生原因になっている可能性があります。

この調査法では、いちごに潜んでいる炭そ病を調べることができます。

ご自分で簡単に行えますので、ぜひ試してみてください。

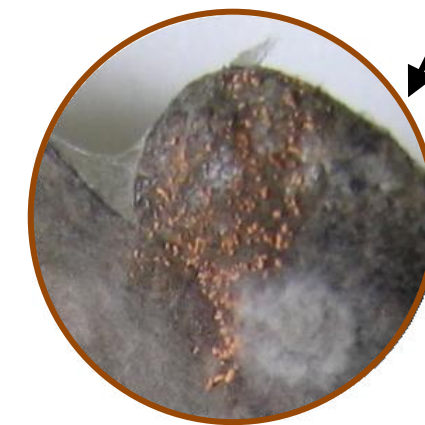
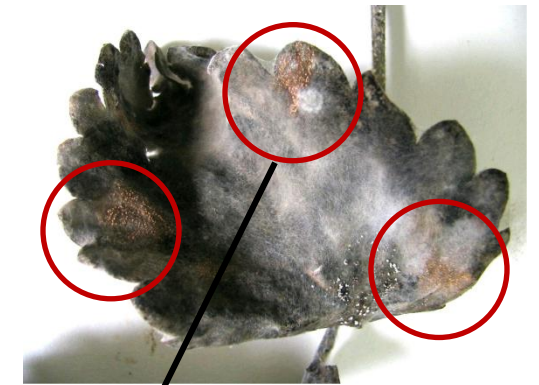
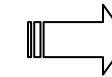
※用意するもの ビニール袋 輪ゴム ティッシュ（新聞紙）

※調査方法

- ① 検定する区画ごとに3株を選び、株ごとにイチゴの葉を株の外側から1枚（計3枚）とる。
- ↓
- ② 水道水でゴミ等を洗い流す。（水道水に含まれる塩素で葉表面の殺菌もできる）
- ↓
- ③ 水15ml（ペットボトルのキャップ2杯）とティッシュ（4枚「2組」程度）を入れたビニール袋にいちごの葉3枚を入れ輪ゴムで口を結ぶ。
- ↓
- ④ 気温が28℃以上になる室内に12～16日間放置。（直射日光は避ける。28℃に設定できる恒温機があればより良い）
- ↓
- ⑤ 鮭肉色（サーモンピンク）の孢子塊の有無を肉眼で確認する。



約2週間後



拡大

※この調査が最も有効な場面

親株として使う株を調査することで、育苗床に炭そ病を持ち込む可能性を低くすることが出来ます。

高率で炭そ病が検出された場合は、冬期にランナーを利用した「水差し育苗」で無病の親株を確保する。育苗期に検出された場合は、徹底した防除により発病を抑える。





ぶどう (種なし巨峰・ピオーネ)

[阿波ベジ総選挙 果物部門 第2位]

時期	生育状況	対象病害虫および作業項目	実施要領	備考
1月 ~ 2月	休眠期	整枝・せん定 越冬病害虫 苦土石灰の施用	整枝はH型短梢せん定を基本とし、主枝幅は2m、主枝長7~10m程度とし、結果枝の間隔は約20cmとする。 (10a当り3,000房1,500kg収量目標) 病果、果梗、巻きひげ、病害虫被害枝などをせん除し、発生源をなくす。カイガラムシの多い園は、粗皮はきを行う。 土壌診断に基づきpH6.0~6.5を目標に苦土石灰を施用する。	
上旬 3月 中旬	萌芽前 樹液流動開始期	晩腐病・黒とう病・カイガラムシ類 灌水	ベフラン液剤25 250倍(休眠期/1回)加用石灰硫黄合剤7倍(発芽前/-)を散布する。 乾燥が続く場合は発芽をよくするために灌水する(10a当たり20t)。	★石灰硫黄合剤との混合順序 水→ベフラン液剤→かきまぜながら→石灰硫黄合剤
上旬 中旬 下旬 4月	萌芽期 展葉期	施肥 草刈りまたは除草 黒とう病、フタテンヒメヨコバイ 芽かぎ	(施肥基準参照) (除草剤使用例参照) アトマイヤー水和剤1,000倍(収穫21日前/2回以内)またはパダンSG水溶剤1,500倍(収穫21日前/5回以内)加用ジマンダイセン水和剤1,000倍(収穫45日前/2回以内)を散布する。 展葉すると母枝基部の副芽を除去する。	
上旬 中旬 5月 下旬	展葉5~6枚 開花直前 開花始	芽かぎ 黒とう病・べと病・褐斑病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ 摘房・整房 草刈りまたは除草 黒とう病・灰色かび病	花房のないものや極端に強い枝ならびに、極端に弱い枝を除去する。 モスピラン顆粒水溶剤2,000倍(収穫14日前/3回以内)またはスカウトフロアブル2,000倍(収穫21日前/3回以内)加用ジマンダイセン水和剤1,000倍(収穫45日前/2回以内)を散布する。 開花1週間前に房を除き、開花数日前には花房の先端3.5~4.0cm程度残す。 (除草剤使用例参照) ロブラール水和剤1,000倍(開花期~幼果期、但し収穫60日前/3回以内)を散布する。	コナカイガラムシ発生園ではモスピラン顆粒水溶剤を散布する。
上旬 中旬 6月 下旬	満開期(8分咲) 落花直後 幼果期	第1回 ジベレリン処理 花カス落とし 誘引・摘房 黒とう病・褐斑病・うどんこ病・フタテンヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ 第2回 ジベレリン処理 房作り・摘粒 施肥 誘引 べと病・チャノキイロアザミウマ・コガネムシ類 袋かけ	(別表参照) 花カスをていねいに取り除く。 花ぶるいがおさまり、着粒が確認できるようになると1新梢1果房に摘房する。 スカウトフロアブル2,000倍(収穫21日前/3回以内)またはパダンSG水溶剤1,500倍(収穫21日前/5回以内)加用オンリーワンフロアブル2,000倍(収穫前日/3回以内)を散布する。 (別表参照) 1果房35~40粒、1粒重15gを目標に摘粒を行う。 (施肥基準参照) 新梢の誘引を行う。 アディオン水和剤3,000倍(収穫7日前/5回以内)加用ランマンフロアブル2,000倍(収穫14日前/3回以内)を散布する。	灰色かび病が多い場合はポリベリン水和剤1,000倍(開花期~幼果期、但し収穫60日前まで/2回以内)または、フルピカフロアブル3,000倍(開花期~幼果期、但し収穫30日前/2回以内)を散布する。 摘粒は2回目ジベレリン処理後できるだけ早く実施。

時期	生育状況	対象病害虫および作業項目	実施要領	備考
7月上旬 中旬 下旬	着色開始期	べと病 べと病 草刈りまたは除草 灌水	ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式～6-4式)を散布する。 ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式～6-4式)を散布する。 (除草剤使用例参照) 乾燥が続く場合は灌水する。	着色促進技術(別表参照) ハダニ類発生園では、ダニトロンフロアブル 2,000倍(収穫14日前1回)を散布する。
8月中旬 ～ 下旬		収穫始め	黒紫色で十分に糖度がある品質のよい果実を収穫する。	
9月中旬		施肥 べと病・フタテンヒメヨコバイ	収穫後すみやかに施用し、樹勢の回復をはかる(施肥基準参照)。 パダンSG水溶液1,500倍(収穫21日前/5回以内)加用ICボルドー66D 25倍、またはボルドー液(3-2式～6-4式)を散布する。	早期落葉を防止する。
10月上旬		ブドウトラカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤2,000倍(収穫後秋期/3回以内)を散布する。	
11月 ～ 12月	休眠期	落葉の処理 施肥 定植・改植	地中に埋投する。 (施肥基準参照) 基肥重点で施す。 完熟堆肥は500～1,000kg/10a施用する。 ウイルスフリー苗を植え付ける。活着をよくするため充分灌水して根元に敷わらをする。	

ブドウの施肥基準及び施肥例

成木園10アール当たり1,500kg収量の園を基準とする。

施肥時期	時期別割合(%)			成分量(kg)			施肥例
	チッソ	リンサン	カリ	チッソ	リンサン	カリ	
11月上旬	60	60	50	9.0	7.2	7.5	110kg
4月上旬	10	10	10	1.5	1.2	1.5	20kg
6月下旬	10	10	20	1.5	1.2	3.0	20kg + 塩化加里 5kg
9月中旬	20	20	20	3.0	2.4	3.0	40kg
計	100	100	100	15.0	12.0	15.0	190kg + 塩化加里 5kg

除草剤使用例

農薬名	使用方法(10a当たり)	使用時期	使用回数
ラウンドアップマックスロード	100倍液を水25～50ℓ(ラウンドノズル25使用)で散布	収穫7日前まで	3回以内
バスタ液剤	300～500mlを水100～150ℓに溶いて散布	収穫前日まで	3回以内

巨峰系4倍体品種ジベレリン・フルメット使用法

品種	回数	ジベレリン	フルメット	処理時間	処理方法
ジベレリン2回処理	1回目	12.5ppm	2～3ppm	満開時～満開3日後	花房浸漬
	2回目	25ppm	—	満開後10～15日後	果房浸漬
ジベレリン一発処理※	1回のみ	25ppm	10ppm	満開期3～5日後(落花期)	花房浸漬

※必須作業：満開予定日14日前～開花始期にストマイ液剤20 1,000倍液を立木散布又は花房浸漬する。

環状剥皮処理による着色促進技術

	処理内容	注意事項
剥皮時期	満開30～35日後	<ul style="list-style-type: none"> 樹勢が低下した樹には処理しない。 剥皮部は剥皮後約1ヶ月でほぼ癒合する。 その間、極端な乾燥を避け、適宜灌水する。 本技術は増糖技術であるため、増糖効果が現れなければ十分な効果が上がらない。着葉数の確保に努め、着果技は少なくとも本葉15枚程度は保持すること。
剥皮幅	幅5～10mm	
剥皮要領	樹皮下の師部組織を完全に除去する	
剥皮部の保護	剥皮部をビニールテープ等で保護する	
保護テープ除去	約1ヶ月後に保護テープを除去する	



ぶどう (デラウェア)

[阿波ベジ総選挙 果物部門 第2位]

時期	生育状況	対象病害虫および作業項目	実施要領	備考
1月	休眠期	整枝・せん定 越冬病害虫	10a当たり収量1,500kgを目標とする。 病果、果梗、巻きひげ、病害虫被害枝などをせん除し、発生源をなくす。	
2月	新根発生期	園内の整理 苦土石灰の施用	棚の修理、防除施設の点検整備、集排水溝の補修をする。 土壌診断に基づきpH6.0~6.5を目標に苦土石灰を施用する。	
3月 上旬 中旬 下旬	樹液流動開始期 萌芽前 萌芽期	結果母枝の誘引 灌水 晩腐病・黒とう病・カイガラムシ類	主枝、垂主枝、結果母枝の順に棚面にまんべんなく誘引結束する。 乾燥が続く場合は発芽をよくするため灌水する。(10 a当り20t) ベフラン液剤25 250倍(休眠期/1回)加用石灰硫黄合剤7倍(発芽前/-)を散布する。	★石灰硫黄合剤との混合順序 水→ベフラン液剤→かきまぜながら→石灰硫黄合剤 ☆散布に当たっては他作物にかからぬよう特に注意する。カイガラムシの多い園は、散布前に粗皮はぎを行う。
4月 上旬 中旬 下旬	展葉期 (新梢10cm)	施肥 晩腐病 芽かぎ 除草 枝折れ防止	(施肥基準参照) ジマンダイセン水和剤1,000倍(収穫60日前/2回以内)を散布する。 弱小枝、副芽を除去し優良母枝の伸長充実をはかる。 養水分の競合をさけるため、早目に草刈り、または除草剤散布(除草剤使用例参照) 防風垣を整備して新梢の枝折れを防ぐ。	
5月 上旬 中旬 下旬	(新梢20cm) 開花期	芽かぎ 摘心・摘房 晩腐病・黒とう病・べと病、 褐斑病・フタテンヒメヨコバイ 灌水 第1回目ジベレリン処理 灰色かび病 除草 ブドウスカシバ	上中旬には新梢の勢力が判明し、伸長程度も判断できるので芽かぎの仕上げをする。 強勢な枝の花ぶるい防止のために開花1週間前に新梢の先端を摘心する。結果過多にならないよう摘房する。(3.3㎡当り50房とする) アドマイヤー水和剤1,000倍(収穫21日前/2回以内)またはパダンSG水溶剤1,500倍(収穫21日前/5回以内)加用ジマンダイセン水和剤1,000倍(収穫60日前/2回以内)を散布する。 3月に準ずる。 フルメット1ppm(満開予定日18~14日前/1回)加用ジベレリン100ppmを満開2週間前(本葉10~11枚展葉の頃)に花房浸漬処理をする。 フルピカフロアプル3,000倍(開花期~幼果期、但し収穫30日前まで/2回以内)を散布する。 草刈りまたは除草剤散布。(除草剤使用例参照) 発生園ではミクロデナポン水和剤1,000倍(収穫30日前/2回以内)を散布。	ジベレリン第1回目処理2~3日前までに散布をすませる。 晩腐病の発生が多い場合は、開花直前から落弁期にフロンサイドSC2,000倍(開花直前~落弁期、但し収穫60日前/1回)(カブレに注意する)を散布する。 ホウ素欠乏園は開花前にマルポロンの0.1%~0.2%液を散布する。

時期	生育状況	対象病害虫および作業項目	実施要領	備考
6月 上旬 中旬 下旬	果粒肥大期	べと病・フタテンヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ 褐斑病 摘心 第2回目ジベレリン処理 袋かけ 施肥 誘引 べと病・コガネムシ類・フタテンヒメヨコバイ	スカウトフロアブル2,000倍(収穫21日前/3回以内)加用ICボルドー66D 25倍、またはボルドー液(3-2式~6-4式)を散布する。 発生園では、オンリーワンフロアブル2,000倍(収穫前日まで/3回以内)を散布する。 強勢な枝は指先で軽く摘心して棚下が暗くなりすぎないようにする。 枝の伸長が旺盛なので遅れずに誘引する。 満開10日後にジベレリン100ppmの果房浸漬をする。 (施肥基準参照) 強勢な結果枝先端の副梢摘心をかねて、新梢の誘引を行う。 アディオン水和剤2,000倍(収穫7日前/5回以内)加用ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式~6-4式)を散布する。	ジベレリン処理 5 日前~処理後 2 日間はボルドー液の散布をしない。 果房散布処理の場合は 10a 当り 80~100ℓ 散布。
7月 中旬 下旬	着色開始期 収穫期	除草 べと病、フタテンヒメヨコバイ 灌水 収穫	草刈りまたは除草剤散布。(除草剤使用例参照) スタークル顆粒水溶剤3,000倍(収穫7日前/2回以内)加用ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式~6-4式)を散布する。 乾燥が著しいと着色が遅れるので、灌水を行う。 減酸し、着色の良い成熟果(糖度18度以上)から収穫する。	
8月 上旬 下旬	収穫期 収穫後 樹勢回復	べと病・ブドウトラカミキリ・フタテンヒメヨコバイ 施肥 間伐	パダンSG水溶剤1,500倍(収穫21日前/5回以内)加用ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式~6-4式)を散布する。 収穫後すみやかに施用し、樹勢の回復をはかる。(施肥例参照) 密植園では収穫後直ちに間伐樹を棚下で切断しておく。	
9月 中旬		べと病	ICボルドー66D 25倍または、ボルドー液(3-2式~6-4式)を散布する。	
10月 上旬 ~ 11月		ブドウトラカミキリ 落葉の処理 定植の準備	モスピラン水溶剤2,000倍(収穫後秋期/3回以内)を散布する。 地中に埋投する。	
12月 上旬	休眠期	苗木の定植 施肥	ウイルスフリー苗を定植する。活着をよくするため、充分灌水して根元に敷わらををする。 (施肥基準参照) 完熟堆肥は500~1,000kg/10a施用する。	

ブドウの施肥基準及び施肥例
成木園10アール当たり1,500kg収量の園を基準とする。

施肥時期	時期別割合(%)			成分量(kg)			施肥例
	チッソ	リンサン	カリ	チッソ	リンサン	カリ	
12月上旬	60	60	50	9.0	7.2	7.5	110kg
4月上旬	10	10	10	1.5	1.2	1.5	20kg
6月上下旬	10	10	20	1.5	1.2	3.0	20kg + 塩化加里 5kg
8月中旬	20	20	20	3.0	2.4	3.0	40kg
計	100	100	100	15.0	12.0	15.0	190kg + 塩化加里 5kg

除草剤使用例

農薬名	使用方法(10a当たり)	使用時期	使用回数
ラウンドアップマックスロード	100倍液を水25~50ℓ(ラウンドノズル25使用)で散布	収穫7日前まで	3回以内
バスタ液剤	300~500mlを水100~150ℓに溶いて散布	収穫前日まで	3回以内

1) 生産体制と出荷体制

価格以外に、「安全・安心なものを」、「より新鮮なものを」、「生産者の顔が見えるものを」など、農産物に求められるニーズは多様化しています。そこで、安全で安心な農産物の安定供給と、自信をもって提供できる生産体制や出荷体制をご紹介します。

☆「とくしま安²（あんあん）GAP（ぎやっぷ）農産物認証制度」

この認証制度は、消費者の皆様へ安全・安心な徳島県産農産物をお求め頂くために、徳島県が農産物の生産・品質管理体制（農場）を検査し、認定する制度です。この認証制度に取り組むことによって、農産物の安全性確保に加え、環境への負荷低減や作業者の安全性確保、コストの縮減、品質の向上が図られます。また、安全安心で環境に優しい農産物が生まれ、生産者と流通販売者・消費者との間の確かな信頼の架け橋となります。



とくしま安²認証マーク



エコファーマーマーク

☆「エコファーマーの認証制度」

持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律に基づき、堆肥等施用技術、化学肥料低減技術、化学合成農薬低減技術を一体的に導入する計画を作成し、徳島県知事の認定を受けた農業者の愛称名です。徳島県では、化学肥料・化学合成農薬の使用を2割以上低減する農業者を徳島県エコファーマーとして認定します。

☆「トレーサビリティ・システム」

トレーサビリティ・システムとは、「トレース（跡をたどる）」「アビリティ（可能）」を組み合わせた言葉。ここでは、スーパー等に並んでいる農産物が、いつ、どこで、どのように生産・流通されたか、消費者がいつでも把握できる仕組みのことを指します。

☆「IPM」総合的病害虫・雑草管理（Integrated Pest Management）

様々な防除手段を適切に組み合わせることにより、環境負荷を低減しつつ、被害を経済的被害以下に低く管理しようとする考え方です。

2) 有機農業について

有機農業をご存知ですか？

Q. いつ、できたの？ 目的は？

- A. 平成18年12月8日、「有機農業の推進に関する法律」が国会で制定され、同年12月15日に施行されました。
本法律に基づき、国及び地方公共団体が連携して有機農業を推進するため、「有機農業の推進に関する基本的な方針」（基本方針）を、平成19年4月27日に策定しました。

Q. そもそも有機農業って、何なの？

- A. 有機農業とは、①化学肥料や農薬を使用しない、②遺伝子組換え技術を利用しない、ことを基本として、環境への負荷をできる限り低減する農業生産の方法です。

Q. いま、なぜ有機農業なの？

- A. 有機農業は、環境負荷の低減、自然循環機能の増進、生物多様性の保全に資する取組です。一方、現状では技術が十分に確立されていないなどの課題を抱え、消費者ニーズはあるものの、有機農業の取組は未だに少ないことから、有機農業のさらなる推進、普及に向けた取組が必要とされています。

Q. 有機JASとの関係は？

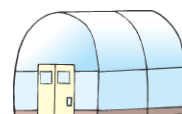
- A. 有機JASは、JAS法に基づき、有機農産物の表示のルール・検査認証制度を定めたものであり、その内容は有機食品の国際規格に準じたものとなっています。有機農業の推進に関する法律は、環境への負荷をできる限り低減する農業生産の方法の推進を目的としており、その取組は、JAS法に基づく「有機農産物」の表示が可能な取組に限定することなく、対象を広くとらえています。
(有機JAS等の表示制度の詳細は、農林水産省ホームページに掲載しています。)

1) 太陽熱消毒

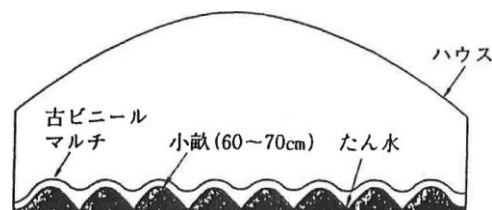
目的 土壌病害虫、線虫、雑草等の防除。有益な微生物を増やす。土壌病原菌は、45~60℃、線虫は35℃が死滅温度で、本方法により約40日でかなり防除できる。

時期 7月中下旬の梅雨明けから8月上中旬までの年間で最も気温が高く、かつ好天の続く季節を選ぶ。(地下20cmで45℃以上の温度を持続するように努める。)

- 方法**
- ① 切りわらなど粗大有機物 1~2t/10a 散布し、軽く散水する。青刈ソルゴーを栽培しても良い。
 - ② 石灰窒素 100kg/10a を散布し、なるべく深くすき込む。
 - ③ 高さ30cm、幅70cmの小畦を立てる。
 - ④ 透明古ビニールでマルチし、畦間に水を張る。
 - ⑤ ハウスを20~30日完全密閉する。出入り口、破損箇所から熱が逃げないように、被覆、修理する。



ハウス密閉による土壌消毒



2) 土壌還元消毒

目的 土壌中にフスマや米ぬか等の糖質を持った有機物を施用し、土壌中の微生物を利用して土壌を酸欠状態にし、病原菌を死滅させる。

時期 土壌還元消毒法が利用できる時期は、ハウス内であれば6月上旬から始めることができます。また、露地では7月下旬頃から始められます。

- 方法**
- ① フスマ等 1t/10a を圃場に均一に散布後、2~3回耕うんし、フスマ等を混和します。
 - ② 代かき前の田んぼのように大量に灌水します。(一時的に湛水状態になるように)

- ③ 透明フィルムで土壌全面を被覆し、3週間ほどそのままにします。
- ④ 処理が終了したら透明フィルムを除去し、圃場を耕うんして土壌を元に戻します。

3) 土壌中で堆肥化を進める

目的 田畑に施用した未熟な有機物の堆肥化を促進させる。

期間 堆肥化する有機物の種類・量、圃場の微生物の豊かさ等により異なる。できるだけ、長い期間をとるようにする。

堆肥化を促進する方法

- ① 窒素が少ない有機物であれば、発酵に必要な窒素を補給しておく。わら 100kg に対し、石灰窒素、または硫安なら 10kg、尿素なら 4.4kg
- ② 耕うんを繰り返す、酸素が良く供給されるようにする。
- ③ 圃場が乾き過ぎや、湿り過ぎがないように常に適当な水分を保つ。

注意点 堆肥化する前に作物を作付けないよう注意する。圃場の微生物が豊かになるにつれ、期間は短くなるが、堆肥化が進んでいるかどうかは見た目では分かりにくい。作付時期を決めるには、耕作者の経験に基づく正しい判断が必要である。

未熟堆肥施用による主な害

1	窒素飢餓	有機物は分解される途中で、窒素を消費する。そのため、特に作物の生育初期に窒素不足になりやすい。
2	病害虫の発生	<ul style="list-style-type: none"> • 分解は、腐敗でもあるので、腐生菌が発生している。腐生菌の間には、作物に重大な病害を与える菌も多い。 • ウリバエ、タネバエなどは分解中の有機物に集まり、作物に害を与えていく。
3	ガス害	アンモニアを含んでいるので、ガスが発生しやすく、トンネル、施設内では、害が出る恐れがある。

1) 農薬の溶かし方

農薬は殆どが石油から作られている。石油と水は犬猿の仲。よく溶かしたつもりでも、実はよくまざっていない。いくら散布を丁寧にしても薬液そのものが水にとけていなければ効き方にムラがきたり薬害が出てくる。

① 散布液の作り方

■ 希釈倍率を守る

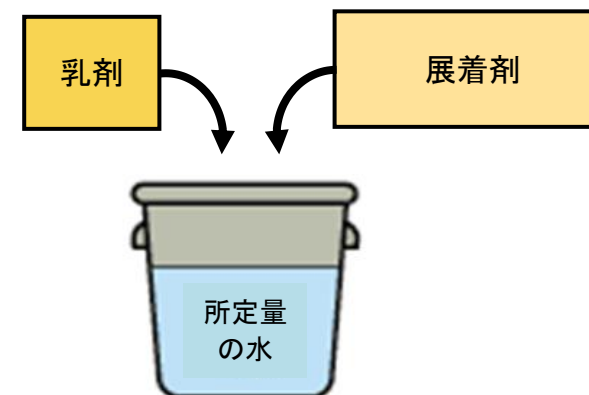
(例) 液状薬剤で 1,000 倍とあれば・・・水 1 L に薬剤 1 mL

顆粒状薬剤で 1,000 倍とあれば・・・水 1 L に 1 g

薬量 (g, ml)		散布量								
		1L	5L	10L	50L	100L	250L	500L	750L	1,000L
希釈 倍数 (倍)	25	40	200	400	2,000	4,000	10,000	20,000	30,000	40,000
	50	20	100	200	1,000	2,000	5,000	10,000	15,000	20,000
	100	10	50	100	500	1,000	2,500	5,000	7,500	10,000
	250	4	20	40	200	400	1,000	2,000	3,000	4,000
	500	2	10	20	100	200	500	1,000	1,500	2,000
	750	1.3	6.6	13.3	66.6	133.3	333.3	666.6	1,000	1,333.3
	1,000	1	5	10	50	100	250	500	750	1,000
	1,500	0.6	3.3	6.6	33.3	66.6	166.6	333.3	500	666.6
	2,000	0.5	2.5	5	25	50	125	250	375	500
	3,000	0.3	1.6	3.3	16.6	33.3	83.3	166.6	250	333.3
4,000	0.2	1.2	2.5	12.5	25	62.5	125	187.5	250	

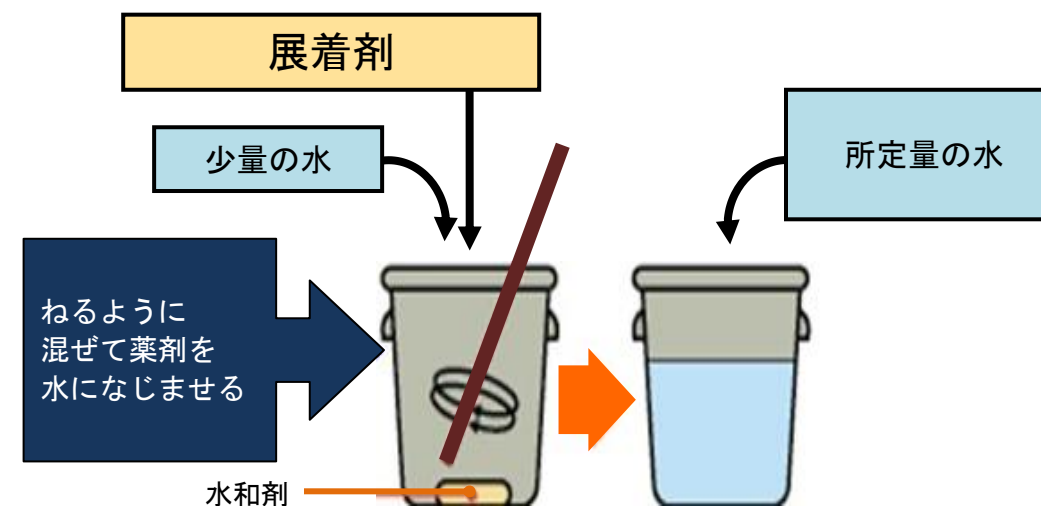
■ 乳剤・水溶剤など液状薬剤のうすめ方

計量した薬剤を所定量の水に直接加え、よくかき混ぜ溶かす。



■ 水和剤など顆粒状薬剤のうすめ方

計量した薬剤に少量の水を加え、のり状にねり、その後、所定量の水で希釈する。



② うすめる濃度(希釈倍数)

1,000 倍~2,000 倍の場合、2,000 倍にうすめても効くが、1,000 倍でも薬害がない。発生が多く、散布時期がおくれた時に高濃度の方で散布する。

このときは薄めにして薬量を増やし、葉裏にもかかるように丁寧に散布すると効果的。

③ 混用について

■3 種類の農薬を混ぜない。

3 種類の農薬を混ぜると、それぞれの薬の濃度は規定内でも水に溶けた量は 3 倍となり薬害に結びつく危険性がある。

■乳剤と乳剤との混用はさける。

乳剤は、成分を水に溶けやすくするためキシレンなどの有機溶剤が含まれている。

1 回だけならいいが、何回もするとワックス層を溶かしくチクラ層にも影響して薬害や病害虫の耐性を弱くする。

2) 展着剤の使い方

① 展着剤を加える目的

主成分である界面活性剤が散布薬液の表面張力を下げ、作物の葉等へのぬれ広がりをよくすることにより薬液の付着をよくすることにある。

② 対象作物等の展着剤濃度の目安

■ぬれの悪い作物(イネ、里芋、ねぎ、キャベツ等)

乳剤 2 種類混用では、展着剤を加える必要がない。

■ぬれの中程度の作物(トマト、ハクサイ、ナバナ等)

乳剤使用の場合は、展着剤を加える必要がない。

■ぬれのよい作物(ミカン等)

展着剤を加用する必要がない。

3) 農薬散布するときの注意点と対策

① どんなときに注意が必要?

使用する農薬が、周りの食用作物に登録のない場合です。

※次の場合には、特に注意が必要です。

◎圃場どうしの距離が近いとき。

◎隣の食用作物の収穫が近づいてきたとき。

◎飛散が起こりやすい散布方法のとき。

② 対策は?

■散布時に守りたいことは次のとおりです。

◎散布量が多くなりすぎないように気をつけましょう。

◎風の弱い時に風向に気をつけて散布しましょう。

◎散布の方向や位置に気をつけて散布しましょう。

◎細かすぎる散布粒子のノズルは使わないようにし、散布圧力を上げすぎないようにしましょう。

◎タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

■こんな対策も有効

◎まわりの作物にも登録のある農薬を使用する。

◎飛散しにくい剤型(粒剤等)の農薬を使用する。

◎境界区域では農薬を散布しない。

◎まわりの作物をネットやシートなどで遮蔽したり一時的に覆う。



5. 営農類型ごとの農業経営の指標

「ブランド推進」

1) 本市における主要な効率的かつ安定的な農業経営の指標（主たる農業従事者1人当たりの目標所得を320万円とする。）

営農類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様等
① 水稻 + 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稻 80a 夏秋なす 15a レタス 150a 〈経営面積〉 245a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 1台 コンバイン (2条刈) 1台 乾燥機 (20石) 1台 動力噴霧機 1台 管理機 1台 レタス包装機 1台 マルチャー 1台 貨物トラック 1台 他	・複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 ・青色申告の実施	・休日制の導入 ・春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 ・機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
② 施設 花き	〈作付面積等〉 シンビジューム 鉢花 40a 〈経営面積〉 40a	〈資本装備〉 動力噴霧機 1台 温風式暖房機 1台 貨物トラック 1台 灌水設備 (ノズル式) 固定ベンチ ビニールハウス 他		
③ 施設 花き	〈作付面積等〉 シンビジューム 切り花 60a 〈経営面積〉 60a	〈資本装備〉 動力噴霧機 1台 温風式暖房機 1台 貨物トラック 1台 灌水設備 (ノズル式) 固定ベンチ ビニールハウス 他		
④ 水稻 + 露地 野菜 + 施設 野菜	〈作付面積等〉 水稻 80a レタス 100a スイートコーン 30a メロン 20a 夏秋なす 15a 〈経営面積〉 245a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 乾燥機 (20石) 1台 レタス包装機 1台 マルチャー 1台 動力噴霧機 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他		
⑤ 水稻 + 施設 野菜 + 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稻 100a ミニトマト 25a レタス 80a 〈経営面積〉 205a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 乾燥機 (20石) 1台 レタス包装機 1台 マルチャー 1台 動力噴霧機 1台 ビニールハウス 他		

営農 類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者 の態様等
⑥ 水稻 + 工芸 作物 + 露地 野菜	<作付面積等> 水稻 80a タバコ 150a レタス 120a <経営面積> 350a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 共同乾燥場 1棟 マルチャー 1台 レタス包装機 1台 動力噴霧機 1台 他	・複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 ・青色申告の実施	・休日制の導入 ・春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 ・機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
⑦ 水稻 + 露地 野菜 + 酪農	<作付面積等> 水稻 80a レタス 45a 酪農 30頭 <経営面積> 125a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈り) 1台 レタス包装機 1台 2t ダンプ 1台 モア 1台 ハイラインミルクカー ミルククーラー 牛舎・飼料庫 他		
⑧ 水稻 + 施設 野菜 + 露地 野菜	<作付面積等> 水稻 80a 促成トマト 25a 夏秋なす 25a <経営面積> 130a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈り) 1台 暖房機 1台 常温噴霧機 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他		
⑨ 水稻 + 施設 野菜	<作付面積等> 水稻 80a 促成いちご 30a <経営面積> 110a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈り) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 冷蔵庫 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他		
⑩ 露地 野菜	<作付面積等> 夏秋なす 25a 加工キャベツ 100a ブロッコリー 100a <経営面積> 225a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 野菜移植機 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 高床式運搬車 1台 冷蔵庫 1台 貨物トラック 1台 他		
⑪ 水稻 + 露地 野菜	<作付面積等> 水稻 100a すいか 80a だいこん 130a <経営面積> 310a	<資本装備> トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 動力噴霧機 1台 洗浄機 1台 貨物トラック 1台 他		

営農 類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者 の態様等
⑫ 水稲 ＋ 露地 野菜 ＋ 施設 野菜	〈作付面積等〉 水稲 80a 洋ニンジン 120a 促成トマト 20a 〈経営面積〉 220a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 田植機 (4条植) 1台 動力噴霧機 1台 管理機 1台 掘取機 1台 洗浄機 1台 ビニールハウス 他	<ul style="list-style-type: none"> 複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 青色申告の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 休日制の導入 春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
⑬ 水稲 ＋ 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稲 140a カットねぎ 55a 夏秋なす 15a 〈経営面積〉 210a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他		
⑭ 水稲 ＋ 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稲 120a カットねぎ 45a さやえんどう 20a 夏秋なす 15a 〈経営面積〉 200a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 軽トラック 1台 他		
⑮ 果樹 (ぶどう)	〈作付面積等〉 デラウエア 45a 早期加温 35a 無加温 (二重) 40a ピオーネ 〈経営面積〉 120a	〈資本装備〉 結束機 1台 下葉取り機 1台 トラクター 1台 自動噴霧機 1台 作業舎 ビニールハウス 他		
⑯ 花き (キク)	〈作付面積等〉 秋キク電照 30a 夏キク電照 15a 〈経営面積〉 45a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 選花機 1台 結束機 1台 動力噴霧機 1台 管理機 1台 貨物トラック 1台 温風加温機 1台 電照設備 ビニールハウス 他		
⑰ 水稲 ＋ 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稲 60a ブロッコリー 180a 夏秋なす 15a 〈経営面積〉 255a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 野菜移植機 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 冷蔵庫 1台 貨物トラック 他		

営農 類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者 の態様等
⑱ 施設 野菜 ＋ 果樹 (ぶどう)	〈作付面積等〉 ミニトマト 20a デラウエア 25a 早期加温 25a 無加温(二重) 25a 〈経営面積〉 70a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 防除ロボット 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他	・複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 ・青色申告の実施	・休日制の導入 ・春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 ・機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
⑲ 水稻 ＋ 施設 野菜	〈作付面積等〉 水稻 60a ミニトマト 25a メロン 30a 〈経営面積〉 115a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 コンバイン (2条刈) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 防除ロボット 1台 貨物トラック 1台 ビニールハウス 他		
⑳ 肉用牛	〈飼養頭数等〉 去勢肥育牛 510頭 出荷頭数 286頭	〈資本装備〉 牛舎 1台 堆肥舎 1台 ダンプ 1台 トラック ショベルローダー 他		
㉑ 養豚 (繁殖肥育 一貫経営)	〈飼養頭数等〉 母豚 95頭 肥育豚 1,10頭	〈資本装備〉 豚舎 1台 堆肥舎 1台 給餌舎 1台 分娩枠保温機 1台 スチームクリーナー 1台 パワーファン ショベルカー トラック 他		
㉒ 水稻 ＋ 露地 野菜 ＋ 肉用牛	〈作付面積等〉 水稻 60a 夏秋なす 20a 去勢肥育牛 240頭 出荷頭数 135頭 〈経営面積〉 80a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 田植機 (4条植) 1台 コンバイン (2条刈り) 1台 防除ロボット 1台 ダンプトラック 1台 畜舎 堆肥舎 飼料タンク 他		

2) 本市における主要な新規就農者等の農業経営の指標（主たる農業従事者1人当たりの目標所得を200万円とする。）

営農 類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者 の態様等
① 露地 野菜	〈作付面積等〉 夏秋なす 20a 〈経営面積〉 20a	〈資本装備〉 トラクター（30ps） 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 貨物トラック 1台 他	・複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 ・青色申告の実施	・休日制の導入 ・春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 ・機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
② 露地 野菜	〈作付面積等〉 加工キャベツ 95a ブロッコリー 105a 〈経営面積〉 200a	〈資本装備〉 トラクター（30ps） 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 野菜移植機 1台 高床式運搬車 1台 冷蔵庫 1台 貨物トラック 1台 他		
③ 水稻 + 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稻 120a レタス 110a 〈経営面積〉 230a	〈資本装備〉 トラクター（30ps） 1台 田植機（4条植） 1台 コンバイン（2条刈） 1台 乾燥機（20石） 1台 動力噴霧機 1台 レタス包装機 1台 マルチャー 1台 トラック 1台 他		
④ 水稻 + 露地 野菜	〈作付面積等〉 水稻 65a ブロッコリー 140a 〈経営面積〉 205a	〈資本装備〉 トラクター（26ps） 1台 田植機（4条植） 1台 コンバイン（2条刈） 1台 野菜移植機 1台 動力噴霧機 1台 管理機 1台 冷蔵庫 1台 貨物トラック 1台 他		
⑤ 施設 野菜	〈作付面積等〉 ミニトマト 20a 〈経営面積〉 20a	〈資本装備〉 トラクター（30ps） 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 ビニールハウス 他		
⑥ 施設 野菜	〈作付面積等〉 促成トマト 20a 〈経営面積〉 20a	〈資本装備〉 トラクター（30ps） 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 ビニールハウス 他		

営農 類型	経営規模	生産方式	経営管理の方法	農業従事者 の態様等
⑦ 施設 野菜	〈作付面積等〉 促成いちご 15a 〈経営面積〉 20a	〈資本装備〉 トラクター (30ps) 1台 管理機 1台 動力噴霧機 1台 暖房機 1台 冷蔵庫 1台 ビニールハウス 他	・複式簿記記帳により経営と家計との分離を図る。 ・青色申告の実施	・休日制の導入 ・春秋の農繁期における臨時雇用従事者の確保 ・機械、装置等の開発、整備の省力化を進める。
⑧ 果樹 (ぶどう)	〈作付面積等〉 デラウェア 30a 早期加温 35a 無加温(二重) 〈経営面積〉 65a	〈資本装備〉 結束機 1台 下葉取り機 1台 トラクター 1台 自動噴霧機 1台 作業舎 ビニールハウス 他		
⑨ 施設 花き	〈作付面積等〉 シンビジューム 鉢花 20a 〈経営面積〉 20a	〈資本装備〉 動力噴霧機 1台 温風式暖房機 1台 貨物トラック 1台 灌水設備 (ノズル式) 固定ベンチ ビニールハウス 他		
⑩ 酪農	〈飼養頭数等〉 酪農 20頭	〈資本装備〉 2t ダンプ 1台 モア 1台 ハイプラインミルクカー 1台 ミルククーラー 1台 牛舎・飼料庫 他		
⑪ 肉用牛	〈飼養頭数等〉 去勢肥育牛 260頭 出荷頭数 146頭	〈資本装備〉 牛舎 堆肥舎 ダンプ 1台 トラック 1台 ショベルローダー 1台 他		

6. 病害虫防除基準

「ブランド推進」

- 1) 農薬は、農作物ごとに農薬取締法（昭和23年7月1日法律第82号）に基づく登録農薬（平成26年1月31日現在）の中から選定し一覧として示しています。※登録農薬をすべて掲載しているものではありません。
- 2) 使用に当たっては必ずメーカーの登録内容を確認し、使用前にビンや袋の表示をよく読んで確認の上、倍率を決めて下さい。
- 3) 農薬ごとの使用基準については、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが運営する「農薬登録情報提供システム」から最新の登録情報を必ず確認して下さい。

※「農薬登録情報提供システム」（独立行政法人農林水産消費安全技術センター）
 アドレス：http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

適用作物名：レタス [玉レタス] 

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	菌核病	灰色かび病	すそ枯病	べと病	斑点細菌病	軟腐病	高敗病	根腐病	タバコガ類	ヨトウムシ類	ネキリムシ	アブラムシ類	ナメクジ	センチュウ類
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	0.5g/株	育苗期後半	1												●	●	
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	培土1リットルあたり15g	は種前	1													●	
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2												●		
アグリマイシン-100	抗生物質+抗生物質	2000	収穫14日前まで	2						●								
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫7日前まで	5												●		
アタブロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫3日前まで	2										●				
アデオン乳剤	ピレスロイド系	2000~3000	収穫7日前まで	5										●				
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	育苗期後半	1												●		
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫7日前まで	2												●		
アフーム乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫3日前まで	3									●	●			●	
アフーム顆粒水和剤	マクロライド系	1000	収穫3日前まで	3													●	
アフーム顆粒水和剤	マクロライド系	1000~1500	収穫3日前まで	3									●					
アフエツフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●	●	●											
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫7日前まで	4	●	●	●											
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	2													●	
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫21日前まで	2										●				
オリゼメート粒剤	その他	6~9kg/10a	定植時	1					●									
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	3									●	●				
カッパーシン水和剤	抗生物質+銅	1000	収穫7日前まで	4					●									
カセット水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫7日前まで	2					●	●	●							
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000~1500	収穫14日前まで	1	●	●												
キックオフ顆粒水和剤	ジアミド系+ネオニコチノイド系	100	定植前日~定植時	1									●	●	●	●	●	
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500	収穫7日前まで	2	●	●												
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2									●	●				
コルト顆粒水和剤	その他	3000~4000	収穫前日まで	3													●	
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	3									●	●				
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1												●	●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	培土1L当たり15g	は種前	1													●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1												●	●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	培土1L当たり15g	は種前	1													●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1												●	●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	培土1L当たり15g	は種前	1													●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫3日前まで	2												●		
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50~100	定植前日~定植時	1												●	●	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫3日前まで	2												●		
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50~100	定植前日~定植時	1												●	●	
ジュリボフロアブル	ジアミド系+ネオニコチノイド系	200	育苗期後半~定植当日	1									●	●	●	●	●	
スターナ水和剤	その他	2000	収穫7日前まで	2						●	●							
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	2500~5000	収穫3日前まで	3								●						
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫3日前まで	3									●					
スミブレンド水和剤	ジカルボキシイミド系+ベンゾイミダゾール系	1000~2000	収穫7日前まで	5	●	●												
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	1000~2000	収穫7日前まで	5	●	●												
ダイアジノン粒剤10	有機リン系	3kg/10a	定植時	1												●		
ダイアジノン粒剤5	有機リン系	4~6kg/10a	は種時又は定植時	2												●		
ダコニール1000	その他	1000	収穫14日前まで	3			●	●										
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	2													●	
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫3日前まで	2													●	
ディアナSC	マクロライド系	2500~5000	収穫前日まで	2									●	●			●	
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500~2000	収穫7日前まで	2	●	●												
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	2									●	●				
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫14日前まで	3													●	
ネキリエースK	有機リン系	3kg/10a	は種時又は定植時~生育初期(但し、収穫21日前まで)	2												●		
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫3日前まで	2										●				
ハクサップ水和剤	ピレスロイド系+有機リン系	1000	収穫3日前まで	2									●					
バシタック水和剤75	酸アミド系	500~1000	結球開始期まで(但し、収穫30日前まで)	3			●											

適用作物名：レタス[玉レタス] (つづき)

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	菌核病	灰色かび病	すそ枯病	べと病	斑点細菌病	軟腐病	腐敗病	根腐病	タバコガ	ヨトウムシ	ネキリムシ	アブラムシ	ナメクジ	センチュウ
バリダシン液剤	抗生物質	500	収穫7日前まで	3			●											
バダシG水溶剤	ネライストキシ系	1500	収穫14日前まで	3													●	●
ファンタジスタ顆粒水和剤	その他(Gol剤)	2000~3000	収穫3日前まで	3	●	●												
フェスティバルC水和剤	その他+銅	1000	収穫3日前まで	3				●										
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000~4000	収穫前日まで	2								●	●					
フロンサイドSC	その他	500ミリリットル/10a	定植前	1			●											
フロンサイド粉剤	その他	30kg/10a	は種又は定植前	1			●											
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫7日前まで	2									●	●				
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	100	育苗期後半~定植当日	1									●	●	●		●	
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	1000~2000	収穫前日まで	3														●
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	3									●	●				
ブレバソ顆粒剤	ジアミド系	1g/株	育苗期後半~定植時	1													●	
ブレバソ顆粒剤	ジアミド系	50g	育苗期後半~定植当日	1													●	
ベストガード顆粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期後半	1													●	
ベルコート水和剤	その他	1000~2000	収穫30日前まで	3	●	●												
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000~3000	収穫14日前まで	4	●	●	●											
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	1000~2000	収穫7日前まで	3									●					
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	3										●				
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫7日前まで	3												●	●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫7日前まで	3												●	●	
モンカットフロアブル40	酸アミド系	1000~2000	収穫7日前まで	3			●											
ラーピンフロアブル	カーバメート系	1000	収穫14日前まで	2									●	●				●
ライメイフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	3				●										
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	3				●										
リゾレックス水和剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	3			●											
レーバソフロアブル	酸アミド系	2000	収穫7日前まで	3				●										
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫14日前まで	3	●	●												
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000~1500	収穫14日前まで	3	●	●												
Zボルドー	銅	所定濃度(500~800)	-	-							●							
ドイツボルドーA	銅	所定濃度(500~1000)	-	-					●	●	●							
コサイドボルドー	銅	所定濃度(1000)	-	-					●	●	●							
コサイド3000	銅	所定濃度(2000)	-	-					●	●	●							
オキシンドー水和剤80	銅	所定濃度(1200)	収穫21日前まで	5							●							
キノンドーフロアブル	銅	所定濃度(800~1200)	収穫21日前まで	5					●	●	●							
キノンドー水和剤40	銅	所定濃度(600)	収穫21日前まで	5				●	●	●	●							
キノンドー水和剤80	銅	所定濃度(1200~1600)	収穫21日前まで	5							●							

適用作物名：ミニトマト

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	萎凋病	葉かび病	疫病	菌核病	斑点病	苗立枯病	うどんこ病	すそかび病	ハスモンヨトウ	アブラムシ	タバコガ	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ	トマトサビダニ	センチュウ	アザミウマ	
エスマルクDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●	●								
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●	●								
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●	●								
トアローフロアブルCT	生物農薬	500~1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-										●								
フローバックDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●	●								
D-D	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10日~15日前まで	1																	●	
アクタラ顆粒5	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期後半	1														●				
アクタラ顆粒5	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1														●	●			
アタロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3									●	●								
アドマイヤー1顆粒剤	ネオニコチノイド系	0.5~1g/株	育苗期後半	1														●				
アドマイヤー1顆粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1														●	●			
アドマイヤー1顆粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1														●	●			
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	2										●								
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000~10000	収穫前日まで	2										●	●	●						
アニキ乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫前日まで	3													●					
アフファーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	5											●			●	●			
アフエットフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●	●	●															
アフエットフロアブル	酸アミド系	2000~4000	収穫前日まで	3						●												
アミスターオプティフロアブル	ストロビルリン系+その他	1000	収穫7日前まで	2	●	●	●	●			●											
インプレッション水和剤	生物農薬	500	発病前~発病初期まで	-	●	●																
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	3														●				●
ウララDF	その他	2000~4000	収穫前日まで	3										●								
エコショット	生物農薬	1000~2000	収穫前日まで	-	●	●																
オルトラン水和剤	有機リン系	1500	収穫14日前まで	1										●								
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000	1番花の開花まで	4															●			

適用作物名：ミニトマト（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	萎凋病	葉かび病	灰色かび病	疫病	菌核病	斑点病	苗立枯病	青枯病	うどんこ病	すすかび病	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	タバココナジラミ	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000~3000	1番花の開花まで	4											●	●	●						
カスケード乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2																	●		
カスケード乳剤	昆虫成長制御	2000~4000	収穫前日まで	2													●				●		
カリグリーン	無機	800	収穫前日まで	-		●	●																
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000~1500	収穫前日まで	3		●	●	●															
ガードホープ液剤	殺線虫	4000(2リットル/平方メートル)	収穫前日まで	1																			●
クリーンカップ	生物農薬+銅	1000	収穫前日まで	-		●		●															
クリーンカップ	生物農薬+銅	1000~2000	収穫前日まで	-									●										
クリアザールフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	2																			●
クリアザールフロアブル	殺ダニ	2000~4000	収穫前日まで	2														●	●				
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500	収穫前日まで	3		●	●	●															
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	3													●					●	●
コルト顆粒水和剤	その他	4000	収穫前日まで	3												●		●	●				
コロマイト乳剤	マクロライド系	1500	収穫前日まで	2															●	●	●		
サンマイトフロアブル	殺ダニ	1000~1500	収穫前日まで	2															●				
サンヨール	銅	500	収穫前日まで	4		●	●						●										
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000	収穫前日まで	1																			●
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000~2000	収穫前日まで	1												●							
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	育苗期(定植7日前~前日)	1																			●
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1															●	●	●		
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	育苗期(定植7日前~前日)	1																			●
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1															●	●	●		
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	100	定植時	1																●			
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫前日まで	2															●	●			
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	100	定植時	1																●			
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫前日まで	2															●	●			
ソイリン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10日~15日前	1	●																		
ソイリン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10日~15日前	1																			●
タフパール	生物農薬	2000~4000	発病前~発病初期	-			●																
ダコニール1000	その他	1000	収穫7日前まで	2		●		●					●										
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	200~300g/立方メートル	は種又は定植21日前まで	1								●											
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1	●																		
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	30~60kg/10a	は種又は定植21日前まで	1								●											
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	200~300g/立方メートル	は種又は定植21日前まで	1								●											
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1	●																		
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	30~60kg/10a	は種又は定植21日前まで	1								●											
ダブルストッパー	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10日~15日前	1	●																		
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3																			●
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3													●	●	●				
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期	1																			●
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1															●	●			
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1													●						
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1																			●
チェス顆粒水和剤	その他	5000	収穫前日まで	3													●						
ディトラベックス油剤	くん蒸+殺線虫	20~30L(1穴当たり2~3ミリリットル)	は種又は植付けの21日前まで	1																			●
ディアナSC	マクロライド系	2500	収穫前日まで	2															●	●			●
ディアナSC	マクロライド系	2500~5000	収穫前日まで	2												●	●				●		
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500~2000	収穫前日まで	5		●	●	●															
トリガード液剤	昆虫成長制御	1000	収穫前日まで	2																			●
トリフミンジェット	ステロール生合成阻害	50g/400立方メートル	収穫前日まで	5		●																	
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	3000	収穫前日まで	5												●							
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	3000~5000	収穫前日まで	5		●																	
ネマキック粒剤	殺線虫	15~20kg/10a	定植前	1																			●
ネマトリンエース粒剤	殺線虫	15~20kg/10a	定植前	1																			●
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2												●				●			
ハーモメイト水溶剤	無機	800~1000	収穫前日まで	-										●									
ハチハチ乳剤	その他	2000	収穫前日まで	2																	●	●	●
バンタック水和剤75	酸アミド系	750~1500(3リットル/平方メートル)	は種時~子葉展開時	2(種子1回、土壌1回)																			
バンタック水和剤75	酸アミド系	種子重量の0.4%	は種前	2(種子1回、土壌1回)																			
バリアード顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3													●						
パンチョTF顆粒水和剤	酸アミド系+ステロール生合成阻害	2000	収穫前日まで	2										●									
ファンダジスタ顆粒水和剤	その他(QoI剤)	2000~3000	収穫前日まで	3		●	●	●															
フェスティバルC水和剤	その他+銅	600~800	収穫前日まで	3				●															
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫前日まで	2													●						
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000~4000	収穫前日まで	2													●	●					
フォリオゴールド	酸アミド系+その他	800	収穫7日前まで	2				●															
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン系	2000~3000	収穫前日まで	4		●																	
プレオフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	2													●	●			●		
プレバソフロアブル5	ジアミド系	100(1株当たり25ml)	育苗期後半~定植当日	1																			●
プレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	3														●			●		

適用作物名：ミニトマト（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	萎凋病	葉かび病	灰色かび病	疫病	菌核病	斑点病	苗立枯病	青枯病	うどんこ病	すすかび病	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	タバコガ類	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
																アブラムシ類	タバコガ類	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
プロボーズ顆粒水和剤	その他	1500	収穫7日前まで	2				●															
ベストガード水溶性	ネオニコチノイド系	1000	収穫前日まで	3																			●
ベストガード水溶性	ネオニコチノイド系	1000~2000	収穫前日まで	3															●	●			
ベストガード水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3												●							
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期	1												●							
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1												●					●	●	
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	5g/培土1リットル	は種時又は鉢上げ時	1												●							
ベトファイター顆粒水和剤	その他	2000	収穫前日まで	3				●															
ベルコート水和剤	その他	6000	収穫前日まで	2		●	●																
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	1000	定植前~定植1ヶ月後	2	●																		
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000	収穫前日まで	3					●														
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000~3000	収穫前日まで	3		●	●																
ベンコゼフロアブル	有機硫黄	1000	収穫前日まで	2				●															
ボトキラー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-		●																	
ボトキラー水和剤	生物農薬	10~15g/10a/日	発病前~発病初期	-		●																	
ボトキラー水和剤	生物農薬	300g/10a(常温煙霧)	発病前~発病初期	-		●																	
ボトピカ水和剤	生物農薬	2000~4000	発病前~発病初期まで	-		●																	
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	3													●						
モスピランジェット	ネオニコチノイド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	3															●	●			
モスピラン水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3												●							●
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1												●							
モスピラン顆粒水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3												●							●
モンカッタ水和剤	酸アミド系	500~1000(3リットル/平方メートル)	は種時~子葉展開時	2(種子1回、土壌1回)								●											
モンカッタ水和剤	酸アミド系	種子重量の0.5~1.0%	は種前	2(種子1回、土壌1回)								●											
ライメイフロアブル	その他	2000~4000	収穫前日まで	4				●															
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20~30kg/10a	定植前	1																			●
ラノーテープ	昆虫成長制御	10~50平方メートル/10a	栽培期間中	1																●	●		
ランマンフロアブル	その他	1000~2000	収穫前日まで	4				●															
レーバフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3				●															
ロブラールくん煙剤	ジカルボキシミド系	100g/300~400立方メートル	収穫前日まで	3			●	●															
ロブラール水和剤	ジカルボキシミド系	1000	収穫前日まで	3							●												
ロブラール水和剤	ジカルボキシミド系	1000~1500	収穫前日まで	3			●																
ロブラール水和剤	ジカルボキシミド系	200g/10a	収穫前日まで	3			●																
Zボルドー	銅	所定濃度(500)	-	-				●						●									
ベニドー水和剤	銅	500	-	-				●															

適用作物名：トマト

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	萎凋病	葉かび病	灰色かび病	疫病	菌核病	輪紋病	斑点病	かいよう病	苗立枯病	青枯病	うどんこ病	すすかび病	アブラムシ類	タバコガ類	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
																	アブラムシ類	タバコガ類	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
エスマルクDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-														●						
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-													●	●						
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-													●	●						
トアローフロアブルCT	生物農薬	500~1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-														●						
フローバックDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-													●	●						
D-D	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10~15日前まで	1																				●
テロン	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10~15日前まで	1																				●
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1																	●	●		
アクタラ顆粒水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3															●					
アグロスリン水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	5															●					
アタプロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3													●	●						
アディオン乳剤	ピレスロイド系	2000~3000	収穫前日まで	3															●					
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	0.5~1g/株	育苗期後半	1																	●			
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1														●	●	●				
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	2														●						
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2														●						
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	10000	収穫前日まで	2															●	●				
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000~10000	収穫前日まで	2														●						
アニキ乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫前日まで	3																●				
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	5															●		●	●		
アフエツフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●	●	●																	
アフエツフロアブル	酸アミド系	2000~4000	収穫前日まで	3										●										
アブロードエースフロアブル	殺ダニ・昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	3																●	●			
アブロード水和剤	昆虫成長制御	1000	収穫前日まで	3																	●			
アブロード水和剤	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	3																●				

適用作物名：トマト（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	萎凋病	葉かび病	灰色かび病	疫病	菌核病	輪紋病	斑点病	斑點細菌病	かいよう病	青枯病	うどんこ病	すすかび病	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	タバコガ類	オシシツコナジラミ	タバコナジラミ	ハモグリバエ類	トマトサビダニ	センチュウ類	アザミウマ類
ホライズンドライフロアブル	その他+ストロビリン系	1500~2500	収穫前日まで	3			●																		
ボトキラー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-		●																			
ボトキラー水和剤	生物農薬	10~15g/10a/日	発病前~発病初期	-		●																			
ボトキラー水和剤	生物農薬	300g/10a	発病前~発病初期	-		●																			
ボトピカ水和剤	生物農薬	2000~4000	発病前~発病初期まで	-		●																			
ポリオキシシAL水溶剤	抗生物質	5000	収穫前日まで	3	●																				
ポリオキシシAL水溶剤	抗生物質	500	収穫前日まで	3		●																			
マッチ乳剤	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	4																					●
マッチ乳剤	昆虫成長制御	2000~3000	収穫前日まで	4															●						
マッチ乳剤	昆虫成長制御	3000	収穫前日まで	4														●							
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	3															●						
モスピランジェット	ネオニコチノイド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	3																		●			
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3															●		●	●			●
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1															●		●	●			●
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3															●		●	●			●
モレスタン水和剤	キノキサリン系	1500	収穫前日まで	5																				●	
モレスタン水和剤	キノキサリン系	1500~2000	収穫前日まで	5																					
モンカッタ水和剤	酸アミド系	500~1000(3リットル/平方メートル)	は種時~子葉展開時	2(種子1回、 土壌1回)											●										
モンカッタ水和剤	酸アミド系	種子重量の0.5~1.0%	は種前	2(種子1回、 土壌1回)											●										
ライメイフロアブル	その他	2000~4000	収穫前日まで	4				●																	
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20~30kg/10a	定植前	1																					●
ラーナーテープ	昆虫成長制御	10~50平方メートル/10a	栽培期間中	1																		●			
ランマンフロアブル	その他	1000~2000	収穫前日まで	4				●														●			
リソレックス水和剤	有機リン系	500(3リットル/平方メートル)	は種時	1										●											
リソレックス粉剤	有機リン系	50~100g/平方メートル	は種前	1										●											
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	750	収穫前日まで	2				●																	
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000	収穫前日まで	2				●																	
リドミル銅水和剤	酸アミド系+銅	400~600	収穫前日まで	4				●																	
レーバスフロアブル	酸アミド系	1500~2000	収穫前日まで	3				●																	
ロディー乳剤	ピレスロイド系	1000~2000	収穫前日まで	3															●		●				
ロブラール500アクア	ジカルボキシイミド系	1000~1500	収穫前日まで	3				●																	
ロブラールくん粒剤	ジカルボキシイミド系	100g/300~400立方メートル	収穫前日まで	3				●		●															
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫前日まで	3						●	●														
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000~1500	収穫前日まで	3				●																	
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	200g/5リットル/10a	収穫前日まで	3				●																	
Zボルドー	銅	所定濃度(500)	-	-				●		●						●									
ピティグラン水和剤	銅	所定濃度(300~500)	-	-				●																	
ベニードDF	銅	所定濃度(500)	-	-				●																	
ベニード水和剤	銅	所定濃度(500)	-	-				●																	
コサイドボルドー	銅	所定濃度(1000)	-	-				●																	
コサイドDF	銅	所定濃度(1000)	-	-				●																	

適用作物名：じゃがいも

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	疫病	粉状そうか病	菌核病	そうか病	青枯病	軟腐病	アブラムシ類	ニジュウヤホシテントウ	テントウムシダマシ類	ジャガイモガ	ヨトウガ類	ジャガイモシストセンチュウ	センチュウ類	
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-													●	
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	3~6kg/10a	植付時	1							●							
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫14日前まで	3								●						
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫14日前まで	3								●						
アグレプト水和剤	抗生物質	1000	収穫7日前まで	5						●								
アディオン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫14日前まで	4							●			●				
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	4kg/10a	植付時	1							●							
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	1000~3000	収穫14日前まで	2							●							
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000~15000	収穫14日前まで	2							●							
ウララDF	その他	2000~4000	収穫7日前まで	2								●						
エキナイン顆粒水和剤	酸アミド系+その他	2000~3000	収穫7日前まで	3	●													
TD粒剤	有機リン系	4kg/10a	植付時	1							●							
ダイシストン粒剤	有機リン系	4kg/10a	植付時	1							●							
エムダイファー水和剤	有機硫黄	400~650	収穫14日前まで	7	●													
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	2													●	
エンセダン乳剤	有機リン系	1500	収穫7日前まで	6							●		●		●			
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	4							●		●	●	●			
カーゼートPZ水和剤	その他+有機硫黄	600~800	収穫7日前まで	4	●													
カスミンボルドー	抗生物質+銅	500~800	収穫7日前まで	3						●								
カスミンボルドー	抗生物質+銅	800	収穫7日前まで	3	●													

適用作物名：じゃがいも（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	疫病	粉状そうか病	菌核病	そうか病	青枯病	軟腐病	アブラムシ類	ニジュウヤホシテントウ	ジャガイモガ	ヨトウガ類	センチュウ類
カッパーシン水和剤	抗生物質＋銅	500～800	収穫7日前まで	3						●					
カッパーシン水和剤	抗生物質＋銅	800	収穫7日前まで	3	●										
カセット水和剤	その他＋抗生物質	1000	収穫7日前まで	3						●					
キンセット水和剤	銅	500～700	収穫14日前まで	5						●					
コルト顆粒水和剤	その他	4000～8000	収穫前日まで	3						●					
ジーファイン水和剤	無機＋銅	1000	収穫前日まで	-	●										
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	4							●			●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2						●					
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2						●					
スターナ水和剤	その他	1000	収穫7日前まで	5						●					
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	1000～1500	収穫21日前まで	4			●								
ダズパン乳剤40	有機リン系	1500	収穫7日前まで	2						●					
ダコニール1000	その他	500～1000	収穫7日前まで	5	●										
ダブルストッパー	くん蒸＋殺線虫	30リットル/10a(1穴あたり3ミリリットル)	作付の10～15日前	1			●								
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫7日前まで	3							●				
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫7日前まで	3						●					
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	植付時	1						●					
チェス顆粒水和剤	その他	5000	収穫14日前まで	3						●					
トクチオン乳剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	3						●			●	●	
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫7日前まで	3						●					
ナレート水和剤	銅＋その他	600～1000	収穫14日前まで	5						●					
ネビジン粉剤	土壌殺菌	30kg/10a(作条土壌混和)	植付時	1			●								
ネビジン粉剤	土壌殺菌	60kg/10a(全面土壌混和)	植付時	1		●	●								
ネマキック粒剤	殺線虫	15～20kg/10a(全面土壌混和)	植付前	1											●
バイオキパー水和剤	生物農薬	1000～2000	発病前～発病初期	-						●					
バイデール粒剤	カーバメート系	30kg/10a	植付前	1											●
バリアード顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫7日前まで	3						●					
バダンSG水溶剤	ネライストキン系	1500	収穫7日前まで	6									●		
フェスティバルC水和剤	その他＋銅	400～600	収穫14日前まで	3	●										
フェスティバルM水和剤	その他＋有機硫黄	500～1000	収穫14日前まで	3	●										
フェスティバル水和剤	その他	1000～2000	収穫14日前まで	3	●										
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000～4000	収穫前日まで	2										●	
フォリオゴールド	酸アミド系＋その他	500～1000	収穫7日前まで	3	●										
フロンサイドSC	その他	1000～2000	収穫7日前まで	4	●										
フロンサイド水和剤	その他	1000～2000	収穫14日前まで	4	●		●								
フロンサイド粉剤	その他	30～40kg/10a	植付前	1		●	●								
ブリザード水和剤	その他	800～1500	収穫7日前まで	4	●										
ブレオフロアブル	その他	1000～2000	収穫7日前まで	2											●
プロポーズ顆粒水和剤	その他	750～1000	収穫7日前まで	3	●										
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	1000～2000	収穫14日前まで	4						●					
ベトファイター顆粒水和剤	その他	2000	収穫7日前まで	3	●										
ホライズンドライフロアブル	その他＋ストロビルリン系	1000～2500	収穫14日前まで	4	●										
ポルドー液	銅	4-4式	-	-	●										
マテリーナ水和剤	その他＋抗生物質	1000	収穫7日前まで	3						●					
グリーンダイセンM水和剤	有機硫黄	400～600	収穫7日前まで	10	●										
エムダイファー水和剤	有機硫黄	400～650	収穫14日前まで	7	●										
グリーンエムダイファー水和剤	有機硫黄	400～650	収穫14日前まで	7	●										
モスピランSL液剤	ネオニコチノイド系	2000～6000	収穫7日前まで	3						●					
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	3									●		
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫7日前まで	3								●			
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～6000	収穫7日前まで	3						●					
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	3～6kg/10a	植付時	1						●					
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	3						●			●		
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫7日前まで	3								●			
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫前日まで	4						●					
ラービン水和剤75	カーバメート系	1000～1500	収穫7日前まで	5									●		
ライメイフロアブル	その他	2000～3000	収穫7日前まで	4	●										
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20kg/10a	植付前	1											●
ランマンフロアブル	その他	1000～2000	収穫7日前まで	4	●										
リドミルMZ水和剤	酸アミド系＋有機硫黄	500～750	収穫7日前まで	3	●										

適用作物名：じゃがいも（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	疫病	粉状そうか病	菌核病	そうか病	青枯病	軟腐病	アブラムシ類	ニジュウヤホシテントウ	ジャガイモガ	ヨトウガ類	センチュウ類
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	500~1000	収穫30日前まで	1	●										
リドミル銅水和剤	酸アミド系+銅	400~600	収穫14日前まで	3	●										
リライアブルフロアブル	酸アミド系+その他	800~1000	収穫7日前まで	3	●										
レーバスフロアブル	酸アミド系	1500~2000	収穫7日前まで	2	●										
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫前日まで	4		●									
銅ストマイ水和剤	抗生物質+銅	600~800	収穫7日前まで	5					●						
KBW	銅	所定濃度(400~800)	-	-	●										
Zボルドー	銅	所定濃度(400)	-	-	●										
Zボルドー	銅	所定濃度(500)	-	-					●						
クブラビットホルテ	銅	所定濃度(400~800)	-	-	●										
サンボルドー	銅	所定濃度(300~600)	-	-	●										
ビティグラン水和剤	銅	所定濃度(400~800)	-	-	●										
ベニドーDF	銅	所定濃度(500)	-	-	●										
ベニドー水和剤	銅	所定濃度(500)	-	-	●										
ボルドー	銅	所定濃度(400~800)	-	-	●										
ポテガードDF	銅	所定濃度(500)	-	-	●										
コサイドボルドー	銅	所定濃度(500~1000)	-	-	●										
ドイツボルドーDF	銅	所定濃度(500~1000)	-	-	●										

適用作物名：なす


薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	苗立枯病	菌核病	うどんこ病	すすかび病	灰色かび病	青枯病	ニジュウヤホシテントウ	アブラムシ類	タバコガ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	チャノホコリダニ	ミナミキイロアザミウマ	オシロイアザミウマ	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	センチュウ類	
エスマルクDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●											
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●	●										
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●	●										
フローバックDF	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●	●										
D-D	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10~15日前まで	1																			●
テロン	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10~15日前まで	1																			●
アーデント水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	4								●	●	●					●				
アカリタッチ乳剤	天然物	1000~3000 うどんこ病 2000	収穫前日まで	-			●								●								
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1								●						●	●	●			●
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1								●						●	●	●			●
アクタラ顆粒水溶液	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3							●							●	●	●			●
アクタラ顆粒水溶液	ネオニコチノイド系	3000	収穫前日まで	3							●							●	●	●			●
アグロスリン水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	5								●						●	●	●			●
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	1000 アブラムシ、コナジラミ 2000	収穫前日まで	5								●						●	●	●			●
オルトラン粒剤	有機リン系	1~2g/株 3~6kg/10a	定植時及び収穫前日まで	3								●						●	●	●			●
ジェイエース粒剤	有機リン系	1~2g/株 3~6kg/10a	定植時及び収穫前日まで	3								●						●	●	●			●
アタプロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3								●	●					●	●	●			●
アディオン乳剤	ピレスロイド系	2000 アブラムシ2000~3000	収穫前日まで	3							●	●						●	●	●			●
アドバンテージ粒剤	カーバメート系	0.5g/株	育苗期後半	1														●	●	●			●
アドバンテージ粒剤	カーバメート系	1~2g/株	定植時	1														●	●	●			●
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期後半	1								●						●	●	●			●
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1								●						●	●	●			●
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2								●						●	●	●			●
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000~10000	収穫前日まで	2								●						●	●	●			●
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	2								●	●	●	●	●	●	●	●	●			●
アフエットフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●	●	●	●															
アブロードエースフロアブル	殺ダニ+昆虫成長制御	1000~2000 チャノホコリダニ1000	収穫前日まで	3													●		●	●			●
アブロード水和剤	昆虫成長制御	1000	収穫前日まで	3													●		●	●			●
アブロード水和剤	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	3													●		●	●			●
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	4			●	●															
インプレッション水和剤	生物農薬	500(上澄液散布)	発病前~発病初期まで	-			●	●															
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	3																●	●		
ウララDF	その他	2000~4000	収穫前日まで	3								●											
オーソサイド水和剤80	その他	800(2リットル/平方メートル)	は種後2~3葉期	5	●																		
オーソサイド水和剤80	その他	種子重量の0.2~0.4%粉衣	は種時	1	●																		

適用作物名：なす（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	苗立枯病	苗枯病	うどんこ病	すすかび病	灰色かび病	青枯病	ニジウヤホシチントウ	アブラムシ類	タバコガ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	チャノホコリダニ	ミナミキイロアザミウマ	オシキイロアザミウマ	オンシツコナジラミ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	センチュウ類
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	3									●	●								
オルトラン水和剤	有機リン系	1000～2000	収穫7日前まで	3								●						●				
オンコル粒剤5	カーバメート系	0.5g/株	育苗期後半又は定植時	1								●					●					
オンコル粒剤5	カーバメート系	1g/株	定植時	1								●										
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	4														●				
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000～3000	収穫前日まで	4								●	●							●	●	
カスケード乳剤	昆虫成長制御	2000 アザミウマ2000～4000	収穫前日まで	4										●			●				●	
カネマイトフロアブル	殺ダニ	1000～1500 チャノホコリダニ1000	収穫前日まで	1											●	●						
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000～1500	収穫前日まで	3	●			●	●													
ガゼット粒剤	カーバメート系	2g/株 アブラムシ、ミナミキイロ1～2g	定植時	1								●					●	●				
キルバー	くん蒸	原液として40～60リットル/10a	は種又は定植の15～24日前まで	1																		●
クロールピクリン	くん蒸	2～3ミリリットル/穴	-	1	●		●		●													●
クロビクテープ	くん蒸	110m/100平方メートル	-	1			●		●													
クロビク80	くん蒸	2～3ミリリットル/穴	-	1					●													●
ドジョウピクリン	くん蒸	2～3ミリリットル/穴	-	1					●													●
ドロクロール	くん蒸	2～3ミリリットル/穴	-	1					●													●
クロルピクリン錠剤	くん蒸	1錠/1穴	-	1			●		●													●
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1000～1500	収穫前日まで	5	●				●													
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	4							●	●	●	●	●	●	●	●				
コルト顆粒水和剤	その他	4000	収穫前日まで	3								●									●	
コロマイト乳剤	マクロライド系	1500	収穫前日まで	2										●	●				●		●	
サンクリスタル乳剤	天然物	300	収穫前日まで	-								●					●				●	
サンクリスタル乳剤	天然物	300～600	収穫前日まで	-			●								●							
ジーファイン水和剤	無機+銅	1000～2000	収穫前日まで	-			●															
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	3								●	●					●				
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000～2000	収穫7日前まで	3								●										
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期	1								●								●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	生育期(但し、収穫前日まで)	2								●								●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1																●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1								●										
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1～2g/株	育苗期	1															●	●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	1～2g/株	定植時	1													●			●	●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1																		●
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期	1																●		
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1																	●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	1～2g/株	育苗期	1																●		
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1																		●
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2															●			
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～3000	収穫前日まで	2																●	●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫前日まで	2								●										
ジャストミート顆粒水和剤	酸アミド系	2000～3000	収穫前日まで	3					●													
スターマイトフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	1											●	●						
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	3000	収穫前日まで	3			●	●														
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	2500～5000	収穫前日まで	2														●				
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫前日まで	2									●									
スミブレンド水和剤	ジカルボキシイミド系+ベンゾイミダゾール系	1500～2000	収穫前日まで	5					●													
スミレックスくん煙顆粒	ジカルボキシイミド系	6g/100立方メートル	収穫前日まで	6					●													
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	1000～2000	収穫前日まで	6					●													
セイビアーフロアブル20	その他	1000～1500	収穫前日まで	3					●													
ソイリーン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10～15日前	1						●												
ソイリーン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10～15日前	1																		●
ダイアジン乳剤40	有機リン系	1000	露地 収穫開始3日前まで	3							●	●										
ダイマジン	酸アミド系+その他	1500	収穫前日まで	3				●	●													
ダコニール1000	その他	1000	収穫前日まで	4			●	●	●													
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1						●												
バスタード微粒剤	土壌殺菌	30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1						●												
ダニサラバフロアブル	殺ダニ	1000	収穫前日まで	2											●							
ダニロンフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	1											●							
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3														●				●
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3								●								●	●	
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期後半	1								●								●		
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植後(但し、収穫前日まで)	3								●										
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1								●										●
チェス顆粒水和剤	その他	5000	収穫前日まで	3								●									●	
ディトラベックス油剤	くん蒸+殺線虫	20～30リットル(1穴当り2～3ミリリットル)	は種又は植付けの21日前まで	1																		●
ディアナSC	マクロライド系	2500	収穫前日まで	2																	●	
ディアナSC	マクロライド系	2500～5000	収穫前日まで	2								●	●				●	●				●
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500～2000	収穫前日まで	5					●													
トリガード液剤	昆虫成長制御	1000	収穫前日まで	3																		●
トリフミンジェット	ステロール生合成阻害	50g/400立方メートル	収穫前日まで	5			●	●														

適用作物名：なす（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	苗立枯病	菌核病	うどんこ病	すすかび病	灰色かび病	青枯病	ニジウヤホシテントウ	アブラムシ類	タバコガ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	チャノホコリダニ	ミナミキイロアザミウマ	オシロイバナアザミウマ	タバココナジラミ	ハモグリバエ類	センチュウ類
トリフミン水和剤	ステロール生成阻害	3000	収穫前日まで	5			●														
トリフミン水和剤	ステロール生成阻害	3000～5000	収穫前日まで	5			●														
トリフミン乳剤	ステロール生成阻害	2000	収穫前日まで	5			●	●													
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2								●	●								
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	3															●		
ネマキック粒剤	殺線虫	15～20kg/10a	定植前	1																	●
ネマトリンエース粒剤	殺線虫	15～20kg/10a	定植前	1																	●
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2										●							
ハーモイト水溶剤	無機	800～1000	収穫前日まで	-			●														
ハチハチ乳剤	その他	1000	収穫前日まで	2			●														
ハチハチ乳剤	その他	1000～2000	収穫前日まで	2								●						●	●	●	
ハチハチ乳剤	その他	1000～4000	収穫前日まで	2													●				
バイデールL粒剤	カーバメート系	1～2.5g/株	育苗期	1														●			
バリアード顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫前日まで	3								●									
バロックフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	1											●						
バンチョTF顆粒水和剤	酸アミド系+ステロール生成阻害	2000	収穫前日まで	2			●														
ピラニカEW	殺ダニ	2000	収穫前日まで	1														●			
ピラニカEW	殺ダニ	2000～3000	収穫前日まで	1											●						
ファルコンフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2									●								
ファルコンフロアブル	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	2										●							
フェニックスジェット	ジアミド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	3									●	●							
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000～4000	収穫前日まで	3									●	●							
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン系	2000	収穫前日まで	4			●														
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン系	2000～3000	収穫前日まで	4					●												
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	4										●	●			●			
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	100	育苗期後半～定植当日	1											●						●
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	1000～2000	収穫前日まで	2																	●
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	2										●	●						
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫前日まで	3															●	●	
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	1000～2000	収穫前日まで	3										●				●			
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	育苗期後半	1										●							
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	1～2g/株	定植時	1										●				●		●	
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	収穫前日まで	3										●							
ベルコート水和剤	その他	3000	収穫前日まで	3			●	●	●												
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000～3000	収穫前日まで	3					●												
ポトキラー水和剤	生物農薬	1000	発病前～発病初期	-					●												
ポトキラー水和剤	生物農薬	10～15g/10a/日	発病前～発病初期	-					●												
ポトピカ水和剤	生物農薬	2000～4000	発病前～発病初期まで	-					●												
ポリオキシAL水溶剤	抗生物質	5000	収穫前日まで	3			●	●	●												
ポリベリン水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫前日まで	3					●												
マイトコーネフロアブル	殺ダニ	1000	収穫前日まで	1											●						
マッチ乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	4										●							
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	1000～2000	収穫前日まで	3										●							
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3										●							
マブリックジェット	ピレスロイド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	2									●								
マラバッサ乳剤	有機リン系+カーバメート系	1500	収穫3日前まで	3															●		
マラバッサ乳剤	有機リン系+カーバメート系	1500～2000	収穫3日前まで	3															●		
モスピランジェット	ネオニコチノイド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	3									●						●		
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3															●		
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫前日まで	3															●		
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3									●								
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5～1g/株	定植時	1									●								
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1															●		
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3															●		
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫前日まで	3															●		
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3									●								
モレスタン水和剤	キノキサリン系	2000	収穫前日まで	3														●			
モレスタン水和剤	キノキサリン系	2000～3000	収穫前日まで	3			●														
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20～30kg/10a	定植前	1																	●
ラリー水和剤	ステロール生成阻害	4000～6000	収穫前日まで	4			●	●													
リゾレックス水和剤	有機リン系	500(3リットル/平方メートル)	は種時	1	●																
リゾレックス水和剤	有機リン系	種子重量の0.5%粉衣	は種時	1	●																
リゾレックス粉剤	有機リン系	50～100g/平方メートル	は種前	1	●																
ルビゲン水和剤	ステロール生成阻害	10000	収穫前日まで	3			●														
ルビゲン水和剤	ステロール生成阻害	6000	収穫前日まで	3				●													
ロディー乳剤	ピレスロイド系	1000～2000	収穫前日まで	5															●		
ロプラール500アクア	ジカルボキシイミド系	1000～1500	収穫前日まで	4					●												
ロプラールくん煙剤	ジカルボキシイミド系	100g/300～400立方メートル	収穫前日まで	4					●												
ロプラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫前日まで	4			●														
ロプラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000～1500	収穫前日まで	4					●												
粘着くん液剤	天然物	100	収穫前日まで	-											●						

適用作物名：キャベツ 

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	菌核病	べと病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	ウババエ	カブラヤガ、タマナヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	コオロギ類	タバコガ類
エスマルクDF	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●							●
チューンアップ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(2000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●							
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●							
トアローフロアブルCT	生物農薬	所定濃度(1000~2000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●							
バシレックス水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●	●						
バシレックス水和剤	生物農薬	所定濃度(500)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●	●						
フローバックDF	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●	●						
アクセルフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	3						●	●							
アクセルフロアブル	その他	1000~2000	収穫前日まで	3								●	●		●			●
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	1~2g/株	育苗期後半	1							●						●	
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	2g/株	育苗期後半	1							●							
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1													●	
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	2g/株	育苗期後半	1						●								
アクテリック乳剤	有機リン系	500	収穫7日前まで	4						●	●	●					●	
オルトラン粒剤	有機リン系	3~6kg/10a	定植時及び収穫21日前まで	3						●	●	●					●	
ジェイエース粒剤	有機リン系	3~6kg/10a	定植時及び収穫21日前まで	3						●	●	●					●	
アタプロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	4							●	●	●				●	
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫7日前まで	2													●	
アフーム乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫前日まで	3						●	●	●	●					
アフエットフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●													
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫7日前まで	4	●													
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	2													●	
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	2							●						●	
オラクル粉剤	その他	20kg/10a	は種前(苗床)	1			●											
オラクル粉剤	その他	20kg/10a	定植前(作条土壌混和)	1			●											
オラクル粉剤	その他	30kg/10a	定植前(全面土壌混和)	1			●											
オラクル顆粒水和剤	その他	200~500	定植前(トレイ灌注)	1			●											
オラクル顆粒水和剤	その他	300g/100L/10a	定植前	1			●											
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	3						●	●	●					●	
オンコルマイクロカプセル	カーバメート系	100	定植時	1							●							
オンコル粒剤5	カーバメート系	1~2g/株	育苗期後半	1						●	●						●	
オンコル粒剤5	カーバメート系	1~2g/株(3~6kg/10a)	定植時	1						●	●							
オンリーワンフロアブル	ステロール生合成阻害	2000	収穫7日前まで	3	●													
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000~3000	収穫7日前まで	3						●	●	●						
カスミンボルドー	抗生物質+銅	1000	収穫7日前まで	4				●	●									
カスケード乳剤	昆虫成長制御	2000~4000	収穫7日前まで	2							●	●			●			
カセット水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫7日前まで	3				●	●									
カルホス乳剤	有機リン系	1500~2000	収穫21日前まで	1						●	●							
カルホス微粒剤F	有機リン系	6kg/10a	は種時又は植付時	1										●				
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1500	収穫7日前まで	2	●													
ガードベイトA	ピレスロイド系	3kg/10a	定植時	5										●				
ガゼット粒剤	カーバメート系	1~2g/株(3~6kg/10a)	定植時	1						●	●						●	
ガゼット粒剤	カーバメート系	2g/株	生育期初期及び収穫45日前まで	2							●							
キックオフ顆粒水和剤	ジアミド系+ネオニコチノイド系	100	定植前日~定植時	1						●	●	●				●	●	
グリーンベイト	その他+カーバメート系	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3														●
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500	収穫7日前まで	2	●													
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2							●	●	●		●			●
コルト顆粒水和剤	その他	4000	収穫前日まで	3													●	
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000~1500	収穫7日前まで	3						●	●	●					●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	育苗期	1													●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1													●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2~3g/株	定植時	1						●	●							
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	3g/株	定植時	1													●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	育苗期	1													●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1													●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	2~3g/株	定植時	1						●	●							
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	3g/株	定植時	1													●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫3日前まで	2													●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50~100	定植前日~定植時	1						●	●						●	●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫3日前まで	2													●	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50~100	定植前日~定植時	1						●	●						●	●
ジュリボフロアブル	ジアミド系+ネオニコチノイド系	200	育苗期後半~定植当日	1						●	●	●					●	
アグレプト水和剤	抗生物質	2000	収穫14日前まで	2				●										
マイシン20水和剤	抗生物質	2000	収穫14日前まで	2				●										
マイシン水和剤	抗生物質	2000	収穫14日前まで	2				●										
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	2500~5000	収穫3日前まで	3								●	●					
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫3日前まで	3						●	●						●	
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	2000~3000	収穫14日前まで	4	●													
セイビアーフロアブル20	その他	1000	収穫3日前まで	3	●													
ソタールWDG	その他+有機リン系	1000	収穫7日前まで	3					●									

適用作物名：キャベツ（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	菌核病	べと病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	ウワバ類	カブラヤガ、タマナヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	コオロギ類	タバコガ類
ダイアジノン乳剤40	有機リン系	1000	収穫30日前まで	2													●	
ダイアジノン粒剤3	有機リン系	6~9kg/10a	収穫30日前まで	2										●				
ダイアジノン粒剤5	有機リン系	4~6kg/10a	は種時又は定植時	2										●				
ダコソイル	その他	30~40kg/10a	は種又は定植前	1			●											
ダコソイル	その他	5~10g/植穴1穴	は種又は定植前	1			●											
ダコニール1000	その他	1000	収穫14日前まで	2		●												
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1			●											
バスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1			●											
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫3日前まで	2													●	
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	育苗期後半	1						●	●			●		●		
ディアナSC	マクロライド系	2500	収穫前日まで	2						●	●	●	●		●			
ディアナSC	マクロライド系	2500~5000	収穫前日まで	2														●
デナボンベイト	カーバメート系	3~6kg/10a	収穫14日前まで	3										●				
デナボンベイト	カーバメート系	4kg/10a	収穫14日前まで	3														●
トクチオン乳剤	有機リン系	1000	収穫21日前まで	2						●	●							
トクチオン粉剤	有機リン系	3kg/10a	収穫21日前まで	2							●							
トルネードフロアブル	その他	1000~2000	収穫7日前まで	2						●	●							
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	2								●	●		●			
トレボンEW	ピレスロイド系	1000	収穫3日前まで	3													●	
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000~2000	収穫3日前まで	3								●						
トレボン粉剤DL	ピレスロイド系	3~4kg/10a	収穫3日前まで	3						●	●						●	
ナレート水和剤	銅+その他	800	収穫14日前まで	3				●										
ナレート水和剤	銅+その他	800~1000	収穫14日前まで	3				●										
ネキリエースK	有機リン系	3kg/10a	は種時又は定植時	1										●				
ネビジン粉剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植前	2			●											
ネビジン粉剤	土壌殺菌	30kg/10a	定植前	2	●													
ネビリュウ	土壌殺菌剤	20~30kg/10a	定植前	2			●											
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	2							●	●	●					
ハクサップ水和剤	ピレスロイド系+有機リン系	1000	収穫前日まで	5														●
ハクサップ水和剤	ピレスロイド系+有機リン系	2000	収穫前日まで	5							●							
バイオキパー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-				●										
バダシSG水溶剤	ネライストキシ系	1500	収穫14日前まで	4						●	●				●			
ファンタジスタ顆粒水和剤	その他(Qol剤)	2000~3000	収穫14日前まで	3	●													
フェスティバルC水和剤	その他+銅	1000	収穫前日まで	3		●												
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫前日まで	3														●
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000~4000	収穫前日まで	3						●	●	●	●		●			
フロンサイドSC	その他	500ミリリットル/10a(100~150リットル)	は種又は定植前	2			●											
フロンサイド粉剤	その他	15~20kg/10a	は種又は定植前(作条土壌混和)	苗床1 本圃1			●											
フロンサイド粉剤	その他	30~40kg/10a	は種又は定植前(全面土壌混和)	苗床1 本圃1			●											
プリンス粒剤	フェニルピラゾール系	セル成型育苗トレイ1箱または「ベ-ハ-ホ」1冊(30×60cm、使用土壌約3~4リットル)あたり20~30g	は種時~定植前	1											●			
プレオフロアブル	その他	1000	収穫7日前まで	2						●	●	●						●
プレバソフロアブル5	ジアミド系	100	育苗期後半~定植当日	1						●	●	●			●			
プレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	3						●	●	●			●			●
ベジキパー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-				●										
ベルコート水和剤	その他	1000	収穫28日前まで	3	●													
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000	収穫7日前まで	6	●													
ベンコゼブフロアブル	有機硫黄	500~600	収穫30日前まで	3		●												
マッチ乳剤	昆虫成長制御	2000~3000	収穫7日前まで	3						●	●	●						
マッチ乳剤	昆虫成長制御	3000	収穫7日前まで	3								●				●		
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	4												●		
グリーンダイセンM水和剤	有機硫黄	400~600	収穫30日前まで	3		●												
ベンコゼブフロアブル	有機硫黄	500~600	収穫30日前まで	3		●												
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫7日前まで	5						●	●							
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫7日前まで	5													●	
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	定植前日~定植当日	1								●			●			
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5~1g/株	定植前日~定植当日	1							●						●	
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1~2g/株	定植時	1						●	●						●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫7日前まで	5						●	●							
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫7日前まで	5													●	
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫7日前まで	5		●		●	●									
ラービンフロアブル	カーバメート系	750~1000	収穫7日前まで	4						●	●							
ライメイフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	4		●												
ランネット45DF	カーバメート系	1000~2000	収穫3日前まで	3							●							
ランマンフロアブル	その他	500	定植前日~当日	1			●											
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000	収穫30日前まで	3		●												
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000	収穫30日前まで	3		●												
レーバフロアブル	酸アミド系	2000	収穫7日前まで	3		●												
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫7日前まで	4	●													
コサイド3000	銅	所定濃度(2000)	-	-				●	●									
コサイドDF	銅	所定濃度(1000)	-	-				●	●									

適用作物名：キャベツ（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	菌核病	べと病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	ウワバ類	カブラヤガ、タマナヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	コオロギ類	タバコガ類
Zボルドー	銅	所定濃度(500)	-	-	●			●	●									
サンボルドー	銅	所定濃度(300~600)	-	-	●													
ドイツボルドーA	銅	所定濃度(500~1000)	-	-				●										
ベニドー水和剤	銅	所定濃度(500)	-	-	●													
オキシドー水和剤80	銅	所定濃度(1000)	収穫14日前まで	3				●	●									
キノドー水和剤40	銅	所定濃度(500~800)	収穫14日前まで	3				●										
ドキリンフロアブル	銅	所定濃度(500~1000)	収穫14日前まで	3				●										
ドキリンフロアブル	銅	所定濃度(800~1000)	収穫14日前まで	3					●									

適用作物名：ブロッコリー

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	ウワバ類	カブラヤガ、タマナヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類
エスマルクDF	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-					●	●					
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-					●	●					
バシレックス水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-					●	●					
Zボルドー	銅	500	-	-			●	●							
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫前日まで	3											●
オルトラン粒剤	有機リン系	6kg/10a(2g/株)	定植時及び生育期(但し収穫14日前まで)	3							●				
ジェイエース粒剤	有機リン系	6kg/10a(2g/株)	定植時及び生育期(但し収穫14日前まで)	3							●				
アタプロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫21日前まで	2					●	●	●				
アディオン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫3日前まで	5					●						●
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	定植時	1											●
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	2											●
アフーム乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫3日前まで	3					●	●					
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	2											●
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫30日前まで	2						●					●
オラクル粉剤	その他	30kg/10a	定植前	1		●									
オラクル顆粒水和剤	その他	200~500(育苗トレイ当たり500ミリリットル)	定植前まで	1		●									
オラクル顆粒水和剤	その他	300g/100L/10a	定植前まで(全面散布後土壌混和)	1		●									
オリゼメート粒剤	その他	6~9kg/10a	定植時(全面土壌混和)	1			●								
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	3							●				
オンコルマイクロカプセル	カーバメート系	200	定植時	1						●					
オンコル粒剤5	カーバメート系	1g/株	育苗期後半	1					●						
カスミンボルドー	抗生物質+銅	1000	収穫21日前まで	4			●								
カッパーシン水和剤	抗生物質+銅	1000	収穫21日前まで	4			●								
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫7日前まで	2							●				
カセット水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫21日前まで	2			●								
ガードベイトA	ピレスロイド系	3kg/10a	定植時	5										●	
ガゼット粒剤	カーバメート系	1~2g/株(3~6kg/10a)	定植時	1						●					
キックオフ顆粒水和剤	ジアミド系+ネオニコチノイド系	100	定植前日~定植時	1					●	●	●				●
キノドー水和剤40	銅	800	収穫14日前まで	3			●								
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2							●				
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1000	収穫14日前まで	3							●				
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	2g/株	定植時	1							●				●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	100	定植時	1											●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~3000	収穫3日前まで	2											●
ジュリボフロアブル	ジアミド系+ネオニコチノイド系	200	育苗期後半~定植当日	1					●	●	●				●
スターナ水和剤	その他	2000	収穫14日前まで	2				●							
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫3日前まで	3					●	●					
ダコニール1000	その他	1000	出蕾前(但し、収穫21日前まで)	2	●										
ダコニール1000	その他	1000(3リットル/平方メートル土壌灌注)	定植時	1		●									
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1		●									
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1		●									
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	3					●	●					●
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	0.25g/株	は種時	1											●
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫14日前まで	2					●	●					
ナレート水和剤	銅+その他	1000	収穫14日前まで	2				●							

適用作物名：ブロッコリー（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	モンシロチョウ（アオムシ）	コナガ	ヨトウムシ類	ウワバ類	カブラヤガ、タマナヤガ（ネキリムシ）	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類
ネキリエースK	有機リン系	3kg/10a	定植時～生育初期(但し、収穫14日前まで)	4									●		
ネビジン粉剤	土壌殺菌	20～30kg/10a	は種又は定植前	1	●										
ネビリュウ	土壌殺菌剤	20～30kg/10a	定植前	1	●										
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	2					●						
ハウサップ水和剤	ピレスロイド系＋有機リン系	2000	収穫30日前まで	3				●							
バイオキパー水和剤	生物農薬	500～1000	発病前～発病初期	-			●								
バダンSG水溶性	ネライストキシ系	1500	収穫7日前まで	4					●						
ファルコンフロアブル	昆虫成長制御	4000	収穫3日前まで	2						●					
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫前日まで	2										●	
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000～4000	収穫前日まで	2					●	●					
フォリオゴールド	酸アミド系＋その他	1000	出蕾前(但し、収穫21日前まで)	2	●										
フロンサイドSC	その他	500ミリリットル/10a	定植前	1	●										
フロンサイド粉剤	その他	30～40kg/10a	は種又は定植前	1	●										
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫7日前まで	2					●	●					
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	100	育苗期後半～定植当日	1					●	●	●				
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	3					●	●	●			●	
ブレバソ粒剤	ジアミド系	1g/株	育苗期後半～定植時	1					●						
ブレバソ粒剤	ジアミド系	50g	育苗期後半～定植当日	1					●					●	
ベジキパー水和剤	生物農薬	1000	発病前～発病初期	-		●									
マッチ乳剤	昆虫成長制御	3000	収穫7日前まで	3							●				
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	1000～2000	収穫前日まで	3							●				
モスピラン水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫14日前まで	3						●					●
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5～1g/株	定植前日～定植当日	1						●					
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1						●					●
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	1～2g/株	定植時	1						●					
モスピラン顆粒水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫14日前まで	3						●					●
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫前日まで	4	●	●									
ライメイフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	4	●										
ランネット45DF	カーバメート系	1000	収穫7日前まで	2							●				
ランネット45DF	カーバメート系	1000～2000	収穫7日前まで	2											●
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	3	●										
ランマンフロアブル	その他	500	定植前日～当日	1	●										
レーバスフロアブル	酸アミド系	2000	収穫14日前まで	2	●										

適用作物名：ほうれんそう

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	立枯病	アブラムシ類	ヨトウムシ類	ミナミキイロアザミウマ	ハダニ類	ヨトウムシ類	タネバエ	コナダニ類
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-			●						
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1			●						
アクタラ顆粒水溶性	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	2			●						
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫21日前まで	5				●					
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫21日前まで	5				●					
アデオン乳剤	ピレスロイド系	3000	収穫21日前まで	2			●						
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	4kg/10a	は種時	1			●						
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	2			●						
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	10000	収穫前日まで	2			●						
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫3日前まで	2				●					●
アリエッティ水和剤	有機リン系	1500	収穫前日まで	2	●								
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫21日前まで	1				●					
オンコル粒剤5	カーバメート系	3kg/10a	は種時	1			●						
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫3日前まで	3				●					
カルホス微粒剤F	有機リン系	6kg/10a	は種時	1									●

適用作物名：ほうれんそう（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	立枯病	アブラムシ類	ヨトウムシ類	ミナミキイロアザミウマ	ハダニ類	ヨトウムシ類	タネバエ	コナダニ類
カルホス粉剤	有機リン系	4kg/10a	は種時	1								●	
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	30kg/10a	は種21日前まで	1	●								●
コサイド3000	銅	1000	-	-	●								
コサイドボルドー	銅	1000	-	-	●								
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1			●						
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1			●						
アルバリン顆粒水溶液	ネオニコチノイド系	3000	収穫3日前まで	2			●						
スタークル顆粒水溶液	ネオニコチノイド系	3000	収穫3日前まで	2			●						
タチガレン液剤	土壌殺菌	500～1000(3リットル/平方メートル)	は種直後	1	●								
タチガレン粉剤	土壌殺菌	40kg/10a	は種3日前～直前	1	●								
ダイアジノン粒剤10	有機リン系	3～5kg/10a	は種時	1									●
ダイアジノン粒剤5	有機リン系	6kg/10a	は種時	1									●
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	30kg/10a	は種21日前まで	1									●
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20～30kg/10a	は種10日前まで(地温20℃以上)	1	●								
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	30kg/10a	は種21日前まで	1									●
ダニトロンフロアブル	殺ダニ	2000	収穫21日前まで	1						●			
ネマモール粒剤30	殺線虫	30kg/10a	は種前まで	1									●
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	2				●					
バダンSG水溶液	ネライストキシ系	1500	収穫7日前まで	2					●				
マラソン乳剤	有機リン系	2000～3000	収穫14日前まで	4			●						
モスピラン水溶液	ネオニコチノイド系	8000	収穫14日前まで	2			●						
モスピラン顆粒水溶液	ネオニコチノイド系	8000	収穫14日前まで	2			●						
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫14日前まで	4	●								
ライメイフロアブル	その他	2000～4000	収穫7日前まで	2	●								
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	3	●								
リドミル粒剤2	酸アミド系	9kg/10a	は種時	1	●								
レーバフロアブル	酸アミド系	2000	収穫3日前まで	2	●								
粘着くん液剤	天然物	100	収穫前日まで	-						●			

適用作物名：たまねぎ

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	白色疫病	灰色疫病	黒斑病	苗立枯病	さび病	腐敗病	軟腐病	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネダニ
アグリマイシン-100	抗生物質+抗生物質	1000	収穫7日前まで	5								●			
アグロスリン水和剤	ピレスロイド系	2000	収穫7日前まで	5									●		
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫7日前まで	5									●		
アタッキン水和剤	抗生物質+ベンゾイミダゾール系	800	収穫7日前まで	5		●						●			
アディオン乳剤	ピレスロイド系	3000	収穫7日前まで	5									●		
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000～10000	収穫14日前まで	2									●		
アフェットフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	4			●								
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	4	●		●								
TD粒剤	有機リン系	4kg/10a	は種又は定植時	1											●
ダイシストン粒剤	有機リン系	4kg/10a	は種又は定植時	1											●
オーソサイド水和剤80	その他	600	収穫前日まで	5	●										
オルトラン水和剤	有機リン系	1000	収穫21日前まで	5									●		
オンリーワンフロアブル	ステロール生合成阻害	1000	収穫前日まで	3			●								
カーゼートPZ水和剤	その他+有機硫黄	1000	収穫3日前まで	3	●	●									
カスミンボルドー	抗生物質+銅	1000	収穫14日前まで	5								●			
カッパーシン水和剤	抗生物質+銅	1000	収穫14日前まで	5								●			
カセット水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫14日前まで	5								●			
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000	収穫前日まで	3			●								
ジェイエース水溶液	有機リン系	1000	収穫21日前まで	5									●		
ジマンダイセン水和剤	有機硫黄	400～500	収穫3日前まで	5	●										

適用作物名：たまねぎ（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	白色疫病	灰色腐敗病	黒斑病	苗立枯病	さび病	腐敗病	軟腐病	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネダニ
ジマンダイセン水和剤	有機硫黄	400～600	収穫3日前まで	5	●		●	●	●						
スターナ水和剤	その他	1000	収穫7日前まで	5								●			
アグレプト液剤	抗生物質	1000	収穫7日前まで	5								●			
アグレプト水和剤	抗生物質	1000	収穫7日前まで	5								●			
マイシン20水和剤	抗生物質	1000	収穫7日前まで	5								●			
マイシン水和剤	抗生物質	1000	収穫7日前まで	5								●			
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫14日前まで	3			●								
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫前日まで	5			●								
セイビアーフロアブル20	その他	1500	収穫前日まで	3			●								
セイビアーフロアブル20	その他	500	定植直前(5分間セル苗浸漬)	1			●								
セイビアーフロアブル20	その他	500～1000	定植直前(5分間苗根浸漬)	1			●								
ダイアジノン乳剤40	有機リン系	1000	収穫21日前まで	2										●	
ダコニール1000	その他	1000	収穫7日前まで	6	●										
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20～40kg/10a	は種又は定植21日前まで	1					●						
トクチオン乳剤	有機リン系	1000	収穫7日前まで	4										●	
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	500	定植直前(5分間苗根浸漬)	1			●								
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	500～1000	収穫前日まで	6(定植後は5回以内)			●								
バイオキパー水和剤	生物農薬	1000	発病前～発病初期	-								●			
バリダシン液剤5	抗生物質	500	収穫3日前まで	5							●	●			
ピリープ水和剤	ピレスロイド系+昆虫成長制御	1500	収穫7日前まで	3										●	
ファンタジスタ顆粒水和剤	その他(Qol剤)	2000	収穫前日まで	5			●								
フェスティバルC水和剤	その他+銅	600～800	収穫7日前まで	3	●	●									
フェスティバルM水和剤	その他+有機硫黄	1000	収穫7日前まで	3	●										
フェスティバルM水和剤	その他+有機硫黄	750～1000	収穫7日前まで	3	●										
フロンサイド水和剤	その他	1000	収穫7日前まで	5		●									
フロンサイド水和剤	その他	1000～2000	収穫7日前まで	5	●		●								
プロポーズ顆粒水和剤	その他	1000	収穫7日前まで	3	●	●									
ベトファイター顆粒水和剤	その他	2000	収穫7日前まで	3	●	●									
ベルコートフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	5			●								
ベルコート水和剤	その他	1000	収穫前日まで	5			●								
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000～3000	収穫前日まで	6			●								
ベンコゼブ水和剤	有機硫黄	400～600	収穫3日前まで	5	●			●							
ホライズンドライフロアブル	その他+ストロビルリン系	2500	収穫3日前まで	3	●	●									
マブリックEW	ピレスロイド系	3000	収穫7日前まで	2										●	
マブリック水和剤20	ピレスロイド系	2000	収穫7日前まで	2										●	
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	4	●	●									
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	500～750	収穫7日前まで	3	●	●									
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000	収穫7日前まで	3	●	●									
リドミル銅水和剤	酸アミド系+銅	400～600	収穫7日前まで	3	●										
レーバスフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	2	●	●									
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000	収穫7日前まで	3			●	●							
コサイドボルドー	銅	所定濃度(1000)	-	-									●		
コサイド3000	銅	所定濃度(1000～2000)	-	-									●		
コサイドDF	銅	所定濃度(1000)	-	-									●		
ドイツボルドーA	銅	所定濃度(500)	-	-	●								●		

適用作物名：にんじん

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	黒葉枯病	うどんこ病	苗核病	根腐病	軟腐病	斑点細菌	アブラムシ類	キアゲハ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	ネキリムシ類	ネグサレセンチュウ
フォース粒剤	ピレスロイド系	4～12kg/10a(全面土壌混和)	は種時	1											●	
ダイアジノン粒剤5	有機リン系	6kg/10a(全面土壌混和)	は種前	1											●	
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	10000	収穫3日前まで	2							●					
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2							●					
D-D	殺線虫	15～20リットル/10a	作付の10～15日前まで	1												●

適用作物名：にんじん（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	黒葉枯病	うどんこ病	菌核病	根腐病	軟腐病	斑点細菌	アブラムシ類	キアゲハ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	ネキリムシ類	ネグサレセンチュウ
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	3										●		
アミスターオプティフロアブル	ストロビルリン系+有機塩素系	1000	収穫21日前まで	2	●		●									
アリエッティ水和剤	有機リン系	800	収穫7日前まで	3	●											
カスミンボルドー	抗生物質+無キ銅	1000	収穫14日前まで	2	●				●	●						
カップーシン水和剤	抗生物質+無キ銅	1000	収穫14日前まで	2	●				●	●						
ガードベイトA	ピレスロイド系	3kg/10a	生育初期(但し、収穫7日前まで)	5											●	
キノドーフロアブル	銅	600~800	収穫3日前まで	5	●											
コサイド3000	無機銅	500~1000	-	-	●											
スターナ水和剤	キノロン系	1000	収穫7日前まで	3					●	●						
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	2000~3000	収穫7日前まで	3	●											
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン系	5000	収穫3日前まで	3										●		
ゼンターリ顆粒水和剤(野菜類登録)	生物農薬(BT)	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●			
ダコニール1000	有機塩素	1000	収穫7日前まで	5	●											
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1				●								●
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1				●								●
トリフミン水和剤	EBI系	3000	収穫前日まで	3		●										
ネマキック粒剤	殺線虫	15~20kg/10a	は種前	1												●
ネマトリンエース粒剤	殺線虫	20kg/10a	は種前	1												●
バイデットL粒剤	カーバメート系	20~50kg/10a	は種前	1												●
ベルコートフロアブル	グアニジン系	1000	収穫14日前まで	5	●	●	●									
ベルコート水和剤	グアニジン系	500~1000	収穫14日前まで	5	●											
ベルコート水和剤	グアニジン系	1000	収穫14日前まで	5			●									
マラソン乳剤	有機リン系	2000~3000	収穫14日前まで	4							●					
ヨネボン水和剤	有機銅	500	収穫7日前まで	4	●	●										
ラービフロアブル	カーバメート系	1000	収穫3日前まで	2										●		
ランダイヤ粒剤	有機リン系+カーバメート系	6kg/10a(全面土壌混和)	は種前	1												●
リゾレックス粉剤	有機リン系	20~40kg/10a(全面土壌混和)	は種前	1				●								
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000~1500	収穫14日前まで	4	●											
コサイドボルドー	無機銅	所定濃度(1000)	-	-	●											
コサイドDF	無機銅	所定濃度(1000)	-	-	●											
マラソン乳剤	有機リン系	2000~3000	収穫14日前まで	4							●	●				
スマレック水和剤	ジカルボキシイミド系	1500	収穫30日前まで	1			●									
Zボルドー	無機銅	500~800	-	-	●											

適用作物名：さやえんどう

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	うどんこ病	灰色かび病	立枯病	根腐病	ウラナミシジミ	ハスモンヨトウ	シロイモヨトウ	アブラムシ類	ナモグリバエ
アタブロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2								●	
アデオン乳剤	ピレスロイド系	3000	収穫前日まで	3						●	●	●	●
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫3日前まで	2								●	
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	3		●							
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2									●
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	2								●	
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000	収穫前日まで	2		●							
クロールピクリン	くん蒸	2~3ミリリットル/1穴	-	1			●						
クロピク80	くん蒸	2~3ミリリットル/1穴	-	1			●						
クロピクテープ	くん蒸	110m/100平方メートル	-	1			●						
ドジョウピクリン	くん蒸	2~3ミリリットル/1穴	-	1			●						
ドロクロール	くん蒸	2~3ミリリットル/1穴	-	1			●						
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500	収穫前日まで	3		●							
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2								●	
サブロール乳剤	ステロール生合成阻害	1500	収穫前日まで	3	●								
サンヨール	銅	500	収穫前日まで	4	●	●							
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	9kg/10a	生育期(但し、収穫14日前まで)	1									●
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	9kg/10a	生育期(但し、収穫14日前まで)	1									●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2								●	●
セイビアーフロアブル20	その他	1000	収穫前日まで	3	●								

適用作物名：さやえんどう（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	うどんこ病	灰色かび病	立枯病	根腐病	ウラナミシジミ	ハスモンヨトウ、シロイモトウ	アブラムシ類	ナモグリバエ
ダイアジノン乳剤40	有機リン系	1000	収穫開始14日前まで	3								●
トリフミンジェット	ステロール生合成阻害	50g/400立方メートル	収穫前日まで	5	●							
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	3000~5000	収穫前日まで	5	●							
トレボンEW	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	2							●	
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	2					●	●		
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2							●	
ハチハチフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	2	●							
ハチハチフロアブル	その他	1000~2000	収穫前日まで	2								●
パダンSG水溶剤	ネライストキシン系	1500	収穫前日まで	3					●			
パダンSG水溶剤	ネライストキシン系	1500~3000	収穫前日まで	3								●
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	2						●		
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3						●		
マラソン乳剤	有機リン系	2000~3000	収穫7日前まで	3								●
マラソン粉剤1.5	有機リン系	3kg/10a	収穫7日前まで	3								●
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3								●
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	3								●
ラリー水和剤	ステロール生合成阻害	4000~8000	収穫前日まで	3	●							
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1500	収穫前日まで	3		●						

適用作物名：だいこん

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	黒斑細菌病	軟腐病	白さび病	萎黄病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	カブラヤガ、タマナヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	キスジノミハムシ	センチュウ類
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●					
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●						
トアローフロアブルCT	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●						
バシレックス水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●	●						
バシレックス水和剤	生物農薬	所定濃度(500)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-								●					
テロン	殺線虫	15~20リットル/10a	作付の10~15日前まで	1													●
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	4kg/10a	は種時	1													●
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2													●
アタプロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫14日前まで	3							●	●					●
アデオン乳剤	ピレスロイド系	2000~3000	収穫30日前まで	4													●
アドバンテージ粒剤	カーバメート系	3~6kg/10a	は種時	1													●
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	3~6kg/10a	は種時	1													●
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4000	収穫14日前まで	2													●
アニキ乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫3日前まで	3										●			
アフーム乳剤	マクロライド系	1000~2000	収穫7日前まで	3						●	●						
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫14日前まで	3				●									
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	2													●
TD粒剤	有機リン系	4kg/10a	は種又は定植時	1													●
ダイシストン粒剤	有機リン系	4kg/10a	は種又は定植時	1													●
エルサン乳剤	有機リン系	1000	収穫30日前まで	2						●	●	●		●	●	●	
オルトラン水和剤	有機リン系	1500	収穫14日前まで	2						●	●	●					●
オンコル粒剤5	カーバメート系	3~6kg/10a	は種時	1						●							●
カッパーシン水和剤	抗生物質+銅	1000	収穫14日前まで	3		●	●										
カスケード乳剤	昆虫成長制御	2000~4000	収穫14日前まで	3						●	●			●			
カセット水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫21日前まで	3		●	●										
ガードベイトA	ピレスロイド系	3kg/10a	は種時~生育初期	4									●				
ガゼット粒剤	カーバメート系	6kg/10a	は種後	1							●						●
クロールピクリン	くん蒸	2~3ミリリットル/穴	-	1					●								
コテツフロアブル	その他	2000	収穫14日前まで	2							●						
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1500	収穫14日前まで	2						●	●	●		●	●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	4~6kg/10a	は種時	1													●
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1													●
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	生育期(但し、収穫30日前まで)	1													●
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	4~6kg/10a	は種時	1													●
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1													●

適用作物名：だいこん（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	黒斑細菌病	軟腐病	白さび病	萎黄病	モンシロチョウ(アオムシ)	コナガ	ヨトウムシ類	カブラヤガ、タマネヤガ(ネキリムシ)	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	キスジノミハムシ	センチュウ類
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	生育期(但し、収穫30日前まで)	1													●
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫7日前まで	2													●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫7日前まで	2													●
スターナ水和剤	その他	1000	収穫14日前まで	5			●										
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫7日前まで	3						●	●						
ソイリーン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10~15日前	1													●
ダイアジノン粒剤5	有機リン系	6kg/10a	は種時及び生育期(但し、収穫21日前まで)	2(生育期は1回以内)													●
ダコニール1000	その他	1000	収穫45日前まで	3			●										
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種21日前まで	1					●								
バスマミド微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	は種21日前まで	1					●								
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫7日前まで	2												●	
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1												●	
ディトラベックス油剤	くん蒸+殺線虫	20~30リットル/10a(2~3リットル/穴)	は種又は植付けの21日前まで	1													●
デナボン5%ベイト	カーバメート系	3~6kg/10a	収穫30日前まで	4									●				
デランK	その他+銅	500	収穫30日前まで	3			●										
トラベックス油剤	くん蒸	20~40リットル/10a(2~4リットル/穴)	は種又は植付けの21日前まで	1													●
トルネードフロアブル	その他	1000~2000	収穫21日前まで	2						●	●						
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫21日前まで	2								●					
ネキリエースK	有機リン系	3kg/10a	は種時又は定植時	1									●				
ネマキック粒剤	殺線虫	15~20kg/10a	は種前	1													●
ネマトリンエース粒剤	殺線虫	20~25kg/10a	は種前	1													●
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫21日前まで	2						●	●	●					
ハクサップ水和剤	ピレスロイド系+有機リン系	2000	収穫35日前まで	3								●					
バイオキパー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-			●										
パダンSG水溶剤	ネライストキン系	1500	収穫7日前まで	3						●	●						
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫7日前まで	2												●	
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000~4000	収穫7日前まで	2							●						
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫14日前まで	2						●	●	●					
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	1000~2000	収穫7日前まで	3												●	
マッチ乳剤	昆虫成長制御	3000	収穫14日前まで	3						●	●						
マテリーナ水和剤	その他+抗生物質	1000	収穫30日前まで	2			●										
マブリック水和剤20	ピレスロイド系	2000	収穫14日前まで	2								●					
マブリック水和剤20	ピレスロイド系	4000	収穫14日前まで	2												●	
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫14日前まで	1							●						●
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	3kg/10a	は種時	1							●					●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫14日前まで	1							●						●
ユニフォーム粒剤	ストロビルリン系+酸アミド系	9kg/10a	は種時	1				●									
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫7日前まで	4			●	●									
ライメイフロアブル	その他	2000~4000	収穫7日前まで	4				●									
ラグビーMC粒剤	殺線虫	10~30kg/10a	は種前	1													●
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20kg/10a	は種前	1													●
ラグビーMC粒剤	殺線虫	30kg/10a	は種前	1													●
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	3				●									
リドミル粒剤2	酸アミド系	9kg/10a	は種時	1				●									
Zボルドー	銅	所定濃度(500)	-	-			●	●									
サンボルドー	銅	所定濃度(300~600)	-	-			●										
コサイドボルドー	銅	所定濃度(1000)	-	-			●										

適用作物名：ねぎ



薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	黒斑病	さび病	苗立枯病	白絹病	軟腐病	ネギコガ	シロイテモジヨトウ	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネダニ
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●		
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●		
フローバックDF	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-									●		
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	6kg/10a	植付時	1										●	
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	3										●	●

適用作物名：ねぎ（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	へと病	黒斑病	さび病	苗立枯病	白絹病	軟腐病	ネギコガ	シロイテモシヨトウ	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネダニ
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫7日前まで	5								●			
アグロスリン乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫7日前まで	5							●		●		
アタブロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫21日前まで	3								●	●		
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	4kg/10a	定植時	1									●		
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	200	定植前日～定植時	1										●	
アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫14日前まで	2									●		
アフーム乳剤	マクロライド系	1000～2000	収穫7日前まで	3								●			
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫3日前まで	4	●	●	●								
アリエッティ水和剤	有機リン系	800	収穫3日前まで	3	●										
TD粒剤	有機リン系	3kg/10a	は種又は定植時	1										●	●
ダイシストン粒剤	有機リン系	3kg/10a	は種又は定植時	1										●	●
オリゼート粒剤	その他	6kg/10a	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	2						●					
オンコルマイクロカプセル	カーバメート系	1000	収穫14日前まで	1									●		
オンコル粒剤5	カーバメート系	3～6kg/10a	定植時又は生育期(但し、収穫45日前まで)	1							●		●	●	
オンリーワンフロアブル	ステロール生合成阻害	1000	収穫14日前まで	3			●								
カスミンボルドー	抗生物質+銅	1000	収穫14日前まで	2						●					
カッパーシン水和剤	抗生物質+銅	1000	収穫14日前まで	2						●					
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫14日前まで	3								●			
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20～30kg/10a	は種又は定植14日前まで	1				●							
キルバー	くん蒸	原液として60リットル/10a	は種又は定植の10～24日前まで	1					●						
クロビクテープ	くん蒸	110m/100平方メートル	-	1					●						
グランドオンコル粒剤	カーバメート系	3kg/10a	生育期(但し、収穫45日前まで)	1									●		
コテツフロアブル	その他	2000	収穫7日前まで	2								●			
サーガ水和剤	その他+有機硫黄	500	収穫30日前まで	3		●	●								
サブロール乳剤	ステロール生合成阻害	800～1000	収穫7日前まで	5			●								
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1									●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2									●		
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	定植時	1									●	●	
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド系	9kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2									●	●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1									●		
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2									●		
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	定植時	1									●	●	
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	9kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2									●		
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	2									●		
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	400	生育期(但し、収穫14日前まで)	1									●	●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50	定植前日～定植時	1									●	●	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫3日前まで	2									●		
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	400	生育期(但し、収穫14日前まで)	1									●	●	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	50	定植前日～定植時	1									●	●	
ジメエート粒剤	有機リン系	6kg/10a	移植前～収穫30日前まで	3										●	●
スターナ水和剤	その他	2000	収穫7日前まで	3						●					
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫7日前まで	3		●	●								
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫3日前まで	3								●			
スミチオン乳剤	有機リン系	1000	収穫21日前まで	2							●		●		
ソイリーン	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a	作付の10～15日前	1							●				
ダイアジノン乳剤40	有機リン系	1000	収穫21日前まで	2										●	
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20～30kg/10a	は種又は定植14日前まで	1				●							
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫3日前まで	4									●		
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	3～6kg/10a	露地収穫21日前まで	2									●		
ダントツ粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	露地植付時	1										●	
テーク水和剤	ステロール生合成阻害+有機硫黄	600	収穫14日前まで	3	●	●	●								
ディアナSC	マクロライド系	2500	収穫前日まで	2									●		
ディアナSC	マクロライド系	2500～5000	収穫前日まで	2									●	●	
トルネードフロアブル	その他	1000	収穫14日前まで	2									●		
トレボン乳剤	ピレスロイド系	1000	収穫21日前まで	2									●		
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	2									●		
バイオキーパー水和剤	生物農薬	1000～2000	発病前～発病初期	-						●					
バリダシン液剤5	抗生物質	500	収穫14日前まで	1						●					
ファルコンフロアブル	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	2									●		
フェスティバルC水和剤	その他+銅	1000	収穫14日前まで	3	●										
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫7日前まで	3							●				
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000～4000	収穫7日前まで	3								●			
フロンサイド粉剤	その他	15kg/10a	土寄せ時(但し、収穫21日前まで)	2											
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫3日前まで	4								●	●		
ブレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫3日前まで	3								●			
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	5g/培土リットル	は種時	1										●	
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	収穫前日まで(株元処理)	3										●	
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	定植時	1									●	●	
ベルコート水和剤	その他	2000	収穫30日前まで	3		●									
マッチ乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫7日前まで	3								●			

適用作物名：ねぎ（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	べと病	黒斑病	さび病	苗立枯病	白絹病	軟腐病	ネギコガ	シロイチモシヨトウ	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネダニ
マトリックフロアブル	昆虫成長制御	1000~2000	収穫7日前まで	3								●			
ベンコゼブフロアブル	有機硫黄	600	収穫14日前まで	3	●	●	●								
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	3									●		
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	6kg/10a	は種時	1									●	●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	3									●		
モンカットファイン粉剤20DL	酸アミド系	10~15kg/10a	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	3					●						
モンカット粒剤	酸アミド系	4~6kg/10a	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	3					●						
モンガリット粒剤	ステロール生合成阻害	4~6kg/10a	土寄せ時(但し、収穫14日前まで)	3					●						
ヨネボン水和剤	銅	500	収穫7日前まで	4						●					
ラービフロアブル	カーバメート系	750~1000	収穫21日前まで	2								●			
ラー水水和剤	ステロール生合成阻害	2000	収穫7日前まで	3			●								
ラー乳剤	ステロール生合成阻害	4000	収穫14日前まで	3			●								
ランマンフロアブル	その他	2000	収穫3日前まで	4	●										
リゾレックス粉剤	有機リン系	20~30kg/10a	土寄せ前(但し、収穫14日前まで)	3					●						
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000	収穫30日前まで	3	●										
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000	収穫30日前まで	3	●										
レーバフロアブル	酸アミド系	2000	収穫7日前まで	2	●										
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000~1500	収穫14日前まで	3		●									
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	500~1000/リットル/1平方メートル	収穫14日前まで	3					●						
ドイツボルドーA	銅	所定濃度(500)	-	-						●					
コサイドDF	銅	所定濃度(1000)	-	-						●					

適用作物名：アスパラガス

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	茎枯病	斑点病	褐斑病	軟腐病	立枯病	ヨトウムシ類	アブラムシ類	タバココナジラミ	オオタバコガ	ハダニ類	アザミウマ類
ゼンターリ顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●			●		
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	所定濃度(1000)	発生初期(但し、収穫前日まで)	-						●			●		
アーデント水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	2									●		
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	3											●
アディオフロアブル	ピレスロイド系	1500	収穫前日まで	3						●					
アディオ乳剤	ピレスロイド系	2000	収穫前日まで	3						●					
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	5000	収穫前日まで	2											●
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	2						●			●		
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	4	●	●	●								
ウララDF	その他	2000	収穫前日まで	3							●				
オレート液剤	その他	100	発生初期~収穫前日まで	-								●			
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	2						●					
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2									●	●	
コロマイト乳剤	マクロライド系	1000	収穫前日まで	2											●
シトラノフロアブル	その他+銅	1000~1200	収穫3日前まで	3	●	●	●								
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3								●			●
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3								●			●
スターナ水和剤	その他	2000	収穫前日まで	2				●							
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	3		●									
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫前日まで	2											●
ダコニール1000	その他	1000	収穫前日まで	3	●	●	●								
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫前日まで	3							●				●
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	1000	収穫7日前まで	5	●				●						
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	1000(3リットル/平方メートル灌注)	収穫開始7日前まで	1					●						
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2						●					
ハチハチフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	2								●			●
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000	収穫前日まで	2									●		
ブレオフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	2						●			●		
ベルコート水和剤	その他	1000	収穫7日前まで	5	●	●	●								
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000	収穫前日まで	4	●										

適用作物名：アスパラガス（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	茎枯病	斑点病	褐斑病	軟腐病	立枯病	ヨトウムシ類	アブラムシ類	タバココナジラミ	オオタバコガ	ハダニ類	アザミウマ類
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	2							●				●
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4000	収穫前日まで	2							●				●
ロブラー水溶剤	ジカルボキシイミド系	2000	収穫前日まで	5	●										
コサイド3000	銅	所定濃度(2000)	所定期間(-)	-	●	●	●								
粘着くん液剤	天然物	100	収穫前日まで	-											●
Zボルドー	銅	500	-	-	●	●									

適用作物名：いちご

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	萎黄病	じやのめ病	輪斑病	芽枯病	疫病	アブラムシ類	コガネムシ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	イチゴメセンチュウ、イチゴセンチュウ	ミカンキイロアザミウマ	センチュウ類	アザミウマ類
アーデント水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫前日まで	4								●				●				●
アカリタツチ乳剤	脂肪酸	1000~3000	収穫前日まで	-													●			
アカリタツチ乳剤	脂肪酸	2000	収穫前日まで	-	●															
アクタラ粒剤5	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	2									●							
アタフロン乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	3											●					●
アデオン乳剤	ピレスロイド系	3000	収穫前日まで	5									●							
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	育苗期後半	1									●							
アドマイヤー1粒剤	ネオニコチノイド系	0.5g/株	定植時	1									●							
アフーム乳剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	2											●	●				
アフエットフロアブル	酸アミド系	2000	収穫前日まで	3	●	●														
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	1500	収穫前日まで	苗床は4回以内		●														
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	1500~2000	収穫前日まで	苗床は4回以内	●															
アミスター20フロアブル	ストロビルリン系	2000	収穫前日まで	苗床は4回以内			●													
アントラコール顆粒水和剤	有機硫黄	500	仮植栽培期	6			●													
インプレッション水和剤	生物農薬	2000	発病前~発病初期まで	-	●															
ウララDF	その他	2000~4000	収穫前日まで	2								●								
エコピタ液剤	物理的作用効果を有する殺虫剤	100	収穫前日まで	-								●								
オーソサイド水和剤80	その他	800	収穫30日前まで	3		●														
オラクル顆粒水和剤	その他	2000~3000	育苗期	3								●								
オレート液剤	その他	100	発病初期~収穫前日まで	-	●															
カウンター乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	4											●					●
カスケード乳剤	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	3											●					
カネマイトフロアブル	殺ダニ	1000~1500	収穫前日まで	1													●			
カリグリーン	無機	800~1000	収穫前日まで	-	●															
カンタスドライフロアブル	酸アミド系	1000~1500	収穫前日まで	3		●														
クリーンカップ	生物農薬+銅	1000~2000	収穫前日まで	-	●															
クロールピクリン	くん蒸	2~3リットル/穴	-	1				●												
クロピクテープ	くん蒸	110m/100平方メートル	-	1				●												
クロピクフロー	くん蒸	20~30リットル/10a	-	1				●												
クロピクフロー	くん蒸	20リットル/10a	-	1																●
クロピク80	くん蒸	2~3リットル/穴	-	1				●												
ドジョウピクリン	くん蒸	2~3リットル/穴	-	1				●												
ドロクロール	くん蒸	2~3リットル/穴	-	1				●												
クロルピクリン錠剤	くん蒸	1錠/1穴	-	1				●												
ゲッター水和剤	ベンゾイミダゾール系	1000	収穫開始21日前まで	3			●													
コテツフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2													●	●		●
コルト顆粒水和剤	その他	3000~4000	収穫前日まで	3									●							
コロマイト水和剤	マクロライド系	2000	収穫前日まで	2													●			
サブロール乳剤	ステロール生合成阻害	2000	収穫前日まで	5	●															
サルファグレン	無機	0.10g/立方メートル	-	-	●															
サンクリスタル乳剤	天然物	300~600	収穫前日まで	-	●															
サンマイトフロアブル	殺ダニ	1000	収穫前日まで	1													●			
サンマイトフロアブル	殺ダニ	1000~1500	収穫前日まで	1								●								
サンヨール	銅	500	収穫前日まで	6	●															
サンヨール	銅	500~1000	収穫前日まで	6	●															
サンヨール	銅	800	定植前(5分間苗浸漬)	1	●															
サンリット水和剤	ステロール生合成阻害	2000~4000	収穫前日まで	3	●															
ジーファイン水和剤	無機+銅	1000	収穫前日まで	-	●															
アルパリン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5~1g/株	定植時	1									●							
スタークル粒剤	ネオニコチノイド系	0.5~1g/株	定植時	1									●							

適用作物名：いちご（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	萎黄病	じやのめ病	輪斑病	芽枯病	疫病	アブラムシ類	コガネムシ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	イチゴゴメセンチュウ、イチゴセンチュウ	ミカンキイロアザミウマ	センチュウ類	アザミウマ類
ジマンダイセン水和剤	有機硫黄	600	仮植栽培期(但し、収穫76日前まで)	6			●		●											
ジャストミート顆粒水和剤	酸アミド系	2000~3000	収穫前日まで	3		●														
スコア顆粒水和剤	ステロール生合成阻害	2000	収穫前日まで	3	●															
スターマイトフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	2												●				
ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	3000~5000	収穫前日まで	3	●															
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド系	5000	収穫前日まで	2																●
スミレックスくん煙顆粒	ジカルボキシイミド系	6g/100立方メートル	収穫前日まで	3		●														
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド系	2000	収穫前日まで	3		●														
セイビアフロアブル20	その他	1000	収穫前日まで	3			●													
セイビアフロアブル20	その他	1000~1500	収穫前日まで	3		●														
ダイアジノンSLゾル	有機リン系	25	定植前(本圃)	1									●							
ダイアジノンSLゾル	有機リン系	500	ポット育苗時	1									●							
ダイマジン	酸アミド系+その他	2000	収穫前日まで	2	●	●														
ガスタード微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	仮植又は定植21日前まで	1			●	●												
バスアミド微粒剤	土壌殺菌	20~30kg/10a	仮植又は定植21日前まで	1			●	●												
ダニサラバフロアブル	殺ダニ	1000	収穫前日まで	2												●				
ダニトロンフロアブル	殺ダニ	1000~2000	収穫前日まで	1												●				
ダブルストッパー	くん蒸+殺線虫	30リットル/10a(1穴あたり3ミリリットル)	作付の10~15日前	1				●												
チェス顆粒水和剤	その他	5000	収穫前日まで	3								●								
ディアナSC	マクロライド系	2500~5000	収穫前日まで	2										●						●
ディアナSC	マクロライド系	2500~5000	収穫前日まで	2															●	
デランフロアブル	その他	1000	育苗期	2			●													
デルフィン顆粒水和剤	生物農薬	1000	発生初期(但し、収穫前日まで)	-										●						
トリフミンジェット	ステロール生合成阻害	50g/400立方メートル	収穫前日まで	5	●															
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	3000	収穫前日まで	5						●										
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	3000~5000	収穫前日まで	5	●															
トルネードフロアブル	その他	2000	収穫前日まで	2										●						
ニツラン水和剤	殺ダニ	2000~3000	収穫前日まで	2												●				
ネマキック粒剤	殺線虫	15~20kg/10a	定植前	1																●
ネマトリンエース粒剤	殺線虫	20~25kg/10a	定植前	1																●
ノーモルト乳剤	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2										●						
ハーベストオイル	天然物	200	-	-	●															
ハーモメイト水溶剤	無機	800	収穫前日まで	-		●														
ハーモメイト水溶剤	無機	800~1000	収穫前日まで	-		●														
バリアード顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫前日まで	3									●							
バリアジン液剤5	抗生物質	1000	収穫14日前まで	3						●										
バロックフロアブル	殺ダニ	2000	収穫前日まで	1												●				
パンチョTFジェット	酸アミド系+ステロール生合成阻害	50g/400立方メートル	収穫前日まで	2	●															
パンチョTF顆粒水和剤	酸アミド系+ステロール生合成阻害	2000	収穫前日まで	2	●															
ピラニカEW	殺ダニ	2000~3000	収穫前日まで	2												●				
ファルコンフロアブル	昆虫成長制御	4000	収穫前日まで	3											●					
ファンタジスタ顆粒水和剤	その他(QoI剤)	2000~3000	収穫前日まで	3		●														
フェニックスジェット	ジアミド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	2											●					
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	2000~4000	収穫前日まで	2											●					
フルピカくん煙剤	アニリノピリミジン系	50g/500立方メートル	収穫前日まで	3	●	●														
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン系	2000~3000	収穫前日まで	3	●	●														
プレオフロアブル	その他	1000	収穫前日まで	4											●					
プレバソフロアブル5	ジアミド系	2000	収穫前日まで	2											●					
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3									●							
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	1g/株	定植時	1									●							
プレオフロアブル	その他	1000	育苗期(定植前)	5	●	●														
プレバソフロアブル5	ジアミド系	4000	収穫前日まで(生育期)	2	●															
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	500(3リットル/平方メートル)	仮植時及び仮植栽培期間	3回以内(定植後は1回以内)					●											
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド系	500(3リットル/平方メートル)	仮植時又は本圃定植後(但し、収穫30日前まで)	3回以内(定植後は1回以内)					●											
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	500(100ミリリットル/1株)	ポット育苗期間	3			●	●												
ベンコゼブ水和剤	有機硫黄	600	仮植栽培期(但し、収穫76日前まで)	6			●													
ポトキラー水和剤	生物農薬	1000	発病前~発病初期	-		●	●													
ポトピカ水和剤	生物農薬	2000~4000	発病前~発病初期まで	-		●														
ポリオキシンAL水和剤	抗生物質	1000	収穫開始14日前まで	3	●	●														
ポリオキシンAL乳剤	抗生物質	1000	収穫開始14日前まで	3	●															
マイトコーネフロアブル	殺ダニ	1000	収穫前日まで	2												●				
マッチ乳剤	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	4																●
マッチ乳剤	昆虫成長制御	1000~2000	収穫前日まで	4																●
マブリックジェット	ピレスロイド系	20g/400立方メートル	収穫前日まで	2											●					
マブリック水和剤20	ピレスロイド系	8000	収穫前日まで	2									●							
マラソン乳剤	有機リン系	2000	収穫3日前まで	5																●
モスピランジェット	ネオニコチノイド系	50g/400立方メートル	収穫前日まで	2									●							
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2																●
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000~4000	収穫前日まで	2									●							
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド系	2000倍	収穫前日まで	2																●

適用作物名：いちご（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	萎黄病	じやのめ病	輪斑病	芽枯病	疫病	アブラムシ類	コガネムシ類	ハダニ類	イチゴゴメセンチュウ	イチゴセンチュウ	ミカンキイロアザミウマ	センチュウ類	アザミウマ類	
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド系	0.5～1g/株	生育期(定植30日後まで)(但し、マルチ被覆直前まで)	1									●								
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2																	●
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫前日まで	2									●								
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	2														●			
モレスタン水和剤	キノキサリン系	3000	収穫前日まで	2	●																
ラービンプロアブル	カーバメート系	1000	定植30日後まで	3										●							
ラグビーMC粒剤	殺線虫	20kg/10a	定植前	1																	●
ラリー水和剤	ステロール生合成阻害	4000～8000	収穫前日まで	3	●																
ランネット45DF	カーバメート系	1000	仮植床及び定植後生育初期	4													●				
ランマンフロアブル	その他	500～1000(100ミリリットル/1株)	定植後(但し、収穫30日前まで)	2								●									
ランマンフロアブル	その他	500～1000(50ミリリットル/1株)	育苗期	2								●									
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000 50ml/株(200～400リットル/10a)	育苗期	3								●									
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000 50ml/株(200～400リットル/10a)	育苗期	3								●									
ルビゲン水和剤	ステロール生合成阻害	4000	収穫前日まで	3	●																
ロブラール500アクア	ジカルボキシイミド系	1000～1500	収穫前日まで	4		●															
ロブラールくん煙剤	ジカルボキシイミド系	100g/300～400立方メートル	収穫前日まで	4		●															
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1500	収穫前日まで	4		●															
ロムダンフロアブル	昆虫成長制御	2000	収穫前日まで	2										●							
サルファーゾル	無機	500～1000	-	-	●																
粘着くん液剤	天然物	100	収穫前日まで	-											●						
キノンドーフロアブル	銅	100(クラン部散布)	育苗期	3			●														
キノンドーフロアブル	銅	所定濃度(500～800)	育苗期	3			●														
ドクリンフロアブル	銅	所定濃度(500～800)	育苗期	3			●														

適用作物名：ぶどう

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	黒とう病	晩腐病	褐斑病	うどんこ病	べと病	灰色かび病	さび病	枝彫病	チャノキイロアザミウマ	フタテンヒメヨコバ	ブドウスカシバ	クビアカスカシバ	ブドウトラカミキリ	コガネムシ類	ハダニ類	
アーデント水和剤	ピレスロイド系	1000	収穫7日前まで	4									●	●						●
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫7日前まで	2									●							
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫7日前まで	2										●						
アグロスリン水和剤	ピレスロイド系	1000～2000 アザミウマ1000～3000	収穫7日前まで	5									●	●						
アデオンプロアブル	ピレスロイド系	1000～2000	(大粒) 収穫7日前まで	5									●							
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫21日前まで	2										●						
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	1000～2000	収穫21日前まで	2										●						
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド系	200g/9リットル/10a	収穫21日前まで	2										●						
アフエツフロアブル	酸アミド系	2000	収穫7日前まで	3	●	●	●	●	●	●	●									
アミスター10フロアブル	ストロビルリン系	1000	収穫30日前まで	3	●	●	●		●	●	●									
アリエッティC水和剤	その他+有機リン系	400～800	収穫45日前まで	2					●											
アリエッティC水和剤	その他+有機リン系	400～600	収穫45日前まで	2		●														
アリエッティC水和剤	その他+有機リン系	400～800	収穫45日前まで	2	●															
アリエッティ水和剤	有機リン系	800	収穫30日前まで	3					●											
インダーフロアブル	ステロール生合成阻害	8000	収穫30日前まで	3	●	●	●		●	●	●									
オーシャイン水和剤	ステロール生合成阻害	2000	収穫7日前まで	2						●										
オーシャイン水和剤	ステロール生合成阻害	2000～3000	収穫7日前まで	2	●			●												
オーソサイド水和剤80	その他	800	収穫45日前まで	2	●				●		●									
オマイト水和剤	殺ダニ	1000	(小粒) 収穫21日前まで	1																●
オマイト水和剤	殺ダニ	1000	(大粒) 収穫14日前まで	1																●
オルトラン水和剤	有機リン系	1500～2000	収穫30日前まで	2									●	●						
オンリーワンフロアブル	ステロール生合成阻害	2000	収穫前日まで	3	●	●	●	●	●	●	●									
カーゼートPZ水和剤	その他+有機硫黄	1000～1500	収穫45日前まで	2					●											
カネマイトフロアブル	殺ダニ	1000～1500	収穫14日前まで	1																●
コテツフロアブル	その他	150ミリリットル/6リットル/10a	収穫14日前まで	2									●							
コテツフロアブル	その他	2000	収穫14日前まで	2									●	●						●
コルト顆粒水和剤	その他	3000	収穫前日まで	3									●							
サンマイト水和剤	殺ダニ	1500	収穫45日前まで	1																●
ジェイエース水溶剤	有機リン系	1500～2000	収穫30日前まで	2									●	●						
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	1000～2000	収穫前日まで	3									●							

適用作物名：ぶどう（つづき）

薬剤名	化学組成による分類	濃度(倍)量	使用時期	使用回数	黒とう病	晩腐病	褐斑病	うどんこ病	べと病	灰色かび病	さび病	枝腐病	チャノキイロアザミウマ	フタテンヒメヨコバイ	ブドウスカシバ	クビアカスカシバ	ブドウトラカミキリ	コガネムシ類	ハダニ類
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3														●	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫前日まで	3										●					
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	1000～2000	収穫前日まで	3									●						
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫前日まで	3														●	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	3000	収穫前日まで	3										●					
ジマンダイセンフロアブル	有機硫黄	800	施設 開花前まで	2	●	●													
ジマンダイセンフロアブル	有機硫黄	800	露地 収穫60日前まで	2	●	●													
ジマンダイセン水和剤	有機硫黄	1000	収穫45日前まで	2	●	●	●		●	●									
スカウトフロアブル	ピレスロイド系	2000～3000	収穫21日前まで	3									●	●					
ストロビードライフロアブル	ストロビルリン系	2000～3000	収穫14日前まで	3	●	●	●		●	●	●								
ストロビードライフロアブル	ストロビルリン系	3000	収穫14日前まで	3				●		●									
スミチオン水和剤40	有機リン系	1000	(小粒) 収穫90日前まで	2										●	●		●	●	
スミチオン水和剤40	有機リン系	1000	(大粒) 収穫30日前まで	2										●	●		●	●	
ダニトロンフロアブル	殺ダニ	1000～2000	収穫14日前まで	1															●
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫前日まで	3									●	●			●	●	
テルスターフロアブル	ピレスロイド系	4000	収穫14日前まで	2									●						
デランフロアブル	その他	1000	落弁期まで(但し、収穫75日前まで)	2(生育期)	●	●			●		●								
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール系	1500～2000	収穫45日まで	1	●	●	●		●										
トラサイドA乳剤	有機リン系	200～300	発芽前(休眠期)	2														●	
トリフミン水和剤	ステロール生合成阻害	2000～3000	収穫7日前まで	3				●											
ニッソラン水和剤	殺ダニ	2000	収穫7日前まで	1															●
バシタック水和剤75	酸アミド系	1000	収穫45日前まで	1							●								
バロックフロアブル	殺ダニ	2000	収穫7日前まで	1															●
バダンSG水溶剤	ネライストキシン系	1500	(大粒) 収穫21日前まで	5									●	●	●				
バイオネクト	銅+天然物	250～500	休眠期～開花前	3	●	●						●							
バイオネクト	銅+天然物	1000～2000	収穫45日前まで(開花後1回)	1					●										
ファンタジスタ顆粒水和剤	その他(QoI剤)	3000～4000	収穫14日前まで	3	●	●				●									
フェスティバルC水和剤	その他+銅	600	収穫60日前まで	2					●										
フェニックスフロアブル	ジアミド系	4000	収穫14日前まで	2											●				
フォリオゴールド	酸アミド系+その他	1500	収穫60日前まで	2					●										
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン系	2000～3000	開花期～幼果期(但し、収穫30日前まで)	2						●									
フロンスайдSC	その他	2000	開花直前～落弁期(但し、収穫60日前まで)	1	●	●			●	●	●								
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド系	1000	収穫30日前まで	3									●	●					
ベトファイター顆粒水和剤	その他	2000	収穫30日前まで	3					●										
ベンレート水和剤	ベンゾイミダゾール系	2000～3000	収穫45日前まで	3		●	●	●		●									
ベンコゼブ水和剤	有機硫黄	1000	収穫45日前まで	2	●	●	●		●	●									
ホライズンドライフロアブル	その他+ストロビルリン系	2500	収穫21日前まで	3	●	●	●												
ホライズンドライフロアブル	その他+ストロビルリン系	2500～5000	収穫21日前まで	3					●										
ポルドー液	銅	3-2式～6-3式	-	-	●				●										
ポリベリン水和剤	その他+抗生物質	1000～2000	開花期～幼果期(但し、収穫60日前まで)	2				●											
ポリベリン水和剤	その他+抗生物質	750～1000	開花期～幼果期(但し、収穫60日前まで)	2						●									
マネージDF	ステロール生合成阻害	4000～6000	収穫21日前まで	3	●			●		●									
マネージ水和剤	ステロール生合成阻害	2000～3000	収穫21日前まで	3	●			●											
マイクロデナボン水和剤85	カーバメート系	1000	収穫60日前まで	1											●			●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000	収穫後秋期	3														●	
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000～4000	収穫14日前まで	3									●	●					●
ライメイフロアブル	その他	3000～4000	収穫14日前まで	3						●									
ランマンフロアブル	その他	1000～2000	収穫14日前まで	3						●									
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000	施設 開花前まで	2						●									
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000	小粒(露地) 収穫60日前まで	2						●									
リドミルMZ水和剤	酸アミド系+有機硫黄	1000	大粒(露地) 収穫60日前まで	2(開花後は、1回)						●									
リドミルゴールドMZ	有機硫黄+酸アミド系	1000	収穫14日前まで	2						●									
レーバフロアブル	酸アミド系	2000～3000	収穫7日前まで	2					●										
ロブラール500アクア	ジカルボキシイミド系	1000～1500	収穫14日前まで	3						●									
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	1000～1500	開花期～幼果期(但し、収穫60日前まで)	3						●									
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド系	200g/10a	開花期～幼果期(但し、収穫60日前まで)	3						●									
コサイド3000	銅	所定濃度(2000)	-	-					●	●									
ICポルドー66D	銅	所定濃度(25～100)	-	-					●										
キノンドーフロアブル	銅	600	収穫45日前まで	4(開花後は、1回)	●							●							

1) 殺菌剤の作用説明

治療剤 予防剤	① キノキサリン系
	② ジカルボキシイミド系
	③ ステロール生合成阻害
	④ ストロビルリン系
	⑤ ベンゾイミダゾール系
	⑥ 抗生物質
	⑦ 酸アミド系
	⑧ 有機リン系
予防薬	⑨ アニリノピリミジン系
予防剤	⑩ くん蒸
予防剤	⑪ 生物農薬
予防薬	⑫ 土壌殺菌
予防剤	⑬ 銅
予防薬	⑭ 無機
予防薬	⑮ 有機硫黄

1. 無機

炭酸塩はナトリウムとカリウムの2種の無機化合物。炭酸水素ナトリウム（重曹）（カリグリーン）は孢子の発芽を抑制。炭酸水素カリウム（ハーモメイト）は病原菌細胞に入ったカリウムイオンが病原菌のカリウムイオンのバランスを崩し効果を発する。

2. エネルギー代謝阻害

病原菌は、植物体内の糖質（ブドウ糖等）が主要なエネルギー源であるが、タンパク質、脂質から得られるエネルギーを利用している。

呼吸でエネルギーを得ている生物は、クエン酸回路と循環反応時の電子の働きでエネルギーを得ている。

ブドウ糖（グルコース）のエネルギー代謝過程は、ブドウ糖の分解物質（ピルビン酸）にSH基酵素が関わり、クエン酸回路（TCA回路）に入る。クエン酸回路はクエン酸から循環反応を経てクエン酸にもどる1回転反応である。クエン酸回路の諸反応の度に、電子（水素）伝達系の反応が働きエネルギーを発生する。細胞のミトコンドリア内でこの反応は行われ、ミトコンドリアは細胞の中で呼吸をしてエネルギーを生産していると云われる所以である。SH基及び電子伝達系はエネルギー代謝の基軸となっている。

(1) SH基酵素阻害剤

SH基を持つ活性触媒基を阻害するとエネルギー代謝過程を阻害することになり、SH基阻害剤は呼吸阻害剤に分類されたり、SH基以外の多くの物質の多くの箇所を阻害するので多作用点阻害剤とも云われる。

①キノキサリン系、②ジカルボキシイミド系、⑫土壌殺菌剤、⑩くん蒸剤、⑬銅剤、⑮有機硫黄

(2) 電子伝達系阻害剤

摂取された糖などのエネルギー源は、クエン酸回路の代謝循環系を経るときに電子を生じ、ミトコンドリアの

電子伝達系を経て、最終的に水と炭酸ガスになる。電子伝達系を阻害するとエネルギー代謝過程を阻害することになる。

④ストロビルリン系

3. 菌体成分生合成阻害剤

生物の重要な生体成分に、核酸、アミノ酸、タンパク質、脂質、ステロールおよび細胞壁成分である多糖類などがある。これらの生合成が阻害されると、植物病原菌は正常な成長・増殖・形態形成および機能発現を行えず、感染・発病・増殖・伝播が阻止される。

(1) タンパク質合成系阻害剤

タンパク質は、病原微生物の生体構成成分及び体内の酵素材料として重要である。タンパク質はアミノ酸が一定の順序でつながったものである。

アミノ酸組成と組合せ順序を決定する情報伝達を阻害すると、タンパク質の生合成を阻害することになる。

⑥抗生物質

(2) 核酸生合成阻害剤

DNA や RNA の核酸の合成を阻害する薬剤。

核酸はすべての生物が持つ生体構成成分で、遺伝子自体が核酸であるとともに、遺伝情報に基づいてタンパク質の生合成を行う指令を与える機能を持っている。核酸の合成を阻害すると、激しく増殖する病原菌の細胞分裂を抑制することになる。

⑦酸アミド系

(3) 細胞膜成分生合成阻害剤

細胞膜は細胞質を外界から保護するだけでなく、エネルギー代謝に関わる酵素系も組み込まれている。細胞膜の構成成分は脂質タンパク質複合体を主な成分にし、一定の硬さを保ち細胞の形を維持している。これら細胞壁成分の合成を阻害すると、細胞は死ぬことになる。

③ステロール生合成阻害剤

4. 細胞膜機能阻害剤

菌糸の伸長を抑制し、菌糸細胞を破壊する。

②ジカルボキシイミド系

5. 細胞分裂阻害剤（微小管形成阻害剤）

細胞分裂は、生物の成長や世代の交代にかかわる現象で、染色体が細胞の中央に配列し、これと両極の間に動原糸体といわれる糸状構造が出来る。動原糸体はチューブリンと呼ばれる特殊なタンパク質で出来ている微小管の形成を妨げることで細胞分裂時紡錘系の形成を抑制し、有糸分裂を阻害する。

⑤ベンゾイミダゾール系、⑧有機リン系（細胞分裂制御）

6. 酵素分泌阻害剤

病原菌体内で生産される作物の細胞膜を分解する酵素を、植物体内へ分泌するのを阻害し、感染力を失わせる。

⑨アニリノピリミジン系

2) 殺虫剤の作用説明

① カーバメート系
② キノキサリン系
③ くん蒸
④ ジアミド系
⑤ ネオニコチノイド系
⑥ ネライストキシン系
⑦ プレスロイド系
⑧ フェニルピラゾール系
⑨ マクロライド系
⑩ 昆虫成長制御
⑪ 殺ダニ
⑫ 殺線虫
⑬ 生物農薬
⑭ 天然物
⑮ 有機リン系

1. 天然物農薬

昆虫は、気門から空気を取り入れている。このような小型の動物は、空気を直接組織に届ける方がはるかに効率がよいのである。しかし、体サイズが大きくなると呼吸効率は悪くなるので、昆虫は一定の大きさ以上に大きくできない大きな理由となっている。

虫を油で包み気門を封鎖し、窒息死させるのに、物理的防除剤にマシン油（機械油）が昔から使われている。

類似の機能として、⑭天然物の食品添加物（アカリタッチ）やデンプン（粘着くん）で気門を封鎖し、ハダニや微小昆虫の防除に供している。

2. 神経機能阻害

殺虫剤には、神経系をターゲットにしている作用機構の殺虫剤は多い。神経は、昆虫の行動に重要な機能をはたしており、神経伝達を阻害すると「物を見る」、「物を食べる」、「動く」などの行動が出来なくなる。

また、昆虫と人間の神経系は共通するもので、人間の毒性が心配されるが、人間と昆虫では解毒・分解酵素や作用性の違いにより、昆虫に選択性のあるものを農薬としている。しかし、使用方法の遵守は無論である。

神経組織（ニューロン）は、神経組織を構成する細胞で、細胞体とこれから長く伸びる神経軸索、その先端で短く枝分かれしている樹状突起からできている。昆虫を含む動物の神経間の情報は電気信号で伝達される。

シナプスは、ニューロンとニューロンの隙間で、情報伝達の物質を放出する方を前膜から、受け取る方を後膜に刺激を伝える。伝達物質であるアセチルコリンは刺激的伝達を伝える代表的なもの。ガンマーアミノ酪酸（GABA）は抑制的伝達に働く。

アセチルコリンエステラーゼは、アセチルコリンを分解してシナプス間隔から取り除く酵素。普通の状態ではアセチルコリンがシナプス硬膜に結合して興奮を伝えるとこの酵素によって分解されシナプスは基の状態に戻り、正常な情報の伝達を再度可能な状態にする。

(1) アセチルコリンエステラーゼ阻害剤

外から受けた刺激（情報）は、アセチルコリンと呼ばれる情報伝達物質としてニューロンからシナプスを経て次のニューロンに伝達され、昆虫の体は反応する。ア

セチルコリンをそのままにしておくとも興奮が収まらないのでアセチルコリンエステラーゼ酵素が速やかに分解し元の状態にもどす機構である。アセチルコリンエステラーゼ酵素を阻害すると、アセチルコリンが分解されずシナプスに異常に蓄積する。神経の異常興奮が続き、結果、けいれん、麻痺から致死に至る。

⑮有機リン系、①カーバメート系

(2) アセチルコリン受容体阻害剤

情報の伝達物質（アセチルコリン）を受け取る神経シナプス後膜のアセチルコリンを受け取る部分と結合することで興奮性の情報伝達を遮断する。神経マヒは速やかに起こり粗食が出来なくなり、殺虫作用を示す。

魚釣りのエサに使われるイソメ（ゴカイ類）をなめたハエが死ぬことから開発された。

致死までは時間が掛かるが、神経マヒで摂食を阻害するため、食害は最小限に止まり、残効性がある。コナガの成虫に効果がある。

⑥ネライストキシン系

(3) ニコチン性アセチルコリン受容体活性化剤

作用機構は、ネライストキシン系と同様、神経シナプス後膜に作用する。

シナプス後膜にあるアセチルコリンを受け取る部分にはニコチン性アセチルコリン受容体（受容体にはいろいろある）がある。ネオニコチノイド剤がこの受容体に結合して、アセチルコリンと同じように神経を興奮させ、興奮を持続させて死亡させる。ネライストキシン系とは逆の作用となる。天然物質由来殺虫剤の硫酸ニコチンと同じ作用である。

⑤ネオニコチノイド系

(4) GABA受容体拮抗剤

伝達物質であるアセチルコリンは刺激的伝達を伝える代表的なもの。ガンマーアミノ酪酸（GABA）は抑制的伝達に働く。抑制系神経のGABA受容体にフェニルピラゾール系剤が結合して神経細胞へのGABAの流入を阻害する。その結果、抑制が効かなくなり過度の興奮が起こる作用機構である。

⑧フェニルピラゾール系

(5) GABA受容体作用剤

逆に、GABA受容体に、抑制物質GABAの過剰作用を増大させる。このため昆虫は神経興奮伝達が過度に抑制されて、マヒして死亡する。

⑨マクロライド系

(6) 神経軸索シグナル伝達阻害剤

神経系は、ニューロンによって構成されている。外から受けた刺激（情報）は電気信号でニューロンからシナプスを経て次のニューロンに伝達され、最終的に昆虫が反応する。

静止時の神経軸索は、ニューロンの軸索内部は外部に対してマイナスに帯電しているが、興奮（刺激）が与えられると、一時的にナトリウムのプラスイオンが神経膜を通し軸索内部に流入しプラスになることで、興奮信号伝達される。

神経軸索シグナル伝達阻害剤は神経膜のイオンの流入時間を長くし、反復した興奮を与え、運動機能の失調、

マヒ、ケイレンが起きて死亡する。

⑦ピレスロイド系

3. 筋収縮剤

筋肉細胞小胞体からカルシウムイオンが放出され、筋肉は収縮する。体収縮症状は本剤によりカルシウムイオンが持続的に放出することに起因する。

本化合物を処理された鱗翅目の幼虫（蝶や蛾の幼虫）には、極めて特徴的な体収縮症状が認められ、幼虫、成虫に活性を有し、特に幼虫に効果は高い。

④ジアミド系

4. 殺線虫・くん煙

生物体内のエネルギー源は、ブドウ糖等、タンパク質、脂質から得られ、呼吸でエネルギーを得ている生物は、クエン酸回路と循環反応時の電子の働きでエネルギーを得ている。

エネルギー代謝過程でピルビン酸にSH基酵素が関わり、クエン酸回路（TCA回路）に入る。SH基を持つ活性触媒基を阻害するとエネルギー代謝過程を阻害することになる。このため、SH基阻害剤は呼吸阻害剤に分類される。

主として土壌線虫を防除する薬剤で、SH基酵素阻害剤である。

⑫殺線虫、③くん煙

5. 昆虫成長制御（IGR）

(1)キチン合成阻害剤

昆虫の皮膚は、真皮とクチクラ層（昆虫の外の固い皮膚）から成り立っている。クチクラ層の固い成分はキチンによる。キチン阻害剤は、キチンの合成を阻害することで、幼虫の脱皮・発育の進行に異常を起こさせ死亡させる薬剤。

昆虫の幼虫は、親になるまでに数回脱皮をする。古いからを脱ぎ捨てる時に、一部分でも新しい皮膚が出来上がっていないければ、その部分から体液が出て干からびたり、全体に新しい皮膚が形成されずに死亡する。

(2)ホルモンに関する薬剤

昆虫の脱皮・変態には脱皮ホルモンと幼若ホルモンが関与している。幼若ホルモンは、幼虫を若い状態でいさせようと働きかけるホルモンです。このホルモンの作用により、幼虫は次齢の幼虫となり、脱皮ホルモンで脱皮を繰り返さなげ、成虫となる。この薬剤により、脱皮や変態に異常を起こさせ死亡させる薬剤。

これらの薬剤を総称して⑩昆虫成長制御と称している。

6. 生物農薬

BT剤で代表される。BT剤とは枯草菌（細菌）の一種「Bacillus thuringiensis バチルス・チューリングエンシス」という微生物が作る毒素を農薬としたもの。

鱗翅目害虫（蝶や蛾の幼虫）に選択的に作用（蝶や蛾の幼虫以外には効かない）し、散布した葉をアオムシが食べると、アオムシの体内の消化管内のアルカリ性消化液で成分が変化して、下痢をおこして死んでいくという特徴を持つ。したがって、人間や家畜などの消化液（胃酸）は酸性のため、体内で分解され、毒性を示さない。

7. 殺ダニ剤

ハダニは、最も抵抗性の発達しやすい害虫の一つである。抵抗性に対処するため作用機作の異なる剤が開発されてきた。収録した殺ダニ剤機作毎に整理した。

(1)電子伝達系阻害剤

ミトコンドリアは、細胞の中で呼吸をしてエネルギーを生産している。エネルギー生産に關与のクエン酸回路の諸反応の都度に、電子（水素）伝達系の反応が働きエネルギーを発生する。呼吸系電子伝達を阻害し、呼吸阻害の働きの殺ダニ剤。

<ダニトロン、サンマイト>

脱共役剤（細胞の呼吸（酸化によるエネルギー獲得）を阻害）リン酸回路の、電子伝達系およびATP合成反応（アデノシン三リン酸：電子伝達系反応で生じるATPが熱量となる）のいずれも阻害せずに両反応の共役（ある化学的な反応Aに伴ってもう1つの化学反応Bに影響を与える（Aが進むことでBが進む）ことを共役という）を阻害する化合物で、呼吸阻害の殺ダニ剤になる。

<ダニサラバ、オマイト、カネマイト、スターマイト>

(2)生理過程阻害剤

生育に於ける何らかの生理過程を阻害すると作用と推測され、殺卵、ふ化を抑制する。

<バロック>

(3)SH酵素阻害

SH基を持つ活性触媒基を阻害するとタンパク質の正常な作用を攪乱し、殺ダニ作用を示す。

②キノキサリン系

<モレスタン>

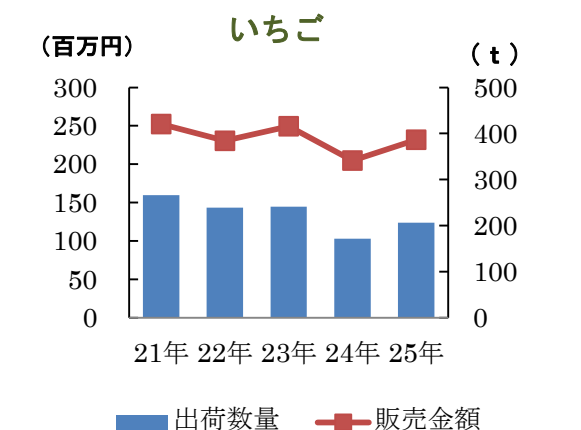
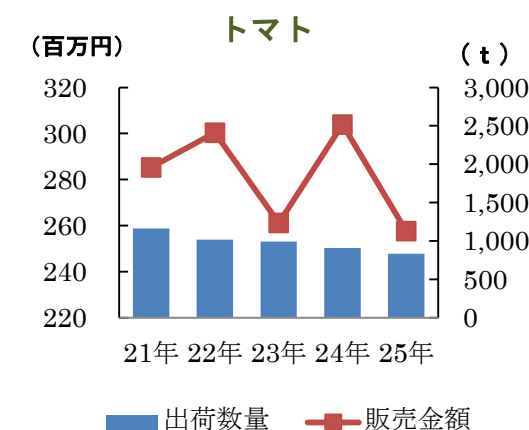
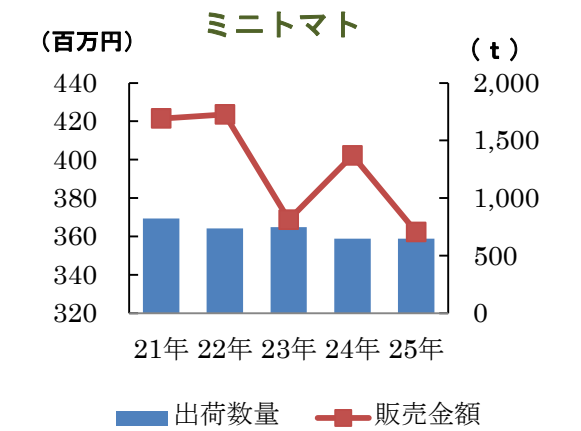
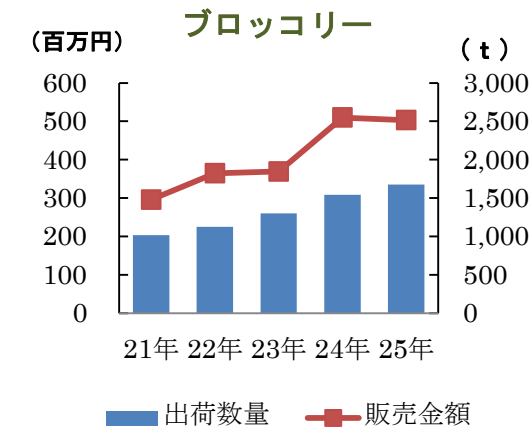
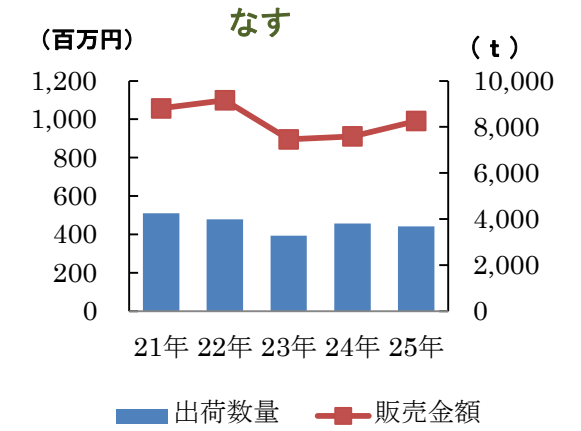
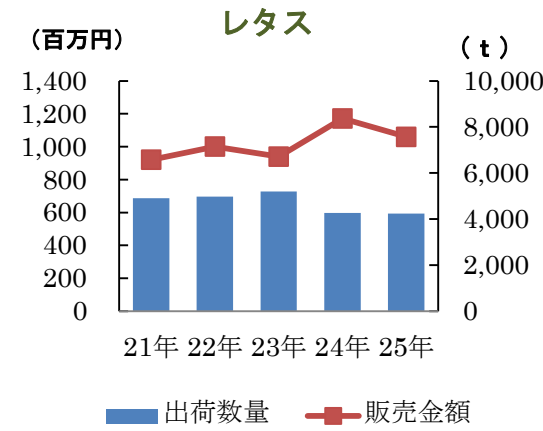


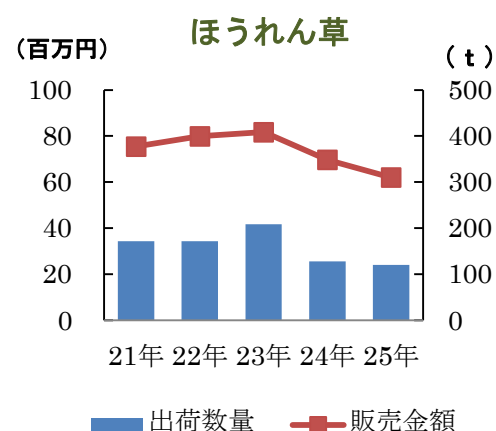
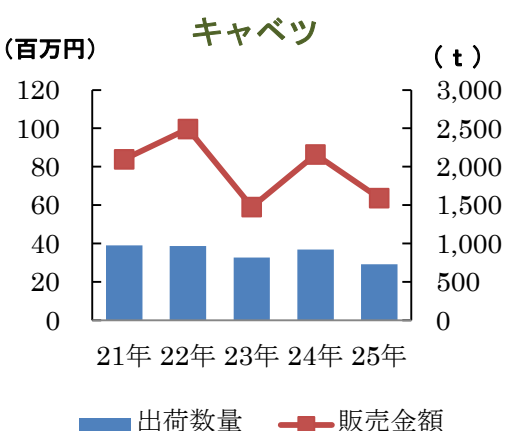
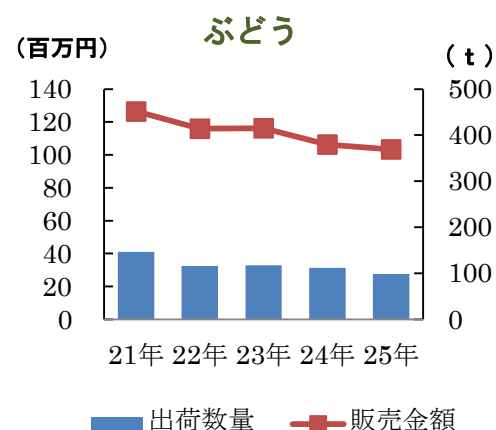
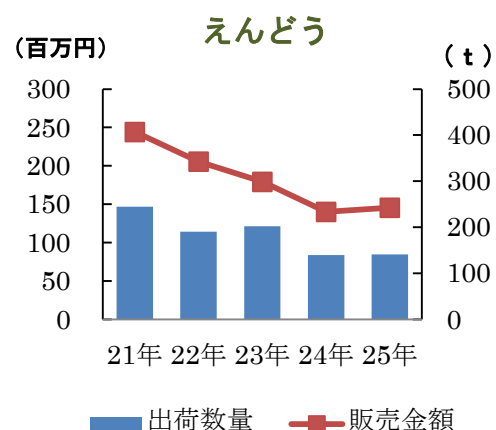
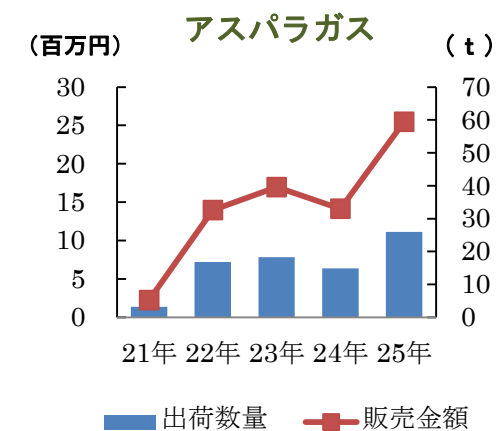
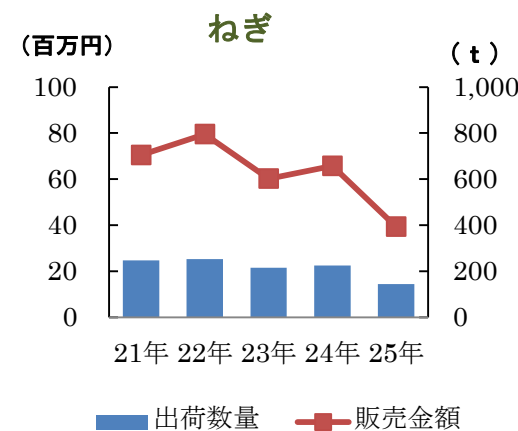
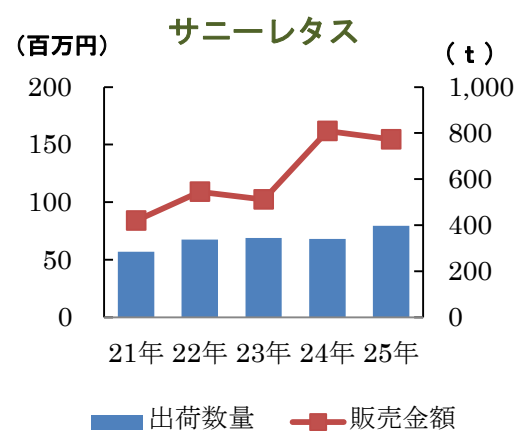
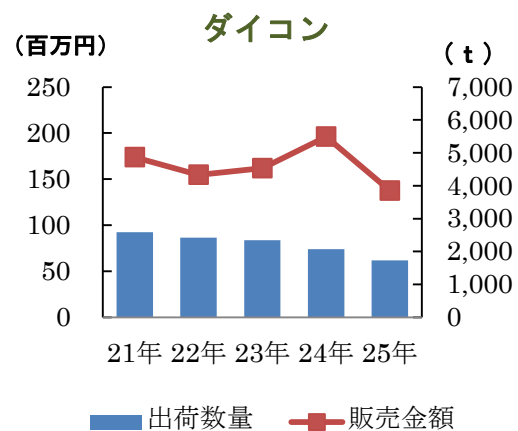
8. 阿波市内の主要な青果物の現状（JA系統分）

「ブランド推進」

1) 阿波市内主要青果物販売実績（JA系統分）

No.	品目	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
		数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)
1	レタス	4,903	921,126	4,974	1,001,045	5,203	939,794	4,272	1,171,651	4,240	1,059,874
2	なす	4,247	1,056,653	3,984	1,099,145	3,275	895,179	3,811	911,058	3,687	991,282
3	ブロッコリー	1,017	295,721	1,126	364,587	1,301	368,990	1,544	509,913	1,676	503,045
4	ミニトマト	821	421,479	737	423,565	747	368,674	648	402,175	646	362,281
5	トマト	1,161	285,265	1,018	300,329	994	261,171	910	303,884	833	257,625
6	いちご	266	252,316	239	230,520	241	249,467	171	204,772	206	231,882
7	サニーレタス	285	84,001	338	109,069	345	102,346	341	161,807	398	154,528
8	えんどう	244	244,149	190	205,579	202	179,235	140	140,117	141	145,500
9	ダイコン	2,591	173,838	2,421	154,771	2,345	161,863	2,072	196,138	1,735	137,519
10	ぶどう	146	126,393	116	115,941	117	116,247	112	106,326	98	103,390
11	きゅうり	388	71,372	300	56,945	321	79,812	380	77,607	348	69,864
12	キャベツ	977	83,902	965	99,702	818	59,037	923	86,436	730	63,684
13	ほうれん草	172	75,419	172	79,879	208	81,661	127	69,686	120	62,019
14	青とうがらし	109	72,164	109	76,747	88	69,008	95	53,123	81	53,674
15	とうもろこし	260	49,638	222	47,811	200	47,789	245	54,515	230	52,650
16	白菜	959	51,893	971	49,622	832	41,284	713	43,210	664	40,809
17	ねぎ	247	70,457	253	79,543	215	60,220	225	65,738	144	39,360
18	柿	152	19,154	95	22,399	129	23,519	167	25,898	198	31,114
19	にんじん	431	41,511	313	32,092	314	35,142	266	29,908	244	26,216
20	アスパラガス	3	2,229	17	13,957	18	16,949	15	14,134	26	25,460
21	すだち	55	23,217	47	23,634	44	22,694	38	20,294	48	25,382
22	パセリ	24	11,663	21	16,036	21	16,883	19	21,831	18	21,852
23	梅	73	14,598	56	16,686	72	14,865	46	12,209	66	9,008
24	たらの芽	8	11,142	6	13,620	5	11,096	3	7,588	3	8,863
25	かぼちゃ	154	19,557	106	18,726	82	13,479	94	12,169	70	8,691
26	カリフラワー	60	8,400	45	6,689	51	7,440	35	7,470	47	7,367
27	デコポン	22	9,947	28	11,556	16	8,067	20	8,783	14	6,404
28	白ねぎ	-	-	-	-	-	-	-	-	17	4,124
29	唐辛子	0.1	183	1	1,799	2	2,572	0.1	79	2	2,669
30	メロン	36	9,575	18	5,934	15	4,920	18	4,905	9	2,651
31	小松菜	-	-	-	-	-	-	-	-	8	2,616
32	いんげん	13	5,539	10	4,980	7	3,388	9	4,222	5	2,507
33	すいか	57	5,444	30	4,078	27	3,974	18	2,301	14	2,441
34	みず菜	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1,899
35	そらまめ	21	4,062	18	3,719	12	2,119	7	2,373	7	1,594
36	たまねぎ	19	1,474	22	1,776	28	1,472	21	2,122	26	1,585
37	いちぢく	3	1,015	4	1,650	4	1,587	5	2,099	4	1,513
38	レイシ	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1,426
39	にんにく	8	3,587	6	2,146	6	2,398	5	2,341	4	1,379
40	えだ豆	5	2,316	5	1,923	5	2,420	3	1,406	2	1,025
41	ピーマン	4	896	2	577	4	1,401	5	1,428	3	925
42	おくら	2	924	2	1,036	0.6	449	1	804	1	639
43	八朔	5	450	7	568	3	519	4	520	6	551
44	栗	1	232	0.4	108	0.3	107	1	320	2	402
45	じゃがいも	3	354	7	917	16	1,491	11	676	6	400
合計		19,952	4,533,255	18,998	4,701,406	18,333	4,280,727	17,541	4,744,036	16,834	4,529,688





2) 阿波市内における生産量が県下一の青果物 (平成 25 年 J A 系統分販売実績)



No.	数量	阿波市			県全体			阿波市シェア (%)
		数量 (t)	金額 (千円)	単価 (円)	数量 (t)	金額 (千円)	単価 (円)	
1	レタス	4,240	1,059,874	250	4,926	1,226,726	249	86
2	なす	3,687	991,282	269	6,007	1,634,799	272	61
3	ミニトマト	646	362,281	561	749	430,643	575	86
4	トマト	833	257,625	309	1,440	455,790	317	58
5	サニーレタス	398	154,528	388	431	164,066	381	92
6	えんどう	141	145,500	1,034	207	200,461	970	68
7	ぶどう	98	103,390	1,052	134	129,447	968	73
8	キャベツ	730	63,684	87	1,074	96,397	90	68
9	青とうがらし	81	53,674	660	165	106,955	647	49
10	白菜	664	40,809	61	672	41,510	62	99
11	アスパラガス	26	25,460	980	40	37,809	944	65
12	パセリ	18	21,852	1,190	29	34,558	1,205	64
13	かぼちゃ	70	8,691	125	89	11,219	126	78
14	唐辛子	2	2,669	1,744	3	3,706	1,174	48
15	メロン	9	2,651	308	16	5,299	322	52
16	すいか	14	2,441	171	19	3,180	169	76
17	レイシ	7	1,426	193	10	2,023	205	75
18	じゃがいも	6	400	71	15	1,072	70	37

3) 市町村別青果物販売実績 (平成 25 年 J A 系統分)

No.	品目	第1位		第2位		第3位		第4位以降		合計	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
1	レタス	阿波市		上板町		美馬市		その他		-	
		4,240	1,059,874	288	73,063	299	71,391	99	22,398	4,926	1,226,726
2	なす	阿波市		吉野川市		美馬市		その他		-	
		3,687	991,282	883	268,555	481	124,526	956	250,436	6,007	1,634,799
3	ブロッコリー	徳島市		阿波市		石井町		その他		-	
		2,543	833,295	1,676	503,045	237	81,123	536	156,913	4,992	1,574,376
4	ミニトマト	阿波市		美馬市		東みよし町		その他		-	
		646	362,281	35	24,110	25	18,535	42	25,717	749	430,643
5	トマト	阿波市		徳島市		東みよし町		その他		-	
		833	257,625	288	81,688	106	51,226	213	65,251	1,440	455,790
6	いちご	徳島市		阿南市		阿波市		その他		-	
		402	469,182	220	262,586	206	231,882	363	558,935	1,192	1,522,585
7	サニーレタス	阿波市		美馬市		上板町		その他		-	
		398	154,528	24	6,621	6	2,169	3	749	431	164,066
8	えんどう	阿波市		東みよし町		吉野川市		その他		-	
		141	145,500	34	27,597	19	18,177	13	9,188	207	200,461
9	ダイコン	鳴門市		松茂町		阿波市		その他		-	
		12,994	1,237,884	1,772	158,188	1,735	137,519	1,806	160,091	18,308	1,693,682
10	ぶどう	阿波市		美馬市		上板町		その他		-	
		98	103,390	18	15,000	12	6,567	6	4,490	134	129,447
11	きゅうり	阿南市		海陽町		小松島市		その他		-	
		1,871	467,350	1,196	290,588	1,066	250,759	1,174	271,926	5,308	1,280,623
12	キャベツ	阿波市		阿南市		徳島市		その他		-	
		730	63,684	182	18,995	133	11,208	29	2,509	1,074	96,397
13	ほうれん草	徳島市		石井町		阿波市		その他		-	
		2,510	1,168,043	924	411,966	120	62,019	174	69,423	3,728	1,711,451
14	青とうがらし	阿波市		佐那河内村		阿南市		その他		-	
		81	53,674	27	17,701	12	11,451	45	24,129	165	106,955
15	とうもろこし	吉野川市		阿波市		石井町		その他		-	
		320	84,651	230	52,650	192	38,856	113	23,295	855	199,452
16	白菜	阿波市		阿南市		小松島市		その他		-	
		664	40,809	4	517	4	156	1	29	672	41,510
17	ねぎ	徳島市		阿波市		佐那河内村		その他		-	
		952	443,510	144	39,360	46	37,429	73	36,467	1,215	556,765
18	柿	美馬市		阿波市		上板町		その他		-	
		232	38,986	198	31,114	160	27,162	364	68,596	955	165,858
19	にんじん	板野町		藍住町		吉野川市		その他		-	
		15,480	2,221,631	14,720	2,131,963	3,525	517,990	9,311	1,311,234	43,036	6,182,818
20	アスパラガス	阿波市		阿南市		徳島市		その他		-	
		26	25,460	9	8,760	4	2,846	1	743	40	37,809
21	すだち	神山町		阿南市		佐那河内村		その他		-	
		453	282,745	163	269,500	401	215,867	548	440,642	1,566	1,208,754
22	パセリ	阿波市		藍住町		神山町		その他		-	
		18	21,852	8	9,852	2	2,854	0	0	29	34,558
23	梅	神山町		阿波市		吉野川市		その他		-	
		133	23,733	66	9,008	48	7,281	55	7,453	302	47,475

阿波市又は阿波市が含まれる区分

単位:トン、千円

No.	品目	第1位		第2位		第3位		第4位以降		合計	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
24	たらの芽	美馬市		東みよし町		阿波市		その他		-	
		5	12,255	3	12,170	3	8,863	4	12,362	14	45,650
25	かぼちゃ	阿波市		吉野川市		東みよし町		その他		-	
		70	8,691	10	1,254	4	632	5	642	89	11,219
26	カリフラワー	徳島市		藍住町		上板町		その他		-	
		1,195	261,503	387	76,479	73	14,273	79	13,000	1,734	365,255
27	デコボン	阿南市		阿波市		佐那河内村		その他		-	
		38	22,429	14	6,404	19	4,064	46	12,946	116	45,843
28	白ねぎ	吉野川市		徳島市		阿波市		その他		-	
		88	26,249	14	4,788	17	4,124	8	2,551	127	37,713
29	唐辛子	阿波市		佐那河内村		阿南市		その他		-	
		2	2,669	1	699	0	284	0	55	3	3,706
30	メロン	阿波市		東みよし町		美馬市		その他		-	
		9	2,651	6	2,239	1	409	0	0	16	5,299
31	小松菜	徳島市		石井町		吉野川市		その他		-	
		208	74,885	225	69,859	28	9,224	14	4,559	475	158,527
32	いんげん	東みよし町		美馬市		三好市		その他		-	
		62	52,708	12	9,424	3	2,535	10	5,814	86	70,481
33	すいか	阿波市		板野町		藍住町		その他		-	
		14	2,441	3	485	2	255	0	0	19	3,180
34	みず菜	徳島市		板野町		石井町		その他		-	
		27	11,696	6	2,727	4	2,066	7	4,324	44	20,813
35	そらまめ	東みよし町		阿波市		美馬市		その他		-	
		24	6,444	7	1,594	5	932	9	2,099	44	11,069
36	たまねぎ	上板町		阿波市		三好市		その他		-	
		252	19,780	26	1,585	3	326	11	827	292	22,518
37	いちぢく	吉野川市		阿波市		石井町		その他		-	
		12	7,131	4	1,513	1	500	1	170	18	9,314
38	レイシ	阿波市		阿南市		-		その他		-	
		7	1,426	3	597	0	0	0	0	10	2,023
39	にんにく	吉野川市		上板町		阿波市		その他		-	
		51	25,167	31	12,707	4	1,379	8	3,665	95	42,918
40	えだ豆	徳島市		石井町		上板町		その他		-	
		421	270,053	64	40,966	45	31,007	63	41,245	592	383,271
41	ピーマン	美馬市		徳島市		三好市		その他		-	
		65	22,643	39	14,117	16	4,789	5	1,415	125	42,965
42	おくら	小松島市		阿南市		海陽町		その他		-	
		142	99,957	73	46,950	56	37,460	75	48,513	346	232,879
43	八朔	美馬市		三好市		鳴門市		その他		-	
		125	11,750	101	11,629	35	4,375	34	3,052	295	30,806
44	栗	三好市		美馬市		阿南市		その他		-	
		13	6,392	9	2,999	4	1,460	4	1,228	30	12,080
45	じゃがいも	阿波市		石井町		吉野川市		その他		-	
		6	400	6	374	2	137	2	161	15	1,072

4) 阿波市産野菜・果物の旬カレンダー（平成25年JA系統分月別出荷量）

単位：トン

品目	月別	冬		春			夏			秋			冬	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
果菜類	なす	41.6	49.3	78.1	95.5	113.8	221.5	823.9	1,006.3	712.7	405.5	110.9	27.9	
	トマト	53.2	21.1	31.0	72.2	188.4	134.6	96.9	9.2	8.9	69.8	63.9	83.7	
	ミニトマト	70.0	57.7	61.1	73.9	96.4	68.6	27.8	10.5	17.7	40.9	48.6	73.2	
	きゅうり	5.7	2.1	4.8	26.8	50.1	38.7	73.4	52.6	5.3	40.9	31.9	16.0	
	青とうがらし	1.3	2.1	2.7	2.8	3.0	10.7	27.3	14.9	7.4	4.5	3.0	1.7	
	かぼちゃ					3.2	50.3	15.5						
	レイシ							3.1	3.7	0.6				
	ピーマン						0.1	1.0	1.1	0.2	0.1			
	唐辛子			0.1	0.2	0.3	0.4					0.1	0.2	0.2
	おくら								0.4	0.6	0.1			
穀物類	とうもろこし					1.9	193.5	34.6						
豆類	えんどう	4.5	5.5	8.0	49.1	57.7	0.05			0.1	3.9	6.6	5.2	
	そらまめ					6.4	0.2							
	いんげん					0.5	1.8	0.4	0.1	0.03	0.6	1.2	0.6	
	えだ豆						0.9	0.8						
果実的野菜	いちご	37.8	32.7	50.8	41.6	17.6	1.5					3.3	21.3	
	すいか						7.9	6.4						
	メロン						4.1	3.3	1.2					
葉菜類	レタス	547.6	650.8	1,040.8	615.3	167.0	0.4				69.9	556.4	592.2	
	キャベツ	60.6	84.8	140.1	83.1	171.4	63.5	1.6			5.5	40.0	79.4	
	白菜	122.7	141.1	44.8								131.1	219.3	
	サニーレタス	48.7	69.1	83.4	51.5	9.0					2.0	62.4	71.8	
	ほうれん草	14.7	24.7	35.3	13.9	5.1	3.5	2.8	2.5	2.5	3.3	3.6	7.9	
	パセリ	2.0	2.8	4.3	2.8	0.4					0.2	2.1	3.8	
	小松菜	1.1	0.8	1.1	0.6	0.7	0.4	0.4	0.1	0.2	0.8	0.8	0.9	
	みず菜	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2				0.2	0.2	0.2	
	青梗菜											0.3	1.4	
茎菜類	ねぎ	5.9	11.4	14.2	16.0	14.6	11.0	14.8	18.8	11.8	9.1	8.3	8.0	
	アスパラガス		1.4	2.5	1.4	3.0	5.6	5.1	3.5	2.3	1.1			
	たまねぎ					1.5	11.0	11.2	0.8	1.0				
	白ねぎ	1.2	2.6	3.6	3.8			3.1	1.0	0.4	0.4		1.1	
	にんにく				0.2	4.1	0.1							
花菜類	ブロッコリー	54.3	129.5	526.9	192.2	427.9	45.4	0.7		0.2	24.7	157.8	116.3	
	カリフラワー	8.1	15.2	15.3	0.3	2.6						0.6	5.1	
根菜類	だいこん	283.9	413.7	510.1	110.4	56.4	14.8					20.9	325.0	
	にんじん			22.3	107.6	110.8								
芋類	じゃがいも					0.4	4.7							
果実類	柿									31.8	95.3	59.5	11.7	
	ぶどう					16.9	47.2	26.7	6.8	0.7				
	梅					13.1	52.9							
	すだち							8.3	15.2	20.8	2.5			
	デコポン			8.9	4.2									
	八朔		4.7	0.9										
	いちぢく							0.2	3.2	0.5				
	ゆず											1.0		
その他	たらの芽	0.4	1.2	1.3	0.2									
	栗									0.7	0.8			

1) 地産地消とは

地域生産地域消費の略語で、地域で生産された様々な生産物や資源（主に農産物や水産物）をその地域で消費することをいいます。

また、単に地域で生産されたものをその地域で消費するだけでなく、生産者と消費者が互いに農や食に対する理解を深め、共に農を支えていく取り組みです。

地産地消のメリットとしては、以下のようなものがあります。

- ①新鮮でとれたての食材が手に入る。
- ②生産者の顔が見える。（安心につながります。）
- ③環境にやさしい。（農産物の輸送を減らすことができ、環境への負荷が小さくなる。）
- ④旬を知ることができる。
- ⑤地域とのつながりが強まる。

2) 6次産業化とは

6次産業化とは、農林漁業者が主体となって、生産から加工・販売まで取り組むことです。農山漁村には、有形無形の豊富で様々な資源「地域資源」（農林水産物、バイオマス、自然エネルギー、風景・伝統文化など）に溢れています。6次産業化とは、それら「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者（1次産業従事者）がこれまでの原材料供給者としてだけではなく、自ら連携して加工（2次産業）、流通や販売（3次産業）に取り組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すことです。こうした経営の多角化（6次産業化）の取組は、地域の活性化に繋がることが期待されています。

3) JAの産直市



阿波町農業協同組合「JA阿波町土柱の里」

☎0883-35-7522

土柱の里は、JA阿波町とJA阿波町運営委員会により地元の新鮮な野菜や加工品を販売しています。青果については、当日収穫した新鮮で安全な商品を、加工については、米・惣菜・弁当・だんご・あられ・味噌・焼肉のタレといった幅広いジャンルの商品を揃えております。

店舗には加工所も併設されており、女性部員の皆さんが丹精込めて作ったお惣菜も取り揃えています。毎月JA阿波町運営委員会が主体となって、プレゼント・セール・試食試飲会といった沢山のイベントを開催しています。



阿波郡東部農業協同組合「JA夢市場」

☎0883-36-5332

地元の農家の方々が、自分たちの田畑で収穫した新鮮な野菜や果物を中心に、花や加工品を豊富に取り扱っており、自分たちの手で搬入し、自分たちで決めた値段で来客した人たちに購入していただいている市場です。

阿波市の農産物は、県下でも有数の農業地帯であるため、様々な野菜や果物が1年を通じて途切れることなく豊富に採れ販売を行っており、来客の方々に非常に好評です。

また、購入した弁当やお菓子を食べることの出来るように交流スペースを設け、生産者との交流を楽しみながらお買い物ができます。



板野郡農業協同組合「JAグリーンいたの西店」

☎088-637-8228

JAグリーンいたの西店の中の直売コーナーでは、地域で採れた安全・安心な農産物と加工品、また花苗・切り花などを販売しています。

産直野菜については、出品前には農薬使用履歴（栽培歴）を確認し、加工食品では、巻き寿司、おはぎ、手作りパンなどのほか、地域の特産である御所名物のたらいうどんなどもあります。また、近隣の山で採れた旬の果物（桃・ぶどう・梨・柿）など、冬場には苺もあります。

米販売については玄米売りと店頭精米がありますが、高品質と評判の土成町内で収穫した「土成米」のコシヒカリ・キヌヒカリを取扱いしています。



地元の新鮮な野菜や果物をお探しなら、産直市へ行こう！

4) 地産地消や6次産業化に係る市単独事業

阿波市では、活力ある阿波市農業振興事業を実施していますが、この中で地産地消や6次産業化に係る支援として次の2つの事業があります。(平成26年度現在)

加工品等開発推進事業補助金

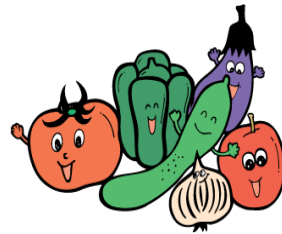
農畜産物を使用した販売を目的とする加工品について、阿波市ブランドとして認知の向上を図り、販路拡大を進めるため、新たな加工品の開発に必要な試作、研究、研修等にかかる費用を予算の範囲内で支援します。

〔対象者〕

新たな加工品を開発しようとする団体及び個人事業者

〔補助金〕

補助対象経費のうち10万円以内



地産地消型簡易加工施設整備事業補助金

地産地消や地域に根ざした産業の活性化を促進するため、阿波市内で生産された農畜産物を使用し、販売を目的とする加工品を製造する簡易な加工施設の整備に要する費用を予算の範囲内で支援します。

〔対象者〕

地場産品を使用し販売目的の加工品を製造する施設を整備する団体及び個人事業者

〔補助金〕

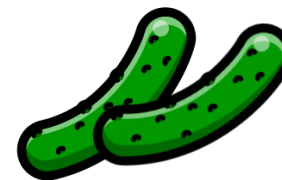
補助対象経費の2分の1(上限50万円)

お問い合わせ


阿波市役所 産業経済部 農業振興課


5) 加工品ガイド

	材料及び分量	作り方
① きゅうりの長期保存漬 (1~2年)	(一度漬) きゅうり 10kg 塩(15%) 1.5kg さし水 1.0kg 塩 150g	(1) きゅうりを水洗いして、ザルにうちあげる。 (2) タルにきゅうりを並べ塩を振り、きゅうりと塩を交互に振り入れてすき間なく漬ける。 (3) 押しぶたをし、重しはきゅうりと同量程度にする。 ※翌日には、水がきゅうりの上まで上がるような重しをしないと傷む。 (4) さし水をぐるりより流し入れる。 (5) 4~5日漬ける。
	(二度漬) 下漬きゅうり 10kg 塩(15%) 1.5kg (漬物用ビニール袋1枚)	(6) 一度漬の終わったきゅうりをザルにうちあげ、汁は捨てる。 (7) タルにビニール袋をしき、きゅうりを並べて塩を振り、交互にすき間なく漬ける。(上の方へ多目の塩を入れる。) (8) 袋の口をしぼり、押しぶたを置き、重しをする。 (保存) タルの上を紙でおおい、虫などが入らないようひもでしぼり、涼しい所に保存する。



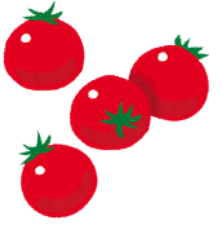
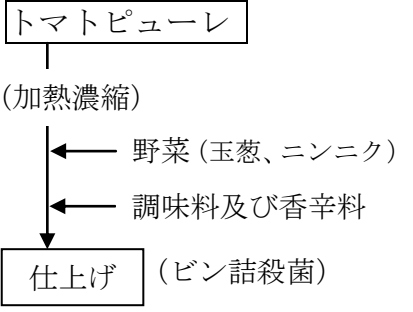
材料及び分量		作 り 方			
塩漬きゅうり	1kg	} せん切り } 塩漬野菜 1.5 kg } みじん切り }			
塩漬なす	250g				
しょうが	100g				
みょうが	100g				
梅づけの赤じそ	50g				
A		B	C		
塩	90g	赤梅酢	200cc	淡口しょうゆ	200cc
化学調味料	15g	化学調味料	15g	赤梅酢	250cc
クエン酸	10g	塩	50g	砂糖	10g
水	600cc	水	350cc	みりん	10g
				化学調味料	5g
				クエン酸	4g
				水	150cc
② し ば 漬	※人工梅酢	100cc	(1) 塩漬野菜の重量をはかる。		
	{ クエン酸 塩 水	4g 20g 76g	(2) 塩漬野菜を適当な大きさに切り、流水で塩分を除く。		
			(3) 野菜の水分を切ってきつく絞る。(元の重量の 50%程) (圧搾の過不足によって水の分量を加減する。)		
			(4) 調味液をつくる。 クエン酸、リンゴ酸はそれぞれ少量の湯でとき、分量の水に塩、化学調味料とともに煮とかし(80℃)赤梅酢、氷酢酸、みりん等は後で加えて冷却する。		
			(5) しばった野菜、せん切りのしょうが、みょうが、みじん切りの赤じそと調味液を混ぜ合わせ、冷蔵庫に保存。		


材料及び分量		作 り 方	
塩漬胡瓜	1kg	1. 塩漬材料一切断ー水さらしー中漬ー調味漬	
中漬用氷酢酸	35cc	(要 点)	
調味液		(1) 塩抜き	
(サワーピクルス)		5cm くらいに切りそろえ、1晩中水漬けして適当な塩味(塩度3%)まで塩を抜く。	
氷酢酸	30cc	(2) 中漬け	
食塩	14g	水 1.2ℓに氷酢酸 35cc をとのかした液に漬ける。	
香辛料	4~5g	(3) 調味漬け	
水	30cc	1週間、中漬けしたものを上記の調味液に漬ける。	
(スイートピクルス)		(4) 番幸料	
砂糖	300g	{ につけい 2g	
氷酢酸	30cc	{ こしょう 1g	
香辛料	4~5g	{ 丁字 2g	
水	600cc	{ トウガラシの粉 0.1g	
		{ ローレルの葉 4~5枚	
③ き ゅ う り の ピ ク ル ス			

	材料及び分量	作 り 方
④ なすの長期保存漬	(一度漬) なす 10kg 塩(なすの 15%) 1.5kg 焼ミョウバン 15g さし水 水(20%) 2ℓ 塩(水の 15%) 300g (二度漬) 塩 1.2kg (下漬なすの 15%) (タル、押しぶた、重石) 【なすの 2 倍量】	(1) さし水は、水に塩を加え煮溶かし完全に冷ましておく。 (2) なすを水洗いし、分量の塩でこする様にながら(又は、ザルになすを入れ、塩をふりかけてゆする)漬け込み容器に並べていく。 (3) 全て入れ終わったら、押しぶたとなすの 2 倍程の重石をし、さし水を流し入れる。 (4) 2~3 日して、なすをザルに上げ、水を捨て、タルにビニール袋をしき、なすと分量の塩を交互に漬け、ビニール袋の口をしっかりと押しぶたと重石をする。 (5) タルの上を紙でおおいひもでしぼる。
	塩漬なす 1kg { 砂糖 200g 濃口しょうゆ 400cc 水飴 200g { からし 80g みりん粕又はこうじ 200g 	(1) 塩漬なすは、5 ミリ程の輪切りにする。(大きいものは、縦半分にする) (2) 脱塩する。(前日より流水で完全に抜く) (3) しぼる。(元の重さの半分位) (4) からしは、50℃位の湯でねり、みりん粕と混ぜる。 (5) 調味液を沸かして、しぼったなすを入れ、煮含める。 (6) 火からおろし、みりん粕、からしに加えてよく混ぜる。 (7) からしが抜けないよう密封して保存する。

	材料及び分量	作 り 方
⑥ 朝鮮漬の素	水 1/2 カップ 薄口しょうゆ カップ 1 酢 カップ 1 塩 180g 砂糖 1/2 カップ にんにく 8 かけ 唐辛子 20 本 { 魚の塩辛の汁 トリのスープ かつおのだし汁 ケチャップ	(1) 赤とうがらしは、小口切りにし、種ごと水に入れ、砂糖・塩を加えて火にかけ、一度煮たてて火をとめる。 (2) かなり冷めてきたら、酢・醤油・にんにくのすりおろしを加えてまぜる。 (3) これに魚の塩辛の汁、トリのスープ、かつおのだし汁、ケチャップを適宜加えると本格的。夏は冷蔵庫に保存。 (漬け方) 好みの野菜 500g をひと口切りにして、ビニール袋に入れ、朝鮮漬の素(カップ 1/2)を加え、口をとめて押すようにもむと簡単に水があがる。
	(下漬用) { 白菜 2kg 食塩 (5%)100g さし水用塩 25g さし水 500cc (本漬用) 下漬白菜 { 大根 400g 人参 60g リンゴ 50g ミカンの皮 20g 干タラ (又は塩から) 80g 昆布 1 枚 にんにく 40g 唐辛子 3 本 調味液材料 { 唐辛子 1 本 昆布 1/2 枚 ゴマ油 小さじ 1 水 200cc	(1) 白菜は軽く水洗いした後、四つ割とし、1 昼夜塩漬する。 (2) 下漬の終わった白菜は、手で軽く絞って水気を除く。 (3) 大根、人参、リンゴ、ミカンの皮は千切にした後 4%位の塩水に 30 分~1 時間浸した後、充分水切りしておく。 (4) 干たらは、手でこまかくさき、塩分を 30 分くらい流水で抜き、昆布は長さ 5cm、幅 3mm 程度のたんざく切りにして、よく混ぜ合わせておく。 (5) ニンニク、生姜、唐辛子は、みじん切りにしてよく混ぜ合わせておく。 (6) 調味液は、一度沸とうさせた後、よく冷やしておく。 (7) 詰め込み材料をよくまぜ合わせた後、浅漬白菜の株間に詰め込む。 (8) 漬め込み桶は、カメ又はポリ(口の狭い方がよい)を使い一段一段順次漬け込んだ後、調味液を上からかけ、ポリ袋で密封し、押しぶたの上から重石をしておく。

⑧ トマトケチャップ

材料及び分量	作り方
<p>1. トマトピューレの作り方</p> <p>生トマト 3kg ビン(180 ml) 5本</p> 	<p>(1) まずトマトをつぶす。赤く平均に熟したトマトをステンレスの包丁で 2~4 つ割りにし皮ごと鍋に入れて火にかけ 60℃ぐらいに暖めながらよくつぶす。</p> <p>(2) つぶしたものをミキサーにかけ、さらに裏ごしする。</p> <p>(3) ステンレスまたは、アルマイトの鍋に裏ごししたトマトを入れ、はじめの量の 1/3 まで煮つめる。調味料は入れない。この時間は 10~15 分がよい。</p> <p>(4) 細口ねじぶたのガラスビンをあらかじめよく煮たて、熱い内に煮つめ、直後のピューレをいっぱいに入れて、すぐねじぶたをする。</p> <p>(5) つめたものを 100℃で 40 分以上殺菌する。方法はあらかじめ水を 60℃ぐらいに暖め、ふたつけ直後のびん詰めピューレーを沈める。火を強めて沸とうしたら 40 分ぐらい煮たあと、自然に冷えるのをまち 50℃ぐらいで、湯の中から出し、卓上に放置して自然に冷ます。</p>
<p>2. トマトケチャップの作り方</p> <p>トマトピューレ 約 20 (ビールびん 3本) 白砂糖 250g 塩 35g 酢 100g 玉葱 200g ニンニク 5g シナモン 3g こしょう 3g クローブ 3g ローレル 2g ナッツメグ 2g</p> 	<p>(1) トマトピューレを作る。</p> <p>(2) 香辛料は、別々に量ったあと粉のまま混合しておく。</p> <p>(3) (調合と煮つめ) 生トマトの煮つまったもの又はピューレを煮たてたものへ次の順で調合材料を入れる。</p> <p>①たまねぎとニンニク(ともに生のまますりつぶしたもの。) ②白砂糖と塩 ③酢でねりあわせた香辛料 ④残りの酢</p> <p>(4) 全部を入れ終わったら、しばらく沸とうをつづけて、十分にまぜ合わせてからビンに詰める。</p> <p>(5) ビンは、市販のケチャップのあきびんを利用する。あきびんは熱湯に入れて煮たてて殺菌する。熱いビンへ熱いケチャップをつめてすぐふたをすれば、その後の殺菌はしなくてもよい。</p>

材料及び分量	作り方
<p>⑨ らっきよ漬 1</p> <p>下漬 らっきよ 1kg 塩 50g 酢 100cc さし水 (塩) 300cc (200g)</p> <p>甘酢漬 酢 500cc 水あめ 100g みりん 20cc 砂糖 250g 唐辛子 2本</p>	<p>(下漬)</p> <p>(1) らっきよをさし水の中へ入れ、塩を最後に上からふりかけておく</p> <p>(2) 押しふたをして軽く重しをし、2週間以上漬けこむ。(長期に保存できる)</p> <p>(塩抜き)</p> <p>(1) 塩抜きは、ホースを容器の底へひき、水を少量ずつ出しながら一昼夜かけて塩抜きする。</p> <p>(甘酢漬)</p> <p>(1) 食酢を 70℃位まで熱し、さとう、水あめ、唐辛子を入れて、火からおろし際にみりんを加え、熱いうちに塩抜きしたラッキョに注加する。</p>
<p>⑩ らっきよ漬 2</p> <p>らっきよ 1kg 酢 400cc さとう (120~130g) 1カップ強 塩 1/4 カップ みりん 1/2 カップ 唐辛子 2~3本</p>	<p>(1) よく洗って、ざるに入れ熱湯をたっぷりかける。自然にかわかす。</p> <p>(2) 甘酢液につける。</p> 

6) 吉野川中流域の「行事食」

阿讃山脈や吉野川の豊かな自然に恵まれた阿波市では、季節ごとに様々な野菜やくだものが収穫でき、各家庭ではこれを利用した料理が季節ごとに「行事食」として受け継がれ、行事を盛り立てています。

また、同じ「行事食」でも、地域により名称が違ったり、季節により材料が異なったりもします。

皆さんの地域での「行事食」を、今一度見つめ直し、次世代の子どもたちへと伝承していきましょう。



行事名	月日	料理名	材 料
正月	1月1日	雑煮	いりこだし、餅、白みそ、里芋、白菜、大根、人参、ねぎ
		煮めし	コンニャク、里芋、大根、人参、ごぼう、しいたけ、高野豆腐、れんこん
		黒豆	黒大豆
		なます	大根、人参
正月雑煮	1月4日	雑煮	正月3ヶ日の間に神に供えた雑煮をあわせて煮る
七日正月 七日の節句	1月7日	七草粥	米、セリ、ナズナ、スズナ、スズシロ、ごぎょう、はこべら、ホトケノザ
鏡開き	1月11日	ぜんざい、しるこ	小豆、砂糖、鏡餅
小正月	1月15日	あずき粥	米、小豆、塩(餅を入れる場合もある)
日待ち	1・5・9月	ばら寿司	ごぼう、人参、ちくわ、コンニャク、しいたけ、干し大根、高野豆腐、板付、サンド豆、ふき等季節の青み、卵
節分	2月3日	炒り大豆	大豆
		いわしの塩焼き	いわし
		ばら寿司	ごぼう、人参、大根、干し大根、しいたけ、油揚げ、ちくわ、板付、コンニャク、金時豆
		なますの白あえ	大根、人参、コンニャク、豆腐
ひな祭り 桃の節句	3月3日	ひし餅(赤・白・青)	もち米
		巻き寿司	巻きのり、卵、高野豆腐、ほうれんそう又は三つ葉、かんぴょう、人参、ちくわ又は板付
		ばら寿司	ごぼう、人参、ちくわ、コンニャク、しいたけ、干し大根、高野豆腐、板付、サンド豆、卵
		赤飯	もち米、小豆、塩
		ワケギとイカのみそあえ	わけぎ、いか、みそ、砂糖、酢
		はまぐりの汁	はまぐり、三つ葉
		ういろ	もち米、小豆、砂糖、塩、しょうが
		ようかん	小豆、寒天、砂糖
あられ	もち米、砂糖		
春分の日	3月21日	ぼたもち	もち米、あんこ、きな粉
		だんご、草だんご	薄力粉、もち粉、あんこ、よもぎ
		たくあん	大根
社日	3月 9月	餅	もち米
		草餅	米粉、よもぎ、さつまいも、あんこ、きな粉
		ばら寿司	ごぼう、人参、ちくわ、コンニャク、しいたけ、干し大根、油揚げ、板付、金時豆
お釈迦さん	4月8日 (旧暦)	だんご	もち米、小麦粉、あんこ
		ばら寿司	ごぼう、人参、大根、干し大根、コンニャク、油揚げ、板付、豆類(青み)
		あまちゃ	※ユキノシタ科アジサイ属の植物。山紫陽花に似ている。

行事名	月日	料理名	材 料
端午の節句 こどもの日 五月節句	5月5日	かしわもち	もち粉、米粉、よもぎ、そら豆あん、小麦粉、柏の葉、さんきらいの葉
		ちまき	もち粉、米粉、笹の葉
		赤飯	もち米、小豆(ささげ)、塩、ごま
		そばだんご	そば粉、そら豆あん
		ばら寿司	ごぼう、人参、大根、干し大根、コンニャク、油揚げ、板付、豆類(青み)
夏祭り	6月	だんご	もち粉、米粉、よもぎ、小麦粉、あんこ(そら豆、小豆)
		赤飯	もち米、小豆、塩
		うどん	小麦粉、塩
		そうめん	いりこだし、油揚げ、ちくわ、ねぎ、卵
七夕 七夕祭り	7月7日	ばら寿司	ごぼう、人参、干し大根、コンニャク、油揚げ、板付、豆類(青み)
		吸い物	いりこだし、そうめん、三つ葉、しょうゆ
		だんご	もち粉、米粉、よもぎ、小麦粉、あんこ(そら豆、小豆)
お盆	8月13日 ~16日	そば米汁	そば米、人参、大根、コンニャク、ちくわ、鶏肉、油揚げ、青ねぎ、いりこだし
		ずきがし	ずき、油揚げ、ごま、酢、しょうゆ、砂糖
		冷やしそうめん	そうめん、青ねぎ、みょうが、薄焼き卵
		煮物	かぼちゃ、切り昆布、じゃがいも、油揚げ、なす、いりこだし
		だんご	小麦粉、もち粉、米粉、あんこ(そら豆、小豆)
		ばら寿司	ごぼう、人参、干し大根、コンニャク、油揚げ、しいたけ、卵、金時豆、サンド豆
栗節句	9月9日	栗ごはん	栗、塩
		きゅうりの酢の物	きゅうり
		だんご	小麦粉、もち粉、米粉、あんこ
秋分の日	9月21日	おはぎ	もち米、きち米、あんこ、きな粉
		おにぎり	米
秋祭り 例祭	10月	魚寿司(姿寿司・押し寿司)	ボウゼ、アジ、コノシロ、すだち、昆布、しょうが
		赤飯	もち米、小豆(ササゲ)、塩
		煮しめ	大根、ごぼう、人参、コンニャク、しいたけ、里芋、ちくわ、板付、高野豆腐
		巻きずし	巻きのり、高野豆腐、かんぴょう、人参、卵、しいたけ、ちくわ
		甘酒	米こうじ、米
		汁物	とりいれ(はんぺん)、三つ葉、白みそ
		餅	もち米
いのこ	10月の 亥の日 (旧暦)	芋もち・そら豆あんのもち	もち米、さつまいも、あんこ
		ばら寿司(ゆず寿司)	干し大根、ごぼう、人参、コンニャク、油揚げ、しいたけ、卵、金時豆、サンド豆
		ゆずなます	大根、人参、ゆず酢
冬至	12月21日	かぼちゃの煮物	かぼちゃ
大晦日	12月31日	年越しそば	そば粉、油揚げ、板付、ねぎ

注意: 地域によっては、行なっていない行事や、作られていない料理も含まれます。

※吉野川農業支援センター資料

1) 集落営農とは？

「集落など地縁的にまとまりのある一定の地域の農家が、農業生産を共同して行う営農活動」をいいます。農業従事者の兼業化や高齢化の進展により担い手が不足し、耕作放棄地が増加している中、個々の農家では解決できない問題を集落全体で話し合い、協力して地域農業を維持・発展させることが重要となっています。担い手への農地の集積や機械・施設の共同利用により労働時間の短縮や生産コストの削減が期待できるため、小規模な耕地に多額の投資が行われがちな兼業農家等の個別経営の改善に大きな効果が期待できます。

2) なぜ今、集落営農なのか！

- ◇5年先、10年先の集落の姿を考えた事がありますか？
- ◇農家がそれぞれに農機具を買って非効率的ではないですか？
- ◇担い手・後継者がいない、高齢化が進んでいませんか？
- ◇耕作放棄地が増えていませんか？

こうした課題に対処する有効な方策として「集落営農」が考えられます。集落内でやる気のある人が中心になって農作業を行うことが可能となり、大切な農地を守っていくことができます。もちろん、元気な高齢者は意欲、体力に応じて参加できます。

3) 集落営農組織化のポイント

◇集落での話し合い

集落で地域の実態や悩みを話し合うことから始めます。

- 集落の農業をどうしていくのか？
- できなくなった作業や農地をどうするのか？
- 機械・施設は今後どうしていくのか？
- 集落の担い手をどうするか？



◇集落の実態把握

アンケート調査を行って、各戸の担い手の有無や機械の保有状況、農地の利用状況について調べます。

◇みんなの意見をまとめよう！

アンケート調査の結果から、集落ビジョンを作成して、目指す集落の姿について合意を得ることが必要です。そのために、視察研修等を実施して他地区での取り組みについて知ることも大切です。

◇組織体制の整備と経営計画を作成しよう！

農作業の受託希望やオペレーターを明確にして経営計画や規約を作成します。これらができれば総会を開催して組織設立の運びとなります。

4) 集落営農の設立手順

話し合いの場づくり

「〇〇集落の将来を考える会」等の設置
自治会・実行組・中山間直接支払協定等を母体に設置

- 「10年後の集落を考える」ことから始める。
- 次の世代や女性を含めて話し合う。
- 母体団体の了解を取り付ける（地域公認）

話し合いによる集落合意

「集落ビジョン」の作成・合意

現状把握（アンケート調査等）→ ビジョン作成 → 合意

- 集落の将来に向けて「できることから取り組む」
- アンケートは次の世代や女性も対象に実施する。
- 必要な機械・資金、大まかな経営計画も検討する。

集落営農組織づくり

集落営農組織の検討

賛同者を中心に集落営農組織づくりを進める

- 設立準備会の設置
- 組織形態、機械・施設、収支計画等の検討
- 集落説明 → 加入推進 → 設立総会
既存組織や集落外組織の集落営農組織化も検討

集落営農組織の設立

5) 農業経営の法人化の意義と利点

農業経営の改善を図る上で有効な手段となること、他産業並みの就業条件が整備されることなど、「農業」が魅力ある職業となるための基礎的条件が整備されることから、農業経営の法人化が進展しています。

農業経営の法人化の利点としては、①経営体の円滑な継承、②経営管理能力や資金調達力、対外信用力の向上、③雇用労働関係の明確化や労災保険などの適用による農業従事者の福利厚生充実、④新規就農者の確保が容易等があげられます。また、新規就農や地域雇用の受け皿となるなど地域社会の活性化に果たす役割の重要性も指摘されています。

しかしながら、これらの利点は、法人化すれば自動的に享受されるものではなく、農業経営の継続・発展のための経営努力のなかで生み出され、獲得していくものとして理解する必要があります。

対外信用力の
向上

経営の円滑な
継承

雇用労働関係の
明確化



《法人化のメリットと義務・負担》

		メリット	義務・負担
経営・運営	経営管理等	①経営責任に対する自覚をもつことで、経営者としての意識改革を促進 ②家計と経営が分離され、経営管理が徹底	①複式簿記（企業会計規則）での記帳義務（財務管理の複雑化）により多少労力が必要 ②会計事務や税務申告を専門家に依頼すると経費負担が発生 ③法人の設立には、資本金、設立登記費用等の経費が必要
	対外信用力	①計数管理の明確化や各種法定義務（設立登記、経営報告等）を伴うため、取引上の信用力が向上 ②法人となることでイメージが向上し、商品取引や従業員の雇用等が円滑化	
	人材の確保・育成	①法人の役員、社員等の中から有能な者を継承者として確保することが可能 ②就農希望者が法人に就職することで、初期負担なく経営能力、農業技術の習得が可能	
制度上	税制	①所得の分配による事業主への課税軽減 ②定率課税の法人税の適用 ③役員報酬の給与所得化による節税（一部制限あり） ④使用人兼務役員賞与の損金算入 ⑤退職給与等の損金算入 ⑥欠損金の7年間繰越控除（青色申告法人に限る） ⑦農業経営基盤強化準備金	①法人課税の適用が個人課税より有利となるためには一定以上の所得規模が必要 ②法人の場合、利益がなくても最低限、県民税（均等割）、市民税（均等割）の納税義務が発生
	社会保障制度	①社会保険、労働保険の適用による農業従事者の福利増進 ②労働時間等の就業規則の整備、給与制の導入による就業条件の明確化	各種社会保険制度の導入により、事業主負担が発生
	制度資金	①融資限度額の拡大（認定農業者に限る） ②スーパーL資金の「円滑化貸付」による無担保・無保証貸付（認定農業者に限る）	
	農地の取得	農地保有合理化法人が農用地等を現物出資することにより農地取得の負担軽減（農業生産法人出資育成事業）	

6) 会社法人と農事組合法人の比較

		株式会社	合同会社	農事組合法人
根拠法		会社法		農業協同組合法
事業		事業一般		①農業に係る共同利用施設の設置・農作業の共同化に関する事業 ②農業経営、付帯事業
構成員	資格	制限なし（ただし、農業生産法人となる場合には、農地法の要件を満たす必要がある）		農民等
	数	1人以上（上限なし）		3人以上（上限なし）
会社の基本方針決定		1株1議決権による株主総会の議決	1人1議決権による全員一致（定款で変更可）	1人1票制による総会の議決
役員		①取締役1人以上（必置・株主外も可）。ただし、公開会社の場合は3人以上 ②監査役（任意・株主外も可）	①業務執行社員1人以上	①理事1人以上（必置・農民である組合員のみ） ②監事（任意・組合員外も可）
雇用労働力		制限なし	制限なし	組合員（同一世帯の家族を含む） 外の常時従業者が常時従業者総数の2/3以下
資本金		制限なし	制限なし	制限なし
法人税	税率	資本金1億円超の法人 25.5% 資本金1億円以下の法人 ・年所得800万円以下 15.0%（注） ・年所得800万円超 25.5%		①構成員に給与を支給する法人（普通法人に該当）左記に同じ ②上記以外（協同組合等に該当） ・年所得800万円以下 15%（注） ・年所得800万円超 19%
	その他	同族会社の留保金課税の適用あり		同族会社の留保金課税の適用なし（会社でないため）
事業税・地方法人特別税		資本金1億円超の法人 資本金1億円以下の法人 ・年所得400万円以下 ・年所得400万円超800万円以下 ・年所得800万円超	事業税 外形標準課税 2.7% 4.0% 5.3% + 地方法人特別税（所得割14.8%） 事業税×81%	農業生産法人が行う農業（畜産、農作業受託※は除く）は非課税 ※一定の小規模のものは非課税 上記以外の普通法人は左記に同じ、協同組合等は年間所得400万円超3.6%（事業税）
設立時の登録免許税		資本金の額の7/1000 （15万円に満たない場合は15万円）	資本金の額の7/1000 （6万円に満たない場合は6万円）	非課税
組織変更		合同会社に変更可 農事組合法人への変更は不可	株式会社に変更可 農事組合法人への変更は不可	株式会社に変更可 合同会社への直接変更は不可

（注）平成24年4月1日から平成27年3月31日の間に開始する各事業年度に適用される税率

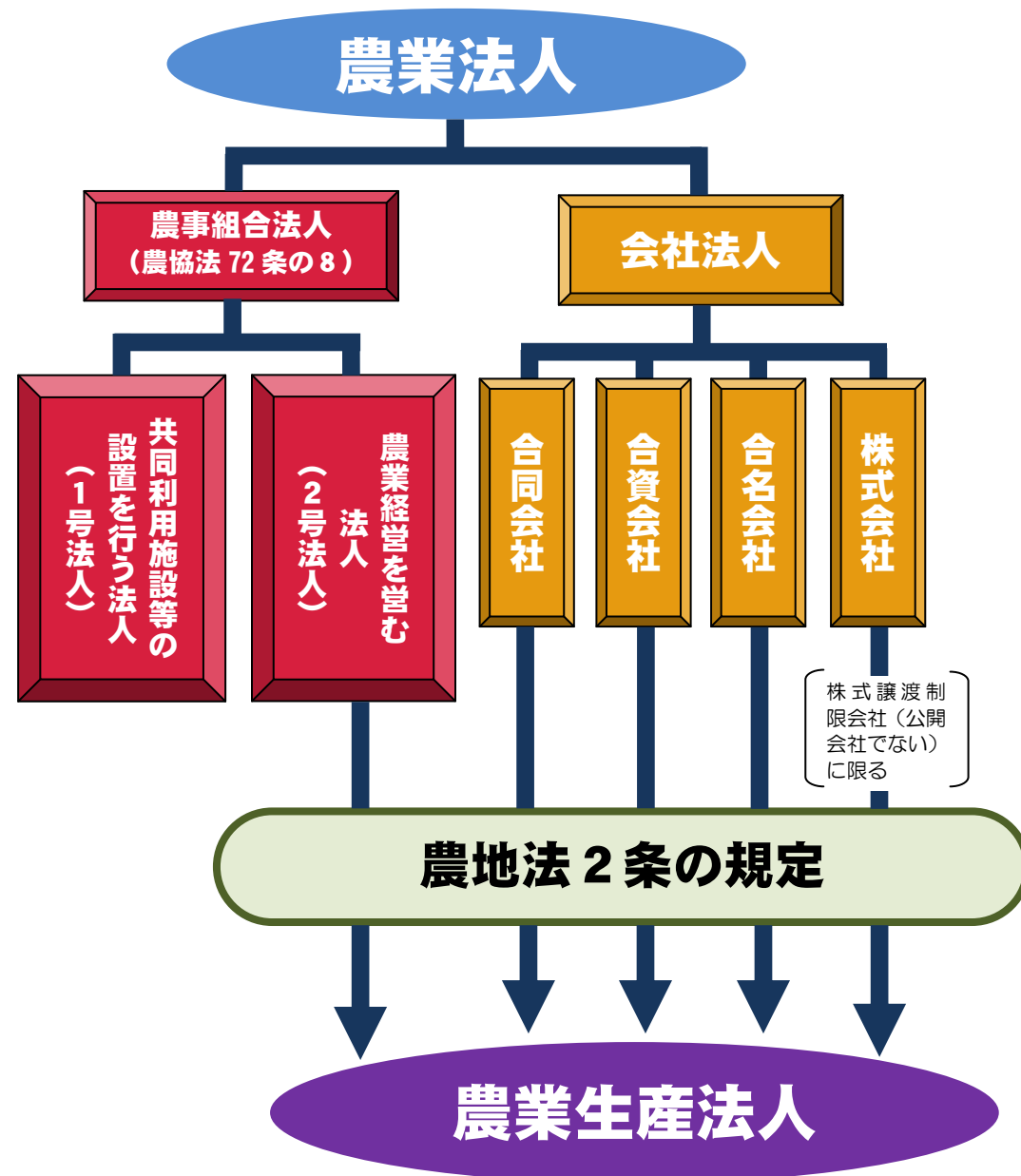
7) 農業法人と農業生産法人

農業法人とは、「法人形態」によって農業を営む法人の総称です。

この農業法人には、「会社法人」と「農事組合法人」の2つのタイプがあります。

また、農業法人は、「農業生産法人」と「一般農業法人」に大別され、事業や構成員、役員について一定の要件があります。

法人化する場合、どのタイプの法人を選ぶのか、それぞれの法人形態の特色や自らの経営展望に照らして選択する必要があります。



8) 農業法人を設立するためには

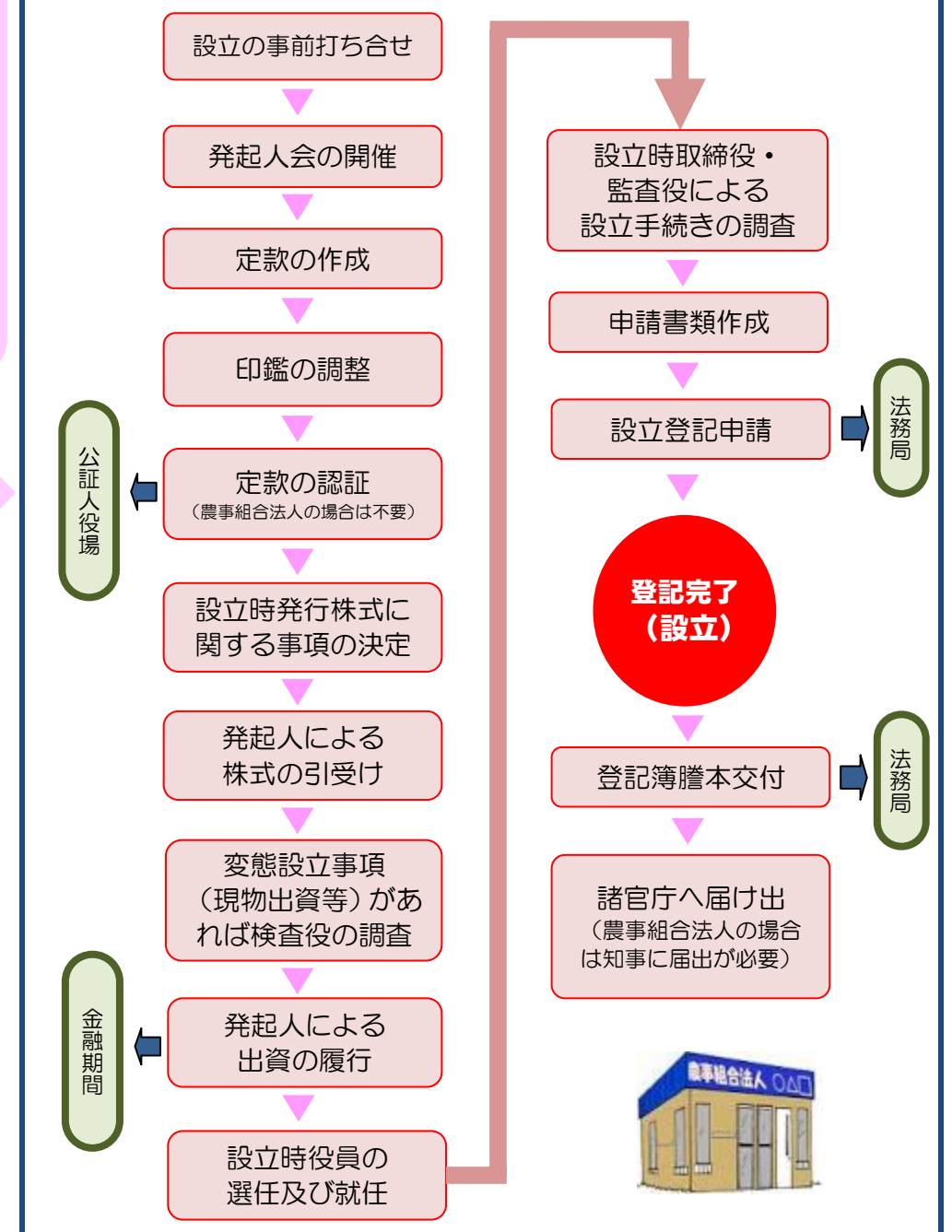
いよいよ農業法人を設立する場合、法人形態や構成員をどうするかが重要なポイントです。法人形態の選択にあたっては、家族や仲間、地域事情や資金等の現時点の状況や判断だけでなく、将来どのような農業法人にしたいのかも含めた長期的な視点も大切です。

株式会社と農事組合法人では、根拠法令が異なるため議決権が異なるほか、農事組合法人には雇用人数の制限（構成員の2/3未満）があるなど、差異がありますので注意が必要です。

設立手順

法人の形態が決まれば、いよいよ設立です。定款や事業計画の作成の時点で農業委員会等の関係機関・団体と事前に相談することをおすすめします。

株式会社（発起設立）



9) 農業生産法人の要件

法人形態要件

農業生産法人の法人形態は、①株式会社（株式譲渡制限会社（公開会社でない）に限る）、②合名会社、③合資会社、④合同会社、⑤農事組合法人のいずれかです。

構成員要件

農業生産法人の構成員となれるのは、その法人に対して①農地の権利提供者、②常時従事者（原則として年間 150 日以上従事）、③基幹的な農作業を委託した個人、④農地を現物出資した農地保有合理化法人、⑤地方公共団体、農協、農協連合会、⑥産直契約を結んでいる消費者や品種登録を受けた種苗の生産ライセンスの供与契約を結ぶなど特定の技術を提供する企業など一定の範囲内で法人の行う事業と継続的取引関係にある個人・法人、⑦農業法人投資円滑法に基づき事業計画の承認を受けた株式会社です。

このうち、⑥については、その社員の数又は議決権に制限があります。

なお、農業経営改善計画の認定を受けた農業生産法人（認定農業者）については、特例があります。

- 農地の権利を提供した個人
- 法人の農業の常時従事者
- 基幹的な農作業を委託した個人
- 農地等を現物出資した農地保有合理化法人
- 農業協同組合・農業協同組合連合会
- 地方公共団体
- アグリビジネス投資育成(株)

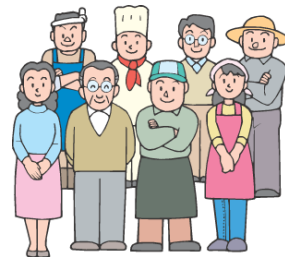
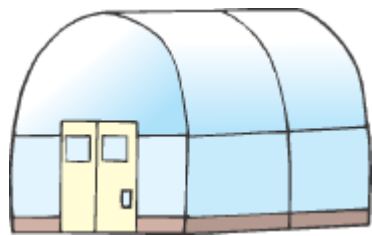
- 法人から物資の供給等を受ける者、又は法人の事業の円滑化に寄与する者
- 農業生産法人
 - 食品加工業者
 - 生協、スーパー
 - 産直契約する個人
 - 農産物運送業者
 - ライセンス契約する種苗会社

総議決権の4分の1以下
(農商工連携事業者等の場合は2分の1未満まで)

特例

農業経営改善計画について市の認定を受けた場合

- 農業内部：制限なし
- 農外の者：総議決権の2分の1未満



事業要件

農業生産法人の事業の要件は、「主たる事業が農業（関連事業〔法人の農業と関連する農産物の加工販売等〕を含む）であること」です。

農業（関連事業を含む）が売上高の過半であれば、その他の事業を行うことができます。

農業（関連事業を含む）

- 関連事業：農産物の製造・加工、貯蔵、運搬、販売、農業生産資材の製造、農作業の受託、林業、共同利用施設の設置、農村滞在型余暇活動に利用する民宿

直近3か年の
売上高の過半

農業生産法人の役員要件は、①農業生産法人の業務執行役員の過半の人が法人の農業（関連事業を含む）に常時従事する構成員であること、② ①に該当する役員の過半が省令で定める日数（原則年間 60 日）以上農作業に従事することとされています。

なお、従事日数には特例があります。

業務執行役員

① 役員の過半が農業の常時従事者
(原則年間 150 日以上) である構成員であること

② ①のうち過半が農作業に従事(原則 60 日以上) すること

過半の過半

役員全体の過半

要件適合性確保のための措置

農業委員会への報告

農業生産法人は、毎事業年度の終了後3ヶ月以内に、事業の状況等を農業委員会に報告しなければなりません。この毎年の報告をせず、または虚偽の報告をした場合には 30 万円以下の過料が課せられます。

農業委員会の勧告及びあっせん

農業委員会は、農業生産法人が要件を満たさなくなるおそれがあると認められるときは、法人に対し、必要な措置をとるべきことを勧告できます。この場合、法人から農地の所有権の譲渡をしたい旨の申出があったときは、農業委員会はあっせんに努めることとされています。

10) 農業法人化のQ & A (会社法人全般)

Q 1 : 設立時の登録免許税とは何ですか

A : 登録免許税とは、登録免許税法という法律により、登記・登録・特許・許・認可・認定・指定および技能証明について課税される税である。ほとんどが申請書に印紙で納付することになっている。法律には細かい別表があって課税標準額と税率が記載されている。株式会社の設立は資本金の0.7%などとなっている。これにより算出した額が15万円に満たない場合は15万円となる。

Q 2 : 定款とは何ですか

A : 定款とは、会社、公益法人、協同組合などの目的、組織並びにその業務執行に関する基本規則。また、それを記載した文書である。発起人全員によって作成され、署名・捺印して、公証人の認証を受けることが義務づけられている。
※農事組合法人は、定款の認証が不要である。

Q 3 : 決算公告とはどんなことをすることですか

A : 決算公告とは、株式会社が前年度の決算内容について株主総会の承認を得た後、その要旨を債権者や投資家に広く伝えるために官報または会社の定款で定めた日刊新聞紙に掲載するもの。

Q 4 : 構成員、組合員、社員、従業員の違いはありますか

A : 構成員 : 法人を構成する社員、組合員
組合員 : 組合に出資している人、農事組合法人は農民等であって定款に定める者
社員 : 会社に出資している人、自然人、法人とも社員になれる。
従業員 : 事業者に雇用されている人

Q 5 : 出資配当って何ですか

A : 出資配当とは、出資金額に応じた配当のこと。農事組合法人や企業組合は配当に制限がある。

Q 6 : 「無限責任」と「有限責任」の違いは何ですか

A : 「無限責任」とは、会社の債務に対して出資者が無限に債務を返済する責任を負うこと。もし会社が倒産した場合は、出資金だけでなく個人の資産からも債務を返済しなければならない。

「有限責任」とは、会社の債務に対して出資者が一定限度においてのみ債務を返済する責任を負うこと。もし会社が倒産した場合には、出資金額の範囲で債務の返済をすればよく、個人の資産をもって債務を返済する義務はない。

11) 集落営農・法人化に係る市単独事業

活力ある阿波市農業振興事業を実施していますが、この中で集落営農・法人化に係る支援として次の2つの事業があります。【平成26年度現在】

集落営農組織モデル支援事業補助金

担い手不足や耕作放棄地の解消、農業用機械等のコストを削減し、営農を持続又は改善できる集落営農組織の設立に取り組む集落に対して、組織設立に必要な会議費・研修費・事務費等の必要な経費を予算の範囲内で支援します。

〔対象者〕

集落営農に取り組もうとする意欲ある団体

〔補助金〕

補助対象経費のうち30万円以内



農業法人推進支援事業補助金

農業経営を法人化した場合、経営体としての継続性が確保されるとともに、経営管理能力の向上、労働環境の改善、対外信用力の向上等の農業経営の改善・発展のための利点があることに加え、地域における就業の場の確保に資する等様々な利点があることから、法人化に向けた取り組みに必要な会議費・研修費・事務費等の経費を予算の範囲内で支援します。

〔対象者〕

農業法人化に取り組もうとする意欲ある者

〔補助金〕

補助対象経費のうち5万円以内

お問い合わせ

阿波市役所 産業経済部 農業振興課

11. 農作業事故防止に取り組みましょう！

「参考資料」

農作業中の事故による死亡者は、全国で約 400 人にもものぼります。徳島県内でも毎年5件程度の死亡事故が発生しています。日頃から、機械の整備点検や安全作業の実施で農作業中の事故を防止しましょう。

1) 農道等を通行するときの注意点



- 急がず、あせらずに運転しましょう。
- 路上では交通規制を守り、安全運転に努めましょう。
- 後方の反射材の泥を取り除き、追突事故に注意しましょう。
- 見通しの良い交差点ほど、「しっかり止まってはっきり確認」を行いましょう。
- 農道など狭い道路は、路肩に注意しましょう。
- 作業機やトレーラーに人を乗せて運んではいけません。

2) 農業機械等の操作に関する注意点

- 農業機械等の点検や整備のときはエンジンを停止した状態で行いましょう。
- トラクターで圃場から道路に出るときや道路を走行するときは左右ブレーキの連結を忘れないようにしましょう。
- 圃場出入口の傾斜方向に対して平行に進入しましょう。
- 万が一に備え、トラクターへ安全フレームなどを装着しましょう。
- 異音の発生など機械の異常を感じたら、無理に操作せず、安全を確認しましょう。
- 靴やステップについた泥は取り除きましょう。

3) 農作業中の注意点

- 作業に適した服装と保護具の着用で安全作業に努めましょう。
- 一人作業の場合は、メモを残すなど、どこで作業をしているか家族にわかるようにしましょう。
- 作業を始めるときは、周囲に人がいないことを確認しましょう。
- 適度な休憩をとり、無理のない作業をしましょう。

【主な事故の原因】

- 人的要因 安全無視（ルール・手順無視、確認不足） 技量・知識不足（誤操作、手順違い）等 焦りや疲れ、体力・能力不足等
- 物的要因 機械の操作性、安全性、耐久性の問題 圃場や道路の傾斜、幅員、凸凹、ぬかるみ等
- 安全管理 操作手順の不徹底、技術不足、健康状態等

★★★★★★ 農作業安全チェックシート ★★★★★★

チェック方法：該当する取り組みを結果欄へ記入して下さい。

必ず取り組んでいる・・・◎ 大体取り組んでいる・・・○ たまに取り組んでいる・・・△ 取り組んでいない・・・×

■個人（自分）の取り組みについてチェックしてみましょう！

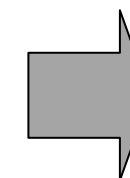
分類	No.	項目	チェック内容	結果
作業前の準備	①	正しい服装	衣類が機械に巻き込まれないよう、作業に適した服装をしている	
	②	所在連絡	作業内容や作業場所を家族などに伝えている	
	③	携帯電話	緊急時に連絡が取れるよう、携帯電話を持って作業へ出かけている	
	④	体力調査	準備運動を行っている	
	⑤	焦り防止	作業計画を立てて、余裕をもって無理なく作業している	
作業中	⑥	作業者確認	子供、妊婦、不慣れな人には危険を伴う作業はさせない	
	⑦	周囲確認	周りの作業者に危険が及ばないように、周囲を確認しながら作業している	
	⑧	複数人作業	機械作業、高所作業などの危険を伴う作業は複数人で行っている	
	⑨	機械安全確認	機械、器具の安全装置や防護カバーはきちんと装着して作業している	
	⑩	エンジン停止	機械から離れるとき、機械のつまりを取り除くときはエンジンを切っている	
	⑪	適当な休憩	疲労が蓄積しないよう定期的に休憩している	
日常	⑫	危険箇所の確認	圃場・農道・機械の格納庫などの危険箇所を確認し、誰もが危険な場所と一目でわかるよう看板や目印を設置している	
	⑬	技術講習	不慣れな機械や作業は講習を受けてから使用している	
	⑭	労災・共済	万一の事故に備え、労災保険や傷害共済などに加入している	
	⑮	応急措置	万一の事故に備え、応急処置の知識を身につけている	

■採点方法

◎ = 5点、○ = 3点、△ = 1点、× = 0点で計算し、下記の得点表に記入して下さい。

◎ 5点 × 個 = 点
 ○ 3点 × 個 = 点
 △ 1点 × 個 = 点
 × 0点 × 個 = 0点

合計 (75点満点)



点

★定期的にチェックし、得点が上がるよう取り組みましょう！

1) 水稲

【事前対策】

- ①強風による稲株のゆれや葉先の損傷などをできるだけ少なくするため、深水管理に努める。
- ②冠水が予想される場合は、排水路、排水口の整備を行い長時間冠水しないように心がける。

【事後対策】

- ①浸水、冠水した圃場では、できるだけ早く溝切り、水路のゴミを除去し、濁水の排水に努める。
- ②台風による暴風は、稲の表面から多量の水分を奪い、茎葉に損傷を与えるので水田に水を入れる。
- ③育苗中の稲苗は、強風で葉が傷つくため、寒冷紗などで被覆する。



2) 野菜

【事前対策】

- ①雨除けハウス等は、取り付け金具の締め直しやマイカ線の固定、側杭の補強を行うとともに、防風ネットなどをよく点検しておく。
- ②夏秋なす等の果菜類は、支柱および防風ネットを補強する。
- ③冠水や浸水のおそれのある圃場は、排水溝を整備しておく。

【事後対策】

- ①浸冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻す。
- ②べたがけ資材で被覆した圃場は、台風通過後できるだけ早く除去し、茎葉に付着した泥は水で洗い流す。また、各作目の防除基準に基づいて薬剤散布を行う。
- ③夏秋なす等の果菜類は、風雨害による傷葉を除くとともに、各作物の防除基準に基づいて薬剤散布を行う。
- ④株元が露出したり、降雨により土壌が締まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕して通気性を良くする。
- ⑤樹勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布を行う。
- ⑥豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、樹勢回復後、早効性の肥料を追肥する。

3) 果樹

【事前対策】

- ①風が当たりやすい園地は、防風ネット等を予め設置しておく。
広い園地は、園内を区切って防風ネットを設置する。
- ②なし、ぶどう等の棚栽培は、鉄パイプや支柱等を設置して落果や擦傷を減らす。
- ③幼木等の倒伏し易い樹は、支柱を立てて固定し、倒伏を防止する。
- ④排水溝設置と清掃を行う。
- ⑤ハウス栽培で、ビニールや防風ネットを被覆している場合は、取り付け金具の締め直しやマイカ線の固定、側杭の補強を行う。ハウス周辺に排水溝を設けておく。強風時にはハウスを密閉し、換気扇を作動させる。
- ⑥ビニールやネット等を残す場合は、ひもで束ねて強く縛る。強風が予想される場合は、予め除去しておく。

【事後対策】

- ①溝切りや排水溝の清掃を行い、速やかな排水に努める。
特に、結実しているもも、ぶどう、なし、ハウスみかん、ハウスすだち等は、早期排水と乾燥に努め、冠水、湿害の発生を回避する。
- ②折れた枝は、切り直して癒合促進剤を塗布する。
主枝、亜主枝等の枝裂け部は、縄などで縛り癒合を促進する。
- ③倒伏樹は、立て直して支柱等に固定し、土寄せする。
- ④冠水した温州みかん園は、清水で洗い流した後、褐色腐敗病の防除を行う。
- ⑤かんきつのかいよう病、黒点病等は、風雨によって発生が助長されるので、防除基準に沿って適宜防除する。

4) 花き

【事前対策】

- ①圃場の排水対策を行い、冠水、湿害の発生を回避する。
- ②露地花きはネット等の支柱を増強し、倒伏を防ぐとともに、必要に応じて周囲に防風ネット等を張り、風による損傷を軽減する。
- ③鉢育苗中の苗等は室内に取り入れたり、ネットをかけるなどして鉢の飛散や茎葉の損傷を防ぐ。
- ④施設栽培では、マイカ線の締め直し、側杭の補強などハウスの点検・補強を行い、強風時にはハウスを密閉し、換気扇を作動させる。

【事後対策】

- ①冠水した圃場は速やかに排水し、中耕を行って根の回復をはかる。
- ②生育中の花き類で、風雨による土の跳ね上げや冠水による汚れがみられる場合は、薬剤散布を兼ねて水洗し、病害の発生を防ぐ。
- ③防風対策で室内に取り入れた苗等は台風通過後は外に戻し、防風対策でべたがけしたネット等も除去する。
- ④転倒・転落した鉢は速やかに復旧手当を行ったのち、病害防除のため薬剤散布を行う。
- ⑤施設栽培では、風が弱まった時点で速やかに換気を行い、天候回復後の高温障害の発生を回避する。
- ⑥湿害等の影響で根が弱っている兆候がみられる場合は、適期に液肥の葉面散布を行う。

5) 畜産

【事前対策】

- ①屋根、カーテン、構造物などを今一度点検し、家畜に被害のないようにする。
トタンなどが風で大きな音を出す場合、家畜に不安感を与えるので早めに修理する。
- ②飼料置き場、堆肥舎など点検し、濡れたり流出しないようシートで覆う。

【事後対策】

- ①畜舎内へ浸水が発生し、病気の発症等が疑われる時は直ちに診療を受ける。
- ②畜舎や糞乾燥ビニールハウス等が破損した場合早急に補修を行う。
- ③浸冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻す。

13. 徳島県作物別農業経営指標

「参考資料」

本指標は、徳島県が現地において認定農業者等の経営改善など経営体の育成を支援するため、または個別経営体の経営計画等に利用してもらうために作成したものです。

品目名	水稲 (普通期)	水稲 (集落営農)	レタス (露地)	レタス (トンネル)	なす (露地)	なす (促成)	ミニトマト (促成)	ブロッコリー	トマト (促成)	いちご (促成)	いちご (高設)	さやえんどう (露地)	だいこん (露地)	ぶどう (テラウエア露地)	ほうれんそう	細ねぎ	シンビジウム (切花)
販売量(kg)	510	480	2,700	2,300	12,000	13,000	10,000	1,300	15,000	4,000	4,000	800	7,500	1,100	1,000	2,000	15,000
単価(円)	200	208	160	209	249	335	540	315	313	1,159	1,181	780	83	517	381	807	327
売上高	102,000	99,840	432,000	480,700	2,988,000	4,355,000	5,400,000	409,500	4,695,000	4,636,000	4,724,000	624,000	622,500	568,700	381,000	1,614,000	4,905,000
種 苗 費	1,440	1,950	7,500	7,500	100,200	119,000	231,000	11,500	418,500	50,000	68,400	5,850	17,500		12,900	30,000	250,000
肥 料 費	11,552	8,296	33,900	45,900	116,731	126,516	90,680	40,070	125,325	186,036	104,294	36,880	18,320	27,440	31,720	33,600	86,920
農 薬 費	9,420	7,320	36,618	15,895	118,104	167,955	27,750	19,648	60,000	60,861	106,465	8,170	21,810	64,233	6,690	19,340	56,190
動力光熱費	6,973	8,551	14,840	14,840	18,360	817,820	650,900	9,457	615,000	417,940	418,840	4,330	13,480	7,780	8,460	22,988	743,232
農具・資材費	2,842	3,047	23,532	36,342	48,799	392,950	431,610	9,090	471,096	425,366	215,613	3,000	0	20,500	6,380	233,000	426,000
修繕費	7,365	9,367	20,840	21,640	118,857	236,316	182,137	20,775	186,277	144,431	249,640	11,228	17,572	19,024	2,680	49,260	182,510
成園費														15,480			
減価償却費	31,907	15,455	102,015	110,015	383,237	564,070	442,386	102,245	453,500	526,739	811,539	77,077	85,853	75,738	12,152	189,785	544,015
雇用労働費	0	22,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,200	0	0	240,000
委託賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保険共済費	1,292	1,292	0	0	0	20,138	49,383	0	49,383	21,170	33,414	0	0	0	0	0	22,285
出荷経費	1,377	1,377	158,980	155,484	678,540	1,021,865	1,593,667	131,335	1,216,725	804,120	792,932	109,520	223,613	162,283	120,005	553,922	1,136,050
その他雑費	6,000	6,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営費	80,168	84,655	398,225	407,616	1,582,828	3,466,630	3,699,513	344,120	3,595,806	2,636,663	2,801,137	256,055	398,148	435,678	200,987	1,131,895	3,687,202
10a当たり所得	21,832	15,186	33,776	73,085	1,405,172	888,370	1,700,487	65,380	1,099,194	1,999,337	1,922,863	367,945	224,352	133,022	180,013	482,105	1,217,799
所得率(%)	21.4	15.2	7.8	15.2	47.0	20.4	31.5	16.0	23.4	43.1	40.7	59.0	36.0	23.4	47.2	29.9	24.8
時間当所得	777	759	183	261	1,029	372	690	349	671	998	1,099	1,179	1,506	384	729	940	690
1日当所得	6,215	6,074	1,461	2,088	8,229	2,979	5,521	2,790	5,368	7,981	8,790	9,434	12,046	3,071	5,830	7,518	5,519
1月	0.0	0.0	0.0	71.0	6.0	217.0	237.0	3.0	215.0	166.0	182.0	7.0	56.0	39.5	0.0	0.0	206.7
2月	0.0	0.0	0.0	70.0	1.0	244.0	254.0	0.0	215.0	246.0	223.0	8.0	0.0	5.5	0.0	0.0	214.7
3月	0.0	2.1	0.0	68.0	1.0	284.0	376.0	114.0	267.0	288.0	234.0	4.0	0.0	5.0	0.0	0.0	186.7
4月	0.0	6.4	0.0	0.0	14.0	311.0	361.0	7.0	267.0	301.0	232.0	142.0	0.0	6.5	0.0	47.0	60.5
5月	4.6	1.0	0.0	0.0	137.0	304.0	335.0	0.0	202.0	175.0	213.0	121.0	0.0	97.5	0.0	28.0	88.5
6月	8.9	1.6	0.0	0.0	180.0	280.0	177.0	0.0	54.0	144.0	202.0	0.0	0.0	93.0	0.0	438.0	80.5
7月	2.8	2.0	0.0	0.0	301.0	54.0	0.0	0.0	20.0	76.0	43.0	0.0	0.0	78.5	0.0	0.0	34.9
8月	3.2	6.0	6.0	0.0	271.0	84.0	56.0	0.0	48.0	122.0	43.0	0.0	2.0	57.5	0.0	0.0	84.1
9月	7.7	0.9	39.0	8.0	251.0	79.0	84.0	21.0	117.0	132.0	150.0	6.0	11.0	3.5	2.0	0.0	74.9
10月	0.9	0.0	6.0	39.0	115.0	123.0	88.0	32.0	25.0	142.0	75.0	16.0	14.0	2.5	8.0	0.0	256.5
11月	0.0	0.0	98.0	3.0	57.0	185.0	201.0	7.5	58.0	55.0	86.0	6.0	4.0	6.5	3.0	0.0	378.7
12月	0.0	0.0	36.0	21.0	32.0	221.0	295.0	3.0	150.0	157.0	67.0	2.0	62.0	5.0	234.0	0.0	398.7
労働時間計(h)	28.1	20.0	185.0	280.0	1,366.0	2,386.0	2,464.0	187.5	1,638.0	2,004.0	1,750.0	312.0	149.0	400.5	247.0	513.0	2,065.4
経営規模(a)	300	3,000	50	50	10	30	20	200	30	26	30	20	100	40	250	10	50
所得(円)	654,957	4,555,805	168,878	365,423	1,405,172	2,665,109	3,400,975	1,307,594	3,297,583	5,198,277	5,768,590	735,890	2,243,525	532,086	4,500,337	482,105	6,088,994
家族労働力(人)	2.0	オペレーター3人	2.0	2.0	1.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.5	3.0	2.5	4.0	2.0	4.0	2.0	4.0

1) 人・農地プラン

農業が厳しい状況に直面している中で、持続可能な力強い農業を実現するためには、基本となる人と農地の問題を一体的に解決していく必要があります。

このため、それぞれの集落・地域において徹底的な話し合いを行ってプランを作り、実行していくことによって「人と農地の問題」を解決しましょう。

人・農地プランとは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」

☆集落・地域における話し合いによって、

- ◎今後の中心となる経営体（個人、法人、集落営農）はどこか
- ◎中心となる経営体へどうやって農地を集めるか
- ◎中心となる経営体とそれ以外の農業者（兼業農家、自給的農家）を含めた地域農業のあり方（生産品目、経営の複合化、6次産業化）



などを決めていただきます。

人・農地プランには、様々なメリットがあります。

☆人・農地プランに位置付けられると、

- ◎青年就農給付金（経営開始型）
- ※準備型（研修中）は、人・農地プランと関係なく給付されます。
- ◎農地集積協力金（中心となる経営体に農地を提供する方）
- ◎スーパーL資金の当初5年間無利子化（認定農業者）
- ◎経営体育成支援事業（適切な人・農地プラン作成地区で経営改善を目指す中心経営体等の方）



といった支援を受けることができます。

人・農地プランは、随時、見直すことができます。

☆最初からパーフェクトなプランにする必要はありません。必要な部分から初めて、順次拡大していくことで構いません。

一旦プランを決めても、

- ◎新規就農者が新たに出てきたとき
- ◎集落営農・法人を立ち上げ、中心となる経営体となる時
- ◎引退を決意して農地集積協力金をもらおうとする時

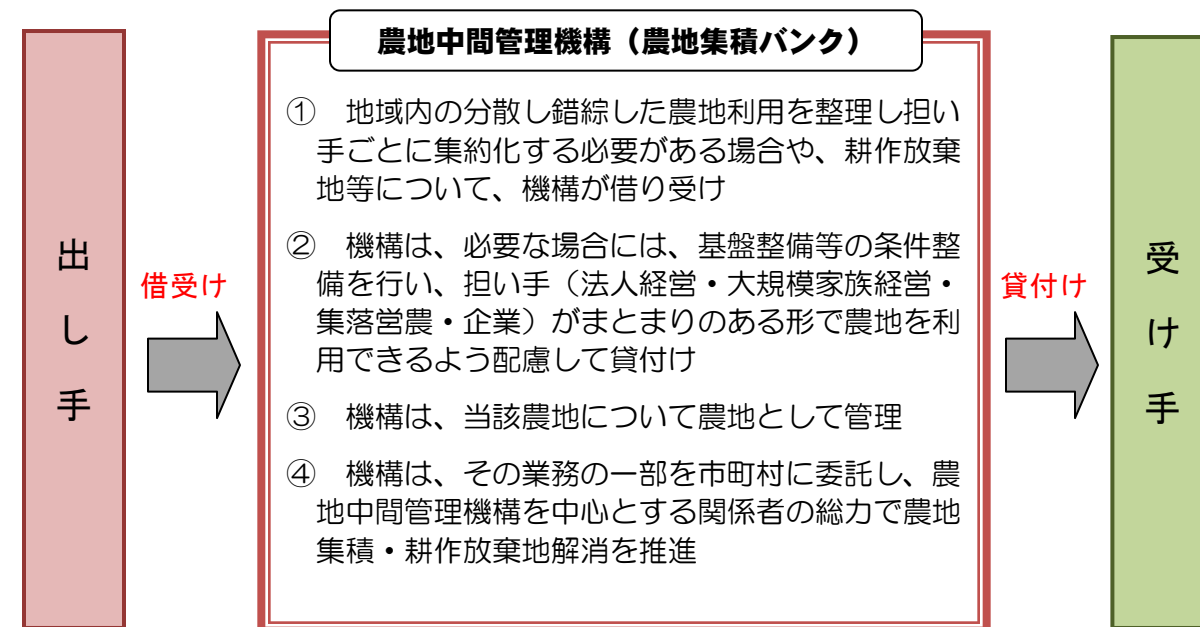
などは、見直せば、前述のメリットを受けられます。

2) 農地中間管理機構

平成25年12月5日に農地中間管理事業の推進に関する法律及び農業の構造改革を推進するための農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する等の法律が成立し、12月13日に公布されました。この法律は、我が国農業の構造改革を推進するため、農地利用の集積・集約化を行う農地中間管理機構（以下「機構」という。）を都道府県段階に創設するとともに、遊休農地解消措置の改善、青年等の就農促進策の強化、農業法人に対する投資の円滑化等を講じるものです。

政策の展開方向

1. 機構の整備・活用



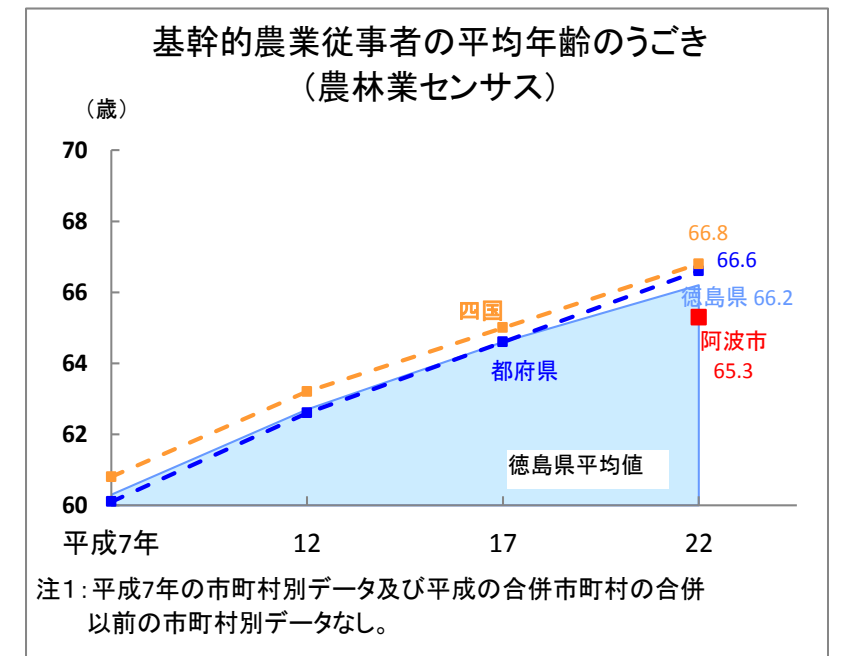
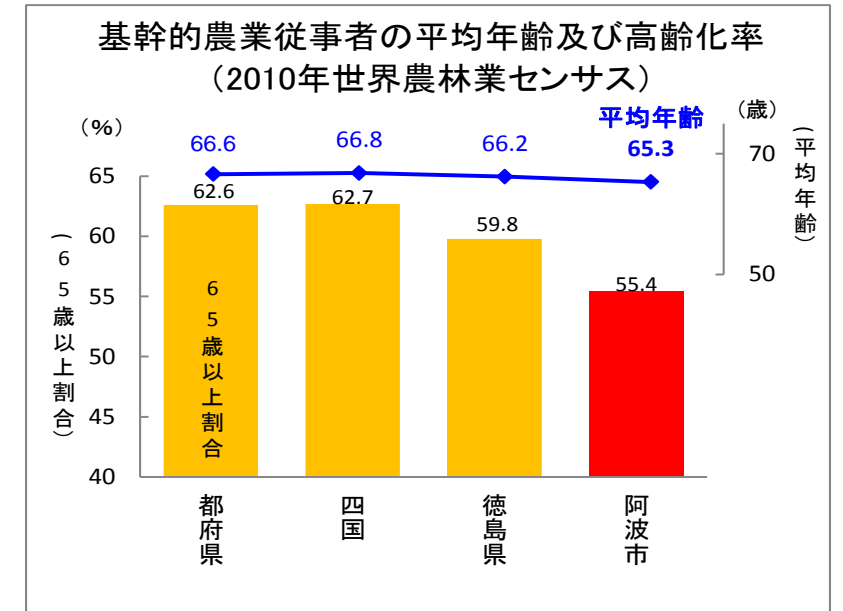
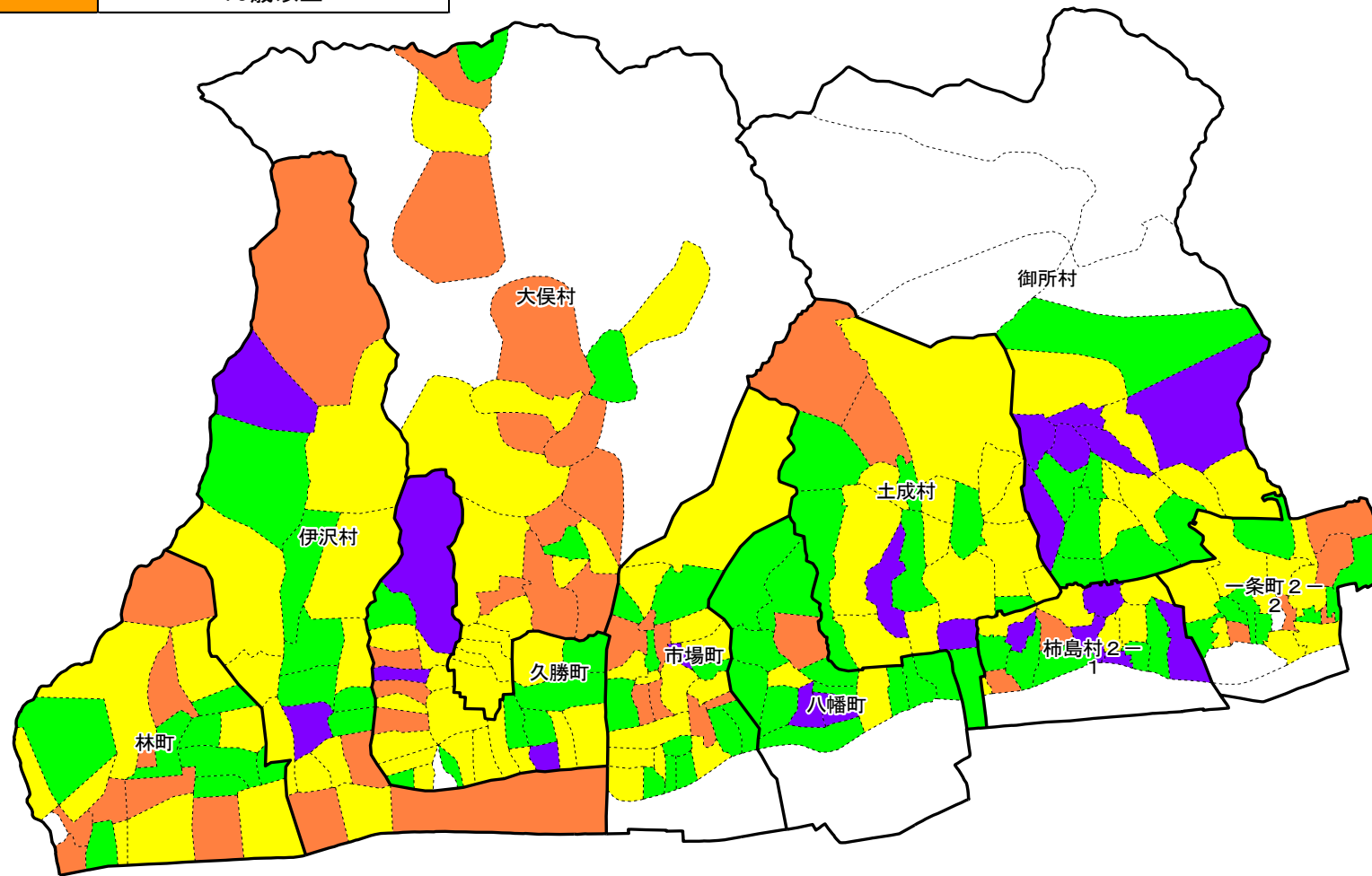
2. 耕作放棄地対策の強化

- 既に耕作放棄地となっている農地のほか、耕作していた所有者の死亡等により耕作放棄地となるおそれのある農地（耕作放棄地予備軍）も対策の対象とする。
- 農業委員会は、所有者に対し、機構に貸す意志があるかどうかを確認することから始めることとする等、手続の大幅な改善・簡素化により、耕作放棄状態の発生防止と速やかな解消を図る。
- 農地の相続人の所在がわからないこと等により所有者不明となっている耕作放棄地については、公告を行い、都道府県知事の裁定により機構に利用権を設定する。

1) 基幹的農業従事者の平均年齢 (2010年世界農林業センサス)

- 阿波市の基幹的農業従事者に占める65歳以上の割合は55.4%で、県平均(59.8%)に比して低い。
- 阿波市の基幹的農業従事者の平均年齢は65.3歳で、県平均(66.2歳)をわずかに下回っている。

色	区分
	基幹的農業従事者がいない
紫	60歳未満
緑	60～65
黄	65～70
赤	70歳以上



※基幹的農業従事者：ふだん仕事として主に農業に従事している人。

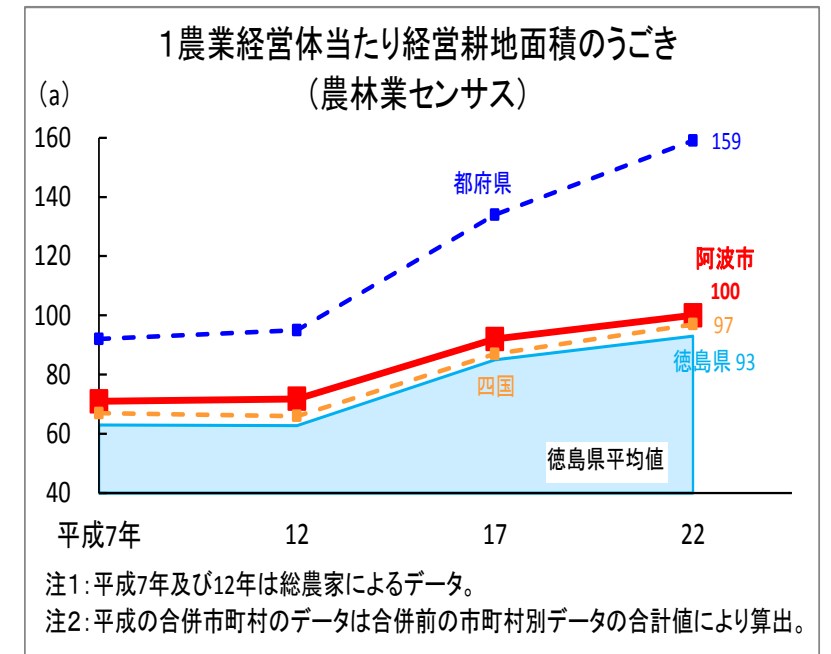
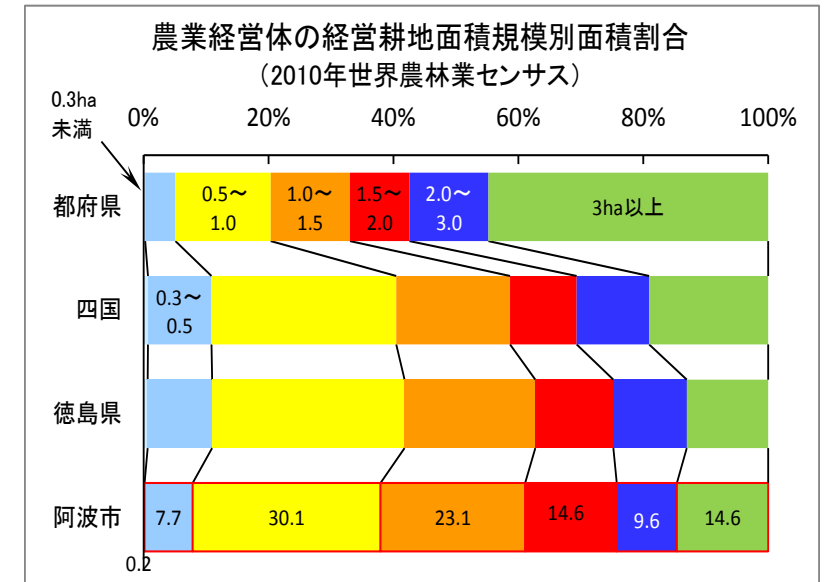
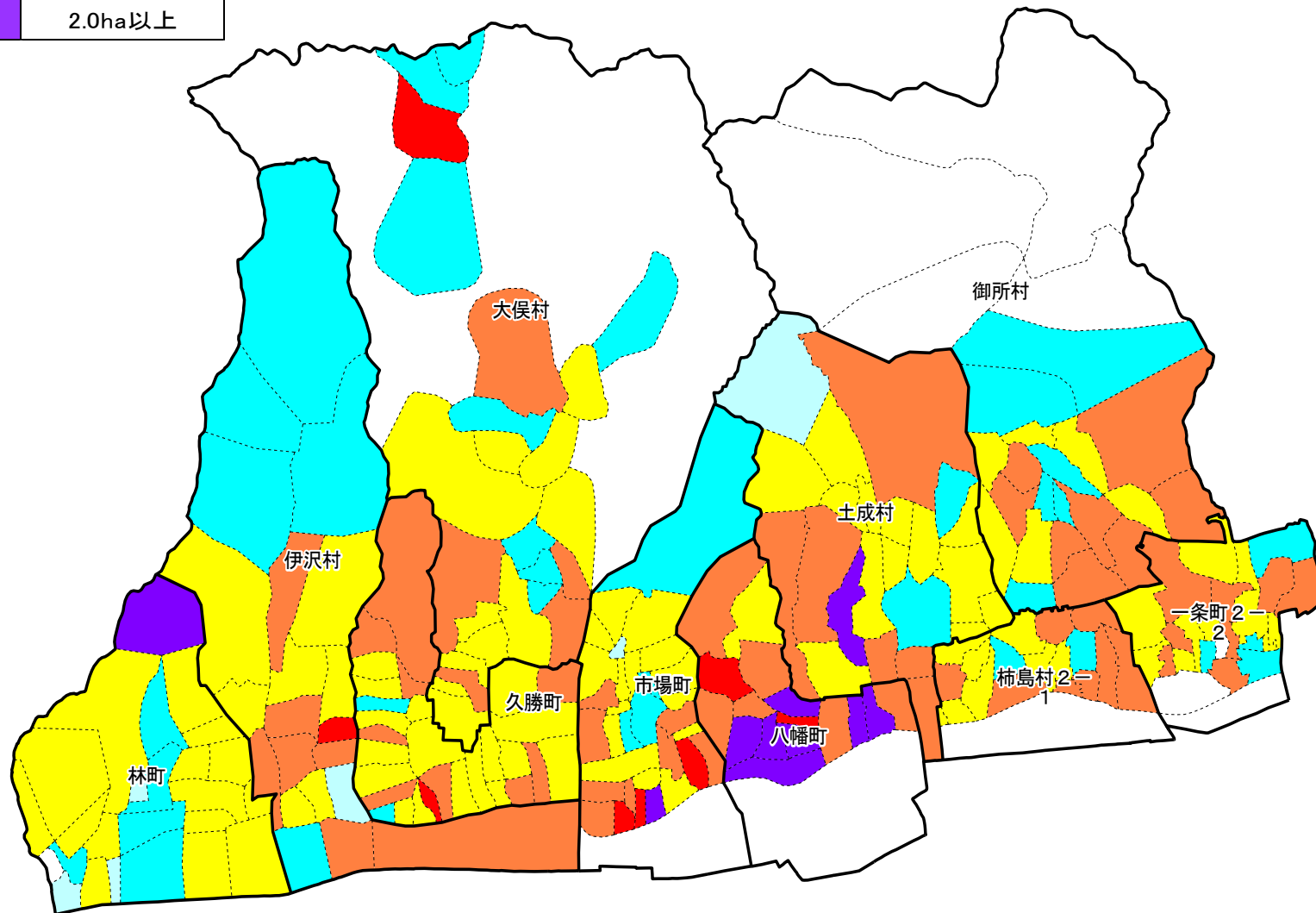
中国四国農政局徳島地域センター資料参照

2) 経営耕地面積

(2010年世界農林業センサス)

・阿波市の1農業経営体当たり経営耕地面積は100aであり、県平均(93a)をわずかに上回っている。

色	面積区分
	農業経営体なし
	0.5ha未満
	0.5～0.7
	0.7～1.0
	1.0～1.5
	1.5～2.0
	2.0ha以上



※経営耕地：農家が経営している耕地をいい、自家で所有し耕作している耕地と、よそから借りて耕作している耕地の合計。

中国四国農政局徳島地域センター資料参照

3) 耕作放棄地率

(2010年世界農林業センサス)

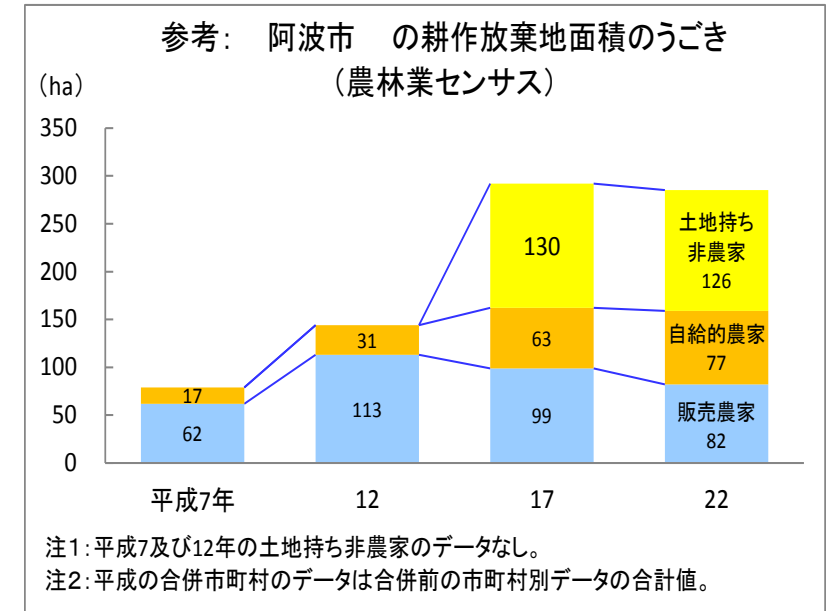
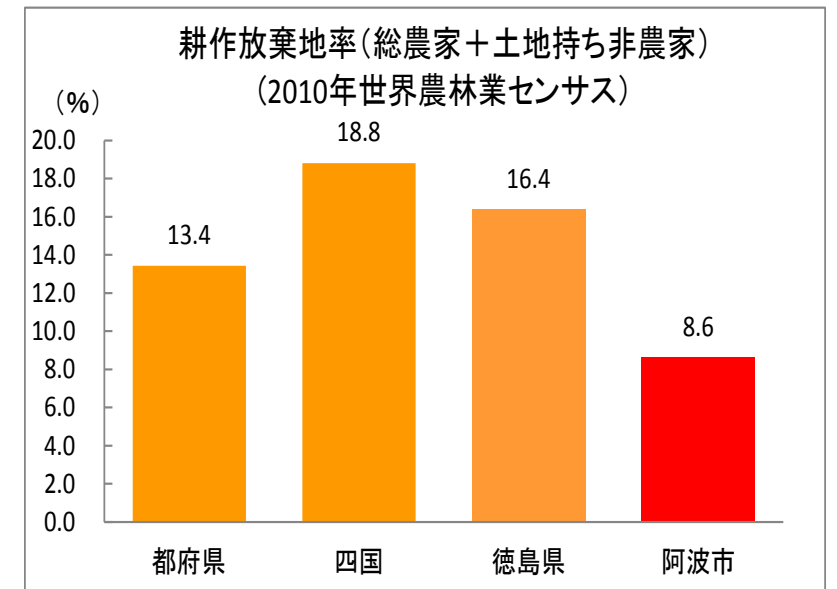
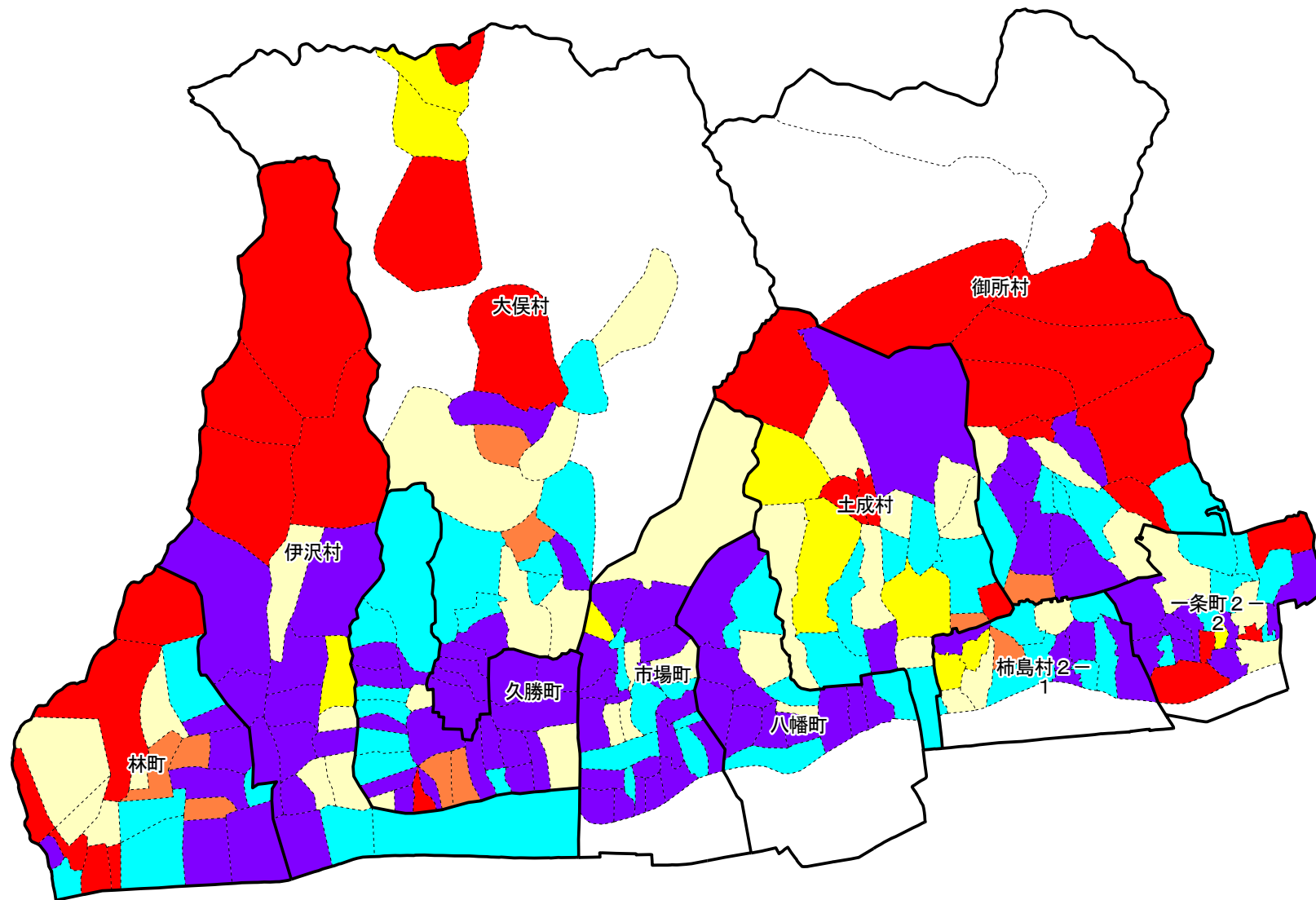
・阿波市の耕作放棄地率は8.6%であり、県平均16.4%を大幅に下回っている。

色	区分
	該当なし
紫	5%未満
水色	5.0~10.0
黄緑	10.0~15.0
黄	15.0~20.0
オレンジ	20.0~25.0
赤	25.0%以上

【耕作放棄地】
以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する意思のない土地

【耕作放棄地率】

$$100 \times \frac{\text{耕作放棄地面積}}{\text{経営耕地面積} + \text{耕作放棄地面積}}$$



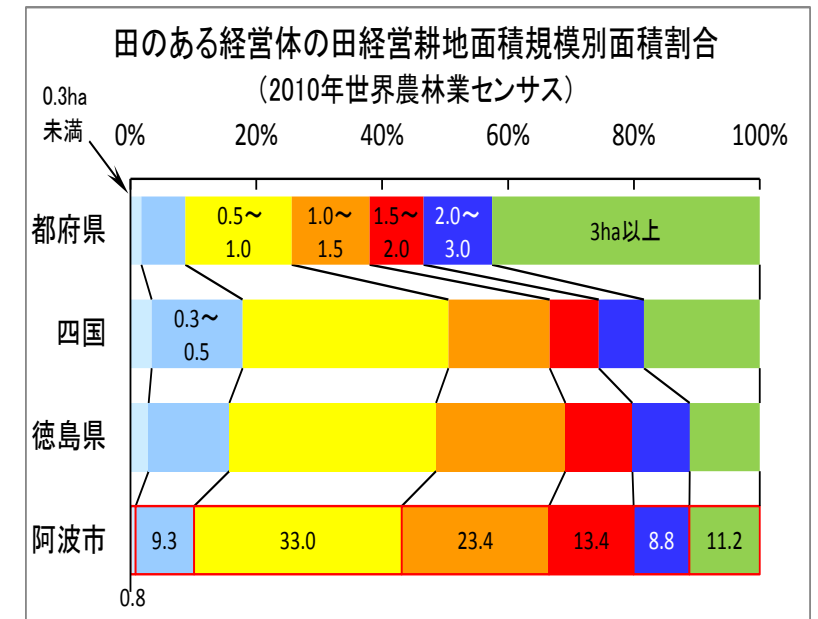
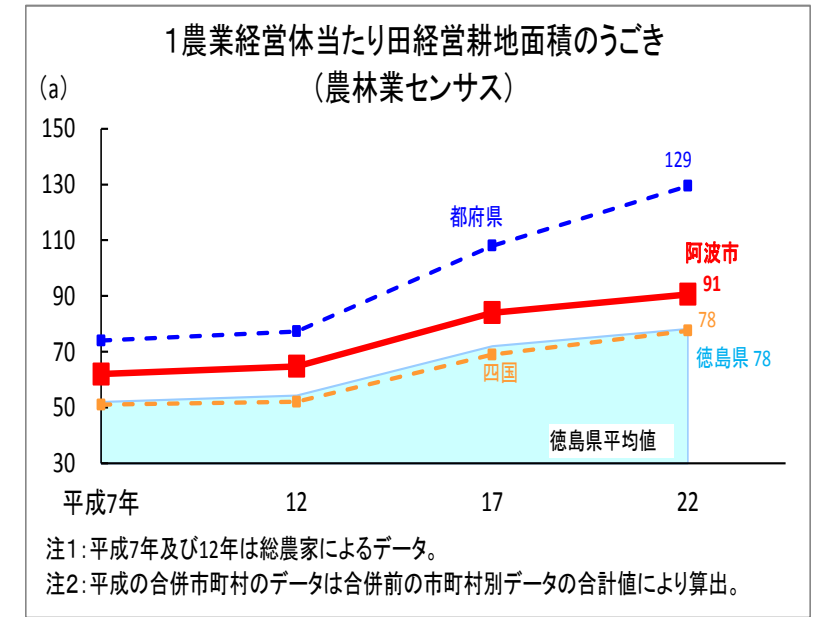
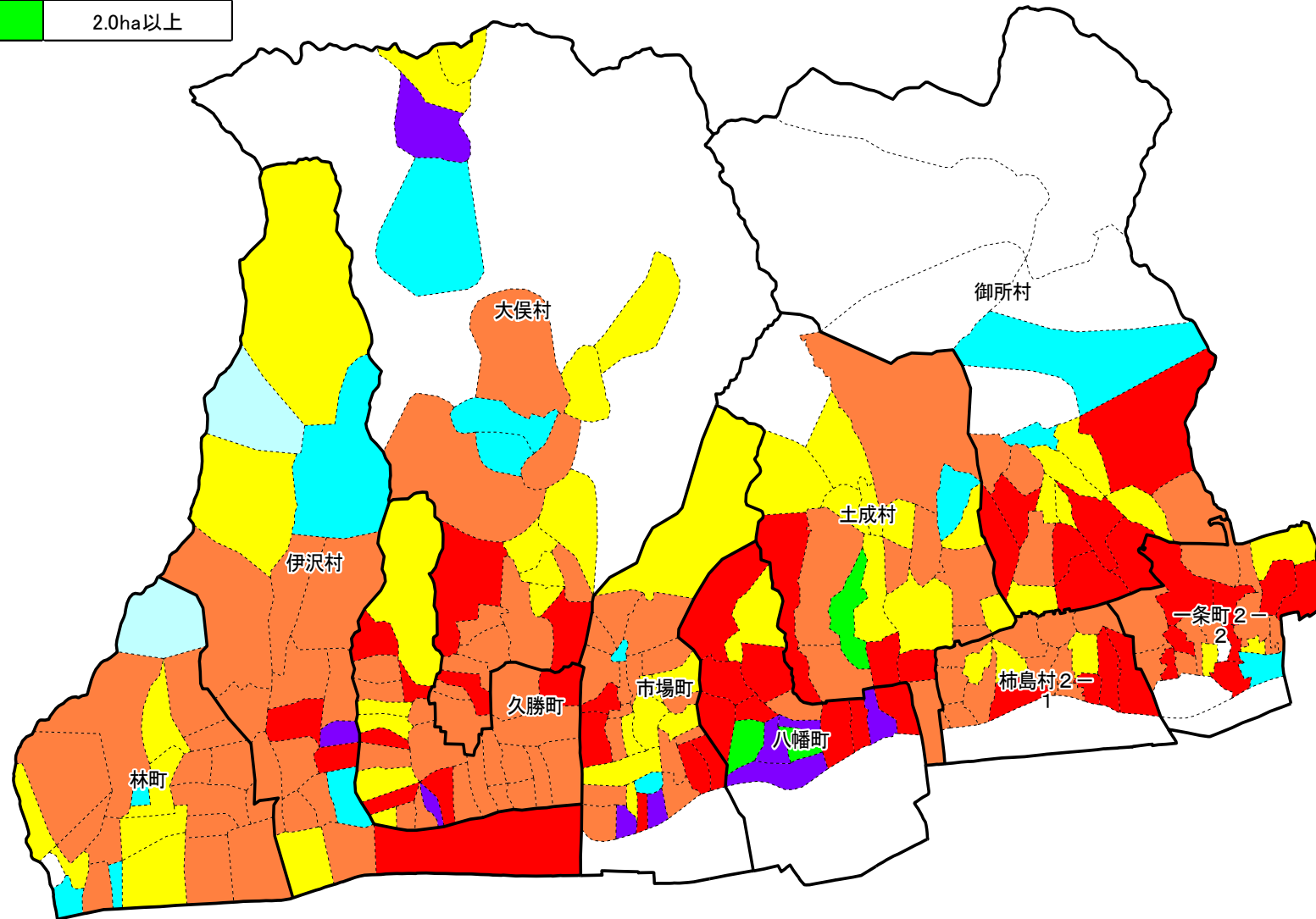
4) 田経営耕地面積

(2010年世界農林業センサス)

・阿波市の田のある経営体の1経営体当たり田経営耕地面積は91aで、県平均(78a)に比してわずかに上回っている。

色	面積区分
	田経営耕地なし
浅青	0.3ha未満
水色	0.3~0.5
黄色	0.5~0.7
茶色	0.7~1.0
赤色	1.0~1.5
紫色	1.5~2.0
緑色	2.0ha以上

【1経営体当たりの田経営耕地面積】
 $\frac{\text{田のある経営体の田経営耕地面積}}{\text{田のある経営体数}}$



目次

レタス	98
ミニトマト	98
トマト	99
じゃがいも	99
夏秋なす	99
ハウスなす	99
春キャベツ	99
冬キャベツ	99
ブロッコリー	100
ほうれんそう	100
たまねぎ	100
にんじん	100
さやえんどう	101
だいこん	101
青ねぎ	101
小ねぎ	101
アスパラガス	102
いちご	102

レタス




等級	階級	選別基準		摘要
		満杯詰・個数		
秀・優	3L	12個		秀… 形状よく8分結球で青味の強いもの 優… 秀に準ずるもの 変形・病虫害・外葉のむきすぎで白いものは優品
	2L	16個		
	L	19個		
	M	23個		
	S	30個		
	2S	38個		
容器・容量		ダンボール定数満杯詰・一玉毎にラップで包む		


ミニトマト




等級	階級	選別基準		摘要
		1パックの個数	果の直径	
秀・優	2L	～9	3.2cm以上	秀… 完全に着色し形状・色沢良好で病虫害・裂果がないもの 糖度7.5以上を標準とする 優… 秀に次ぐもので軽微な交形・色ムラ・へた落ちのもの又裂果のないもの
	L	9～12	3.2cm以上	
	M	15～18	2.7cm以上	
	S	20～26	2.2cm以上	
	2S	バラ詰	1.7cm以上	
容器・容量		パック…200g パック満杯詰 15パック詰で2枚合わせて1梱 バラ…2kg・3kg ダンボール		


トマト 


等級	階級	選別基準		摘 要
		個 数		
秀・優	4 L	12		秀… 品質固有の特性を備え品質・形状・玉揃い良好・着色斉一で病虫害その他の損傷がなく適熟なもの 優… 秀に次ぐもの
	3 L	15		
	2 L	18・20		
	L	23・24		
	M	28・30		
	S	33・35		
	2 S	42		
容器・容量		4kg ダンボール 3枚1梱		

じゃがいも 


等級	階級	選別基準		摘 要
		6/上旬まで	6/中旬以降	
秀・優	2 L	150 g 以上	200 g 以上	秀… 病虫害なく緑化していないもの 優… 秀に次ぐもの
	L	100 g 〃	150 g 〃	
	M	70 g 〃	100 g 〃	
	S	40 g 〃	70 g 〃	
	2 S	20 g 〃	40 g 〃	
	3 S	20 g 以下	40 g 以下	
	容器・容量		10 kgダンボール	

夏秋なす 

等級	階級	選別基準		摘 要
		1箱の個数	1個の重量	
秀・優	2 L	40	130 g 中心	秀… ・形状・色沢良好でスレ傷・ヘタ割れ無いもの ・ヘタは大きくて紫色のもの ・曲がり5mm以内のもの ・花抜け跡の無いもの 優… ・形状、色沢・曲がり(1 cm以内)等秀に次ぐもので、スレ傷・ヘタ割れの軽微なもの
	L	50	110 g 中心	
	M	60	90 g 中心	
容器・容量		袋詰 500 g 詰…  クラスのL5本、ダンボール 20袋詰 800 g 詰…良クラスの2L~M、ダンボール 10袋詰		

ハウスなす 


等級	階級	選別基準		摘 要
		1箱の個数	1個の重量	
秀・優	3 L	16	130 g 中心	秀… 品質・形状・色沢及び玉揃いが良く果皮に光沢を有し、傷・ボケのないもの 優… 形状、色沢・曲がり等秀に次ぐもので、スレ傷・ヘタ割れの軽微なもの
	2 L	20	100 g 中心	
	L	25	85 g 中心	
	M	30	75 g 中心	
容器・容量		2kg ダンボール 5枚1梱 5本袋(20袋) 10kg ダンボール 800g (10袋以上) 10kg タンボール 3本袋(30袋) 10kg ダンボール		

春キャベツ 

等級	階級	選別基準		摘 要
		1箱の個数	1個の重量	
秀・優	3 L	6	1,500 g 以上	秀 ・若採りを励行し、病虫害・その他の損傷及び腐敗の恐れなく、結球の充実した適期収穫のもの ・玉揃いをよくし箱の中に大玉・小玉の詰め合わせはしない 優 ・秀に次ぐもので病虫害の被害の程度の軽いもの
	2 L	7	1,300~1,500 g 未満	
	L	8	1,100~1,300 g 未満	
	M	10	900~1,100 g 未満	
	S	12	750~900 g 未満	
	容器・容量		10 kgダンボール	

冬キャベツ 


等級	階級	選別基準		摘 要
		1箱の個数	1個の重量	
秀・優	3 L	6	1,800 g 以上	秀 ・若採りを励行し、病虫害・その他の損傷及び腐敗の恐れなく、結球の充実した適期収穫のもの ・玉揃いをよくし箱の中に大玉・小玉の詰め合わせはしない 優 ・秀に次ぐもので病虫害の被害の程度の軽いもの
	2 L	7	1,500~1,800 g 未満	
	L	8	1,300~1,500 g 未満	
	M	10	1,100~1,300 g 未満	
	S	12	900~1,100 g 未満	
容器・容量		10 kgダンボール		

ブロッコリー 


階級	選別基準		等級	容器・量目・期間
	ケース当り個数	花蕾の大きさ		
4 L	8	満杯詰めを基本とし、目安として 3 L 15cm 中心 2 L 14cm 中心 L 13cm 中心 M 10cm 中心	同じような大きさと形状、粒子、色合いで揃える。 無印・・・品質、形状とも良好で色合い濃く鮮度を保持した、病虫害のないもの 秀印・・・無印に次ぐもの ○印・・・秀に次ぐ、商品価値を有するもの 軸の長さは15.5cmを標準	ダンボール箱 出荷期間 (11月下旬～3月上旬) スチロール箱 出荷期間 (出荷初期～11月下旬頃、3月上旬～出荷終了)
3 L	12			
2 L	16			
L	20			
M	24			
S	28			
A	2 S級は30～36玉以上			
備考	ダンボールの量目としては6kgとし、ダンボールには表示しない 送り状には必ず6kg記入表示とする 表示については、等階級表示のみとする			

ほうれんそう 


等級	階級	選別基準			摘要
		1束の重量	長さ	本数	
秀	3 L	200 g	35 cm～40 cm	2本以上	品質・形状良好なもの
	2 L	200 g	29 cm～35 cm未満	3本以上	
	L	200 g	25 cm～29 cm未満	5～14本	
	M	200 g	20 cm～25 cm未満	5～17本	
秀	2 L	200 g	29 cm～45 cm未満	2本以上	品質・形状・・・秀に次ぐもの
	L	200 g	23 cm～29 cm未満	3本以上	
	B	200 g	18 cm～29 cm未満	2本以上	上記に該当しないもの
容器・容量		4kg ダンボール (200g×20束) 目込み5%			
水洗いした後、十分水切りしダンボール箱詰をする。上部はポリエチレンで覆うこと					

たまねぎ 

等級	階級	選別基準	摘要
		長さ	
秀	3 L	10 cm以上	形状、色沢よく、分球・裂球・抽台球・腐敗球・その他傷球を除いたもの 首は2cmで切断する 土を落として乾燥を十分にする
	2 L	9 cm "	
	L	8 cm "	
	M	7 cm "	
	S	6 cm "	
	2 S	6 cm未満	
秀	大	3 L～Lまで	秀品より劣るもの 分球・裂球など
	小	M～Sまで	
優		3 L～Sまで	皮の剥げたもの
容器・容量		5 kg・10 kgダンボール 20 kgネット	
備考		5月～6月の出荷分は、土を十分に落として、出荷する 7月～10月の出荷分は、黒い皮を剥ぎ、磨きをかけて出荷する	

にんじん 


等級	階級	選別基準	摘要
		1本の重量	
秀	3 L	350 g 以上	形状、色沢良好で病害・虫害・傷害・裂根・首の緑化がなく、異物が付着していないもの 葉柄の切除は1cm以内とする 根長 L以上 12cm以上 M 11cm以上
	2 L	230 g "	
	L	160 g "	
	M	105 g "	
	S	70 g "	
	2 S	50 g "	
赤秀	2 L	230 g 以上	品質・・・秀より劣るもの 青首の軽微なもの 薄色横縞の軽微なもの 若干の短根 白斑症の目立つもの 形状の少し悪いもの
	L	160 g "	
	M	105 g "	
	S	70 g "	
A		105 g 以上	品質・・・赤秀より劣るもの 根長の1/2以内のワレ 青首 横縞の目立つもの 形状の悪いもの シミ症の軽微なもの
B (規格外)		105 g 以上	品質・・・Aより劣るもの 芯の見えないワレ 先折れ 岐根の軽微なもの ふた又の整形したもの
容器・容量		10 kgダンボール	

さやえんどう 


等階級	選別基準
秀	1 品種固有の形状・色沢を有するもの 2 病虫害・傷害のないもの 3 腐敗・変質していないもの 4 過熟でないもの 5 異品種が混入していないもの 6 果梗の切除(1cm 以内)が適切なもの 7 さやの長さが 6cm 以上のもの
㊦	秀に次ぐもの 1 子実がやや大きいもの 2 さやの長さが 4cm 以上のもの
外品	上記以外のもので、商品価値のあるもの
容器・容量	1kg ダンボール・発泡スチロール 2kg ダンボール・ポリカゴ

だいこん 


等級	階級	本数	選別基準	摘要
			1本の重量	
秀	4 L	6	1,700 g 以上	・形状・色沢良好なもの ・病虫害の被害なきもの ・凍傷等の傷害なきもの
	3 L	7	1,450 g 〃	
	2	8	1,250 g 〃	
	L	10	1,000 g 〃	
	M	12	800 g 〃	
	S	14	750 g 〃	
優	秀に準ずる		形状・色沢やや劣るもの	
切	変形、その他		葉は首より切除する	
根長	4 L・3 L・2 L		32 cm 以上	
	L		27 cm 以上	
	M		25 cm 以上	
	S		20 cm 以上	
根切り	直径 1cm の太さの所で切除する			
葉切り	葉は 10 cm 以内で最低 5 cm は残すものとする			
容器・容量	10kg ダンボール			

青ねぎ 

等級	階級	選別基準		摘要
		長さ	葉の太さ	
秀・優	3 L	60~77 cm	14 mm 程度まで	秀・・・病虫害がついておらず、葉身に傷害なく葉色も濃く、土際までグリーンの濃いもの 優・・・秀に次ぐもの
	2 L	57~73 cm	12 mm 〃	
	L	57~65 cm	10 mm 〃	
	M	50~57 cm	10 mm 〃	
B	50 cm 〃			秀・優の規格に合わないもので葉色の淡いもの
容器・容量	5kg ダンボール (1束 210 g×25束)			

小ねぎ 

等級	階級	選別基準		摘要
		長さ	葉の太さ	
秀	2 L	58~62 cm	8 mm 以下	秀・・・病虫害による被害がなく、葉色が濃く、土際までグリーンの濃いもので葉身に傷害ないもの
	L	48~58 cm 未満	〃	
	M	40~48 cm 未満	〃	
	S	30~40 cm 未満	〃	
㊦	2 L	58~62 cm	8 mm 以下	㊦品・・・秀品よりやや劣るもので、株元だけがやや曲がったもの 又葉先を一部摘んだもの 根が茶色く変色しているもの
	L	48 cm~58 cm 未満	〃	
	M	40 cm~48 cm 未満	〃	
	S	30 cm~40 cm 未満	〃	
B	40~58 cm		8 mm 以下	葉色の淡いもの 葉の折れているもの
容器・容量	3kg 詰め発砲スチロール箱 (1束 110 g×30束)			


アスパラガス 

等級	階級	選別基準			摘要
		1束の本数	1本の重量	長さ	
秀	2 L	3	53g 以上	25 cm	・穂先・形状・色沢・鮮度良好なもの ・病虫害・傷害のないもの ・太さが揃っているもの
	㊟	4	40～53 g	〃	
	L	5～8	20～40 g	〃	
	M	9～13	13～20 g	〃	
	S	14～22	7～13 g	〃	
優	A	2～8	12 g 以上	〃	・秀品に次ぎやや穂先が曲がったもの ・混合束・穂先が開いているが商品価値のあるもの
	B	9～32	6 g 〃	〃	
容器・容量		3kg ダンボール (150g×20 束)			

いちご (300g) 


等級	階級	選別基準			摘要
		総果数	上段果数	下段果数	
秀	3 L	9、10、11	6	3、4、5	330g の基準詰め
	2 L	14、15	8	6、7	330g の基準詰め
	L	20	12	8	330g の基準詰め
	M	26、27	15	11、12	330g の基準詰め
	S	31	17	14	305g の基準詰め
	2 S	バラ詰め	40～45		305g の基準詰め
A (L 以上)		品質、形状、色沢が秀に劣るもの			秀に準ずる
B (S 以上)		品質、形状、色沢が秀に劣るもの			〃
C (S 以上)		A、B に劣るもの			〃

※出荷後期については、S、2 S、混合としてバラ詰めとする。(S A)

いちご (250g) 

等級	階級	選別基準			摘要
		総果数	上段果数	下段果数	
秀	3 L	7、8、9、10	5、6	2、3、4	※パック含めて 270g 以上の満杯詰め ※上段・下段の組み合わせは自由 ※下段の実の向きは揃えなくてもよい
	2 L	12、13、14	7、8、9	5	
	L	18	12	6	
	M	22	15	7	
	S	28	19	9	
	2 S	35～40 バラ詰め			
B (M)		※品質、形状、色沢が秀に劣るもの			※○について、総果数 5、6 (上段 4、下段 1、2)
○ (L 以上)					
▽ (L 以上)					

※出荷後期については、S、2 S、混合としてバラ詰めとする。(S A)

いちご (ジャンボパック詰め) 

総果数	12	15	18	20	24	備考
段数	3×4	3×5	3×6	4×5	4×6	満杯詰め

いちご (パック詰め 1ケース 8P) 

階級	3 L	2 L	L	M	2	2 S	3 S	備考
果数	6	8～9	11×12	15	17～18	23	バラ詰め	満杯詰め

17. 農業関係機関所在地等一覧表

「参考資料」

機関名称	電話番号	所在地	
◆阿波市役所関係			
阿波市役所（代表）	0883-36-8700	阿波市市場町切幡字古田 201-1	
産業経済部 農業振興課	0883-36-8720	阿波市市場町切幡字古田 201-1	
産業経済部 農地整備課	0883-36-8721	阿波市市場町切幡字古田 201-1	
農業委員会	0883-36-8751	阿波市市場町切幡字古田 201-1	
◆農業協同組合（JA）関係			
JA 阿波町	JA阿波町（本所）	0883-35-5115	阿波市阿波町南柴生 206
	愛農集荷場	0883-35-5566	阿波市阿波町東原 289-1
	育苗センター	0883-35-7311	阿波市阿波町南柴生 87-1
	林支所	0883-35-2104	阿波市阿波町南整理 53
	林集荷場	0883-35-2032	阿波市阿波町南整理 53
	ライスセンター	0883-35-6867	阿波市阿波町医王寺 425
	久勝支所	0883-35-3151	阿波市阿波町庚申原 292
	久勝集荷場	0883-35-5934	阿波市阿波町庚申原 292
	山王集荷場	0883-35-2779	阿波市阿波町山王 282-7
	産直市「土柱の里」	0883-35-7522	阿波市阿波町南整理 53-4
JA 市場町	JA市場町	0883-36-2113	阿波市市場町市場字町筋 323
	青果物集荷場	0883-36-3916	阿波市市場町市場字町筋 323
JA 阿波郡東部	JA阿波郡東部（本所）	0883-36-3021	阿波市市場町大野島字大石 3
	大俣支所	0883-36-5131	阿波市市場町上喜来字田中 614-4
	産直市「JA夢市場」	0883-36-5332	阿波市市場町大野島字野神 77-1
JA 板野郡	JA板野郡（本所）	088-695-4800	阿波市土成町土成字寒方 64-1
	土成支所	088-695-2356	阿波市土成町成当 459
	野菜選果場	088-695-3070	阿波市土成町成当 984-3
	御所支所	088-695-2002	阿波市土成町吉田字涼ミ堂 28-4
	農産物集出荷所	088-695-4811	阿波市土成町吉田字城根木 60-1
	柿島支所	088-696-2211	阿波市吉野町柿原字二条 59-5
	集出荷所	088-696-4711	阿波市吉野町柿原字二条 59-5
	一条支所	088-696-2016	阿波市吉野町西条字町口 188
	野菜集出荷場	088696-2248	阿波市吉野町西条字原市 182-7
	JAグリーンいたの西店	088-637-8228	阿波市土成町土成字寒方 64-1

機関名称	電話番号	所在地
◆徳島県関係		
吉野川農業支援センター	0883-26-3971	吉野川市川島町宮島 736-1
もうかるブランド推進課	088-621-2405	徳島市万代町 1-1
農林水産政策課	088-621-2385	徳島市万代町 1-1
畜産課	088-621-2415	徳島市万代町 1-1
安全安心農業室	088-621-2411	徳島市万代町 1-1
農村振興課	088-621-2435	徳島市万代町 1-1
農業基盤課	088-621-2433	徳島市万代町 1-1
農林水産総合技術支援センター	088-674-1660	名西郡石井町石井 1660
◆土地改良区関係		
吉野川北岸土地改良区	0883-35-5270	阿波市阿波町中坪 38
阿波東部土地改良区	0883-35-5360	阿波市阿波町東原 157-3
阿波中部土地改良区	0883-35-4543	阿波市阿波町東原 157-3
阿波西部土地改良区	0883-35-7161	阿波市阿波町東原 157-3
市場中央土地改良区	0883-36-6821	阿波市市場町市場字岸ノ下 302-4 先
吉野川善入寺土地改良区	0883-36-3240	阿波市市場町市場字上野段 737-1
土地改良区土成合同事務所	0886-95-2023	阿波市土成町土成字漆畑 220
吉野町土地改良区	088-696-3909	阿波市吉野町柿原字植松 34-3
◆農業共済組合関係		
徳島県農業共済組合 本所	088-622-7731	徳島市山城西二丁目 74
徳島県農業共済組合 東部支所	088-675-0120	名西郡石井町高川原字高川原 64-1
◆商工・観光関係		
阿波市商工会	0883-36-5577	阿波市市場町市場字上野段 228-4
阿波市観光協会	0883-35-4211	阿波市阿波町東原 173
◆警察関係		
阿波吉野川警察署 阿波庁舎	0883-36-7110	阿波市市場町香美字原田 324-1
阿波吉野川警察署 吉野川庁舎	0883-25-6110	吉野川市川島町川島 550-1
◆消防関係		
徳島中央広域連合 総合案内	0883-26-1190	吉野川市鴨島町上下島 21-1
徳島中央広域連合 中消防署	088-695-2149	阿波市土成町秋月字月成 12
徳島中央広域連合 西消防署	0883-42-2029	吉野川市山川町三島 30-7

もう一度！農薬ラベルを確認

★100リットル以下の
散布量を調製する場合



散布液希釈表 (ml・g)

希釈倍数	散布量				
	5 ℓ	10 ℓ	20 ℓ	50 ℓ	100 ℓ
50 倍	100	200	400	1,000	2,000
100 倍	50	100	200	500	1,000
400 倍	12.5	25	50	125	250
500 倍	10	20	40	100	200
600 倍	8.3	16.6	33.3	83.3	166.6
800 倍	6.2	12.5	25	62.5	125
1,000 倍	5.0	10	20	50	100
1,500 倍	3.3	6.6	13.3	33.3	66.6
2,000 倍	2.5	5	10	25	50
2,500 倍	2	4	8	20	40
3,000 倍	1.6	3.3	6.6	16.6	33.3
4,000 倍	1.2	2.5	5	12.5	25
5,000 倍	1	2	4	10	20
10,000 倍	0.5	1	2	5	10

※調製する場所の近くに貼ってお使い下さい。

阿波市農業振興計画重点プロジェクト推進会議・農業再生協議会

散布器具はしっかり洗浄

★100リットル以上の
散布量を調製する場合



散布液希釈表 (ml・g)

希釈倍数	散布量				
	100 ℓ	200 ℓ	300 ℓ	400 ℓ	500 ℓ
50 倍	2,000	4,000	6,000	8,000	10,000
100 倍	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000
400 倍	250	500	750	1,000	1,250
500 倍	200	400	600	800	1,000
600 倍	166.6	333.3	500	666.6	833.3
800 倍	125	250	375	500	625
1,000 倍	100	200	300	400	500
1,500 倍	66.6	133.3	200	266.6	333.3
2,000 倍	50	100	150	200	250
2,500 倍	40	80	120	160	200
3,000 倍	33.3	66.6	100	133.3	166.6
4,000 倍	25	50	75	100	125
5,000 倍	20	40	60	80	100
10,000 倍	10	20	30	40	50

※調製する場所の近くに貼ってお使い下さい。

阿波市農業振興計画重点プロジェクト推進会議・農業再生協議会